令和元年度老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

介護職員の介護技術向上に資する取組の実態に関する調査研究事業報告書

令和２年３月

一般社団法人シルバーサービス振興会

ELDERLY SERVICE PROVIDERS ASSOCIATION

はじめに

本事業では、介護事業所において、介護職員のキャリア開発支援にむけての取組体制や取組内容、取組の効果、提供しているケア内容等の実態を調査し、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項についての検証を行いました。調査は、介護キャリア段位制度のアセッサーの１名以上登録のある全国の介護事業所の中から、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、訪問介護サービスの 3 サービスを対象に、事業所の管理者層（事業所調査）、指導者層（指導者調査）、職員層（介護職員調査）の階層性のある調査を行いました。

今回の調査は、介護事業所の関係各位の協力なしには、実現は難しい内容にもかかわらず、回収率 3 割近くとの結果となりました。協力いただいた事業所において、組織内の連携、コミュニケーションがはかられていることのあらわれともいえ、今回の調査客体の特徴といえます。本調査により、介護職員の人材育成の取組として、外形化されにくい介護の OJT が実体化され、示されたといえます。ご協力いただいた関係の皆様に、心より御礼申し上げます。

今般、新型コロナウィルス感染症拡大防止が迫られる中、介護キャリア段位制度を用いた OJT・内部評価では、日常の感染症発生予防策（スタンダード・プリコーション）の徹底を評価基準とし、対処方法、分析視点、対応策に重点を置き、浸透をはかってきたところであります。この点が、今回のデータ分析結果においても明示されており、平素よりのリスクマネジメントの重要性は、改めて認識されているものといえます。OJT の価値はリスクマネジメントの実践として実体化されることを特筆しておきます。

本事業の実施にあたっては、検討委員会委員長には筒井孝子氏（兵庫県立大学大学院経営研究科）に委員長として協力をいただき、また、委員会においては介護分野、人事管理等、各分野の専門の方々に委員として参画いただきました。

本調査に協力をいただいた皆様に、厚く御礼申し上げるとともに、今回の調査でも示された、介護事業所における着実な人材育成の取組が、根拠に基づくケアの実践へとして、日々の業務に根付き、チーム、組織、地域へと展開し、ひいては新たな価値提供につなげていくことを期待し、感謝の言葉とさせていただきます。

令和２年３月
一般社団法人　シルバーサービス振興会

目　次

本事業の概要 ・・・

（８）統計的検定結果を踏まえて……106
（９）指導者調査結果より……107

４．介護職員調査結果…… 110
（１）回答者の属性……110
（２）人材育成の取組状況……115
（３）記録との関わり、情報共有、連携について……118
（４）介護職員自身が提供するケアについて……121
（５）職場環境、仕事について……129
（６）統計的検定の実施……132
（７）統計的検定結果を踏まえて……138
（８）介護職員調査結果より……139

５．アンケート調査結果を踏まえて…… 141

第２章　介護技術向上に関するデータ分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157

１．介護技術向上に関するデータ分析実施概要 …… 157
（１）目的……157
（２）分析対象データ……157
（３）対象データ抽出条件……157

２．期首評価票データ分析結果…… 158
（１）期首評価票データの分析（全体）……158
（２）期首評価票データの分析（認定者群・未認定者群の比較）……163
（３）認定者群・未認定者群の比較による OJT 効果の違い……172
（４）期首評価票データの分析（2016 年群・2019 年群の比較）……177
（５）2016 年群・2019 年群の比較による介護キャリア段位制度の OJT 推進効果……187

３．期首評価票データ分析結果を踏まえて…… 189

４．期末評価票データ分析結果…… 190
（１）期末評価票データの分析……190

５．期末評価票データ分析結果を踏まえて…… 213

結びにかえて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214

参考資料 ・・ 219
事業所調査票……219
指導者調査票……226
介護職員調査票……237

本事業の概要

本事業の概要

１．事業実施目的

我が国において、国家資格の「介護福祉士」の養成が開始されてから 30 年以上が経過したが、資格取得後の現場でのスキルアップについては個々の介護事業所に委ねられ、現場で経験を積んだ介護職員による技術指導に頼っているのが実情で、これによって個々の介護職の実践スキルに格差が生じているとの指摘がされている。

これは、介護職員の介護技術の評価及び OJT について、長らく全国的に体系化、標準化された評価指標（共通のものさし）がなかったことに起因しているものと考えられ、この点、介護プロフェッショナルキャリア段位制度（内閣府、厚生労働省）等の介護現場での介護職員の技術評価及び OJT の標準化といった取組が行われてきたところである。

当会において、これまで介護キャリア段位制度のスキームを用いて、約 9,000 件の介護職員のスキルの可視化に取り組み、データ分析をしたところ、基本介護技術については経験年数を経ることにより一定のスキルが蓄積されるものの、地域包括ケアシステムやリーダーシップといった実践スキルについては一定の経験年数を経ても身についていないとの結果が得られた。[1]

また介護報酬の「介護職員処遇改善加算」におけるキャリアパス要件については、介護サービスの質の向上の観点から、介護職員の実践的スキルの向上につながる取組を行っている介護事業所を評価するものとして設けられている加算であり、既に 8 割を超える事業所・施設が加算取得しているにもかかわらず、その効果が立証できるような十分な成果が得られていないことが懸念される。

人口構成の少子高齢化、生産年齢人口の減少の構造の中、介護分野の人材確保が喫緊の課題とされる中で、昨今は外国人技能実習制度へ介護職種が追加され、現場における介護技術の質の確保、OJT の標準化は急務となっている。

そこで、本事業では介護事業所における介護職員の介護技術の向上に資する取組を促進させる観点から、従事する介護職員に対する「介護技術の評価」や「介護技術向上のための指導」に取り組んでいる介護事業所の取組の効果検証を含め、介護技術向上にむけた体制や取組、ケア内容等の相違や実態調査を行い、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項につき、検証する。

[1] 平成 29 年度「OJT を通じた介護職員の人材育成に関する調査研究事業」（一社）シルバーサービス振興会

２．委員会の設置

本事業では、介護職員の人材育成、介護現場の OJT、介護技術評価に関する知見を有する専門家、識者等で構成される「検討委員会」を設置した。

【検討委員会】 （敬称略）

委員長

筒井　孝子　兵庫県立大学大学院　教授

【委員】

石塚　宣　　東京都福祉保健局高齢社会対策部介護保険課長

大夛賀政昭　国立保健医療科学院　医療・福祉サービス研究部　主任研究官

近藤辰比古　公益社団法人全国老人福祉施設協議会指導監査対応委員会　委員長

田中　雅子　公益社団法人日本介護福祉士会　前名誉会長

原口　恭彦　東京経済大学　経営学部　教授

平川　博之　　公益社団法人全国老人保健施設協会　副会長

藤井　祐介　社会福祉法人　信愛報恩会　特別養護老人ホーム信愛の園

【オブザーバー】

川部　勝一　厚生労働省老健局振興課　課長補佐

【業務支援】

中垣内健郎　株式会社ナレッジ・マネジメント・ケア研究所　フェロー

【事務局】

一般社団法人　シルバーサービス振興会

３．事業構成

（１）介護事業所キャリアパス実態調査「介護職員の介護技術向上にむけた取組実績に関するアンケート」

「介護職員処遇改善加算」取得事業所（キャリアパス要件、職場環境等要件を満たす介護事業所）において、介護職員のキャリア開発支援にむけての取組体制や取組の内容、取組の効果、提供しているケア内容等の実態を調査し、介護職員に対する介護技術の指導や評価（介護職員に対する 0JT）に取り組んでいる介護事業所と、取組ができていない事業所においての体制、取組差、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項につき、検証を行う。（第１章）

（２）介護技術向上に関するデータ分析

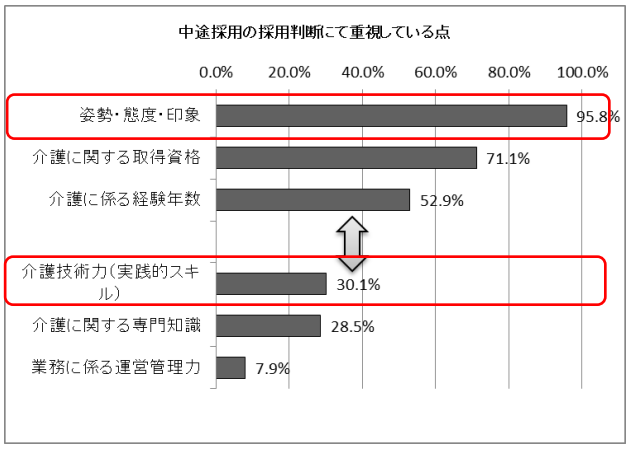
「介護キャリア段位制度（介護技術の評価基準及び標準化された 0JT 手法）」のスキームを活用して、介護技術習得を目的とした 0JT（評価と指導）が行われた介護職員について、介護技術向上・介護技術習得が確認された項目の抽出並びに習得までに要した期間の集計を行い、介護職員の属性情報、指導を行う介護職員の属性情報についてクロス集計分析を行う。（第２章）

４．介護技術向上の取組に関する先行調査より（補足）

平成 30 年度の介護労働実態調査によれば、利用者及びその家族についての悩み、不安、不満等（複数回答）として、「利用者に適切なケアができているか不安がある」が 41.6%で最も高い結果となっている[2]。

一方で、当会が実施した先行調査では、「介護職員の技術」の標準化がはかられておらず、「ばらつきがみられる」との管理者の回答が 70.6%を占めた[3]。

また、介護職員の介護職員の採用形態は 8 割以上が中途採用である中で（介護労働実態調査、平成 26 年度～平成 30 年度）、中途採用者の採用基準としては、「姿勢・態度・印象」が重視され（95.8%）、介護技術力は 30.1%と、採用後の教育訓練の在り方の重要性が浮き彫りとなった[4]。



平成 26 年度　介護職員の資質向上（キャリアパス）におけるスキルの評価等の有効性に関する調査研究

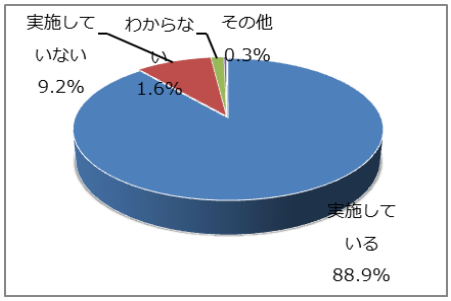
[2] 平成 30 年度　介護労働実態調査　（公社）介護労働安定センター

[3] 平成 25 年度「介護職員の資質向上（キャリアパス）におけるスキルの評価等の有効性に関する調査研究」（一社）シルバーサービス振興会

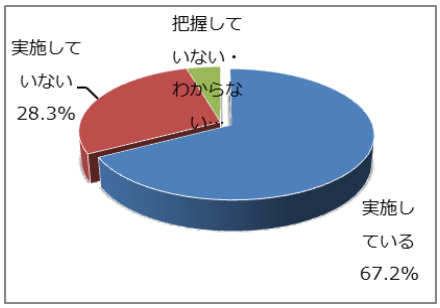
[4] 平成 26 年度「介護職員の資質向上（キャリアパス）におけるスキルの評価等の有効性に関する調査研究」（一社）シルバーサービス振興会

更に他の先行調査[5]では、介護の OJT は新規採用職員に対してと 2 年目以降の職員に対してとでは、2 年目以降では実施されていない傾向が示された。調査結果からは、1 年目の職員に対する OJT 実施に対し、2 年目以降の職員の OJT 実施率は 21.7 ポイント減となり、教育研修担当配置、教育研修費等の整備状況も格段に下がり、OJT の体制整備と継続実施を通じた人材育成がされていない、という実態が示された。

1 年目の介護職員に対する OJT 実施



2～3 年目の介護職員に対する OJT 実施状況（正規職員）



平成 28 年度　介護職員への OJT を通じた人材育成の取組実態調査

同調査では、2 年目以降の職員の OJT として、職員が持ち合わせている介護技術のばらつきがある（85.7%）、指導者側の指導方法にばらつきがある（84.7%）、指導者側の指導スキル、適切な OJT の手法・仕方が整理されておらず、「介護職員が何を身につけるべきか特定できない（50.4%）」等、介護事業所において OJT 実施のための要件を整理できていないこと、中長期的な人材育成体制が構築されていない実態が明らかとなった。

職員の「ケアに対する不安」と事業所の「良質な人材が確保できない」という課題は、表裏の関係といえ、「介護技術の標準化」にむけた教育・訓練の体制づくりと取組実行が鍵となる。

しかしながら、事業所において、介護スキルとして身につけるべき事項が整理されていない状況下においては、スキルアップのパスを示すことができず、スキルの獲得は、現場任せの経験年数頼みを招いている。

[5] 平成 28 年度「介護サービス事業者における OJT を通じた介護職員の人材育成の在り方に関する調査研究」（一社）シルバーサービス振興会

本事業の概要

平成 28 年度に実施した調査研究[6]では、介護職員が、自身のスキルの状況を可視化して把握する機会がない場合、経験年数を経ても「できていない」状況のままとなる可能性がデータとして示された。これは、介護の専門スキルとは、単に経験の蓄積で自然に身につくといった類のものではなく、スキルアップのパスに照らして、現状スキルのみえる化をはかり、0JT 指導の実践をはかることが、如何に重要であるか、を示している。

介護キャリア段位制度期首評価データ分析　介護福祉士・経験年数別期首評価「できていない」率

できていない率　（介護福祉士全体：n=5,039）

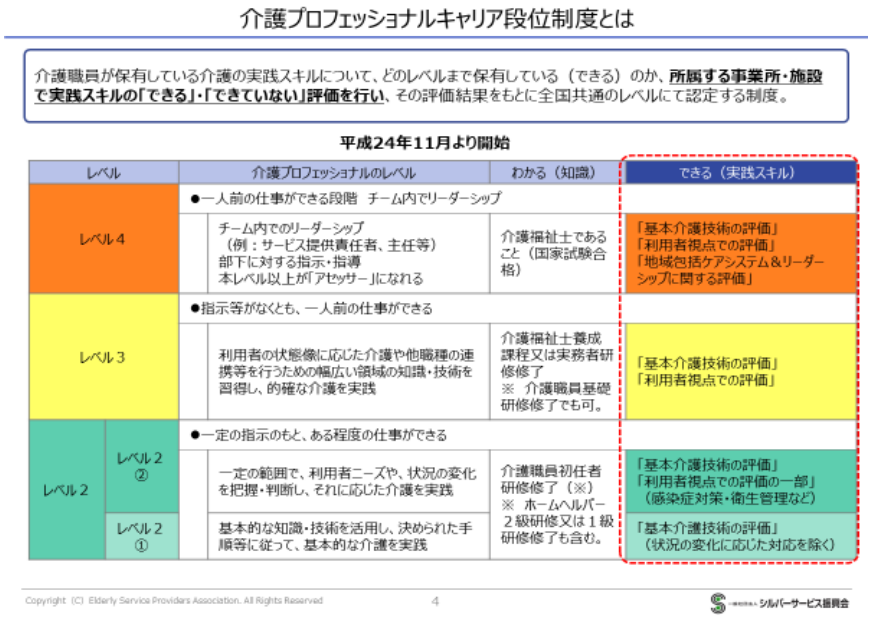
10%～19%　20%～29%　30%～39%　40%～49%　50%以上

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1　入浴前の確認ができる	12.1	9.5	8.1	7.9	6.8	5.3	5.3	7.6	5.0	5.4	4.4	4.8	3.8	4.1	3.1	2.5	2.1	0.0	1.5	3.1
		2　衣服の着脱ができる	19.0	10.7	5.1	7.6	8.0	10.2	4.7	6.5	6.0	6.3	5.9	4.5	5.2	7.0	5.6	5.7	1.0	3.0	4.3	2.1
		3　洗体ができる	21.6	12.5	11.0	9.5	8.5	8.0	5.9	10.0	5.7	6.2	5.1	7.6	5.9	5.3	5.3	3.8	3.1	5.9	2.9	1.0
		4　清拭ができる	33.3	24.0	18.7	13.2	14.9	9.4	9.8	13.2	8.7	8.8	8.1	7.3	7.0	6.6	6.7	6.3	1.0	3.0	2.9	5.3
	2.食事介助	1　食事前の準備を行うことができる	17.2	8.7	8.8	8.3	6.8	5.8	5.0	8.8	7.4	5.4	5.8	6.2	4.2	4.9	6.6	6.3	1.0	3.0	1.4	2.1
		2　食事介助ができる	22.4	13.5	11.8	12.4	10.0	11.9	8.9	10.3	12.1	11.2	6.6	7.6	7.0	7.8	8.8	5.0	5.1	8.0	5.8	2.1
		3　口腔ケアができる	19.8	10.6	10.3	12.0	12.2	8.3	8.8	11.7	7.4	9.8	6.6	7.3	6.3	5.8	9.1	3.1	3.1	6.1	5.8	3.2
	3.排泄介助	1　排泄の準備を行うことができる	9.5	6.7	4.4	5.4	6.4	4.2	3.2	4.4	4.4	3.6	3.3	4.5	3.5	2.9	3.2	3.1	2.0	2.0	4.3	0.0
		2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	22.4	16.3	12.5	10.9	12.5	10.0	7.4	9.7	7.7	9.4	7.3	7.9	7.3	7.8	7.0	6.9	3.1	6.0	4.3	3.2
		3　おむつ交換を行うことができる	21.7	16.3	12.6	10.5	10.0	6.4	5.3	9.1	6.4	7.9	6.2	6.8	4.9	4.9	6.7	3.8	2.0	4.0	4.4	0.0
	4.移乗・移動・体位変換	1　起居の介助ができる	15.5	13.5	9.6	10.5	8.8	7.2	6.8	7.0	3.7	6.1	4.8	5.4	5.2	2.5	3.1	3.1	1.0	1.0	2.9	1.1
		2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	26.7	23.1	18.4	14.5	12.6	10.5	8.9	13.5	10.1	8.8	8.8	9.9	9.1	9.0	7.7	6.3	8.2	7.0	5.9	3.2
		3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	27.0	24.0	19.3	16.1	15.0	13.1	12.1	12.9	11.7	9.5	11.0	11.9	10.4	10.7	8.0	8.8	5.1	13.0	6.0	3.2
		4　杖歩行の介助ができる	31.9	26.9	14.8	16.0	14.9	12.1	9.5	10.4	8.8	12.3	6.3	10.3	5.9	7.9	10.9	8.9	9.4	5.2	4.5	7.4
		5　体位変換ができる	22.6	18.4	13.5	10.9	10.6	10.3	7.7	8.2	5.7	8.3	6.3	7.1	4.6	5.3	6.3	5.0	7.1	4.0	3.0	1.1
	5.状況の変化に応じた対応	1　咳やむせこみに対応ができる	33.7	17.8	13.5	15.0	11.8	11.6	7.5	8.8	8.5	5.5	8.4	7.9	4.5	4.8	9.1	3.3	1.1	3.2	1.7	1.1
		2　便・尿の異常に対応ができる	43.8	43.3	18.2	20.9	14.3	16.4	12.9	12.7	9.3	11.3	9.5	10.7	8.0	10.1	10.3	6.0	3.3	8.6	6.7	2.2
		3　皮膚の異常に対応ができる	41.7	35.6	22.5	19.7	20.2	17.6	15.5	14.1	7.5	12.6	11.8	11.9	8.4	10.5	13.6	6.0	4.3	9.7	5.0	3.3
		4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	53.1	44.9	31.8	32.1	25.9	27.7	21.5	19.9	16.5	19.1	19.8	19.7	16.5	16.6	18.6	12.0	8.6	10.9	8.3	16.5
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケー	1　相談・苦情対応ができる	68.0	65.2	44.0	38.7	31.3	28.9	29.1	27.1	26.7	24.9	20.5	17.9	24.0	15.7	18.1	10.1	13.0	11.8	11.5	14.0
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	30.9	25.8	21.6	16.9	13.9	14.0	13.0	10.2	9.6	11.3	8.8	8.1	8.4	7.4	11.4	6.8	3.2	5.3	4.9	7.5
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	36.0	23.3	20.2	19.7	15.4	13.1	13.2	13.2	12.1	10.2	8.6	6.1	8.3	11.0	8.1	5.1	6.8	11.1	7.1	6.7
		2　個別介護計画を立案できる	70.3	57.5	42.9	52.0	47.4	38.2	37.0	35.7	30.9	31.2	24.1	22.3	23.7	24.5	23.6	13.2	17.0	20.2	12.5	27.8
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	62.2	47.9	37.0	40.2	35.6	32.0	32.3	26.4	23.3	27.2	18.5	18.3	18.3	20.6	18.1	11.0	21.6	18.0	12.5	18.9
		4　個別介護計画の評価ができる	63.5	52.1	37.8	51.3	43.4	35.6	35.3	31.1	28.6	31.0	22.5	21.5	24.4	23.4	20.5	13.3	21.6	21.3	17.9	25.6
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	33.0	32.2	24.8	19.5	16.7	14.0	13.7	11.4	10.0	13.3	7.7	7.8	8.5	10.0	10.3	9.5	7.5	2.2	5.1	7.5
		2　感染症発生時に対応できる	55.7	48.9	34.9	28.4	25.1	23.0	20.5	19.3	10.7	14.7	12.3	13.4	12.3	15.3	13.4	7.6	9.7	6.5	3.4	16.1
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	28.1	22.2	21.8	19.0	12.7	9.7	12.1	9.2	10.1	8.8	8.0	8.1	11.8	10.0	7.7	4.7	4.3	6.4	5.0	5.4
		2　事故発生時の対応ができる	47.4	34.4	19.3	23.6	17.3	16.2	12.8	11.5	10.4	10.3	9.2	10.6	9.6	9.5	8.9	6.1	9.7	8.5	6.8	7.5
		3　事故報告書を作成できる	32.1	32.9	15.7	20.3	16.0	12.7	13.0	13.5	10.1	12.2	10.8	11.6	13.2	11.0	10.0	6.6	9.1	8.9	14.3	8.8
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	59.7	49.3	35.1	34.8	24.8	22.7	25.0	24.1	14.9	23.6	14.3	15.6	18.2	18.8	17.1	11.1	11.4	11.5	9.1	17.6
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	78.9	77.5	67.4	66.0	55.0	52.3	53.9	51.9	40.5	46.3	39.4	33.8	35.8	34.8	35.9	27.1	30.7	28.9	25.5	27.5
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	65.3	62.5	39.8	43.3	36.5	34.0	34.5	33.3	31.5	27.9	25.8	25.1	23.8	27.2	26.0	18.3	24.1	17.4	9.3	22.2
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	75.0	69.0	43.0	52.9	42.8	45.8	37.5	39.2	35.0	34.7	27.0	30.9	25.4	32.8	33.1	25.8	26.7	24.4	22.2	24.4
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	81.8	84.5	76.3	71.2	69.2	64.5	66.0	60.6	65.3	60.6	54.3	50.0	47.6	45.6	51.4	42.1	47.9	41.8	48.9	44.3
		2　地域内の社会資源との業務協力	84.8	86.2	80.0	71.7	72.6	70.5	71.0	68.8	70.9	66.0	58.9	57.3	54.8	53.3	56.1	45.8	46.6	49.3	55.3	44.3
		3　地域内の関係職種との交流	81.8	86.2	77.5	67.8	70.2	67.1	63.7	64.7	65.3	59.5	58.4	52.8	49.5	46.4	51.6	42.6	52.1	49.3	44.7	41.8
		4　地域包括ケアの管理業務	93.8	96.6	92.4	89.5	86.1	79.6	87.4	82.3	80.8	74.9	78.7	73.1	68.1	67.2	69.8	55.8	62.0	73.0	61.7	60.0
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	83.3	77.6	58.8	51.0	45.7	36.2	40.3	35.9	32.0	30.4	27.6	25.4	21.6	30.1	22.1	20.2	17.3	20.6	20.8	25.0
		2　部下の業務支援を適切に行っている	86.4	79.3	54.3	49.7	47.8	40.0	40.1	39.5	35.3	33.8	30.2	30.2	26.4	34.1	25.8	22.0	13.3	19.1	25.0	27.5
		3　評価者として適切に評価できる	86.2	80.7	70.9	67.7	60.1	50.2	53.3	52.7	46.0	44.4	38.6	36.7	32.5	38.1	31.0	23.9	26.7	22.7	27.1	35.0

平成 29 年度「0JT を通じた介護職員の人材育成に関する調査研究」

[6] 平成 28 年度「介護サービス事業者における 0JT を通じた介護職員の人材育成の在り方に関する調査研究」（一社）シルバーサービス振興会

介護キャリア段位制度は、4 段階のスキルアップのパスと介護技術評価基準（148 項目）を用いて、指導評価者としてアセッサーの養成配置の上で、OJT 実施手順（面談、現認、記録確認の手法とともに、期首評価―期中・OJT - 期末評価の手順の明示）沿って OJT を行う仕組みであり、制度を活用した OJT が全国事業所で展開されているところである。このような介護技術の向上にむけた事業所の取組は、どのような体制や手法で実施されており、事業所に対してどのような変化等をもたらしているのか、本事業で実態を探ることとしたい。



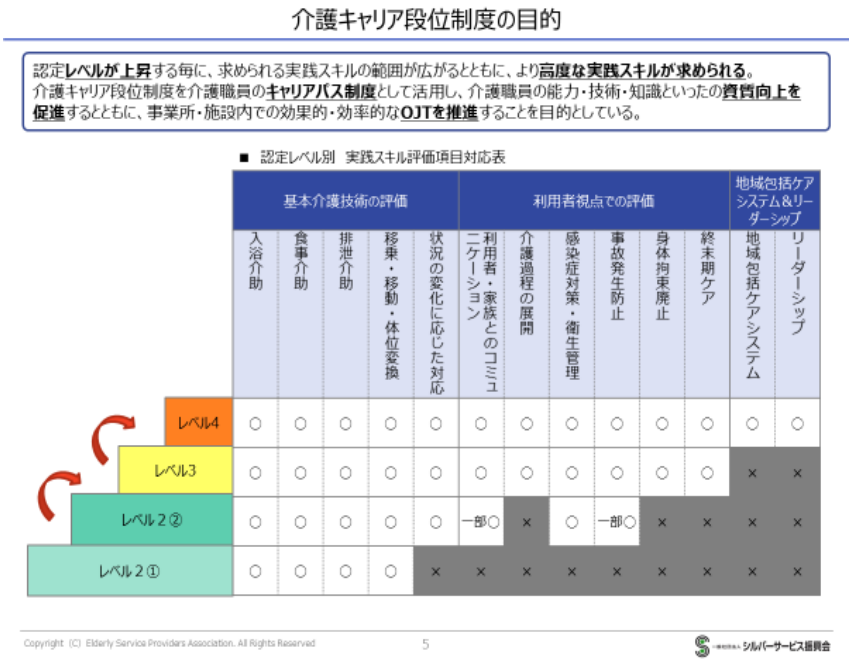
介護プロフェッショナルキャリア段位制度とは

介護職員が保有している介護の実践スキルについて、どのレベルまで保有している（できる）のか、**所属する事業所・施設で実践スキルの「できる」・「できていない」評価を行い**、その評価結果をもとに全国共通のレベルにて認定する制度。

平成24年11月より開始

レベル		介護プロフェッショナルのレベル	わかる（知識）	できる（実践スキル）
レベル４		●一人前の仕事ができる段階　チーム内でリーダーシップ チーム内でのリーダーシップ （例：サービス提供責任者、主任等） 部下に対する指示・指導 本レベル以上が「アセッサー」になれる	介護福祉士であること（国家試験合格）	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価」 「地域包括ケアシステム＆リーダーシップに関する評価」
レベル３		●指示等がなくとも、一人前の仕事ができる 利用者の状態像に応じた介護や他職種の連携等を行うための幅広い領域の知識・技術を習得し、的確な介護を実践	介護福祉士養成課程又は実務者研修修了 ※　介護職員基礎研修修了でも可。	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価」
レベル２	レベル２②	●一定の指示のもと、ある程度の仕事ができる 一定の範囲で、利用者ニーズや、状況の変化を把握・判断し、それに応じた介護を実践	介護職員初任者研修修了（※） ※　ホームヘルパー２級研修修了は１級研修修了も含む。	「基本介護技術の評価」 「利用者視点での評価の一部」 （感染症対策・衛生管理など）
	レベル２①	基本的な知識・技術を活用し、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践		「基本介護技術の評価」 （状況の変化に応じた対応を除く）

Copyright (C) Elderly Service Providers Association. All Rights Reserved　4　シルバーサービス振興会



介護キャリア段位制度の目的

認定**レベルが上昇**する毎に、求められる実践スキルの範囲が広がるとともに、より**高度な実践スキルが求められる**。
介護キャリア段位制度を介護職員の**キャリアパス制度**として活用し、介護職員の能力・技術・知識といったの**資質向上を促進**するとともに、事業所・施設内での効果的・効率的な**OJTを推進**することを目的としている。

■ 認定レベル別　実践スキル評価項目対応表

	基本介護技術の評価					利用者視点での評価						地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	
	入浴介助	食事介助	排泄介助	移乗・移動・体位変換	状況の変化に応じた対応	利用者・家族とのコミュニケーション	介護過程の展開	感染症対策・衛生管理	事故発生防止	身体拘束廃止	終末期ケア	地域包括ケアシステム	リーダーシップ
レベル4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
レベル3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
レベル２②	○	○	○	○	○	一部○	×	○	一部○	×	×	×	×
レベル２①	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

Copyright (C) Elderly Service Providers Association. All Rights Reserved　5　シルバーサービス振興会

本事業の概要

第１章

介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

第１章　介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

１．アンケート調査実施概要

（１）目的

「介護職員処遇改善加算」（平成 30 年度）の取得状況は、91.1%を占め、うち、介護職員処遇改善加算Ⅰを取得している介護事業所は、69.3%となっている[7]。

当該加算のキャリアパス要件、職場環境等要件では、職位や職責、職務内容に応じた任用要件と賃金体系の整備、研修の実施や機会の整備、経験や資格等に応じて昇給する仕組みや、定期昇給判定の仕組みの整備、給与以外の職場環境等の改善等が要件とされている。

当該加算のキャリアパス要件については、介護サービスの質の向上の観点から、介護職員の実践的スキルの向上につながる取組を行っている介護事業所を評価するものとして設けられているといえるが、一方でその効果が立証できるような十分な成果が得られていないとの懸念もあげられ、具体的な取組の評価が求められる。

そこで本事業では、「介護職員処遇改善加算」取得事業所（キャリアパス要件、職場環境等要件を満たす介護事業所）において、介護職員のキャリア開発支援にむけての取組体制や取組内容、取組の効果、提供しているケア内容等の実態を調査し、介護職員に対する介護技術の指導や評価（介護職員に対する OJT）に取り組んでいる介護事業所と、取組ができていない事業所においての取組実態、体制、対象とする利用者の状態を含めた業務（ケア）の実態、職員の意識等につき比較分析を行い、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項につき、検証を行う。

調査名　介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

[7] 平成 30 年度介護従事者処遇状況等調査　厚生労働省

（２）調査対象

介護キャリア段位制度のアセッサーが 1 名以上所属する全国介護事業所のうち、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、訪問介護サービスから、計 800 事業所を抽出。

計 800 事業所（介護老人福祉施設（320 事業所）／介護老人保健施設（320 事業所）／訪問介護サービス事業所（160 事業所））

（３）客体抽出の方法

OJT の取組に関する量的測定可能な指標として、介護キャリア段位制度のレベル認定実績に着目した。そこで、本調査では、介護キャリア段位制度のアセッサーが 1 名以上所属する介護事業所（11,092 件）のうち、主たるサービスとして介護老人福祉施設(1,998 件)、介護老人保健施設（1,398 件)、訪問介護サービス(1,885 件）の中から、800 事業所に対して調査を行った。

抽出の考え方として、OJT 取組あり＝レベル認定実績が３件以上ある事業所と整理し、レベル認定輩出実績を一定数（3 件以上）有する事業所を介護技術向上にむけた取組実績ありとして取組後の実態を示す群を A 群と設定、レベル認定輩出実績無（0 件）の事業所を、介護技術向上にむけた取組の実施前の実態を示す群を B 群と設定した。

両者の実態の違いを探ることで、OJT 実績輩出事業所にみられる特徴を見出すこと、OJT の継続的な実施に必要となる要件とは何か、OJT の取組が事業所にどのような変化等をもたらすのか、様々な角度から、探ることとする。なお、本調査では、OJT 取組の特徴を見出すため、レベル認定実績１件及び 2 件の実績事業所は、調査対象外とした。

	A 群	B 群
抽出条件，件数	レベル認定輩出実績 3 名以上の事業所（計 400 事業所）	レベル認定未輩出事業所（計 400 事業所）
内訳	介護老人福祉施設（160 件） 介護老人保健施設（160 件） 訪問介護サービス（80 件）	介護老人福祉施設（160 件） 介護老人保健施設（160 件） 訪問介護サービス（80 件）
抽出方法	サービス種別、レベル認定輩出者数事業所上位順に選定	介護サービス施設事業所調査(平成 29 年度）の入所定員等構成割合に基づき、層化抽出

（４）調査票

１事業所あたり、計３種類の調査票を配布。

	１事業所あたり	配布計	想定する回答者
事業所調査票	１部	800　部	管理者、人材育成担当、もしくはアセッサー(1 名)
指導者調査票	１部	800　部	アセッサー（1 名）
介護職員調査票	10 部	2,000　部	介護職員（10 名）
	２部	1,200　部	介護職員（2 名）

（５）主な調査項目

	主な調査項目
事業所票	・属性、処遇改善加算取得状況、介護職員数、採用者数、離職者数 ・人材育成に係る支出実績、人材育成に係る体制・取組 ・介護技術向上の取組、介護キャリア段位制度の取組 ・地域連携実態等
指導者票	・属性、勤務実態 ・介護技術向上にむけた取組、利用者の状況、介護キャリア段位制度の取組、指導者としての業務 ・業務に関する意識（職務忠誠、職員定着、モチベーション等に係る事項） ・実施しているケア、地域連携実態等
介護職員票	・属性、勤務実態 ・介護技術向上にむけた支援の機会、研修の機会 ・介護キャリア段位制度の取組 ・業務に関する意識（職務忠誠、職員定着、モチベーション等に係る事項） ・実施しているケア、地域連携実態、認知症の方に対する個別ケア対応等

（６）調査期間

令和２年１月 24 日（金）～令和２年２月末（約５週間）

（７）回収結果

	発送数	回収数	回収率	実績別		サービス種別		
				A群	B群	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	訪問介護
事業所調査	800	216	27.0%	150	66	88	83	45
指導者調査	800	234	29.3%	167	67	106	89	39
介護職員調査	3,200	837	26.2%	584	253	379	352	106
計	4,800	1,287	26.8%	901	386	573	524	190

２．事業所調査結果

（１）事業所の属性

サービス種　N＝216

	全体	A 群	B 群
介護老人福祉施設	88	59	29
介護老人保健施設	83	60	23
訪問介護	45	31	14
計	216	150	66

回答者属性

現在の職位について　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
管理職	120	55.6%	80	53.3%	40	60.6%
人材育成担当者	43	19.9%	34	22.7%	9	13.6%
主任・リーダー	53	24.5%	37	24.7%	16	24.2%
その他（　　）	32	14.8%	24	16.0%	8	12.1%
無回答	3	1.4%	3	2.0%	0	0.0%
合計	216		150		66	

事業所の管理職による回答が、A 群、B 群ともに 50%以上を占める。

介護キャリア段位制度との関わりについて　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
アセッサーである	137	63.4%	103	68.7%	34	51.5%
アセッサーになる予定である	4	1.9%	1	0.7%	3	4.5%
アセッサーではない	67	31.0%	40	26.7%	27	40.9%
レベル認定取得者である	30	13.9%	30	20.0%	0	0.0%
レベル認定取得予定である	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
レベル認定者ではない	94	43.5%	62	41.3%	32	48.5%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216		150		66	

事業所票の回答者のうち、アセッサーとして登録をしている者が全体の 63.4%を占める。

（２）事業所の状況

介護職員処遇改善加算等の取得状況　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
介護職員処遇改善加算Ⅰ	167	77.3%	117	78.0%	50	75.8%
介護職員処遇改善加算Ⅱ	25	11.6%	17	11.3%	8	12.1%
介護職員処遇改善加算Ⅲ	7	3.2%	5	3.3%	2	3.0%
介護職員特定処遇改善加算（2019年10月～）	139	64.4%	97	64.7%	42	63.6%
１～4のいずれも取得していない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
わからない	5	2.3%	5	3.3%	0	0.0%
無回答	5	2.3%	3	2.0%	2	3.0%
合計	216		150		66	

全体	A群	B群
割合	割合	割合
92.1%	92.7%	90.9%

介護職員処遇改善加算Ⅰ～Ⅲ取得事業所の割合は、A 群、B 群ともに 9 割超であり、全国の当該加算取得率と同等の取得率といえる。

また、介護職員等特定処遇改善加算の取得割合では、A 群が 64.7%､B 群では 63.6%となっており、当該加算取得状況につき両群に大差はみられない。

介護職員数に係る情報　前年度実績　N＝216

		全体	A 群	B 群
介護職員のうち、介護福祉士が占める割合	介護福祉士数／介護職員数（%）	66.6%	68.2%	63.1%
介護職員のうち、10 年以上介護福祉士が占める割合	勤続 10 年以上介護福祉士数／介護職員数（%）	25.6%	26.6%	23.5%
介護福祉士のうち、10 年以上介護福祉士が占める割合	勤続 10 年以上介護福祉士数／介護福祉士数（%）	40.9%	37.8%	47.8%
採用割合	採用者数／介護職員（%）	10.7%	10.0%	12.4%
離職割合	離職者数／介護職員（%）	9.1%	8.4%	10.8%

介護職員のうち､介護福祉士が占める割合は､A 群が 68.2%であるのに対し､B 群は 63.1%である｡採用割合は､A 群が 10.0%､B 群が 12.4%であり､B 群の方がやや高い。

離職割合では､A 群が 8.4%､B 群は 10.8%であり､A 群の方が離職率は低い群である。

平成 30 年度介護労働実態調査データによると、採用率は 18.7%、離職率 15.4%であり、A 群 B 群ともに全国平均よりも介護職員は定着している事業所と読み取れる。

福利厚生費、研修費、書籍購入費　等　前年度実績　N＝216

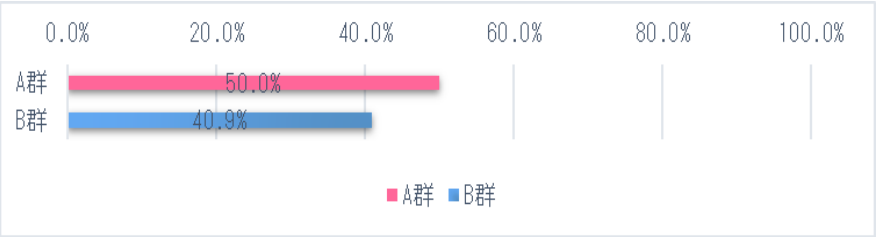
		全体	A 群	B 群
福利厚生費	年間（円）	39,019 円	35,005 円	49,496 円
研修費	年間（円）	12,318 円	12,404 円	12,100 円
書籍購入費	年間（円）	36,309 円	36,658 円	35,441 円
書籍購入冊数	年間（冊）	17.4 冊	18.6 冊	14.2 冊

学習室の設置状況　N＝216

		全体	A 群	B 群
学習室の設置状況	学習室（勉強スペース）がある　率（%）	14.8%	14.7%	15.2%

教育･人材育成に関する専門委員会の設置状況･回数　前年度実績　N＝216

		全体	A 群	B 群
教育・人材育成に関する専門委員会の設置	設置している率（%）	47.2%	50.0%	40.9%
教育・人材育成に関する専門委員会の開催数	年間（回）	11.5 回	12.2 回	9.7 回



福利厚生費についてみると、B 群の方が A 群を 14,000 円以上上回っている。

研修費の全体平均は、12,318 円であり、A 群、B 群には大差はみられない。

介護職員の学習室（勉強スペース）の設置状況は、設置をしているのは全体の 14.8%に留まり、8 割以上の介護事業所においては、介護職員にむけた勉強スペースは、確保されていない実態となっている。

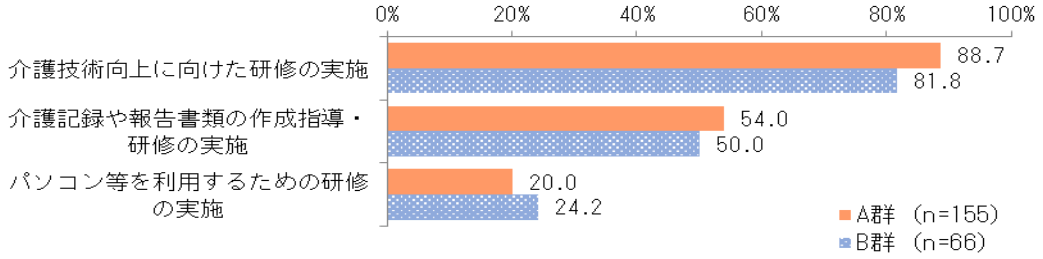
（３）研修の実施状況

「介護技術の向上にむけた研修」(Off-JT) の実施状況については、86.6%の事業所で「実施している」との回答であった（「積極的に実施している」「ある程度実施している」の計)。このうち、A 群と B 群の比較では、A 群が 88.7%に対し、B 群では 81.8%と 9.1 ポイントの差がみられた。

また、根拠記録に関する研修として、「日々の介護記録や報告書類の作成指導・研修の実施」については、全体の約半数（52.8%）に留まった。A 群と B 群の比較でみると、A 群では 54.0%、B 群では 50.0%であり、A 群の方が若干上回った。

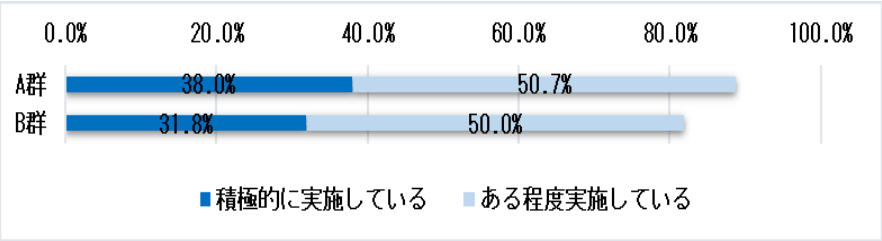
「パソコン等を利用するための研修」については、実施は 2 割程度であり、A 群では 20.0%、B 群では 24.2%と、B 群の方が上回った。両群に研修実施に関する大差はみられないといえるが、その実施内容については、介護技術といっても、基礎的なものから専門性を深めるものまで多様であり、一概にはくくれない。

研修の実施状況 N=216 「積極的に実施している」「ある程度実施している」の計（%）



介護技術向上にむけた研修の実施 N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に実施している	78	36.1%	57	38.0%	21	31.8%
ある程度実施している	109	50.5%	76	50.7%	33	50.0%
あまり実施していない	20	9.3%	13	8.7%	7	10.6%
ほとんど実施していない	7	3.2%	4	2.7%	3	4.5%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護技術向上の研修開催数　前年度実績　N＝78

		全体	A 群	B 群
介護技術向上の研修開催数	年間（回）	18.9 回	18.8 回	19.2 回

介護技術研修のテーマ　（抜粋）

A 群

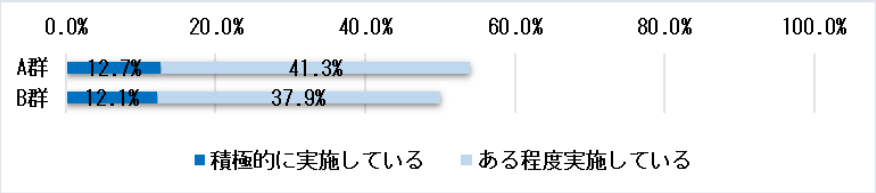
- 口腔ケア、身体拘束廃止、排泄介助、心肺蘇生
- 根拠のある介護基本マニュアル（キャリア段位制度 148 項目対応）を活用し、入浴排泄食事等の介助技術についての実践指導
- 口腔ケア、身体拘束廃止、排泄介助、心肺蘇生
- 移動移乗、福祉用具活用、介護過程の展開
- 感染症予防、認知症とレクリエーション、身体にかかる圧の影響と対策、腰痛予防対策
- 介護技術、看取り、事故対策、虐待防止、認知症、地域包括ケアシステム＆リーダーシップ
- ヒヤリハット、危険予知トレーニング
- 言語非言語コミュニュケーション　他

B 群

- 介護機器・コミュニケーション感染症対策
- 腰に負担のかからない移乗移動の仕方、救命救急措置
- 拘縮のある人へのケア、移乗・移動等
- リフト使用
- ベッドシーツの交換の方法
- リラクゼーション　他

介護記録や報告書類の作成指導･研修の実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に実施している	27	12.5%	19	12.7%	8	12.1%
ある程度実施している	87	40.3%	62	41.3%	25	37.9%
あまり実施していない	76	35.2%	54	36.0%	22	33.3%
ほとんど実施していない	22	10.2%	13	8.7%	9	13.6%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護記録や報告書類の作成指導･研修開催数

		全体	A 群	B 群
介護記録や報告書類の作成指導・研修開催数	年間（回）	8.8 回	8.4 回	9.6 回

介護記録や報告書類の作成指導研修のテーマ　（抜粋）

A 群

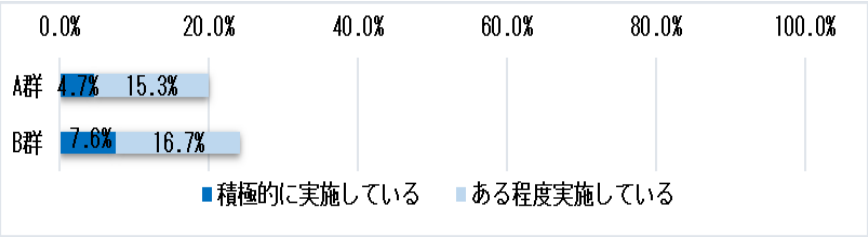
- 根拠のある記録記入
- 自立支援に向けた支援方法と記録の書き方
- フォーカスチャーティングについて
- 事故報告書の書き方　他

B 群

- タブレットによる介護記録の入力方法、内容
- ケアプランについて
- ひやり･事故報告書作成について
- 苦情の書き方　他

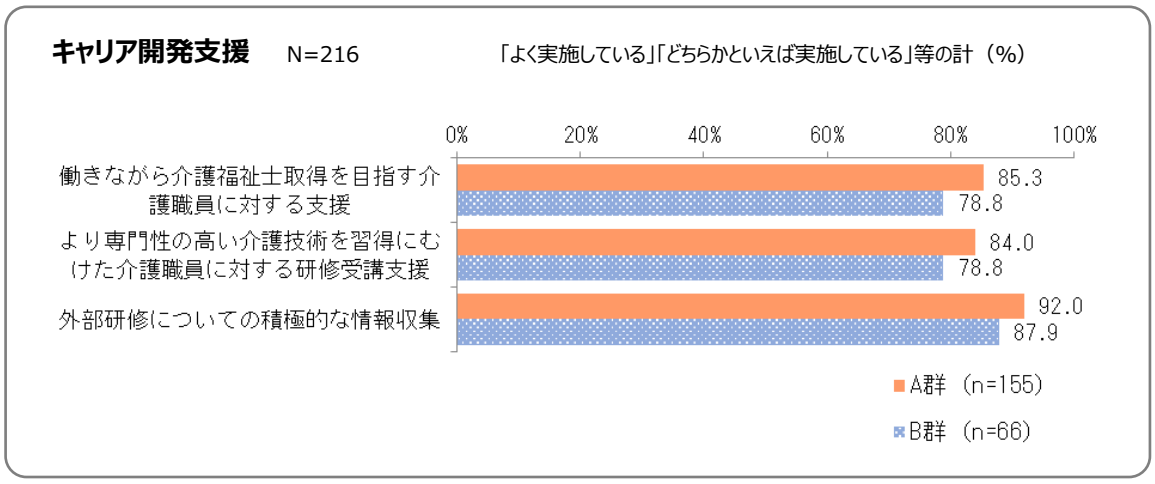
パソコン等を利用するための研修の実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に実施している	12	5.6%	7	4.7%	5	7.6%
ある程度実施している	34	15.7%	23	15.3%	11	16.7%
あまり実施していない	69	31.9%	50	33.3%	19	28.8%
ほとんど実施していない	100	46.3%	70	46.7%	30	45.5%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



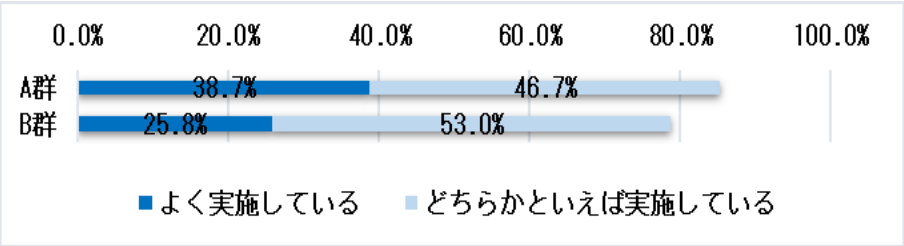
（４）キャリア開発支援

介護職員のキャリア開発支援として「介護福祉士資格取得支援」や、初任者研修受講、実務者研修受講等の、「より専門性の高い介護技術の習得にむけた研修受講支援」については、全体では 8 割超の実施率であった。また外部研修に関する情報収集は、約 9 割の事業所で実施しているとの回答であった。A 群と B 群の比較でみてみると、いずれの実施率も A 群が上回る結果であった。



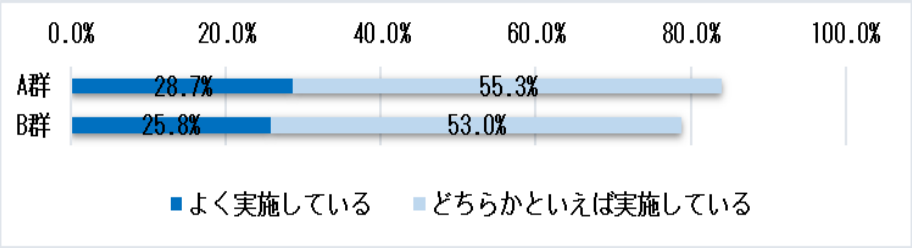
働きながら介護福祉士取得を目指す介護職員に対する支援　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	75	34.7%	58	38.7%	17	25.8%
どちらかといえば実施している	105	48.6%	70	46.7%	35	53.0%
どちらかといえば実施していない	23	10.6%	16	10.7%	7	10.6%
全く実施していない	7	3.2%	2	1.3%	5	7.6%
わからない	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



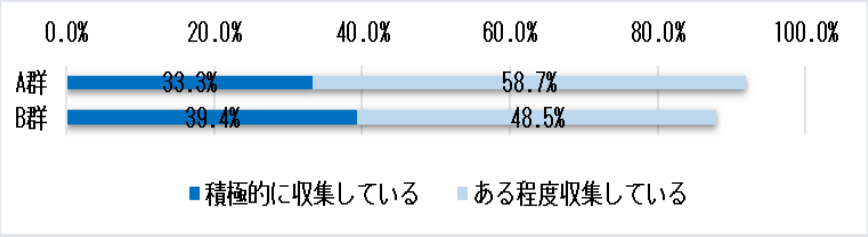
より専門性の高い介護技術を習得にむけた介護職員に対する研修受講支援　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	60	27.8%	43	28.7%	17	25.8%
どちらかといえば実施している	118	54.6%	83	55.3%	35	53.0%
どちらかといえば実施していない	26	12.0%	17	11.3%	9	13.6%
全く実施していない	8	3.7%	4	2.7%	4	6.1%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



外部研修についての積極的な情報収集　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に収集している	76	35.2%	50	33.3%	26	39.4%
ある程度収集している	120	55.6%	88	58.7%	32	48.5%
あまり収集していない	14	6.5%	10	6.7%	4	6.1%
ほとんど収集していない	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%

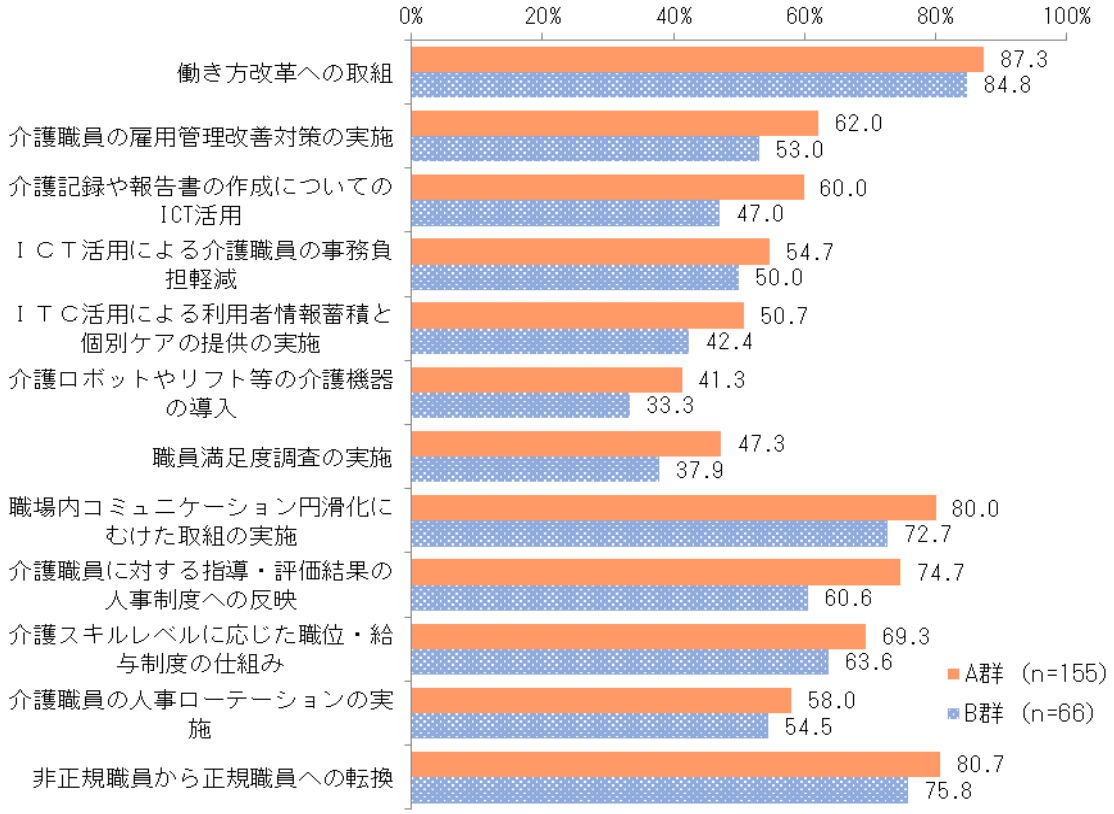


（５）職場環境整備の取組

介護職員の職場環境整備の取組について、「働き方改革への取組」「雇用管理改善対策」「ICT 活用の取組」、「職員満足度調査の実施」等について伺ったところ、各取組について A 群が B 群を上回る結果が示された。

中でも、「介護記録や報告書の作成についての ICT 活用」、「指導評価結果の人事制度への反映」では、10 ポイント以上の差がみられた。

職場環境整備の取組、人事制度等　N=216「よく実施している」「どちらかといえば実施している」の計（%）

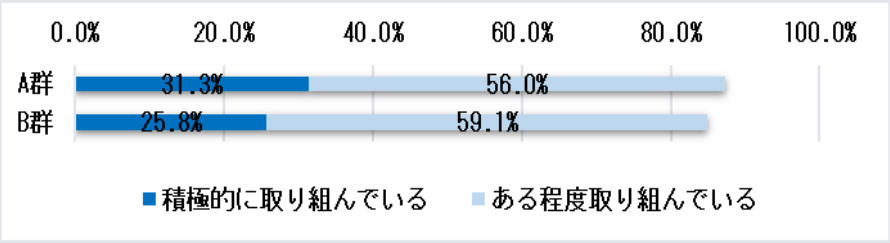


① 雇用管理の改善対策等

回答事業所のうち、働き方改革への取組は、8 割以上の事業所で実施との回答であった。また、雇用管理改善対策としては、A 群では約 6 割、B 群では約 5 割の事業所で実施している、との回答であった。

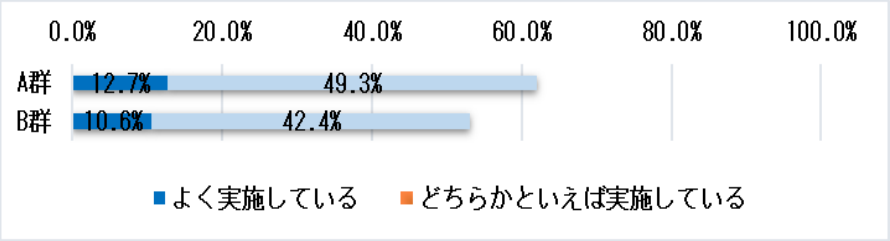
働き方改革への取組　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
積極的に取り組んでいる	64	29.6%	47	31.3%	17	25.8%
ある程度取り組んでいる	123	56.9%	84	56.0%	39	59.1%
あまり取り組んでいない	23	10.6%	16	10.7%	7	10.6%
ほとんど取り組んでいない	5	2.3%	3	2.0%	2	3.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護職員の雇用管理改善対策の実施　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	26	12.0%	19	12.7%	7	10.6%
どちらかといえば実施している	102	47.2%	74	49.3%	28	42.4%
どちらかといえば実施していない	60	27.8%	39	26.0%	21	31.8%
全く実施していない	9	4.2%	3	2.0%	6	9.1%
わからない	16	7.4%	13	8.7%	3	4.5%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



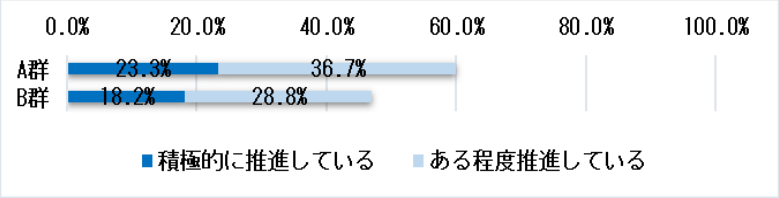
② ICT 活用の状況

前述のように、「パソコン等を利用するための研修」の実施率はＢ群がＡ群を上回る結果であったが、具体的な取組として、「ICT 活用による介護職員の事務負担軽減」、「ICT 活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施」、「介護記録や報告書の作成についての ICT 活用」についての実施率は、すべてＡ群の方が高い結果であった。中でも、「根拠に基づくケア」にむけた取組といえる、「介護記録や報告書の作成についての ICT 活用」については、Ａ群は 60.0%、Ｂ群では 47.0%と、13 ポイントの差であった。

この点、Ａ群（OJT 取組事業所）では、ICT に関して、介護職員の作業効率化・事務負担軽減といった観点に留まらず、ICT を用いた根拠記録の作成、ICT を用いた根拠データの蓄積、それに伴う根拠に基づく「個別ケア」の実践を視野に、ICT 活用に臨んでいることが伺える。

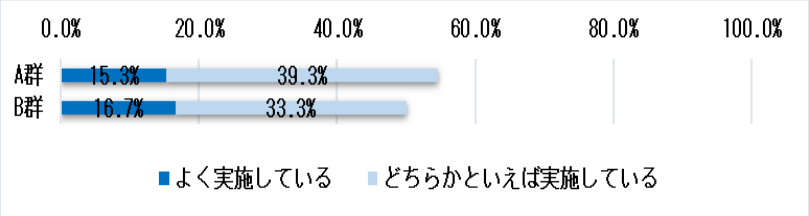
介護記録や報告書の作成についての ICT 活用　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
積極的に推進している	47	21.8%	35	23.3%	12	18.2%
ある程度推進している	74	34.3%	55	36.7%	19	28.8%
あまり推進していない	53	24.5%	36	24.0%	17	25.8%
ほとんど推進していない	38	17.6%	21	14.0%	17	25.8%
無回答	4	1.9%	3	2.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



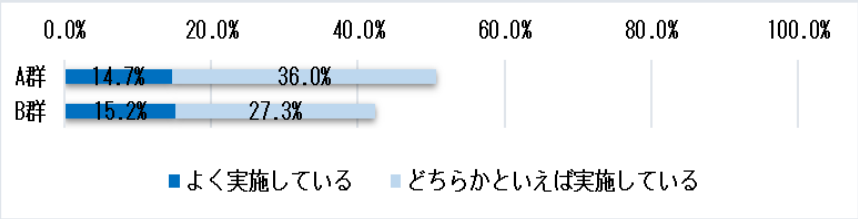
ICT 活用による介護職員の事務負担軽減　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	34	15.7%	23	15.3%	11	16.7%
どちらかといえば実施している	81	37.5%	59	39.3%	22	33.3%
どちらかといえば実施していない	63	29.2%	47	31.3%	16	24.2%
全く実施していない	27	12.5%	15	10.0%	12	18.2%
わからない	9	4.2%	5	3.3%	4	6.1%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



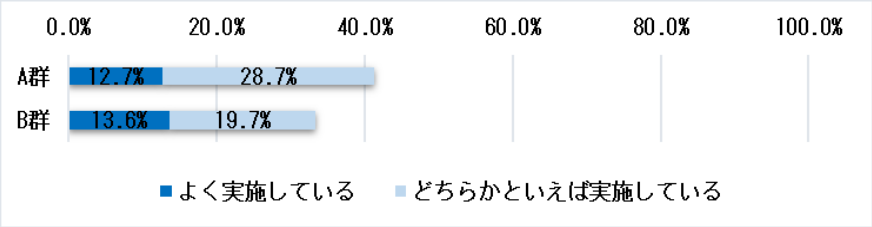
ICT 活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	32	14.8%	22	14.7%	10	15.2%
どちらかといえば実施している	72	33.3%	54	36.0%	18	27.3%
どちらかといえば実施していない	74	34.3%	54	36.0%	20	30.3%
全く実施していない	26	12.0%	13	8.7%	13	19.7%
わからない	8	3.7%	4	2.7%	4	6.1%
無回答	4	1.9%	3	2.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護ロボットやリフト等の介護機器の導入　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	28	13.0%	19	12.7%	9	13.6%
どちらかといえば実施している	56	25.9%	43	28.7%	13	19.7%
どちらかといえば実施していない	64	29.6%	42	28.0%	22	33.3%
全く実施していない	55	25.5%	37	24.7%	18	27.3%
わからない	10	4.6%	7	4.7%	3	4.5%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



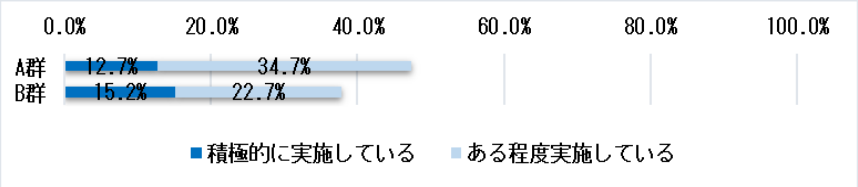
③ 職員満足（ES）の取組

職員満足度調査の実施においても、A 群の方が B 群よりも、9.5 ポイント程実施率が高い結果であった。また、職場の良好な人間関係構築の取組といえる、「職員とのコミュニケーションを意識した取組」についても、A 群が 7.3 ポイント程上回る結果であった。

OJT に実績を生んでいる事業所（A 群）では、職員満足を把握し、職員とのコミュニケーションの円滑化をはかろうとする、職員重視の経営姿勢が未実施事業所よりも高い傾向、と読み取れる。

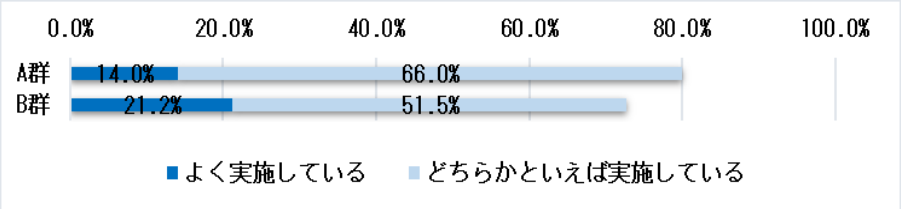
職場環境　満足度調査の実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に実施している	29	13.4%	19	12.7%	10	15.2%
ある程度実施している	67	31.0%	52	34.7%	15	22.7%
あまり実施していない	60	27.8%	40	26.7%	20	30.3%
ほとんど実施していない	58	26.9%	38	25.3%	20	30.3%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組の実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	35	16.2%	21	14.0%	14	21.2%
どちらかといえば実施している	133	61.6%	99	66.0%	34	51.5%
どちらかといえば実施していない	45	20.8%	29	19.3%	16	24.2%
全く実施していない	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



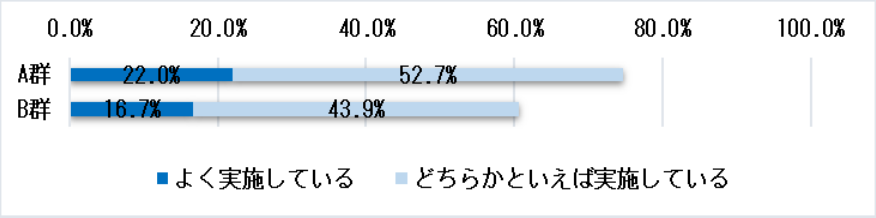
④ 人事制度

「介護職員への指導や評価結果を人事制度に反映させている」については、A 群では、74.7%の事業所が「実施している」との回答であり、B 群（60.6%）と比較して、14.1%上回った。また、「職位・給与制度の仕組み」、「人事ローテーションの実施」、「非正規職員から正規職位への転換」についても、A 群の実施率は上回る結果であった。

介護職員のスキルアップを意識した、人事制度を整備している事業所で、OJT の取組と実績が生じている、との傾向が読み取れる。

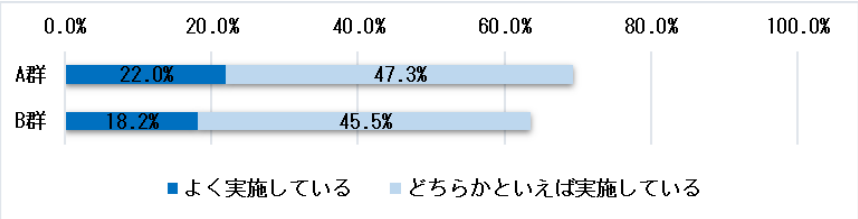
介護職員に対する指導・評価結果の人事制度への反映　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	44	20.4%	33	22.0%	11	16.7%
どちらかといえば実施している	108	50.0%	79	52.7%	29	43.9%
どちらかといえば実施していない	47	21.8%	28	18.7%	19	28.8%
全く実施していない	11	5.1%	5	3.3%	6	9.1%
わからない	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	4	1.9%	3	2.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



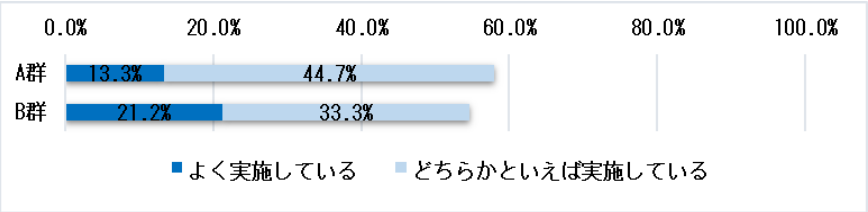
介護スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	45	20.8%	33	22.0%	12	18.2%
どちらかといえば実施している	101	46.8%	71	47.3%	30	45.5%
どちらかといえば実施していない	41	19.0%	27	18.0%	14	21.2%
全く実施していない	18	8.3%	10	6.7%	8	12.1%
わからない	8	3.7%	7	4.7%	1	1.5%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



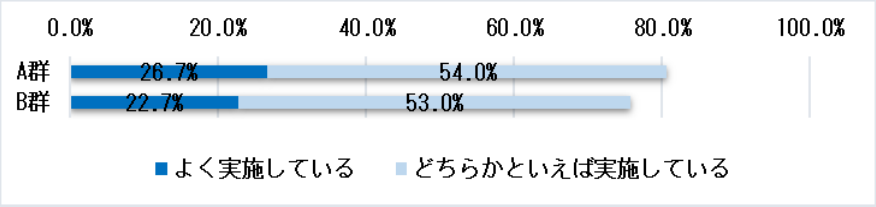
介護職員の人事ローテーションの実施　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	34	15.7%	20	13.3%	14	21.2%
どちらかといえば実施している	89	41.2%	67	44.7%	22	33.3%
どちらかといえば実施していない	67	31.0%	49	32.7%	18	27.3%
全く実施していない	18	8.3%	8	5.3%	10	15.2%
わからない	5	2.3%	5	3.3%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



非正規職員から正規職員への転換　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	55	25.5%	40	26.7%	15	22.7%
どちらかといえば実施している	116	53.7%	81	54.0%	35	53.0%
どちらかといえば実施していない	32	14.8%	21	14.0%	11	16.7%
全く実施していない	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
わからない	5	2.3%	4	2.7%	1	1.5%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%

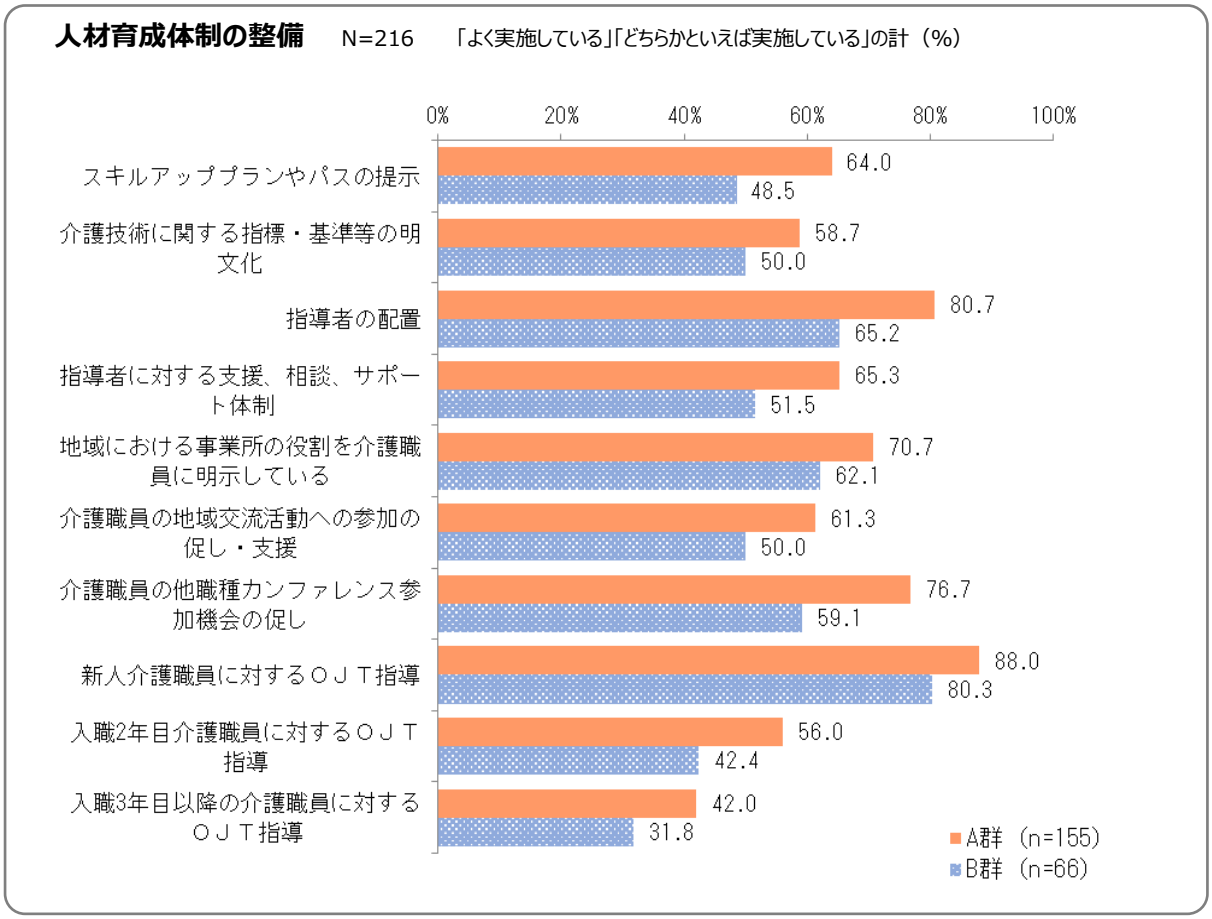


（６）人材育成体制の整備

介護技術向上の取組として、事業所の人材育成体制の整備状況についてみてみると、以下の全ての項目につき、A 群の実施率が B 群を上回る結果であった。

結果からは、OJT 取組と実績輩出にむけて、A 群では「スキルアップにむけたプランやパスを明示」し、「指標や基準等」を用意し、「指導者を配置」し、「指導者」に対する支援体制を組むといった体制整備を行っていることが読み取れる。

また事業所の姿勢として、A 群の方が「地域連携」、「他の職種との連携」を重視している傾向があり、OJT の実施対象として、「新人職員に対する OJT」に限らず、2 年目、3 年目以降の職員にも、OJT を行っている傾向といえる。



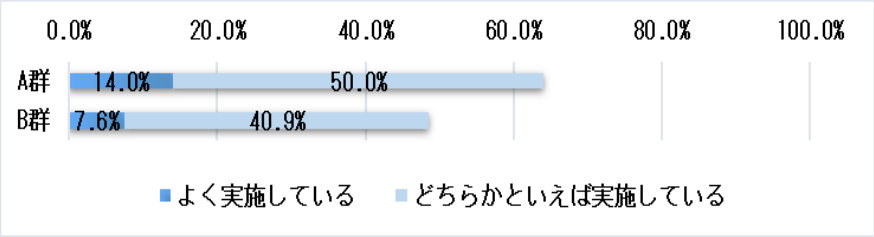
① 介護技術向上のための OJT 実施体制整備

A 群（OJT 取組、レベル認定実績有事業所）では、介護技術向上の取組にあたり、「キャリアパス」、「評価基準」を用いて、「指導者」を養成の上、指導者支援体制を整えて、指導育成に取り組んでいることが読み取れる。

A 群の事業所では、育成方策として、単に OJT を実施するのではなく、育成のためのツールを用いて、指導者を確保し、かつ指導者への支援を行いつつ実行していること、その結果としてレベル認定実績につなげていると読み取れる。

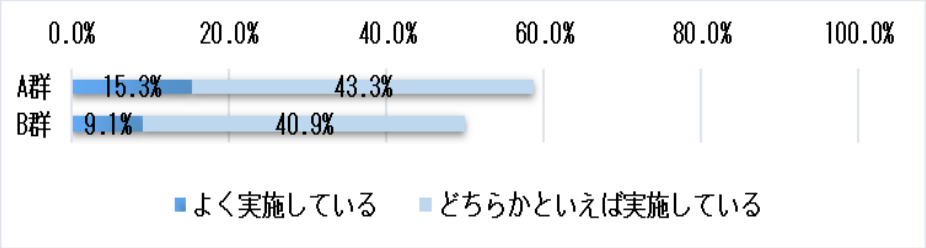
介護職員のスキルアップ（専門性向上）にむけたプランやパスの提示　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	26	12.0%	21	14.0%	5	7.6%
どちらかといえば実施している	102	47.2%	75	50.0%	27	40.9%
どちらかといえば実施していない	70	32.4%	46	30.7%	24	36.4%
全く実施していない	12	5.6%	6	4.0%	6	9.1%
わからない	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
無回答	4	1.9%	1	0.7%	3	4.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



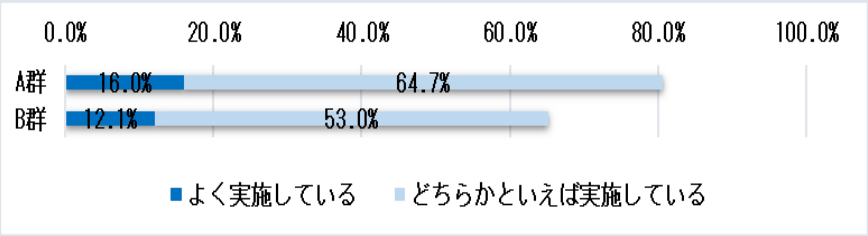
介護技術に関する指標･基準等の明文化されたものの明示　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	29	13.4%	23	15.3%	6	9.1%
どちらかといえば実施している	92	42.6%	65	43.3%	27	40.9%
どちらかといえば実施していない	75	34.7%	52	34.7%	23	34.8%
全く実施していない	16	7.4%	8	5.3%	8	12.1%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



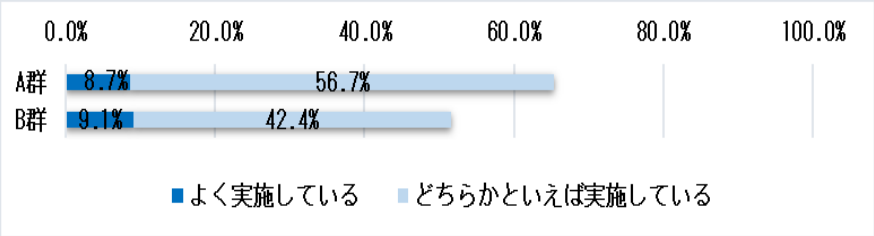
指導者の育成、配置　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	32	14.8%	24	16.0%	8	12.1%
どちらかといえば実施している	132	61.1%	97	64.7%	35	53.0%
どちらかといえば実施していない	44	20.4%	26	17.3%	18	27.3%
全く実施していない	6	2.8%	2	1.3%	4	6.1%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



指導者に対する支援、相談･サポート体制　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	19	8.8%	13	8.7%	6	9.1%
どちらかといえば実施している	113	52.3%	85	56.7%	28	42.4%
どちらかといえば実施していない	70	32.4%	46	30.7%	24	36.4%
全く実施していない	8	3.7%	1	0.7%	7	10.6%
わからない	4	1.9%	4	2.7%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%

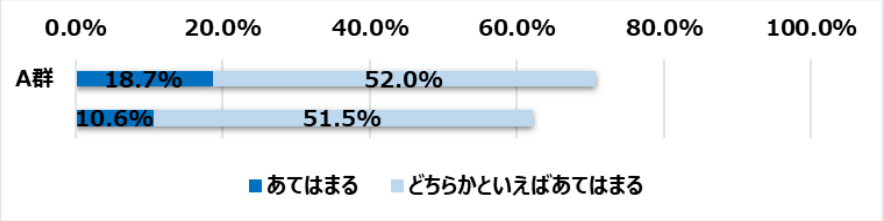


② 地域連携、他職種連携に関する姿勢

A 群（OJT 取組事業所）、B 群（OJT 未取組事業所）の分類でみた際に、事業所の姿勢として、A 群では事業所の地域における役割を整理づけており（A 群と B 群の差：8.6%）、地域交流活動を意識していること（A 群と B 群の差：11.3%）すなわち、地域連携活動に取り組んでいると読み取れる。また、介護職員が他の職種と連携をはかるようカンファレンス参加機会を促していること（A 群と B 群の差：17.6%）、すなわち、A 群では、地域を意識し、他職種連携によるケアを行っている事業所姿勢が読み取れる。

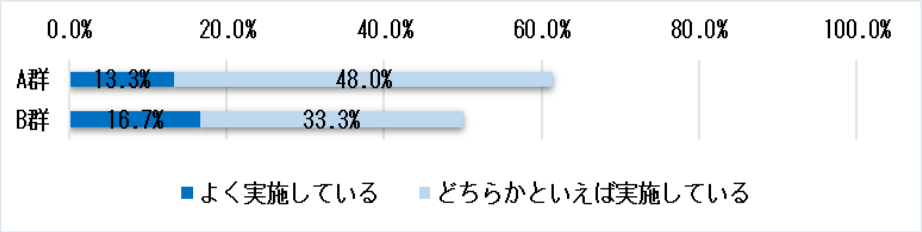
地域における事業所の役割を、介護職員に明示している　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	35	16.2%	28	18.7%	7	10.6%
どちらかといえばあてはまる	112	51.9%	78	52.0%	34	51.5%
どちらかといえばあてはまらない	53	24.5%	35	23.3%	18	27.3%
全くあてはまらない	10	4.6%	5	3.3%	5	7.6%
わからない	4	1.9%	4	2.7%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



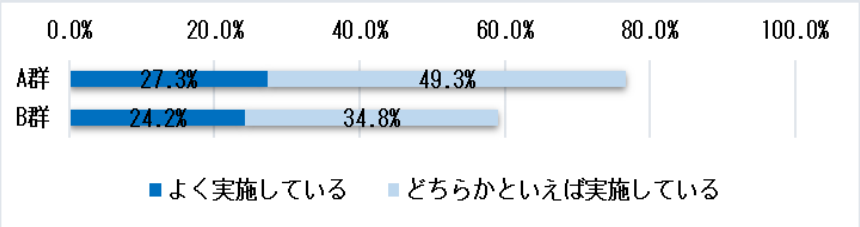
介護職員の地域交流活動への参加の促し・支援　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	31	14.4%	20	13.3%	11	16.7%
どちらかといえば実施している	94	43.5%	72	48.0%	22	33.3%
どちらかといえば実施していない	69	31.9%	47	31.3%	22	33.3%
全く実施していない	16	7.4%	6	4.0%	10	15.2%
わからない	5	2.3%	5	3.3%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護職員の他職種カンファレンス参加機会の促し　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	57	26.4%	41	27.3%	16	24.2%
どちらかといえば実施している	97	44.9%	74	49.3%	23	34.8%
どちらかといえば実施していない	46	21.3%	26	17.3%	20	30.3%
全く実施していない	12	5.6%	7	4.7%	5	7.6%
わからない	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%

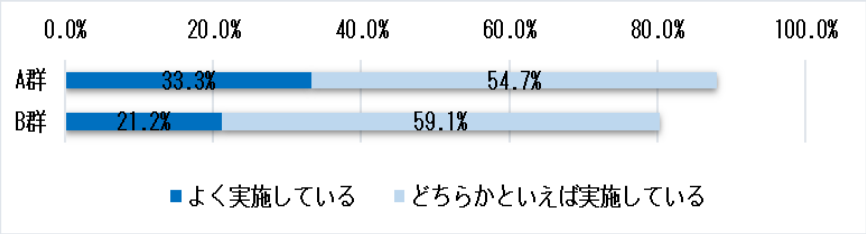


③ OJT の実施対象

A 群、B 群の OJT 対象を比較してみると、新人介護職員に対する OJT 指導は、両群とも 8 割以上であるものの、A 群が上回る。また、2 年目以降の介護職員に対する OJT 指導については、大きく差がみえる。OJT が入職時職員に限られているとの傾向は、先行調査において示されているが[8]、今回の調査でも 2 年目以降の職員への実施率は下がる傾向が示された。その中で両群比較では、A 群（OJT 実施事業所、レベル認定実績輩出事業所）では、OJT の実施対象を新人職員に限らずに、幅広く実施している実態が読み取れる。

新人介護職員に対する OJT 指導　N＝216

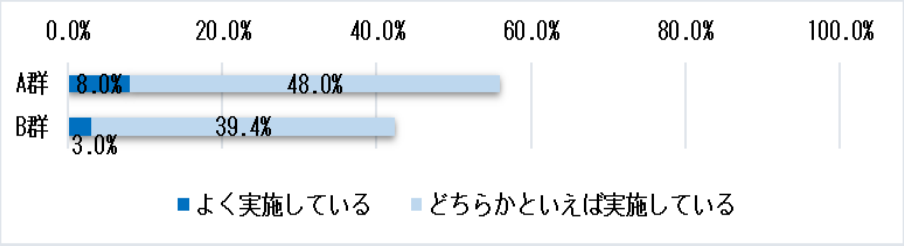
	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	64	29.6%	50	33.3%	14	21.2%
どちらかといえば実施している	121	56.0%	82	54.7%	39	59.1%
どちらかといえば実施していない	23	10.6%	15	10.0%	8	12.1%
全く実施していない	6	2.8%	2	1.3%	4	6.1%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



[8] 平成 28 年度「介護サービス事業者における OJT を通じた介護職員の人材育成の在り方に関する調査研究」（一社）シルバーサービス振興会

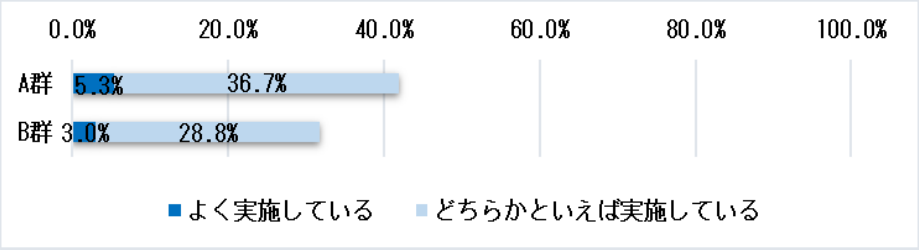
入職２年目介護職員に対するOJT指導　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	14	6.5%	12	8.0%	2	3.0%
どちらかといえば実施している	98	45.4%	72	48.0%	26	39.4%
どちらかといえば実施していない	83	38.4%	57	38.0%	26	39.4%
全く実施していない	17	7.9%	6	4.0%	11	16.7%
わからない	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



入職３年目以降の介護職員に対するOJT指導　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	10	4.6%	8	5.3%	2	3.0%
どちらかといえば実施している	74	34.3%	55	36.7%	19	28.8%
どちらかといえば実施していない	104	48.1%	73	48.7%	31	47.0%
全く実施していない	24	11.1%	11	7.3%	13	19.7%
わからない	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



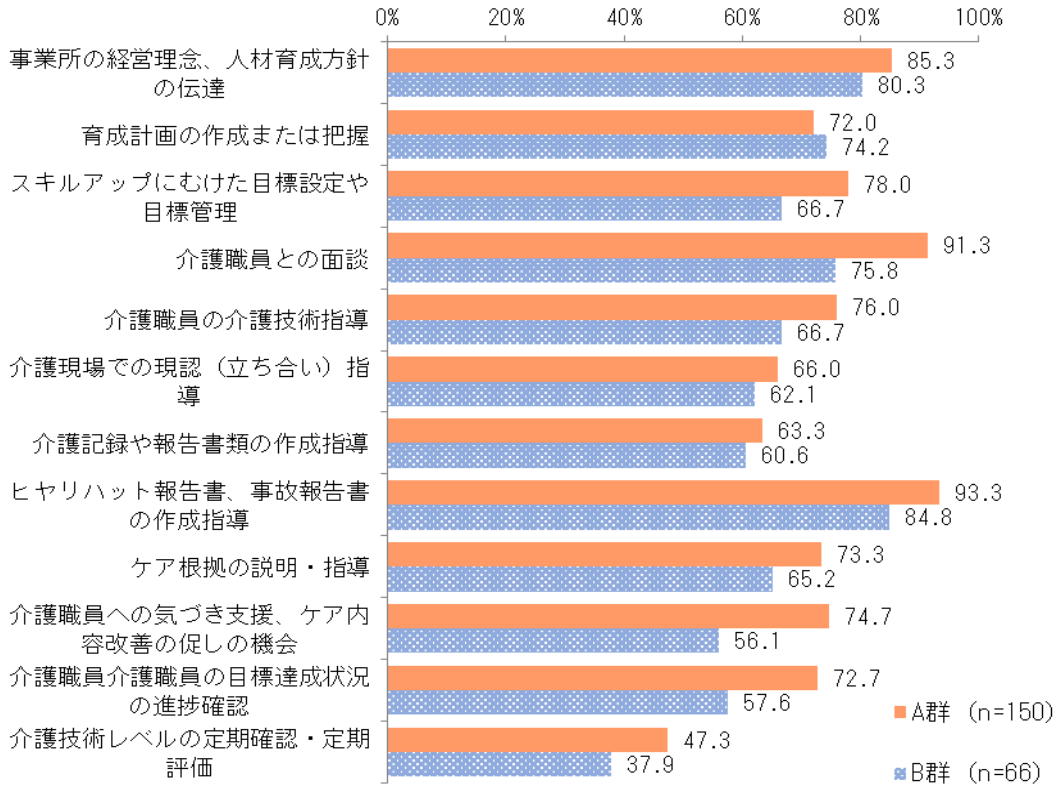
（７）人材育成の取組、OJT の展開

A 群では、以下のような OJT の具体的な展開プロセスについて、B 群の実施率を上回る結果となった。両群ともに育成計画づくりまでは差がみられないものの、以降の職員への向き合い方には違いとなってあらわれており、特に「目標達成状況の進捗確認」に至っては、A 群と B 群に大差がみられる（A 群：72．7％、B 群：57.6%）。

A 群では、事業所における「理念」の設定、伝達⇒「育成計画」作成⇒職員の「目標設定」⇒「職員面談実施」⇒OJT 指導のバリエーション（技術指導、現認指導、記録物の作成指導、ケア根拠の説明、ケア内容改善の促し）⇒OJT の「進捗確認」、現状の把握⇒OJT、達成状況の「定期確認・定期評価」の各段階を実践している。

すなわち、OJT 取組事業所（＝レベル認定輩出実績 3 件以上）では、育成の到達目標を掲げ、取組の体制整備を組み、OJT の仕方を手順化し、進捗把握、定期確認に至るまで、「仕組み」化された取組としていること、介護キャリア段位制度の手順に即した運用がされていることが読み取れる。

人材育成の取組、OJT の展開　N＝216　「よく実施している」「どちらかといえば実施している」の計（%）

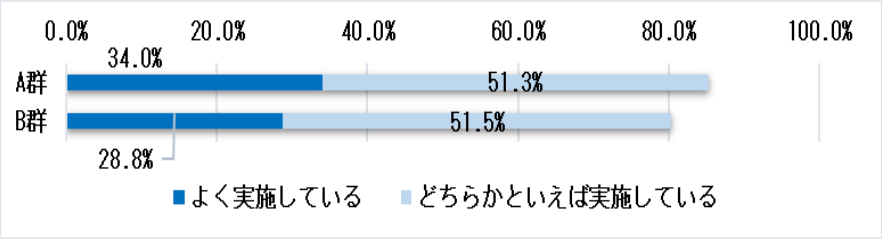


① 実行のための準備･管理体制

両群の比較では、事業所の理念や方針を職員に伝え、育成計画を作成する段階までは大差はみられないものの､具体的な OJT 実行につなげる､｢目標設定や目標管理｣となると､11.3%の差となっている。さらに､｢介護職員との面談｣に至っては、15.5%の差であり、A 群の方が実施率が高い。A 群の方が、より OJT 取組に際して、個々の介護職員に応じた目標を定めたり、個別の面談を行ってから、育成に取り掛かっている傾向が読み取れる。

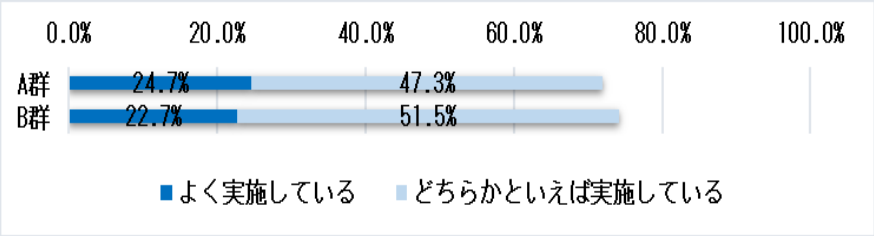
事業所の経営理念、人材育成方針の伝達　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	70	32.4%	51	34.0%	19	28.8%
どちらかといえば実施している	111	51.4%	77	51.3%	34	51.5%
どちらかといえば実施していない	30	13.9%	21	14.0%	9	13.6%
全く実施していない	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
わからない	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



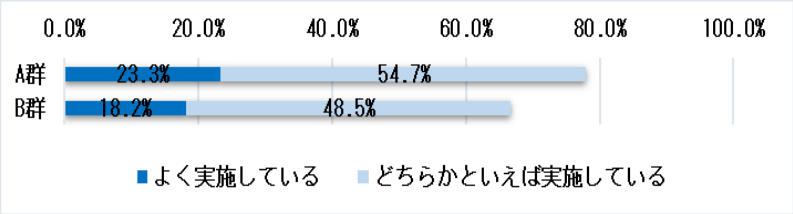
年間の介護職員育成計画の作成･提示　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	52	24.1%	37	24.7%	15	22.7%
どちらかといえば実施している	105	48.6%	71	47.3%	34	51.5%
どちらかといえば実施していない	44	20.4%	33	22.0%	11	16.7%
全く実施していない	10	4.6%	7	4.7%	3	4.5%
わからない	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



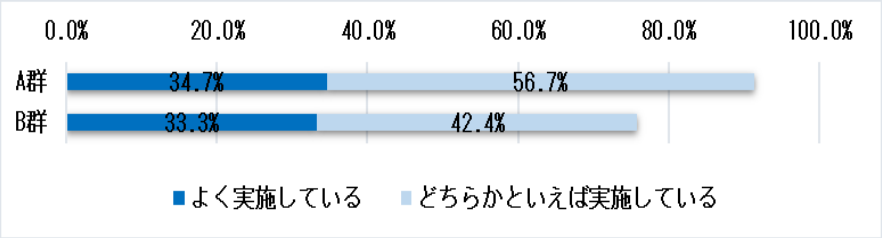
介護職員のスキルアップにむけた目標設定や目標管理　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	47	21.8%	35	23.3%	12	18.2%
どちらかといえば実施している	114	52.8%	82	54.7%	32	48.5%
どちらかといえば実施していない	45	20.8%	29	19.3%	16	24.2%
全く実施していない	6	2.8%	2	1.3%	4	6.1%
わからない	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
無回答	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護職員との面談の機会　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	74	34.3%	52	34.7%	22	33.3%
どちらかといえば実施している	113	52.3%	85	56.7%	28	42.4%
どちらかといえば実施していない	24	11.1%	11	7.3%	13	19.7%
全く実施していない	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



② 現場での指導内容

現場での指導の仕方として、「介護技術指導」、「現場での現認・指導」についても、指導内容として、「介護記録や報告書類の作成指導」、「ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導」、「ケアの根拠の説明・指導」、「気づき支援、ケア内容改善の促し」のいずれも、A 群の方が実施率が高い。

「ケアの根拠の説明・指導」では、A 群は 73.3%であり、B 群と比較し、8.1 ポイント高い。

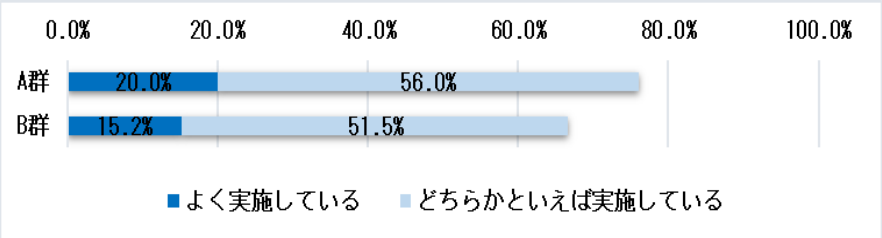
さらに「気づき支援、ケア内容改善の促し」については、A 群が 74.7%、B 群が 56.1%と、20%近くの差としてあらわれた。

このことから、OJT 取組事業所（A 群）にみる傾向として、技術手法の指導の観点というよりも、むしろ、なぜそのようなケアが求められるのか、ケアの「根拠」について、確認したり理解させていくことに主眼を置いている、と読み取れる。「根拠記録」の作成指導等、「根拠に基づくケア」の実践につなげていこうとする指導内容が、これらの実施率としてあらわれている、といえよう。

指導に際しての「気づき」支援とは、職員自身と向き合う時間、振り返り吟味する時間を伴い、事業所側、指導者側に指針がないことには、実行は難しいと思われる。指導内容が、「根拠」に焦点を当てられていることは、OJT でどのようなスキルを身につけていくのか、事業所、指導者等の関係者間で整理できている、とも読み取れる。

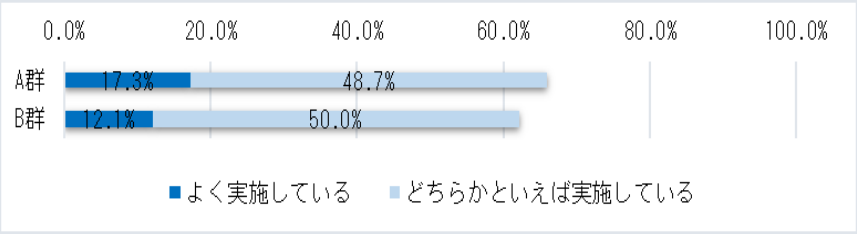
介護技術指導の機会　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	40	18.5%	30	20.0%	10	15.2%
どちらかといえば実施している	118	54.6%	84	56.0%	34	51.5%
どちらかといえば実施していない	51	23.6%	34	22.7%	17	25.8%
全く実施していない	4	1.9%	1	0.7%	3	4.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



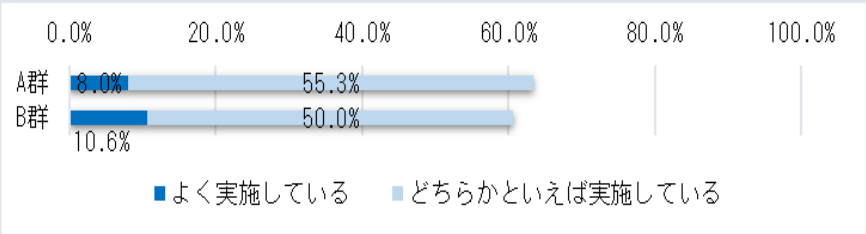
介護現場での現認（立ち合い）、指導の機会の確保　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	34	15.7%	26	17.3%	8	12.1%
どちらかといえば実施している	106	49.1%	73	48.7%	33	50.0%
どちらかといえば実施していない	67	31.0%	48	32.0%	19	28.8%
全く実施していない	7	3.2%	2	1.3%	5	7.6%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



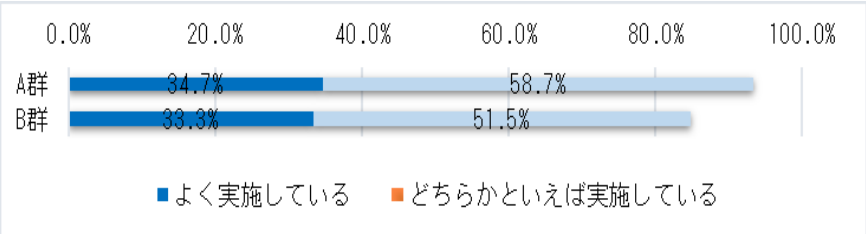
介護記録や報告書類の作成指導の機会　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	19	8.8%	12	8.0%	7	10.6%
どちらかといえば実施している	116	53.7%	83	55.3%	33	50.0%
どちらかといえば実施していない	69	31.9%	49	32.7%	20	30.3%
全く実施していない	10	4.6%	5	3.3%	5	7.6%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



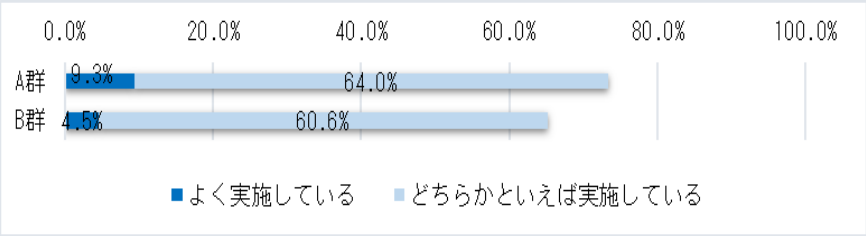
ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	74	34.3%	52	34.7%	22	33.3%
どちらかといえば実施している	122	56.5%	88	58.7%	34	51.5%
どちらかといえば実施していない	17	7.9%	10	6.7%	7	10.6%
全く実施していない	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



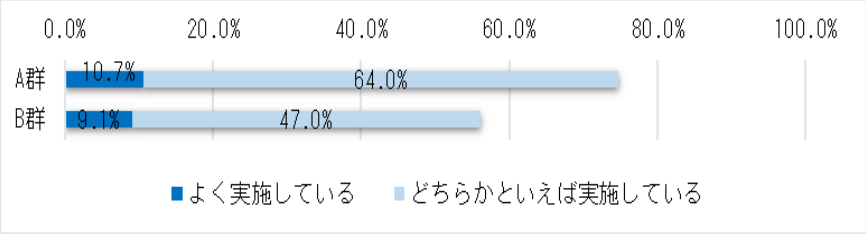
ケアの根拠の説明、指導（根拠に基づくケアの確認）の機会　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	17	7.9%	14	9.3%	3	4.5%
どちらかといえば実施している	136	63.0%	96	64.0%	40	60.6%
どちらかといえば実施していない	51	23.6%	35	23.3%	16	24.2%
全く実施していない	10	4.6%	4	2.7%	6	9.1%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	0.5%	0	0.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促しの機会　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
よく実施している	22	10.2%	16	10.7%	6	9.1%
どちらかといえば実施している	127	58.8%	96	64.0%	31	47.0%
どちらかといえば実施していない	55	25.5%	32	21.3%	23	34.8%
全く実施していない	8	3.7%	3	2.0%	5	7.6%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	2	1.3%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



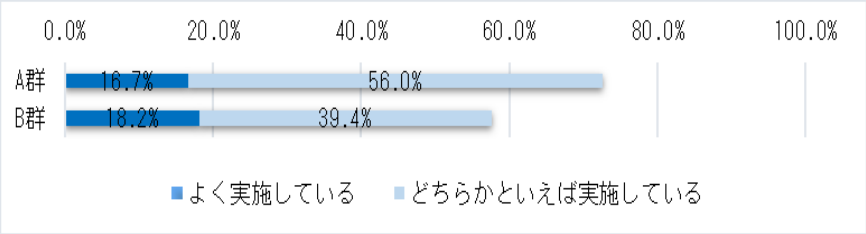
③ 進捗管理、結果の評価

OJT・指導に際して、職員の目標達成状況の進捗確認までを実施しているかどうかは、A 群・B 群で実施度に大きく差がみられた。A 群では、職員に対する指導実行だけでなく、実行の状況を把握し、育成指導結果を、定期で確認や評価している、といえる。

すなわち A 群の方が、人材育成状況を把握すること、状況の確認、評価を重視しており、育成にあたって、育成過程の展開が「仕組化」されていることが伺える。

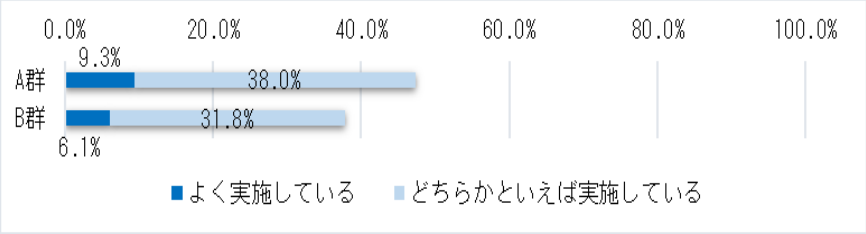
介護職員の目標達成状況の進捗確認　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	37	17.1%	25	16.7%	12	18.2%
どちらかといえば実施している	110	50.9%	84	56.0%	26	39.4%
どちらかといえば実施していない	53	24.5%	34	22.7%	19	28.8%
全く実施していない	12	5.6%	4	2.7%	8	12.1%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.9%	3	2.0%	1	1.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



介護職員の介護技術レベルの定期確認、定期評価　N＝216

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よく実施している	18	8.3%	14	9.3%	4	6.1%
どちらかといえば実施している	78	36.1%	57	38.0%	21	31.8%
どちらかといえば実施していない	85	39.4%	62	41.3%	23	34.8%
全く実施していない	30	13.9%	14	9.3%	16	24.2%
わからない	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



（８）介護キャリア段位制度の取組と効果

今回の調査では、A 群を OJT 取組事業所＝レベル認定レベル認定実績一定数以上の事業所、B 群を OJT 未取組ないし取組前事業所＝レベル認定実績を有していない事業所とした。

A 群は、具体的な OJT・評価の取組を経験した群と整理できるが、両群の違いは、介護キャリア段位制度に関する認識についても、効果に関する認識においても、顕著にあらわれた。

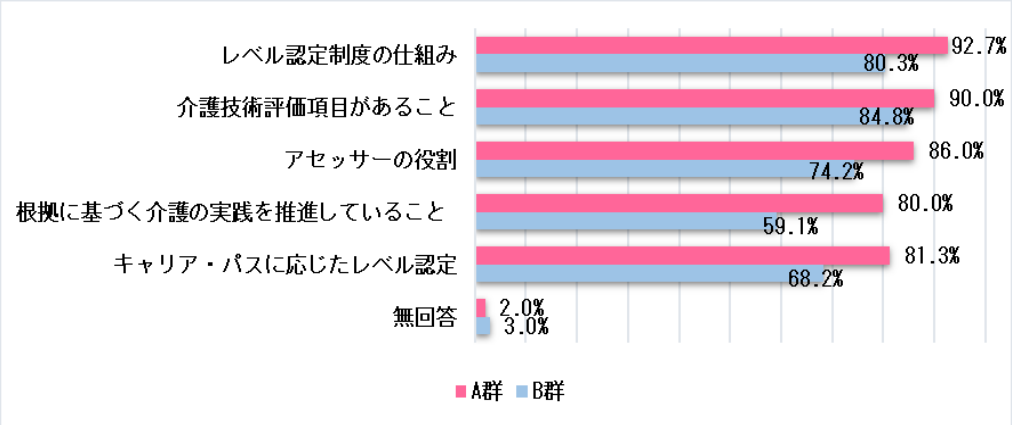
OJT 経験群である A 群では、介護キャリア段位制度について、「根拠に基づく介護の実践を推進していること」であるとの認識が、8 割を超えている。一方で、未経験群である B 群では 59.1%と、「根拠に基づく介護」との結びつきの認識が低い。すなわち B 群の取組の現状としては、介護 OJT の実施目的を漠然と捉えている可能性、このため、指導を介しての「根拠に基づくケアの実践」との関連づけられていない、と読み取ることができる。

介護キャリア段位制度のレベル認定実績を 3 件以上達成させている事業所群では、OJT を通じた育成活動の目的を認識しつつ、実行の効果を表明している。

まずは、事業所で OJT 取組を経験することで、その意義や効果が明確化されていく、と読み取れる。

介護キャリア段位制度について知っていること　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
レベル認定制度の仕組み	192	88.9%	139	92.7%	53	80.3%
介護技術評価項目があること	191	88.4%	135	90.0%	56	84.8%
アセッサーの役割	178	82.4%	129	86.0%	49	74.2%
根拠に基づく介護の実践を推進していること	159	73.6%	120	80.0%	39	59.1%
キャリア・パスに応じたレベル認定	167	77.3%	122	81.3%	45	68.2%
無回答	5	2.3%	3	2.0%	2	3.0%
合計	216		150		66	

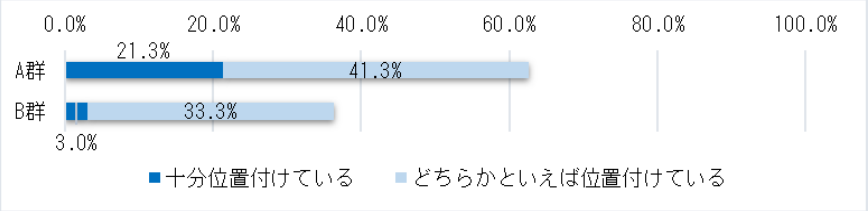


また、キャリア段位制度のレベル認定実績を有する群（A 群）と、有さない群（B 群）の事業所姿勢として、指導者（＝アセッサー）の OJT・評価の一連の対応を、就業時間中の「業務」として位置づけているか否かの違いとしいてあらわれた。

A 群では、指導者（＝アセッサー）に託した育成指導の役割を、業務として位置づけているといえる。この点、「位置づけられていない」との回答も、全体の 26.4%に上り、業務外での育成指導、評価を行っている実態も示された。

介護キャリア段位制度を用いた OJT・評価を就業時間中に行う業務として位置づけている N＝216

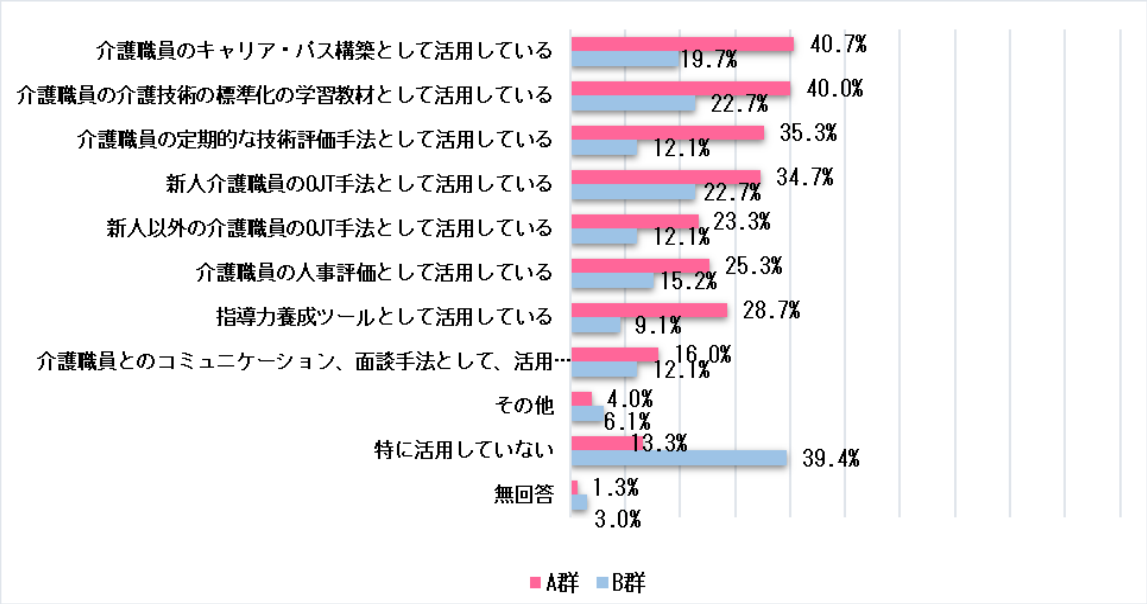
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
十分位置付けている	34	15.7%	32	21.3%	2	3.0%
どちらかといえば位置付けている	84	38.9%	62	41.3%	22	33.3%
どちらかといえば位置付けられていない	35	16.2%	22	14.7%	13	19.7%
全く位置付けられていない	27	12.5%	12	8.0%	15	22.7%
どちらともいえない	30	13.9%	19	12.7%	11	16.7%
その他	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



A 群からは、OJT の実施に際して、介護キャリア段位制度のツールを用いることで、体系的な取り込みにつなげていることが読み取れる（キャリアパスとしての活用、介護技術の標準化の教材、定期的な技術評価手法、指導力養成ツール他）。すなわち、A 群では、現場の OJT を漠然とやるのではなく、「根拠に基づくケアの実践」につなげるツールと手法を活用して、仕組みとして取り込んでいる点が、違いとしてあらわれているといえる。

介護キャリア段位制度の取組やツールの活用状況　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
介護職員のキャリア・パス構築として活用している	74	34.3%	61	40.7%	13	19.7%
介護職員の介護技術の標準化の学習教材として活用してい	75	34.7%	60	40.0%	15	22.7%
介護職員の定期的な技術評価手法として活用している	61	28.2%	53	35.3%	8	12.1%
新人介護職員のOJT手法として活用している	67	31.0%	52	34.7%	15	22.7%
新人以外の介護職員のOJT手法として活用している	43	19.9%	35	23.3%	8	12.1%
介護職員の人事評価として活用している	48	22.2%	38	25.3%	10	15.2%
指導力養成ツールとして活用している	49	22.7%	43	28.7%	6	9.1%
介護職員とのコミュニケーション、面談手法として、活用	32	14.8%	24	16.0%	8	12.1%
その他	10	4.6%	6	4.0%	4	6.1%
特に活用していない	46	21.3%	20	13.3%	26	39.4%
無回答	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
合計	216		150		66	



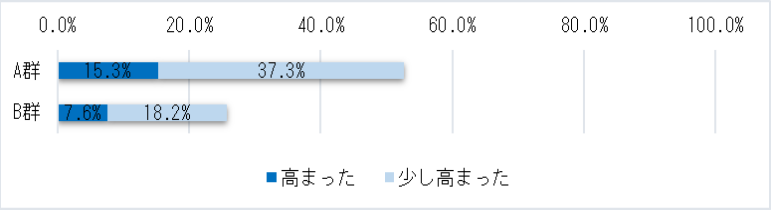
レベル認定実績を有する事業所（A 群）からは、取組効果として、「根拠に基づき介護を行うこと」の意識、「介護記録を第 3 者にもわかるよう残していくこと」の意識について、B 群と比較しても大差となっている。また、今後の活用意向についても、B 群より 30％程度高い。

介護キャリア段位制度を用いた OJT の取組が、「根拠に基づくケア」を実践することにつながっている、との回答や制度を用いた OJT の継続意向は、OJT の経験ゆえの効果実感といえる。

すなわち、介護 OJT は、まずは「実行してみる」ことで、その目的と効果の認識がなされること、これらの目的意識や効果認識が、事業所の OJT システム化の構築につながっている可能性が指摘できる。言い換えると、OJT とは、実際に取り組まないことには、その目的や機能、効果の認識すら難しく、曖昧なままとなる可能性を示唆している。

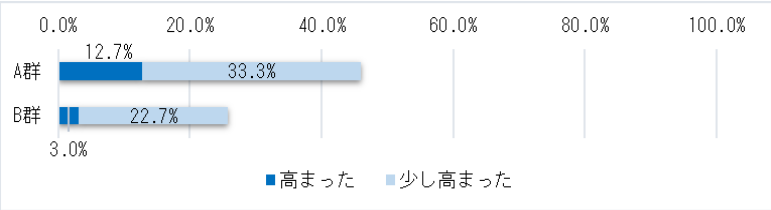
介護キャリア段位制度の取組を通じた、根拠に基づき介護を行うことの意識　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
高まった	28	13.0%	23	15.3%	5	7.6%
少し高まった	68	31.5%	56	37.3%	12	18.2%
どちらともいえない	66	30.6%	47	31.3%	19	28.8%
あまり高まっていない	21	9.7%	15	10.0%	6	9.1%
全く高まっていない	8	3.7%	4	2.7%	4	6.1%
わからない／活用していない	22	10.2%	4	2.7%	18	27.3%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



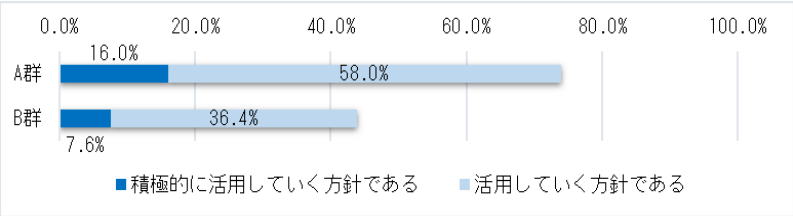
介護キャリア段位制度の取組を通じた、介護記録を第３者にもわかるよう残していくことの意識　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
高まった	21	9.7%	19	12.7%	2	3.0%
少し高まった	65	30.1%	50	33.3%	15	22.7%
どちらともいえない	69	31.9%	51	34.0%	18	27.3%
あまり高まっていない	25	11.6%	22	14.7%	3	4.5%
全く高まっていない	8	3.7%	3	2.0%	5	7.6%
わからない／活用していない	25	11.6%	5	3.3%	20	30.3%
無回答	3	1.4%	0	0.0%	3	4.5%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



今後の介護キャリア段位制度の活用予定　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
積極的に活用していく方針である	29	13.4%	24	16.0%	5	7.6%
活用していく方針である	111	51.4%	87	58.0%	24	36.4%
あまり活用しない方針である	9	4.2%	5	3.3%	4	6.1%
全く活用しない方針である	2	0.9%	2	1.3%	0	0.0%
どちらともいえない	58	26.9%	29	19.3%	29	43.9%
その他	4	1.9%	2	1.3%	2	3.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



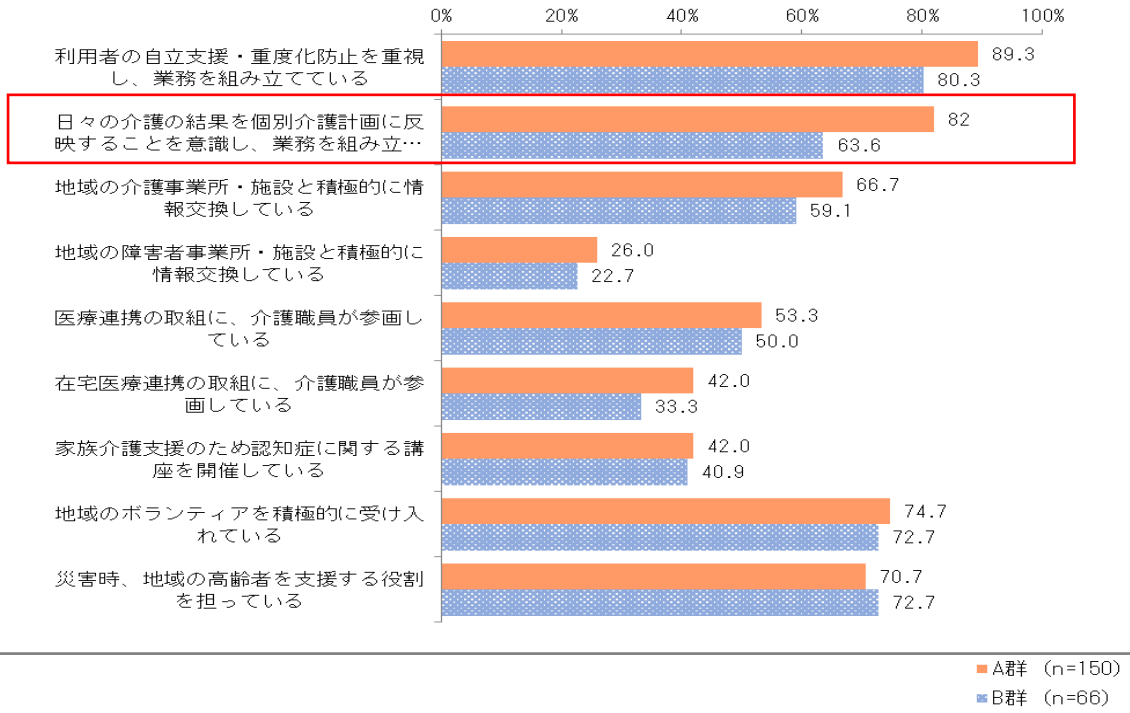
（９）人材育成の取組結果

人材育成にむけた体制整備や取組の結果として、事業所で提供しているケアの状況を伺ったところ、「自立支援・重度化防止の重視」、「介護の結果の個別介護計画への反映」のいずれにおいても、A 群の方が「あてはまる（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の計」の回答が高い結果となった。

また地域連携に関する取組結果については、「地域の事業所・施設との情報交換」、「地域の障害者事業所・施設との情報交換」、「在宅医療連携の取組への介護職員の参画」、「医療連携の取組への介護職員の参画」等、A 群の方が取り組んでいるとの回答割合が高い傾向であった。

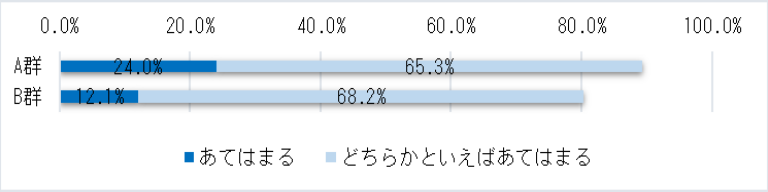
提供ケアとして、「個別ケア」、「介護過程の展開」に取組差がみられること、また「連携」に係る事項に取組差がみられていることは、日頃の「根拠に基づくケア」の OJT が、これらのケアにつながっているものと読み取れ、関係に着目すべきである。

人材育成の取組の結果　現在の提供状況　N=216　「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計（%）



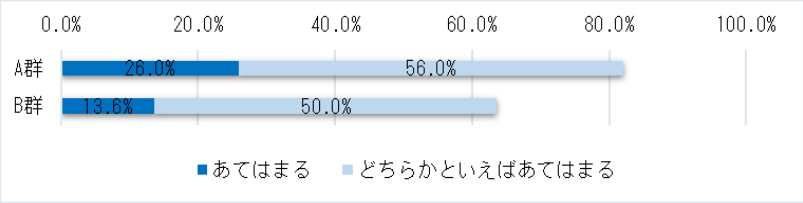
利用者の自立支援・重度化防止を重視し、業務を組み立てている　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	44	20.4%	36	24.0%	8	12.1%
どちらかといえばあてはまる	143	66.2%	98	65.3%	45	68.2%
どちらかといえばあてはまらない	25	11.6%	15	10.0%	10	15.2%
全くあてはまらない	2	0.9%	1	0.7%	1	1.5%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



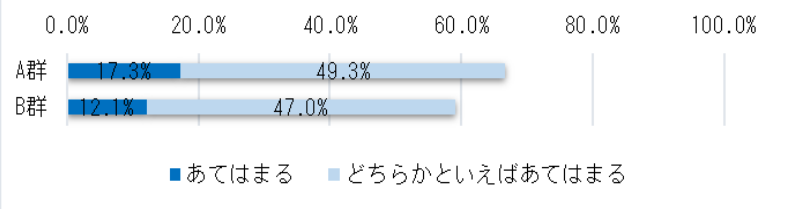
日々の介護の結果を個別介護計画に反映することを意識し、業務を組み立てている　N＝216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	48	22.2%	39	26.0%	9	13.6%
どちらかといえばあてはまる	117	54.2%	84	56.0%	33	50.0%
どちらかといえばあてはまらない	44	20.4%	24	16.0%	20	30.3%
全くあてはまらない	5	2.3%	3	2.0%	2	3.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



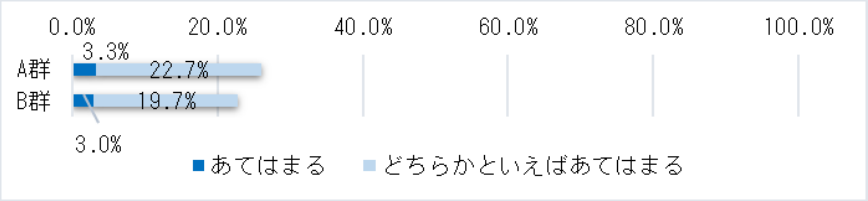
地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している　N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	34	15.7%	26	17.3%	8	12.1%
どちらかといえばあてはまる	105	48.6%	74	49.3%	31	47.0%
どちらかといえばあてはまらない	60	27.8%	41	27.3%	19	28.8%
全くあてはまらない	9	4.2%	4	2.7%	5	7.6%
わからない	6	2.8%	5	3.3%	1	1.5%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



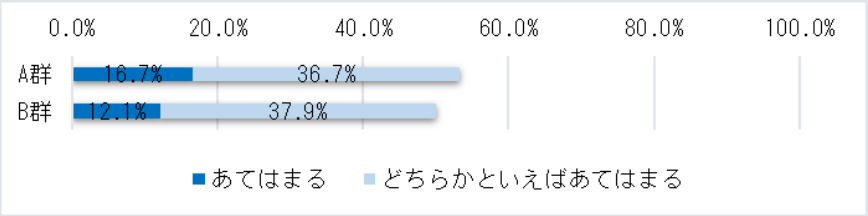
地域の障害者事業所･施設と積極的に情報交換している　N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	7	3.2%	5	3.3%	2	3.0%
どちらかといえばあてはまる	47	21.8%	34	22.7%	13	19.7%
どちらかといえばあてはまらない	103	47.7%	69	46.0%	34	51.5%
全くあてはまらない	47	21.8%	33	22.0%	14	21.2%
わからない	10	4.6%	9	6.0%	1	1.5%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



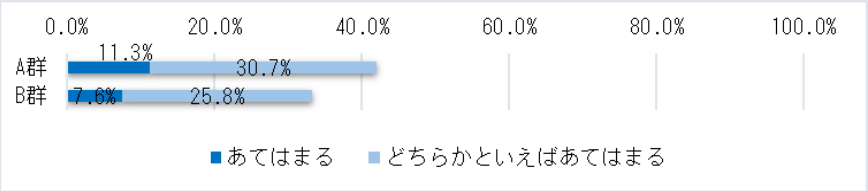
医療連携の取組に、介護職員が参画している　N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	33	15.3%	25	16.7%	8	12.1%
どちらかといえばあてはまる	80	37.0%	55	36.7%	25	37.9%
どちらかといえばあてはまらない	78	36.1%	55	36.7%	23	34.8%
全くあてはまらない	16	7.4%	9	6.0%	7	10.6%
わからない	6	2.8%	5	3.3%	1	1.5%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



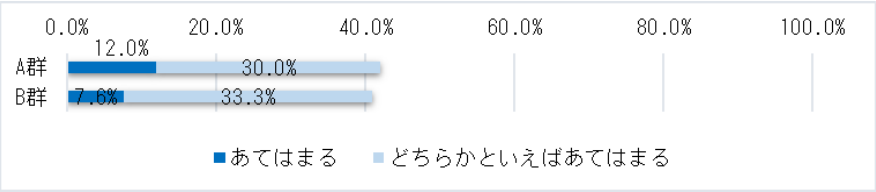
在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している　N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	22	10.2%	17	11.3%	5	7.6%
どちらかといえばあてはまる	63	29.2%	46	30.7%	17	25.8%
どちらかといえばあてはまらない	93	43.1%	64	42.7%	29	43.9%
全くあてはまらない	31	14.4%	18	12.0%	13	19.7%
わからない	5	2.3%	5	3.3%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



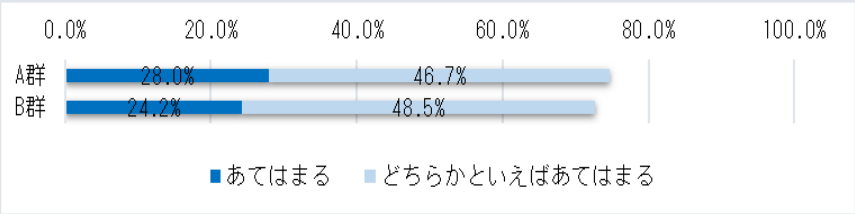
地域で家族介護支援のための認知症に関する講座を開催している N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	23	10.6%	18	12.0%	5	7.6%
どちらかといえばあてはまる	67	31.0%	45	30.0%	22	33.3%
どちらかといえばあてはまらない	68	31.5%	48	32.0%	20	30.3%
全くあてはまらない	54	25.0%	37	24.7%	17	25.8%
わからない	1	0.5%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	3	1.4%	1	0.7%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



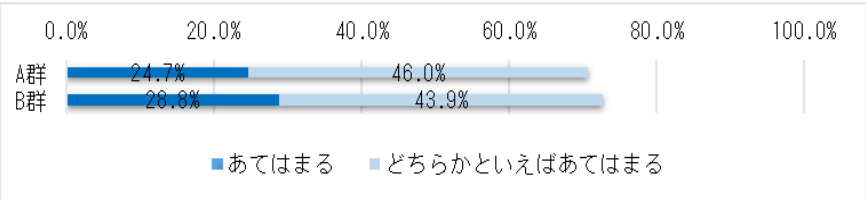
地域のボランティア（団体含む）を積極的に受け入れている N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	58	26.9%	42	28.0%	16	24.2%
どちらかといえばあてはまる	102	47.2%	70	46.7%	32	48.5%
どちらかといえばあてはまらない	34	15.7%	25	16.7%	9	13.6%
全くあてはまらない	20	9.3%	13	8.7%	7	10.6%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



災害時において、地域の高齢者を支援する役割を担っている N=216

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	56	25.9%	37	24.7%	19	28.8%
どちらかといえばあてはまる	98	45.4%	69	46.0%	29	43.9%
どちらかといえばあてはまらない	37	17.1%	29	19.3%	8	12.1%
全くあてはまらない	13	6.0%	6	4.0%	7	10.6%
わからない	10	4.6%	9	6.0%	1	1.5%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
合計	216	100.0%	150	100.0%	66	100.0%



（10）統計的検定の実施

今回実施した事業所調査について、それぞれ設問ごとにＡ群・Ｂ群の回答割合に違いがみえるところ、みえないところを分析することで、キャリア段位のレベル認定の取組有・無によって、体制であり取組実態の違いがあるところとないところがある程度みえてきたところであるが、それを補完する意味で、今回、各設問ごとにＡ群・Ｂ群の２つの母集団について、統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチのｔ検定」を採用した。

＜条件＞

・２群は異なる集団である（対応のないデータ）
・２群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
・サンプルサイズ（２群計）が 30～500 である
・母集団において２群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチのｔ検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「Ｔ値」を算出し、「Ｔ値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において２群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

２群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
Ａ	n_1	X_1	s_1
Ｂ	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量Ｔ

$$T値 = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

Ｔ値　≧　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえる
Ｔ値　＜　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量Ｔ」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

Ｔ値　≧　棄却限界値　「差がある」
Ｔ値　＜　棄却限界値　「差がない」

とした。

事業所調査におけるｔ検定結果一覧表

	番号	調査項目	t検定										
			A群			B群			T値	自由度	棄却限界値	T値 -棄却限界値	2群差異
			サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差					
研修の実施状況	2-(7)	介護職員の介護技術向上にむけた研修	150	8.01	2.19	64	7.66	2.44	1.00	108	1.98	-0.98	差がない
	2-(9)	学習室の設置状況	133	2.49	3.34	59	2.53	3.38	0.07	110	1.98	-1.91	差がない
	2-(10)	パソコン等を利用するための研修	150	3.21	2.74	65	3.50	3.02	0.65	112	1.98	-1.33	差がない
	2-(11)	介護職員の対する外部研修の情報収集	149	8.13	1.79	64	8.15	2.14	0.06	103	1.98	-1.92	差がない
キャリア開発支援	4-(2)①	介護福祉士取得支援	146	8.04	2.17	64	7.31	2.62	1.96	103	1.98	-0.02	差がない
	4-(2)②	介護技術を習得にむけた研修受講支援	147	7.68	2.24	65	7.28	2.58	1.09	108	1.98	-0.89	差がない
職場環境整備の取組	2-(13)	職員の働き方改革への取組	150	7.82	2.15	65	7.62	2.20	0.60	119	1.98	-1.38	差がない
	4-(2)⑨	雇用管理改善対策の実施	135	6.60	2.48	62	5.82	2.82	1.88	106	1.98	-0.10	差がない
	2-(14)	介護職員への満足度調査実施	149	5.10	3.25	65	4.64	3.35	0.94	119	1.98	-1.04	差がない
	2-(12)	介護記録や報告書の作成についてICTの活用	147	6.21	3.19	65	5.22	3.41	1.99	116	1.98	0.01	差がある
	4-(2)⑩	ICT活用による介護職員の事務負担軽減	144	5.93	2.95	61	5.64	3.26	0.60	104	1.98	-1.38	差がない
	4-(2)⑪	ICT活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施	143	5.78	2.92	61	5.21	3.25	1.20	103	1.98	-0.78	差がない
	4-(2)⑫	介護ロボットやリフト等の介護機器の導入	141	4.94	3.26	62	4.53	3.26	0.83	117	1.98	-1.15	差がない
	4-(2)⑮	職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組	150	7.13	2.11	65	7.01	2.47	0.33	106	1.98	-1.65	差がない
	4-(2)③	指導・評価結果の人事制度への反映	145	7.14	2.49	65	6.18	2.90	2.31	108	1.98	0.33	差がある
	4-(2)④	スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み	141	6.92	2.74	64	6.33	2.99	1.34	113	1.98	-0.64	差がない
	4-(2)⑤	介護職員の人事ローテーションの実施	144	6.15	2.72	64	5.92	3.23	0.50	104	1.98	-1.48	差がない
	4-(2)⑰	非正規職員から正規職員への転換	144	7.60	2.22	63	7.27	2.42	0.95	109	1.98	-1.03	差がない
人材育成体制の整備	4-(1)③	スキルアッププランやパスの提示	148	6.39	2.62	62	5.53	2.75	2.08	110	1.98	0.10	差がある
	4-(1)⑤	介護技術に関する指標・基準等の明文化	148	6.15	2.77	64	5.50	2.87	1.54	116	1.98	-0.44	差がない
	4-(1)⑥	指導者の育成・配置	149	7.21	2.14	65	6.35	2.64	2.32	103	1.98	0.34	差がある
	4-(1)⑯	指導者に対する支援・サポート	145	6.46	2.32	65	5.57	2.81	2.25	105	1.98	0.27	差がある
	4-(1)⑮	他職種カンファレンス参加の促し	148	7.25	2.60	64	6.38	3.02	2.01	105	1.98	0.03	差がある
	4-(2)⑯	地域交流活動への参加の促し・支援	145	6.31	2.63	65	5.57	3.13	1.67	106	1.98	-0.31	差がない
	5-(1)③	地域における事業所の役割の明示	146	6.86	2.55	64	6.19	2.69	1.68	114	1.98	-0.30	差がない
	4-(2)⑥	新人介護職員に対するＯＪＴ指導	149	7.94	2.07	65	7.24	2.46	2.00	105	1.98	0.02	差がある
	4-(2)⑦	入職２年目介護職員に対するOJT指導	147	5.91	2.56	65	4.88	2.74	2.57	115	1.98	0.59	差がある
	4-(2)⑧	入職3年目以降の介護職員に対するOJT指導	147	5.14	2.59	65	4.33	2.65	2.06	120	1.98	0.08	差がある
人材育成の取組 OJTの展開	4-(1)①	経営理念、人材育成方針の伝達	149	7.87	2.12	63	7.66	2.25	0.63	111	1.98	-1.35	差がない
	4-(1)②	育成計画の作成・提示	148	6.98	2.69	63	7.16	2.55	0.47	123	1.98	-1.51	差がない
	4-(1)④	スキルアップにむけた目標設定や目標管理	148	7.29	2.34	64	6.61	2.73	1.73	105	1.98	-0.25	差がない
	4-(1)⑦	介護職員との面談	150	8.09	1.92	65	7.39	2.64	1.91	95	1.99	-0.08	差がない
	4-(1)⑧	介護技術指導	149	7.11	2.33	64	6.58	2.61	1.42	108	1.98	-0.56	差がない
	4-(1)⑨	現場での現認・指導	149	6.59	2.56	65	6.18	2.73	1.04	115	1.98	-0.94	差がない
	4-(1)⑩	介護記録や報告書類の作成指導	149	6.21	2.47	65	6.08	2.71	0.34	112	1.98	-1.64	差がない
	4-(2)⑭	ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導	150	8.20	1.69	65	7.80	2.29	1.28	96	1.99	-0.71	差がない
	4-(1)⑪	ケアの根拠の説明・指導	149	6.70	2.29	65	6.10	2.57	1.62	110	1.98	-0.36	差がない
	4-(1)⑭	気づき支援、ケア内容改善の促し	147	6.86	2.23	65	5.84	2.71	2.65	104	1.98	0.67	差がある
	4-(2)⑬	気づき支援、ケア内容改善の促し	146	7.00	2.09	62	6.43	2.54	1.56	98	1.99	-0.43	差がない
	4-(1)⑫	目標達成状況の進捗確認	147	6.89	2.44	65	6.01	3.05	2.05	102	1.98	0.07	差がある
	4-(1)⑬	介護技術レベルの定期確認・定期評価	147	5.43	2.79	64	4.59	2.97	1.92	113	1.98	-0.06	差がない
キャリア段位取組と効果	3-(1)	キャリア段位をOJT・評価の業務として位置づけ	128	6.89	2.86	52	4.76	3.05	4.33	89	1.99	2.34	差がある
	3-(3)	根拠に基づく介護を行うことの意識向上	145	6.71	2.16	46	5.88	2.39	2.09	70	2.00	0.09	差がある
	3-(4)	介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上	150	6.21	2.15	63	3.96	2.29	6.66	110	1.98	4.68	差がある
	3-(5)	キャリア段位の今後の活用	147	7.40	1.73	62	6.57	1.61	3.32	122	1.98	1.34	差がある
人材育成取組結果	5-(1)①	自立支援・重度化防止の取り組み	150	7.77	1.87	64	7.20	2.03	1.93	111	1.98	-0.05	差がない
	5-(1)②	介護の結果を個別介護計画に反映	150	7.46	2.31	64	6.44	2.57	2.74	108	1.98	0.76	差がある
地域連携取組結果	5-(1)⑥	地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している	145	6.68	2.57	63	6.13	2.76	1.35	111	1.98	-0.63	差がない
	5-(1)⑦	地域の障害者事業所・施設と積極的に情報交換している	141	4.06	2.63	63	3.91	2.49	0.39	125	1.98	-1.59	差がない
	5-(1)④	医療連携の取組に、介護職員が参画している	144	6.00	2.87	63	5.64	2.91	0.82	117	1.98	-1.16	差がない
	5-(1)⑤	在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している	145	5.20	2.91	64	4.53	2.87	1.55	122	1.98	-0.43	差がない
	5-(1)⑨	家族介護支援のため認知症に関する講座を開催している	148	4.88	3.19	64	4.73	3.09	0.33	123	1.98	-1.65	差がない
	5-(1)⑧	地域のボランティアを積極的に受け入れている	150	7.03	2.85	64	6.92	2.89	0.25	118	1.98	-1.73	差がない
	5-(1)⑩	災害時、地域の高齢者を支援する役割を担っている	141	7.11	2.63	63	7.09	2.94	0.05	108	1.98	-1.93	差がない

なお、検定結果と各回答割合について比較した表は以下の通りとなる。

	番号	調査項目	算定	単純差違比較			t検定	
				A群	B群	差(A-B)	T値 -棄却限界値	2群差異
研修の実施状況	2-(7)	介護職員の介護技術向上にむけた研修	積極的・ある程度実施している　率（%）	88.7%	81.8%	6.8%	-0.98	差がない
	2-(9)	学習室の設置状況	学習室がある　率（%）	14.7%	15.2%	-0.5%	-1.91	差がない
	2-(10)	パソコン等を利用するための研修	積極的・ある程度実施している　率（%）	20.0%	24.2%	-4.2%	-1.33	差がない
	2-(11)	介護職員の対する外部研修の情報収集	積極的・ある程度実施している　率（%）	92.0%	87.9%	4.1%	-1.92	差がない
キャリア開発支援	4-(2)①	介護福祉士取得支援	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	85.3%	78.8%	6.5%	-0.02	差がない
	4-(2)②	介護技術を習得にむけた研修受講支援	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	84.0%	78.8%	5.2%	-0.89	差がない
職場環境整備の取組	2-(13)	職員の働き方改革への取組	積極的・ある程度取り組んでいる　率（%）	87.3%	84.8%	2.5%	-1.38	差がない
	4-(2)⑨	雇用管理改善対策の実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	62.0%	53.0%	9.0%	-0.10	差がない
	2-(14)	介護職員への満足度調査実施	積極的・ある程度実施している　率（%）	47.3%	37.9%	9.5%	-1.04	差がない
	2-(12)	介護記録や報告書の作成についてICTの活用	積極的・ある程度推進している　率（%）	60.0%	47.0%	13.0%	0.01	差がある
	4-(2)⑩	ICT活用による介護職員の事務負担軽減	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	54.7%	50.0%	4.7%	-1.38	差がない
	4-(2)⑪	ICT活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	50.7%	42.4%	8.2%	-0.78	差がない
	4-(2)⑫	介護ロボットやリフト等の介護機器の導入	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	41.3%	33.3%	8.0%	-1.15	差がない
	4-(2)⑮	職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	80.0%	72.7%	7.3%	-1.65	差がない
	4-(2)③	指導・評価結果の人事制度への反映	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	74.7%	60.6%	14.1%	0.33	差がある
	4-(2)④	スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	69.3%	63.6%	5.7%	-0.64	差がない
	4-(2)⑤	介護職員の人事ローテーションの実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	58.0%	54.5%	3.5%	-1.48	差がない
	4-(2)⑰	非正規職員から正規職員への転換	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	80.7%	75.8%	4.9%	-1.03	差がない
人材育成体制の整備	4-(1)③	スキルアッププランやパスの提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	64.0%	48.5%	15.5%	0.10	差がある
	4-(1)⑤	介護技術に関する指標・基準等の明文化	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	58.7%	50.0%	8.7%	-0.44	差がない
	4-(1)⑥	指導者の育成・配置	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	80.7%	65.2%	15.5%	0.34	差がある
	4-(1)⑯	指導者に対する支援・サポート	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	65.3%	51.5%	13.8%	0.27	差がある
	4-(1)⑮	他職種カンファレンス参加の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	76.7%	59.1%	17.6%	0.03	差がある
	4-(2)⑯	地域交流活動への参加の促し・支援	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	61.3%	50.0%	11.3%	-0.31	差がない
	5-(1)③	地域における事業所の役割の明示	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	70.7%	62.1%	8.5%	-0.30	差がない
	4-(2)⑥	新人介護職員に対するＯＪＴ指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	88.0%	80.3%	7.7%	0.02	差がある
	4-(2)⑦	入職２年目介護職員に対するOJT指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	56.0%	42.4%	13.6%	0.59	差がある
	4-(2)⑧	入職3年目以降の介護職員に対するOJT指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	42.0%	31.8%	10.2%	0.08	差がある
人材育成の取組 OJTの展開	4-(1)①	経営理念、人材育成方針の伝達	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	85.3%	80.3%	5.0%	-1.35	差がない
	4-(1)②	育成計画の作成・提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	72.0%	74.2%	-2.2%	-1.51	差がない
	4-(1)④	スキルアップにむけた目標設定や目標管理	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	78.0%	66.7%	11.3%	-0.25	差がない
	4-(1)⑦	介護職員との面談	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	91.3%	75.8%	15.6%	-0.08	差がない
	4-(1)⑧	介護技術指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	76.0%	66.7%	9.3%	-0.56	差がない
	4-(1)⑨	現場での現認・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	66.0%	62.1%	3.9%	-0.94	差がない
	4-(1)⑩	介護記録や報告書類の作成指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	63.3%	60.6%	2.7%	-1.64	差がない
	4-(2)⑭	ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	93.3%	84.8%	8.5%	-0.71	差がない
	4-(1)⑪	ケアの根拠の説明・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	73.3%	65.2%	8.2%	-0.36	差がない
	4-(1)⑭	気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	74.7%	56.1%	18.6%	0.67	差がある
	4-(2)⑬	気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	78.0%	65.2%	12.8%	-0.43	差がない
	4-(1)⑫	目標達成状況の進捗確認	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	72.7%	57.6%	15.1%	0.07	差がある
	4-(1)⑬	介護技術レベルの定期確認・定期評価	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	47.3%	37.9%	9.5%	-0.06	差がない
キャリア段位取組と効果	3-(1)	キャリア段位をOJT・評価の業務として位置づけ	十分・どちらかといえば位置づけている　率（%）	62.7%	36.4%	26.3%	2.34	差がある
	3-(3)	根拠に基づく介護を行うことの意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	52.7%	25.8%	26.9%	0.09	差がある
	3-(4)	介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	46.0%	25.8%	20.2%	4.68	差がある
	3-(5)	キャリア段位の今後の活用	積極的・活用していく　率（%）	74.0%	43.9%	30.1%	1.34	差がある
人材育成取組結果	5-(1)①	自立支援・重度化防止の取り組み	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	89.3%	80.3%	9.0%	-0.05	差がない
	5-(1)②	介護の結果を個別介護計画に反映	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	82.0%	63.6%	18.4%	0.76	差がある
地域連携取組結果	5-(1)⑥	地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	66.7%	59.1%	7.6%	-0.63	差がない
	5-(1)⑦	地域の障害者事業所・施設と積極的に情報交換している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	26.0%	22.7%	3.3%	-1.59	差がない
	5-(1)④	医療連携の取組に、介護職員が参画している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	53.3%	50.0%	3.3%	-1.16	差がない
	5-(1)⑤	在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	42.0%	33.3%	8.7%	-0.43	差がない
	5-(1)⑨	家族介護支援のため認知症に関する講座を開催している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	42.0%	40.9%	1.1%	-1.65	差がない
	5-(1)⑧	地域のボランティアを積極的に受け入れている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	74.7%	72.7%	1.9%	-1.73	差がない
	5-(1)⑩	災害時、地域の高齢者を支援する役割を担っている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	70.7%	72.7%	-2.1%	-1.93	差がない

（11）統計的検定結果を踏まえて

事業所調査結果の t 検定結果を踏まえると、職員のスキルアップに向けた仕組みづくりに関して、A 群と B 群との差異が明らかであると読み取れる。

OJT の実施対象として、「新人」、「2 年目職員、「3 年目以降の職員」への OJT 実施に関し、有意差が確認された。また、「スキルアッププランやパスの提示」「指導者の育成・配置」「指導者に対する支援・サポート」といった OJT の仕組みづくりに関しても有意差が認められた。職員との関係性では、「気づき支援、ケア内容改善の促し」「目標達成状況の進捗確認」「指導・評価結果の人事制度への反映」ついて有意差が認められ、育成がシステム的に行われている傾向を読み取ることができる。

また、事業所の取組として「介護記録や報告書の作成についての ICT 活用」「介護の結果の個別介護計画への反映」「他職種カンファレンス参加の促し」など、根拠に基づく個別ケアと連携につながる事項につき、有意差が確認された。

さらに介護キャリア段位制度とのかかわりについては、業務としての位置づけ、根拠に基づく介護の意識、第三者にわかる介護記録、今後の継続意向全てにおいて、有意差が確認された。

（12）介護職員処遇改善加算の取得と取組実態

介護職員処遇改善加算のキャリアパス要件（Ⅰ～Ⅲ）、並びに職場環境等要件の例示に関連する取組について実施状況をみると、両群とも当該加算取得率は同程度であるものの、以下のように、A 群（OJT 取組事業所、レベル認定実績有）と B 群（(OJT 未取組事業所、レベル認定実績無）とでは取組実態には、差がみられる。

介護職員の処遇改善、スキル向上にむけた取組の実態には、事業所により取組差はある一方で、現行の加算要件は、これらの差までは踏まえるものとはなっていない。

今回の調査では、OJT のシステム的な運用を行っている事業所では、そうでない事業所と比べ、加算取得要件として列挙された幅広い事項のそれぞれに、取り組んでいる傾向が示された。

介護職員処遇改善加算　キャリアパス要件、職場環境等要件関連の取組実態　N=216

		調査項目		全体	A群	B群	差(A-B)
加算取得状況		処遇改善加算Ⅰ～Ⅲ	処遇改善加算Ⅰ～Ⅲ取得数／回答数（%）	92.10%	92.70%	90.90%	**1.80%**
		特定処遇改善加算（2019年10月～）	特定処遇改善加算取得数／回答数（%）	64.40%	64.70%	63.60%	**1.00%**
キャリアパス要件関係		スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	67.60%	69.30%	63.60%	**5.70%**
		介護職員の介護技術向上にむけた研修	積極的・ある程度実施している 率（%）	86.60%	88.70%	81.80%	**6.80%**
職場環境等要件	資質向上	介護福祉士取得支援	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	83.30%	85.30%	78.80%	**6.50%**
		介護技術を習得にむけた研修受講支援	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	82.40%	84.00%	78.80%	**5.20%**
		指導・評価結果の人事制度への反映	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	70.40%	74.70%	60.60%	**14.10%**
		介護職員の人事ローテーションの実施	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	56.90%	58.00%	54.50%	**3.50%**
	職場環境・処遇改善	新人介護職員に対するＯＪＴ指導	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	85.60%	88.00%	80.30%	**7.70%**
		雇用管理改善対策の実施	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	59.30%	62.00%	53.00%	**9.00%**
		ICT活用による介護職員の事務負担軽減	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	53.20%	54.70%	50.00%	**4.70%**
		ICT活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	48.10%	50.70%	42.40%	**8.20%**
		介護ロボットやリフト等の介護機器の導入	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	38.90%	41.30%	33.30%	**8.00%**
		職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	77.80%	80.00%	72.70%	**7.30%**
		気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	69.00%	74.70%	56.10%	**18.60%**
		ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	90.70%	93.30%	84.80%	**8.50%**
	その他	地域交流活動への参加の促し・支援	十分・ある程度おこなわれている 率（%）	57.90%	61.30%	50.00%	**11.30%**
		非正規職員から正規職員への転換	よく・どちらかといえば実施している 率（%）	79.20%	80.70%	75.80%	**4.90%**

（13）事業所調査結果より

回答事業所の属性

本調査では、介護技術向上の取組事業所の特徴を見出し、取組の有無での違いを探ることとした。そして、介護技術向上の取組の実績を見分ける具体的な指標として、介護キャリア段位制度のレベル認定実績を一定数有する事業所（レベル認定実績 3 名以上）と、実績なしの事業所の比較を行った。

回答事業所は、いずれも介護キャリア段位制度のアセッサーが 1 名以上いる事業所であり、全国介護事業所中において、介護 OJT を通じた人材育成に関心を有する事業所群といえる。

また、A 群・B 群のいずれも 9 割程度が介護職員処遇改善加算を取得しており、キャリアパス要件や、職場環境等要件を満たしている。

構成する介護職員は、B 群では、事業所の介護福祉士のうち、勤続 10 年以上の介護福祉士の割合が A 群よりも若干高く、ベテランの専門職員が在籍しているといえる。

今回の調査結果からは、介護職員の採用率、離職率に関し、両群とも全国平均よりも大きく下回る。A 群 B 群の比較では、いずれも B 群が上回っており、A 群の方がより、介護職員の定着率は高い群との結果であった。(【採用率】A 群：10.0%、B 群：12.4%【離職率】A 群：8.4%、B 群：10.8%)。(参考：平成 30 年度介護労働実態調査：採用率:18.7%、離職率：15.4)

いずれの群も全国の介護事業所中、人材育成の取組を重視している事業所といえるが、A 群（レベル認定実績を一定数以上出している事業所群）と、B 群（認定実績のない事業所群）では、今回の調査で顕著な違いが示された。

人材育成に向けた OJT をシステム的に取り組んでいる

「キャリア開発支援」や、「職場環境整備の取組」をみてみると、設問項目のうち、全てにおいて A 群の実施率が B 群を上回る結果であり、A 群において、介護職員等処遇改善加算の職場環境要件に列挙される取組事項をはじめとして、職員にむけての環境整備を行っていることが伺える。

研修（Off-JT）に関しては、「介護技術向上にむけた研修」の実施率は両群に差はあるものの（A 群：88.7%、B 群：81.8%）、両群ともに 8 割以上の実施率であったが、OJT の取組体制に顕著な違いが示された。

A 群では人材育成にあたって、「スキルアッププランやパスの提示」と明文化された「介

護技術に関する指標・基準等」、具体的なツールを用いて実施しており、「指導者」を配置し、指導者には「支援・サポート体制」を組み、OJT 指導を「指導者の業務」として位置づけている。

すなわち、A 群（レベル認定輩出実績一定数以上の事業所）では、OJT を「システム」として取り入れ、運用している、といえる。

OJT に対するこの観点は、OJT の実施対象として、「新人職員以外の職員に対する OJT」の実施差にもあらわれている。

A 群にみえた特徴として、OJT を「システム」として取り組むことにより、「理念共有」、「育成計画作成」、「目標設定」、「職員との面談」、「技術指導」、「現認」、を行い、職員の「目標達成状況の進捗確認」、スキルレベルの「定期確認・定期評価」の一連の手順を実行していることと、といえる。これらは、介護キャリア段位制度の OJT 手法(期首評価、面談、期中・OJT、現認、技術指導、定期確認、期末評価)を忠実に実行しているものといえる。

また指導では、「介護記録や報告書類の作成指導」、「ケア根拠の説明・指導」、「ケア根拠の説明・指導」といった、「根拠に基づくケアの実践スキル」の習得に目標を定めて育成をしている。指導では、やり方を教える、といった手法ではなく、「振り返り」「気づき」「ケア内容改善の促し」を行っているとの傾向が示された。

一方で、OJT の体制整備を伴わずに、また、「理念」共有を核としていても、P（計画）⇒D（実行）⇒C・A（確認・評価）のプロセスを展開させずに、育成の取組を曖昧なものとしてとらえている場合は、具体的なレベル認定実績にはつながっておらず、調査結果で表出した相違が実態として生じていると指摘できる。

A 群では、なぜ、OJT を曖昧なものとして扱わずに、「システム」として取り込んでいるのだろうか。今回の回答結果からみえるものとして、介護技術の向上とは何か、OJT を通じて何を習得するのかを組織として見出しており、その目標にむけて育成の「仕組み」として、組織に取り込んでいる点を指摘できる。

根拠に基づくケアの実践に向けての人材育成⇒「個別ケア」や「連携」の取組差として表出

「ケア根拠の説明・指導（A 群：73.3%）」、「介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促し A 群：74.7%）」の実施率は、A 群はいずれも B 群を大きく上回っている。また介護キャリア段位制度とは、「根拠に基づく介護の実践の推進である」との認識は、A 群では 80.0%に上ったのに対し B 群では 59.1%と、認識差が見受けられた。

「介護キャリア段位制度の取組を通じた、根拠に基づき介護を行うことの意識」については、A 群は 52.6%であるのに対し、B 群では 25.6%と大差であり、「介護キャリア段位制度の取組を通じた、介護記録を第三者にもわかるよう残していくことの意識」についても、A

群が 46%、B 群は 25.7%と差がみられた。

「日々の業務の結果を個別介護計画に反映することを意識し、業務を組み立てている」については、A 群が 82.0%であるのに対し、B 群では 63.6%、「ICT 活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施」をしているとの回答は、A 群が 50.7%、B 群が 42.4%であった。「個別ケア」の実践、利用者の「介護過程の展開」は、「根拠に基づくケアの実践」のあらわれといえ、日頃の OJT との関係に注目すべきである。

今回の調査結果からの導きとして、OJT を通じて、「根拠に基づき介護を行うスキル」を磨いていくことや、「根拠に基づくケア」と「利用者個別のアセスメントの実践」との関係性への認識は、実際に OJT に取り組んでみてこそつながるものであることが、伺える。

A 群にみられる OJT の取組には、「実際にやってみたこと」で認識される価値があり、「実際にやってみた」ことの結果を受けて、「システム」的な運用へとつながっている、と読み取れる。現場での OJT による育成を通じて職員に「どのようなスキルを身につけるのか」、といった育成のテーマは、ともすると、漠然とした、曖昧なものとして捉えられかねない。しかしながら、OJT 取組事業所からは、これらの意義や関係を、具体的な「取組実態」として示している。

介護の「根拠」に係る取組の差は、「連携」を鍵とした、取組差としても表出された。

本調査では、「介護職員の他職種カンファレンス参加機会の促し」、「医療連携の取組への介護職員の参画」、「在宅医療連携の取組への介護職員の参画」において、A 群 B 群における顕著な差として示されている（他職種連携）。

A 群にみられる、レベル認定実績を一定数輩出している事業所とは、すなわち、OJT を通じた人材育成の価値として、「根拠に基づく介護の実践」と設定し、体制整備をしつつ、育成を仕組みとして機能させ、「個別ケア」実践や他職種との「連携」の取組につなげている、と読み取ることができる。

地域連携の取組を行っている

また、A 群（OJT 実施事業所）では、「地域における事業所の役割を介護職員に明示している」、「地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している」においても、取組差となっている（地域連携）。

事業所において推進されている地域連携の取組は、介護キャリア段位制度の評価基準「Ⅲ. 地域包括ケアシステム＆リーダーシップ」を用いた OJT を行っている実態を示しているもの、とも読み取れる。

※　B 群の実施率等が A 群よりも高い結果となった項目について

両群の比較で、B 群の実績の方が高い結果であったものは、「介護福祉士のうち、勤続 10 年以上の者の割合」、福利厚生費、研修の開催数といった、外形的な観点のものであり、具体的な人材育成にむけた体制整備や、取組、取組の結果に関しては、A 群の実施率等の方が高い結果が示された。事業所の人材育成の取組を把握するには、事業所の外形的、ストラクチャーの観点だけでは、取組の実態はみえない。

３．指導者調査結果

（１）回答者の属性

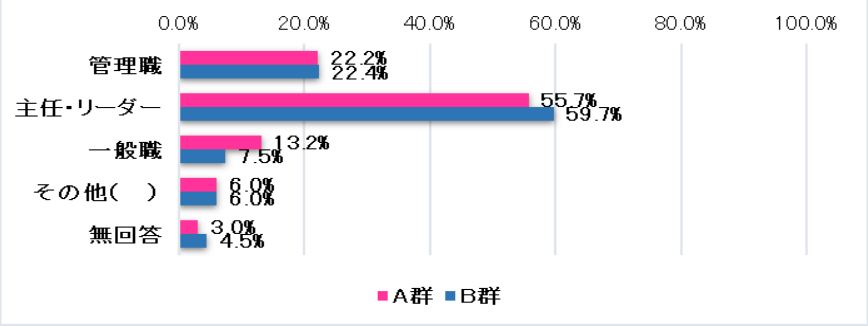
サービス種　N=234

	全体	A 群	B 群
介護老人福祉施設	106	71	35
介護老人保健施設	89	69	20
訪問介護	39	27	12
計	234	167	67

回答者属性

現在の職位について　N=234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
管理職	52	22.2%	37	22.2%	15	22.4%
主任・リーダー	133	56.8%	93	55.7%	40	59.7%
一般職	27	11.5%	22	13.2%	5	7.5%
その他	14	6.0%	10	6.0%	4	6.0%
無回答	8	3.4%	5	3.0%	3	4.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



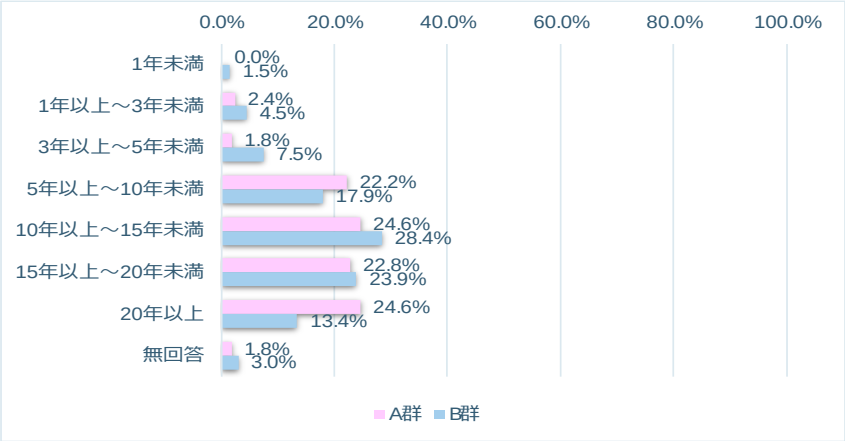
指導者調査の回答者は、介護キャリア段位制度のアセッサー登録者である。

職位は、主任・リーダーが最も多く、全体の 56.8%を占める。また、95%以上が介護福祉士資格を保有している。回答者のうち、介護キャリア段位制度のレベル認定取得者の割合は、A 群のうちの 41.9%を占める。

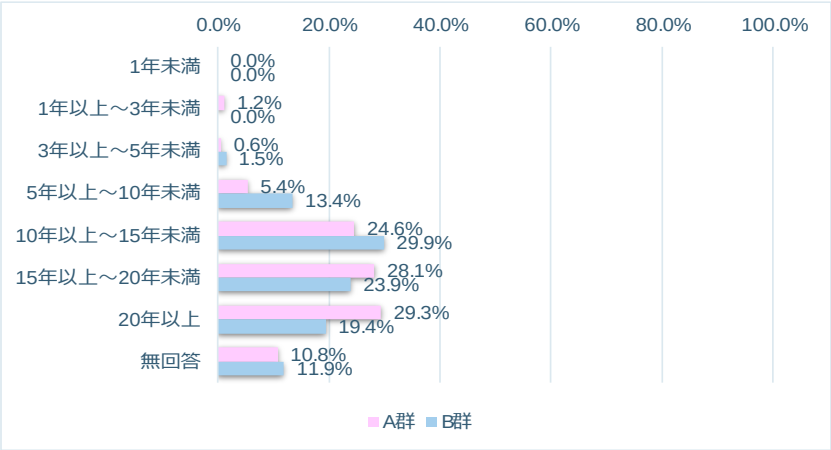
勤務年数、保有資格等　N=234

		全体	A 群	B 群
勤務先（法人内）の勤務年数	（年）	15 年	15 年	13 年
介護職員としての通算経験年数	（年）	17 年	17 年	15 年
保有資格　介護福祉士	介護福祉士／回答数（%）	95.3%	94.6%	97.0%
保有資格　介護支援専門員	介護支援専門員・主任介護支援専門員／回答数（%）	37.2%	33.5%	46.3%
レベル認定取得状況	レベル認定（2～4）取得済み／回答数（%）	29.9%	41.9%	0.0%
レベル認定取得予定	レベル認定（2～4）取得予定／回答数（%）	38.9%	40.7%	34.3%

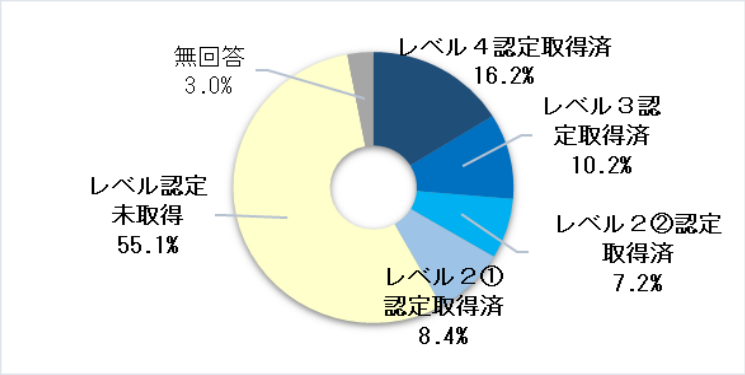
勤務先（法人内）の勤務年数　N＝234



介護職員としての通算経験年数　N＝234



回答者のレベル認定取得状況　N=167　(A 群内訳)

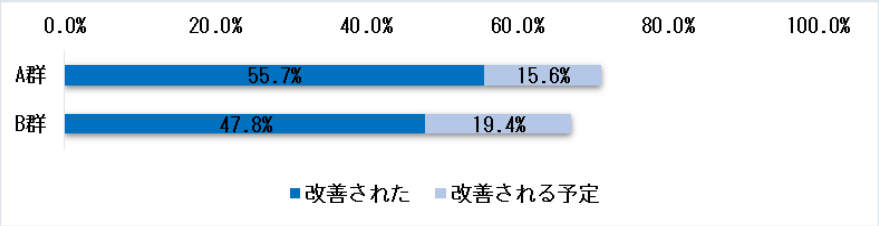


勤務時間等　N=234

		全体	A 群	B 群
平均勤務日数	１か月あたり（日）	21.0 日	20.9 日	21.1 日
平均勤務時間	１か月あたり（時間）	137.2 時間	140.3 時間	129.9 時間
うち残業時間	１か月あたり（時間）	8.3 時間	8.5 時間	7.9 時間
深夜勤務日数	１か月あたり（日）	2.6 日	2.7 日	2.1 日
深夜勤務明け翌日の日勤回数	１か月あたり（回）	0.6 回	0.6 回	0.5 回

「介護職員等特定処遇改善加算」による自身の処遇改善状況　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
改善された	125	53.4%	93	55.7%	32	47.8%
改善される予定	39	16.7%	26	15.6%	13	19.4%
改善されていない	41	17.5%	29	17.4%	12	17.9%
わからない	17	7.3%	9	5.4%	8	11.9%
無回答	12	5.1%	10	6.0%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



勤務状況としては、A 群の方が勤務時間が長い実態が伺える。回答者のうち、介護職員等特定処遇改善加算による自身の処遇改善については、全体の約 7 割が「改善された」「改善される予定」と回答しており、本調査の回答者は、当該加算の処遇改善の対象層であることが伺える。

（２）介護キャリア段位制度の取組

アセッサーとしての業務時間は、A 群では 1 か月あたり 11.8 時間、B 群では 3.0 時間であり、4 倍程度の時間差が見受けられた。

OJT 取組事業所（A 群）と未取組事業所（B 群）の違いとして、「根拠に基づく介護を行うことの意識」が高まったとの回答が、A 群では 71.9%であるのに対し、B 群では 32.8%と、39.0%の差がみられた。また「介護記録」を第三者にわかるように残す意識についても、A 群が 71.3%、B 群では 31.3%と、約 40%の差となった。

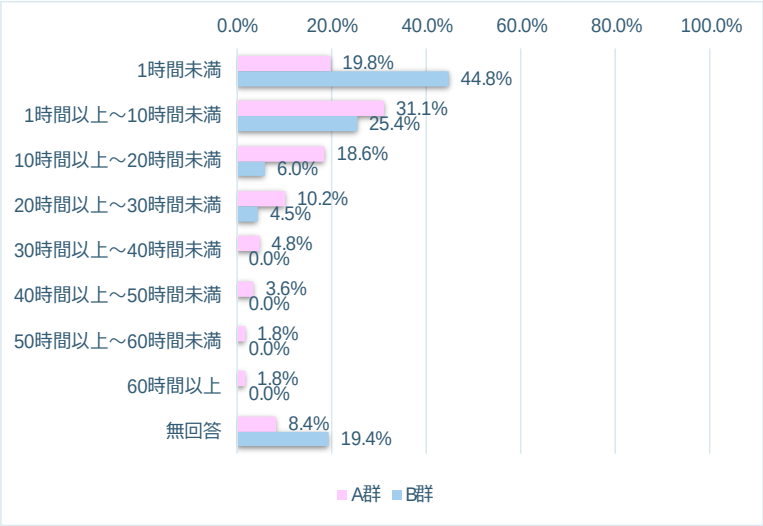
「根拠に基づく介護」による実践スキルの習得が、介護の OJT の核ともいえる中、このような意識は、実践してみてあらわれてくるもの、と読み取ることができる。

A 群においては、回答者のうち、約 4 割近くがレベル認定取得者であり、このような価値は、OJT 指導者としての業務と、OJT 指導を受ける側の経験の双方で、更に強まる、と読み取れる。

また、アセッサー業務の実態としては、約 2 割の事業所が「介護実習生」に対しても活用しており、A 群では 22.8%、B 群では 13.4%となっている。この点、OJT 実施事業所（A 群）では、未実施群（B 群）よりも事業所で受け入れている多様な人材に対して、受け入れ後の教育訓練が実践されていると、読み取れる。

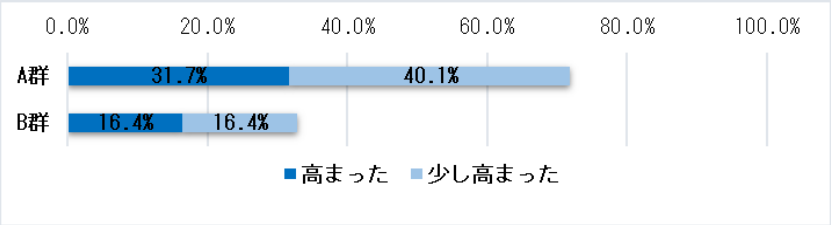
アセッサーとしての業務時間（１カ月あたり）　N＝234

		全体	A 群	B 群
アセッサーとしての業務時間	１か月あたり（時間）	9.5 時間	11.8 時間	3.0 時間



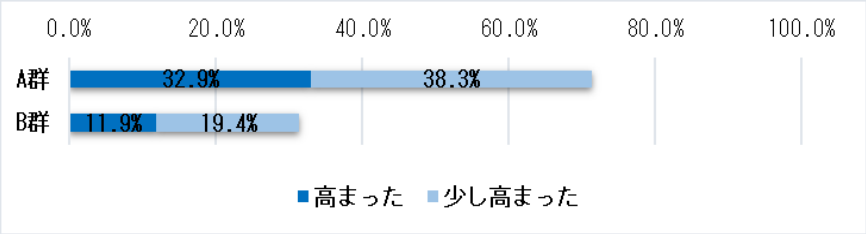
根拠に基づく介護を行うことの意識　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
高まった	64	27.4%	53	31.7%	11	16.4%
少し高まった	78	33.3%	67	40.1%	11	16.4%
どちらともいえない	48	20.5%	28	16.8%	20	29.9%
あまり高まっていない	15	6.4%	6	3.6%	9	13.4%
全く高まっていない	5	2.1%	1	0.6%	4	6.0%
無回答	24	10.3%	12	7.2%	12	17.9%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%

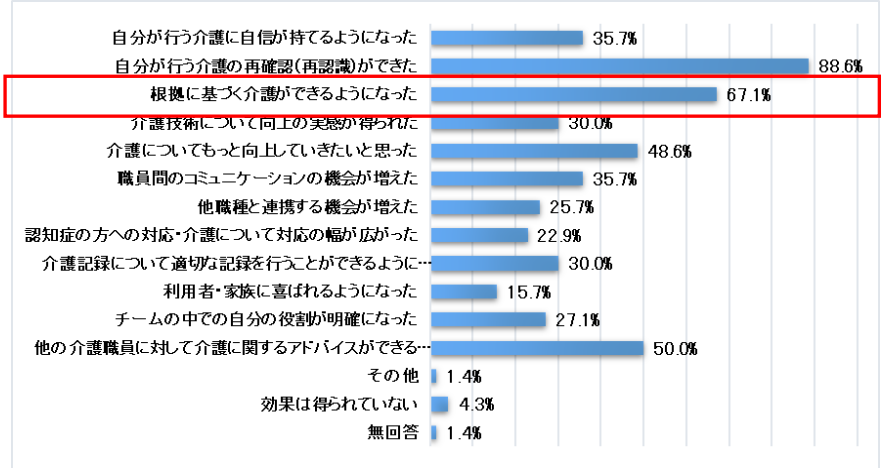


介護記録を第３者にもわかるよう残していくことの意識　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
高まった	63	26.9%	55	32.9%	8	11.9%
少し高まった	77	32.9%	64	38.3%	13	19.4%
どちらともいえない	57	24.4%	33	19.8%	24	35.8%
あまり高まっていない	10	4.3%	3	1.8%	7	10.4%
全く高まっていない	6	2.6%	2	1.2%	4	6.0%
無回答	21	9.0%	10	6.0%	11	16.4%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%

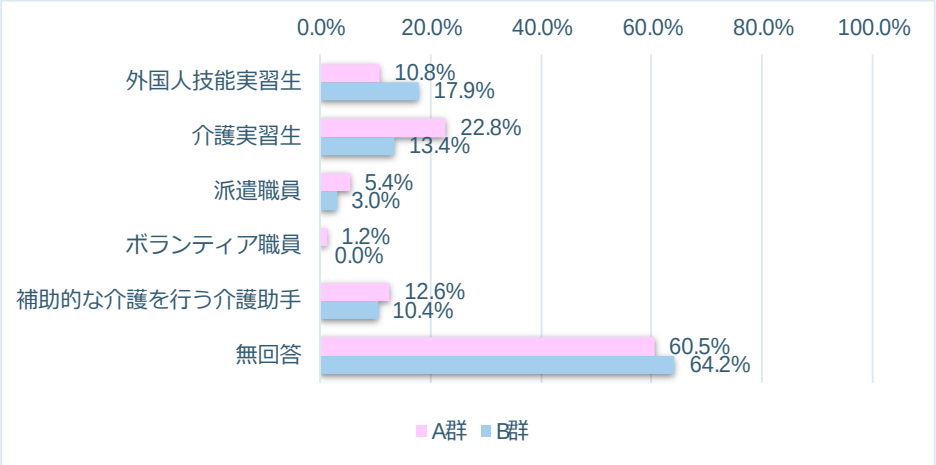


レベル認定取得を通じてえられた効果　N＝70



人材育成においてアセッサー業務（介護技術の評価）を活用している対象　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
外国人技能実習生	30	12.8%	18	10.8%	12	17.9%
介護実習生	47	20.1%	38	22.8%	9	13.4%
派遣職員	11	4.7%	9	5.4%	2	3.0%
ボランティア職員	2	0.9%	2	1.2%	0	0.0%
補助的な介護を行う介護助手	28	12.0%	21	12.6%	7	10.4%
無回答	144	61.5%	101	60.5%	43	64.2%
合計	234		167	113.2%	67	109.0%



（３）人材育成体制の整備

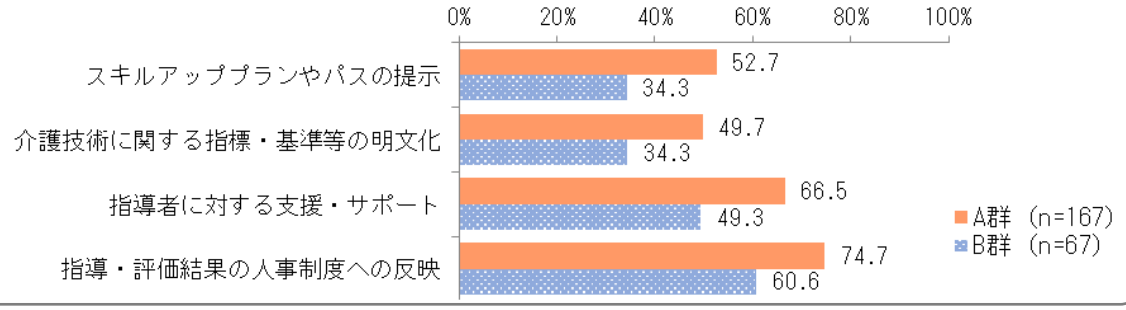
介護技術向上にむけての取組として、A 群（OJT 実施事業所）では、キャリアパスを提示し、評価基準等のツールを用い、指導者へのサポート体制を組みつつ、実績につなげている、と読み取ることができ、事業所調査結果と同様の傾向が伺える。

「スキルアップにむけたプランやパスの提示」については、A 群では 52.7%（「実施している」と「どちらかといえば実施している」の計）であるのに対し、B 群では 34.3%に留まる。

また、「介護技術に関しての指標や基準の明文化」については、A 群が 49.7%であるのに対し、B 群では 34.3%である。さらに、OJT を行う指導者に対するサポート体制については、A 群が 66.5%に対して、B 群は 49.3%となっている。

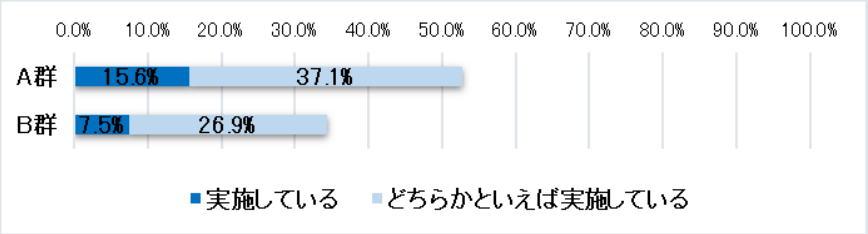
具体的な実績を生んでいると整理できる A 群では、人材育成にあたり、ツールを用いて、体制を整えながら、取り組んでいることがわかる。

人材育成体制の整備状況　N=234　「実施している」「どちらかといえば実施している」の計（%）



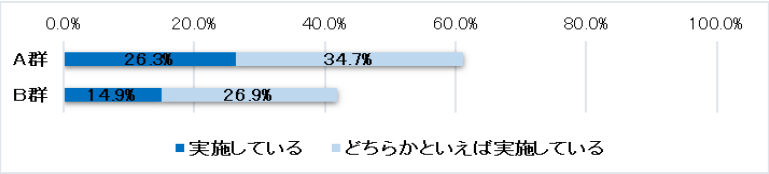
介護職員のスキルアップ（専門性向上）にむけたプランやパスの提示　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	31	13.2%	26	15.6%	5	7.5%
どちらかといえば実施している	80	34.2%	62	37.1%	18	26.9%
どちらともいえない	63	26.9%	41	24.6%	22	32.8%
どちらかといえば実施していない	31	13.2%	18	10.8%	13	19.4%
全く実施していない	18	7.7%	11	6.6%	7	10.4%
無回答	11	4.7%	9	5.4%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



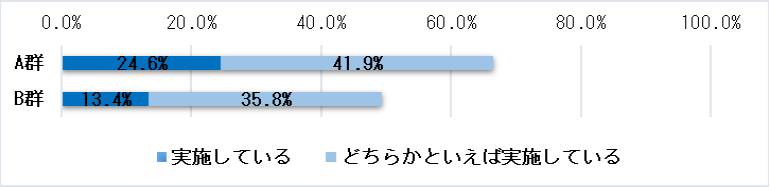
介護技術に関する指標・基準等の明文化されたものの明示　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	41	17.5%	34	20.4%	7	10.4%
どちらかといえば実施している	65	27.8%	49	29.3%	16	23.9%
どちらともいえない	73	31.2%	47	28.1%	26	38.8%
どちらかといえば実施していない	28	12.0%	18	10.8%	10	14.9%
全く実施していない	19	8.1%	12	7.2%	7	10.4%
無回答	8	3.4%	7	4.2%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



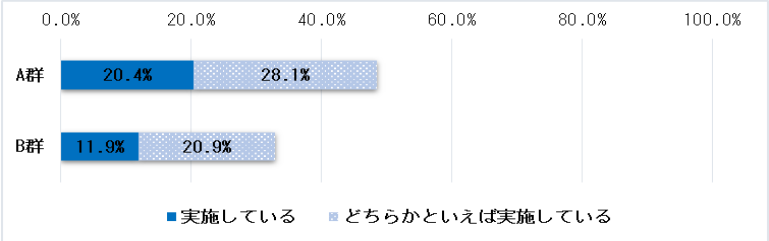
指導方法についての、上司や同僚等との（相互）支援、サポート体制　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	50	21.4%	41	24.6%	9	13.4%
どちらかといえば実施している	94	40.2%	70	41.9%	24	35.8%
どちらともいえない	62	26.5%	42	25.1%	20	29.9%
どちらかといえば実施していない	17	7.3%	9	5.4%	8	11.9%
全く実施していない	5	2.1%	1	0.6%	4	6.0%
無回答	6	2.6%	4	2.4%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



指導・評価結果の人事評価への反映　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	42	17.9%	34	20.4%	8	11.9%
どちらかといえば実施している	61	26.1%	47	28.1%	14	20.9%
どちらともいえない	69	29.5%	52	31.1%	17	25.4%
どちらかといえば実施していない	30	12.8%	16	9.6%	14	20.9%
全く実施していない	23	9.8%	13	7.8%	10	14.9%
無回答	9	3.8%	5	3.0%	4	6.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%

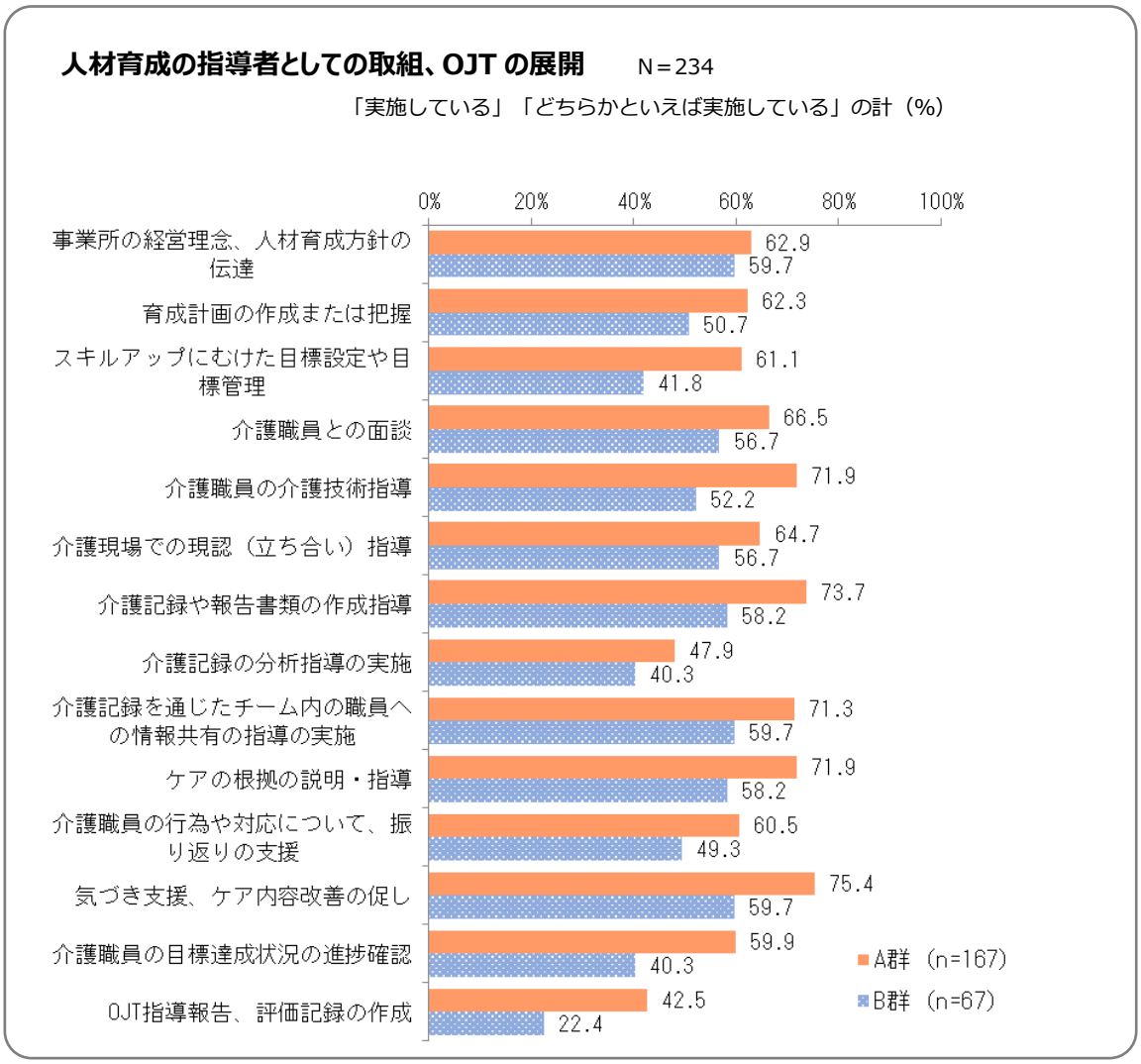


（４）人材育成の指導者としての取組、OJT の展開

指導者としての人材育成の具体的な取組についても、A 群と B 群では各段階において、実施率の差がみられた。

「事業所の理念伝達」においては、両群に大差はみられないが、「育成計画の作成・提示」においては、A 群が 62.3%であるのに対し、B 群は 50.7%、「目標設定、目標管理」においては、A 群が 61.1%であるのに対し、B 群では 41.8%と 20%近くの差がみられる。

「介護職員との面談」においても、A 群では 66.5%が実施しているのに対し、B 群では 56.7%である。OJT の実行に際して、A 群では、取組の計画、実行、評価の手順を実行し展開している、と読み取れる。

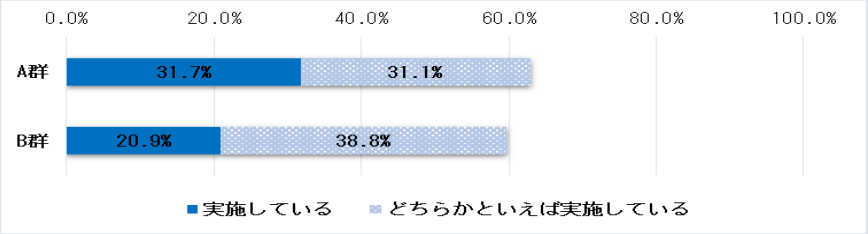


① 実行のための準備体制

理念伝達については、両群に大差はみられないが、人材育成計画作成、目標設定、個別面談に関して、A 群（OJT 取組事業所）の方が実施率が高く、育成指導にあたって職員個別の目標を設定したり面談を行うなどして、取組目標を明らかにしていることがわかる。

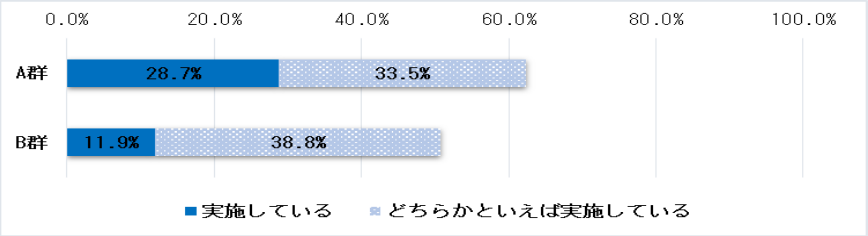
事業所の経営理念、人材育成方針の伝達　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
実施している	67	28.6%	53	31.7%	14	20.9%
どちらかといえば実施している	78	33.3%	52	31.1%	26	38.8%
どちらともいえない	53	22.6%	36	21.6%	17	25.4%
どちらかといえば実施していない	21	9.0%	16	9.6%	5	7.5%
全く実施していない	9	3.8%	5	3.0%	4	6.0%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



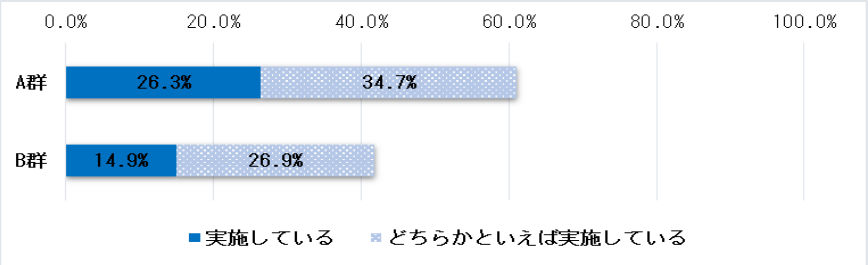
年間の介護職員育成計画の作成または把握　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
実施している	56	23.9%	48	28.7%	8	11.9%
どちらかといえば実施している	82	35.0%	56	33.5%	26	38.8%
どちらともいえない	43	18.4%	27	16.2%	16	23.9%
どちらかといえば実施していない	30	12.8%	22	13.2%	8	11.9%
全く実施していない	16	6.8%	8	4.8%	8	11.9%
無回答	7	3.0%	6	3.6%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



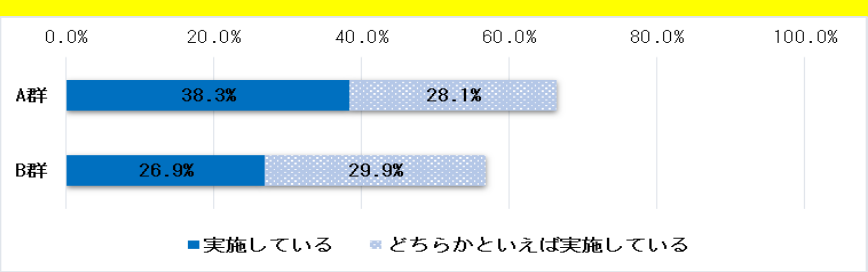
介護職員のスキルアップにむけた目標設定や目標管理　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	54	23.1%	44	26.3%	10	14.9%
どちらかといえば実施している	76	32.5%	58	34.7%	18	26.9%
どちらともいえない	61	26.1%	39	23.4%	22	32.8%
どちらかといえば実施していない	26	11.1%	15	9.0%	11	16.4%
全く実施していない	9	3.8%	4	2.4%	5	7.5%
無回答	8	3.4%	7	4.2%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



介護職員との面談　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	82	35.0%	64	38.3%	18	26.9%
どちらかといえば実施している	67	28.6%	47	28.1%	20	29.9%
どちらともいえない	41	17.5%	29	17.4%	12	17.9%
どちらかといえば実施していない	29	12.4%	18	10.8%	11	16.4%
全く実施していない	8	3.4%	4	2.4%	4	6.0%
無回答	7	3.0%	5	3.0%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



介護職員との面談時間　N＝234

		全体	A 群	B 群
面談時間	１か月あたり　（時間）	3.1 時間	3.1 時間	3.2 時間
１人当たりの面談時間	１人あたり　（時間）	0.7 時間	0.8 時間	0.4 時間

② 指導内容、指導の仕方

指導者としての指導内容についても、A 群と B 群では実施率に違いがあらわれている。

介護技術指導に関しては、A 群事業所では 71.9%が、B 群事業所では 52.2%と 20 ポイント近くの差がみられる。指導の仕方として、「現認・指導」についても、A 群は 64.7%に対し、B 群は 56.7%と、差がみられる。

介護記録に係る指導については、A 群では 73.7%であるが、B 群では 58.2%と、15%近くの差がみられる。また、「介護記録の分析の指導」、介護記録を通じたチーム内での「情報共有の指導」についても、実施率の差がみられる。

また指導にあたっての「ケア根拠の説明・指導」、「行為や対応の振り返りの支援」、「気づき支援、ケア内容改善の促し」は、各項目 10 ポイント以上の差がみられる。

さらに、OJT を進める中での進捗確認、指導報告、評価記録の作成についても、A 群と B 群では、20 ポイント近くの実施の差がみられる。これらは、事業所調査と同様の傾向といえる。

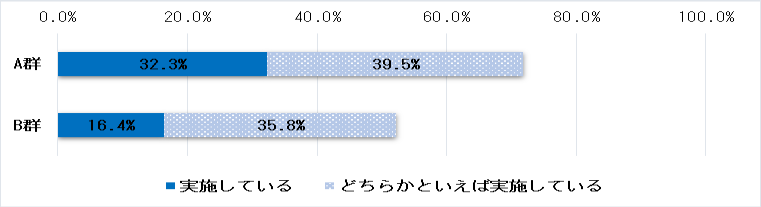
現場の育成に際して、「現場に立ち会う」だけでなく、行為の根拠について、確認したり、指導を行っていること、「記録」を読み解くスキルの習得にむけて取り組んでいること、「記録」を通じた情報共有の指導を行っていること、「振り返り」「気づき」のプロセスを組み込み、介護職員自身に考えさせる手法を取っていることが示された。これらは、指導者が、現場で「根拠に基づく介護」の実践スキルを習得させるために、内省支援のプロセスを踏みながら、様々な角度から指導しているものと整理できる。

現場の OJT で、指導者がどのように、指導にあたっているのかは、外形化しにくい部分であり、指導者が、自身の役割を認識していない場合は曖昧となりかねず、今回の調査からは、OJT 取組事業所から、どのような指導を行っているのかが、取組の「実態」として示されたといえる。

A 群と B 群の比較からは、人材育成指導の仕方、育成に取り組む目的の双方につき、A 群では明確に捉えており、B 群では曖昧にとらえていると読み取れる。

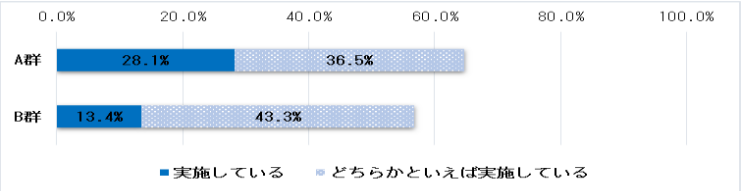
介護職員の介護技術指導　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	65	27.8%	54	32.3%	11	16.4%
どちらかといえば実施している	90	38.5%	66	39.5%	24	35.8%
どちらともいえない	46	19.7%	27	16.2%	19	28.4%
どちらかといえば実施していない	22	9.4%	12	7.2%	10	14.9%
全く実施していない	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
無回答	6	2.6%	4	2.4%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



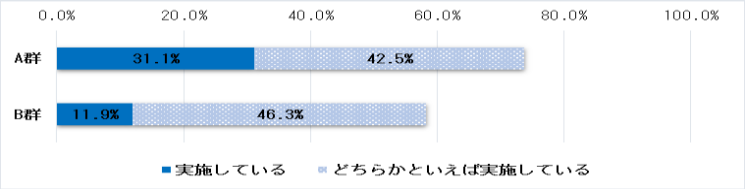
介護現場での現認（立ち合い）指導　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	56	23.9%	47	28.1%	9	13.4%
どちらかといえば実施している	90	38.5%	61	36.5%	29	43.3%
どちらともいえない	42	17.9%	28	16.8%	14	20.9%
どちらかといえば実施していない	29	12.4%	20	12.0%	9	13.4%
全く実施していない	12	5.1%	7	4.2%	5	7.5%
無回答	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



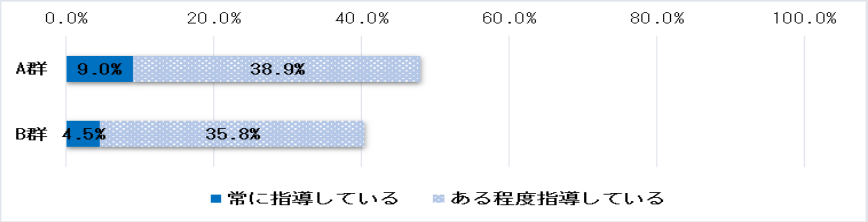
介護記録や報告書類の作成指導　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	60	25.6%	52	31.1%	8	11.9%
どちらかといえば実施している	102	43.6%	71	42.5%	31	46.3%
どちらともいえない	36	15.4%	26	15.6%	10	14.9%
どちらかといえば実施していない	23	9.8%	12	7.2%	11	16.4%
全く実施していない	8	3.4%	2	1.2%	6	9.0%
無回答	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



介護記録の分析指導の実施　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
常に指導している	18	7.7%	15	9.0%	3	4.5%
ある程度指導している	89	38.0%	65	38.9%	24	35.8%
どちらともいえない	49	20.9%	36	21.6%	13	19.4%
あまり指導できていない	56	23.9%	38	22.8%	18	26.9%
全く指導できていない	16	6.8%	8	4.8%	8	11.9%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%

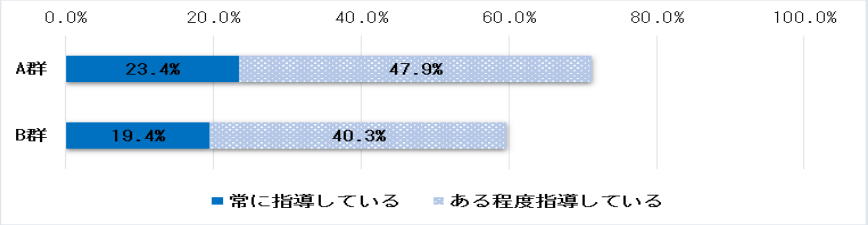


記録の検証時間　N＝234

		全体	A 群	B 群
介護職員が作成した記録物（介護記録等）を読み取り、検証する時間	1 か月あたり（時間）	6.1 時間	6.4 時間	5.1 時間

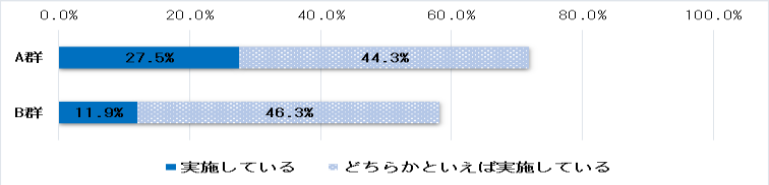
介護記録を通じたチーム内の職員への情報共有の指導の実施　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
常に指導している	52	22.2%	39	23.4%	13	19.4%
ある程度指導している	107	45.7%	80	47.9%	27	40.3%
どちらともいえない	35	15.0%	26	15.6%	9	13.4%
あまり指導できていない	27	11.5%	15	9.0%	12	17.9%
全く指導できていない	5	2.1%	1	0.6%	4	6.0%
無回答	8	3.4%	6	3.6%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



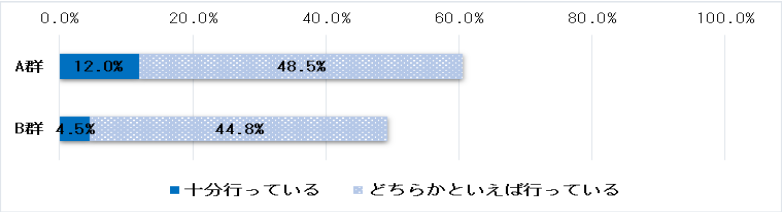
ケアの根拠の説明、指導（根拠に基づくケアの確認）　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	54	23.1%	46	27.5%	8	11.9%
どちらかといえば実施している	105	44.9%	74	44.3%	31	46.3%
どちらともいえない	47	20.1%	31	18.6%	16	23.9%
どちらかといえば実施していない	16	6.8%	10	6.0%	6	9.0%
全く実施していない	7	3.0%	2	1.2%	5	7.5%
無回答	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



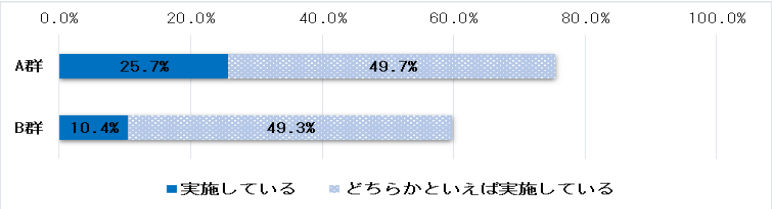
介護職員の行為や対応について、振り返りの支援　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
十分行っている	23	9.8%	20	12.0%	3	4.5%
どちらかといえば行っている	111	47.4%	81	48.5%	30	44.8%
どちらともいえない	54	23.1%	39	23.4%	15	22.4%
あまり行っていない	35	15.0%	21	12.6%	14	20.9%
全く行っていない	7	3.0%	3	1.8%	4	6.0%
無回答	4	1.7%	3	1.8%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



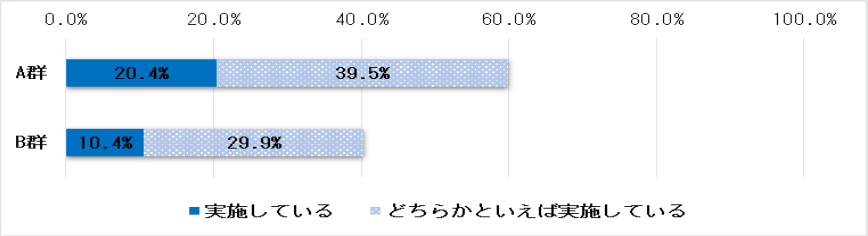
介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促し　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	50	21.4%	43	25.7%	7	10.4%
どちらかといえば実施している	116	49.6%	83	49.7%	33	49.3%
どちらともいえない	42	17.9%	28	16.8%	14	20.9%
どちらかといえば実施していない	14	6.0%	6	3.6%	8	11.9%
全く実施していない	6	2.6%	2	1.2%	4	6.0%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



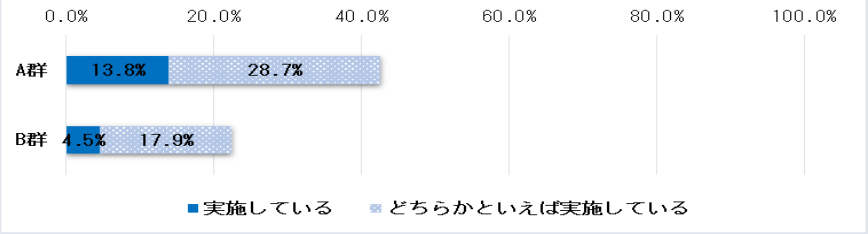
介護職員の目標達成状況の進捗確認　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	41	17.5%	34	20.4%	7	10.4%
どちらかといえば実施している	86	36.8%	66	39.5%	20	29.9%
どちらともいえない	59	25.2%	40	24.0%	19	28.4%
どちらかといえば実施していない	32	13.7%	18	10.8%	14	20.9%
全く実施していない	11	4.7%	5	3.0%	6	9.0%
無回答	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



OJT 指導報告、評価記録の作成　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
実施している	26	11.1%	23	13.8%	3	4.5%
どちらかといえば実施している	60	25.6%	48	28.7%	12	17.9%
どちらともいえない	63	26.9%	45	26.9%	18	26.9%
どちらかといえば実施していない	50	21.4%	31	18.6%	19	28.4%
全く実施していない	29	12.4%	15	9.0%	14	20.9%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



③ 指導者としての権限、対応経験等

指導者（アセッサー）自身が、業務ルールや学習方法等を提案し、実行できる立場にあるかどうか伺ったところ、A 群の方が B 群よりも、権限を有している割合が高く、実施率も上回る結果であった。

具体的な指導の姿勢として、職員へのクレームを受けて、担当職員の変更を迫られた経験はあるか、それを受けて、具体的な育成対応を行ったかを伺ったところ、担当者変更の経験は、B 群が若干上回っているものの、具体的な育成対応の実施については、A 群が 82.8%、B 群が 68.9%と、14 ポイント近くの差となった。

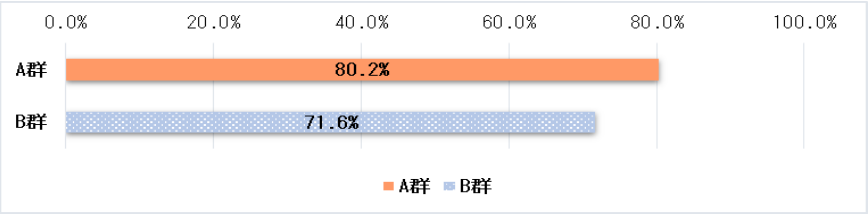
問題が起きた後に、育成対応を行うことができているかどうか、すなわち業務中に、教育が行われている実態が、示されていると読み取れる。

「指導」に際しての相談相手としては、両群ともに、「職場の上司」が最も多く（86.3%）、次いで職場の同僚（56.4%）、事業所内のケアマネジャー（22.6%）であった。

A 群では、事業所内の医療職（保健師、看護師、PT、ST）に相談している傾向が読み取れる。

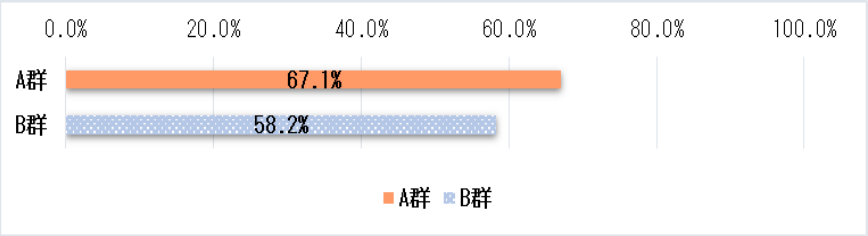
取り決めや取組、業務ルールや学習手法等を、自身が提案する権限　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
はい	182	77.8%	134	80.2%	48	71.6%
いいえ	19	8.1%	13	7.8%	6	9.0%
わからない	29	12.4%	17	10.2%	12	17.9%
無回答	4	1.7%	3	1.8%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



自身が提案した取り決めや取組、業務ルールや学習手法等を、実行した経験　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
はい	151	64.5%	112	67.1%	39	58.2%
いいえ	36	15.4%	23	13.8%	13	19.4%
わからない	39	16.7%	25	15.0%	14	20.9%
無回答	8	3.4%	7	4.2%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



指導者自身が発案し、実行したこと　（抜粋）

Ａ群

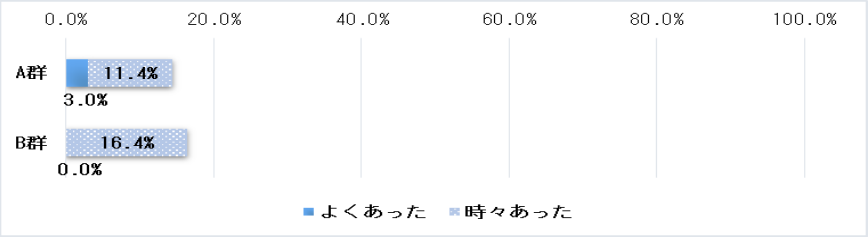
・介護技術テスト
・月１回の介護技術向上に関する情報提供を目的としたミーティング実施
・介護記録や報告書類の作成指導、実技指導、ロールプレイ研修
・認知症ケアにおける生活支援記録法の導入
・研修会の提案、研修マニュアル作成
・業務マニュアルの作成及び実行
・情報の指示伝達の方法、ソフト導入、運用方法のルール決め
・排泄介助勉強会、研究グループを設置し、改善に向け取り組む
・担当のユニットで、その日一日をまとめるリーダーの発案、実施　他

Ｂ群

・新人職員に対して介護技術指導（Off-JT）
・利用者に合わせた排泄方法等の統一
・水分量や下剤服用のルールを取り決めた
・タイムスケジュールの見直し
・外国人技能実習生の受け入れにともなう方針、マニュアル等の整備
・カンファレンスの時短について、書類の簡素化
・ICT 化による業務改善　他

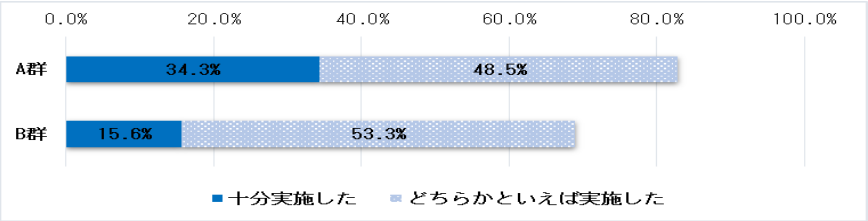
介護職員の行為や対応へのクレームを受け、担当職員を変更した経験　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
よくあった	5	2.1%	5	3.0%	0	0.0%
時々あった	30	12.8%	19	11.4%	11	16.4%
たまにあった	109	46.6%	75	44.9%	34	50.7%
全くない	63	26.9%	49	29.3%	14	20.9%
わからない	23	9.8%	17	10.2%	6	9.0%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



クレームを受けての担当職員変更後に行った、教育・育成策　N＝144

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
十分実施した	41	28.5%	34	34.3%	7	15.6%
どちらかといえば実施した	72	50.0%	48	48.5%	24	53.3%
どちらともいえない	21	14.6%	12	12.1%	9	20.0%
あまり実施していない	8	5.6%	3	3.0%	5	11.1%
全く実施していない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	1.4%	2	2.0%	0	0.0%
合計	144	100.0%	99	100.0%	45	100.0%



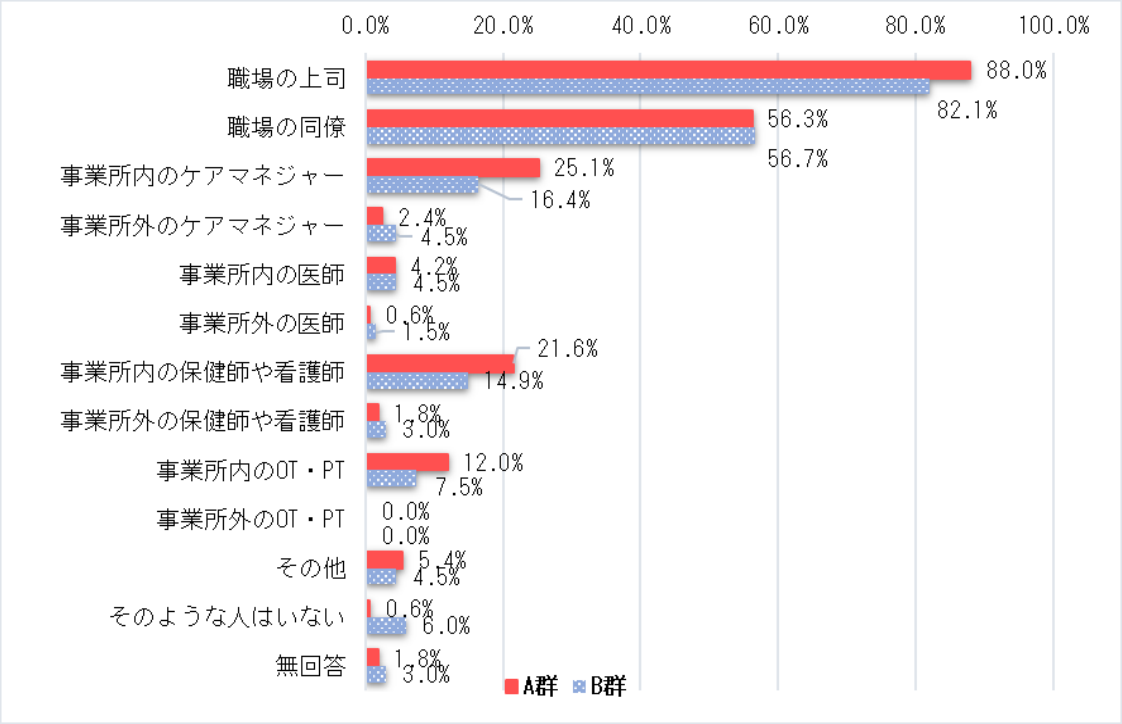
クレームを受けての担当職員変更後に行った、教育・育成策（抜粋）

A 群
- なぜそのように対応したのか、振り返り、気づきを促す
- 事実関係の確認、クレームにつながった理由を考えてもらう、今後どうすべきか行動を考えてもらう
- 面談（問題点、反省点の共有）指導、個人目標の設定、評価を繰り返す
- コミュニケーションについての研修を実施
- 研修の企画、実施、事例検討　他

B 群
- 職員、利用者様及びご家族様で会合を開催した
- 言葉づかいを気をつけるよう指導した
- 口頭での注意。利用者の立場に立って物を考えることの大切さ等
- 基礎とレポート（1回のふり返り）提出
- 上司に相談し、本人と交えて面談し今後の注意点等指摘し具体的なアドバイスをした　他

「指導」に関する相談相手　　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
職場の上司	202	86.3%	147	88.0%	55	82.1%
職場の同僚	132	56.4%	94	56.3%	38	56.7%
事業所内のケアマネジャー	53	22.6%	42	25.1%	11	16.4%
事業所外のケアマネジャー	7	3.0%	4	2.4%	3	4.5%
事業所内の医師	10	4.3%	7	4.2%	3	4.5%
事業所外の医師	2	0.9%	1	0.6%	1	1.5%
事業所内の保健師や看護師	46	19.7%	36	21.6%	10	14.9%
事業所外の保健師や看護師	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
事業所内のOT・PT	25	10.7%	20	12.0%	5	7.5%
事業所外のOT・PT	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	12	5.1%	9	5.4%	3	4.5%
そのような人はいない	5	2.1%	1	0.6%	4	6.0%
無回答	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
合計	234		167		67	



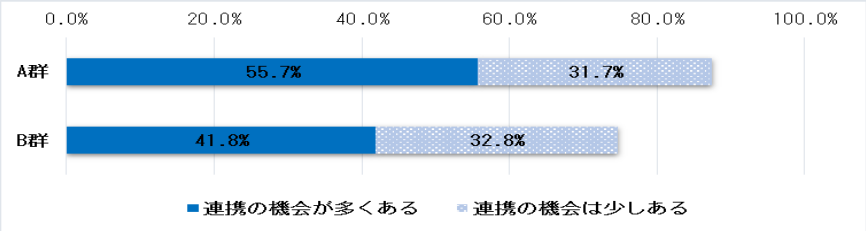
④ 指導者としての機会の設定

日頃の業務において、他職種との連携機会について伺ったところ、A 群では、「連携の機会を設けている」が 87.4%、「介護職員に他職種カンファレンスへの参加を促している」が 59.9%との回答であった。B 群ではいずれも 10 ポイント近く低い結果であった。

OJT 取組事業所（レベル認定輩出実績事業所）では、介護職と専門職連携の機会が設けられていること、また連携にむけて、指導者からの促しがあるとの傾向が読み取れる。

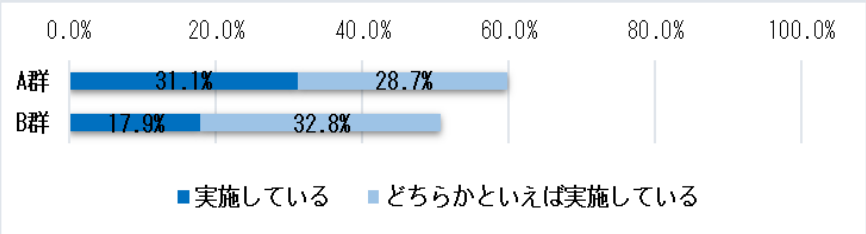
医療職やリハ職、管理栄養士等、他の専門職との連携する機会の設定　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
連携の機会が多くある	121	51.7%	93	55.7%	28	41.8%
連携の機会は少しある	75	32.1%	53	31.7%	22	32.8%
どちらともいえない	15	6.4%	10	6.0%	5	7.5%
あまり連携の機会がない	14	6.0%	7	4.2%	7	10.4%
全く連携の機会がない	3	1.3%	1	0.6%	2	3.0%
無回答	6	2.6%	3	1.8%	3	4.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



介護職員の他職種カンファレンス参加機会の促し　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
実施している	64	27.4%	52	31.1%	12	17.9%
どちらかといえば実施している	70	29.9%	48	28.7%	22	32.8%
どちらともいえない	56	23.9%	40	24.0%	16	23.9%
どちらかといえば実施していない	24	10.3%	15	9.0%	9	13.4%
全く実施していない	14	6.0%	8	4.8%	6	9.0%
無回答	6	2.6%	4	2.4%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



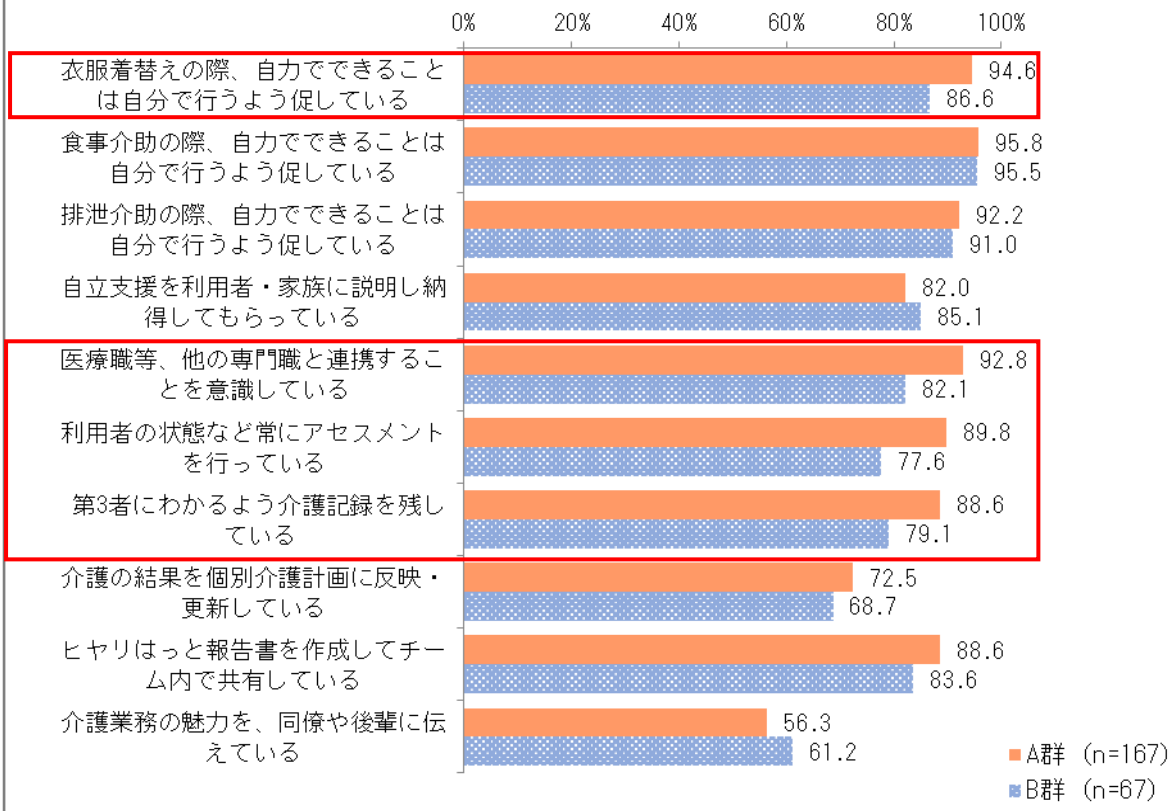
（５）指導者（アセッサー）自身の提供ケアについて

① 指導者（アセッサー）自身の提供ケアについて

指導者自身の日頃の提供ケアの実施状況について伺ったところ、以下の 10 項目のうち、８項目において、A 群が B 群を上回る結果であった。他職種連携に関する項目（「他の専門職と連携することを意識している」（A 群：92.8%、B 群：82.1%））、「利用者の状態等アセスメントを行うことを心がけて介護を行っている」（A 群：89.8%、B 群：77.6%）、「自身が行った介護について第三者にわかるよう介護記録を残している」（A 群:88.6%、B 群:79.1%）といった「根拠に基づくケア」に係る事項につき、両群の実施状況に差がみられた。

この点、指導方法や内容の差だけでなく、指導者自身が提供しているケアについても、「根拠」に関する意識や実施の差としてあらわれたもの、と解釈できる。

指導者（アセッサー）自身の提供ケアについて　N=234「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計（%）

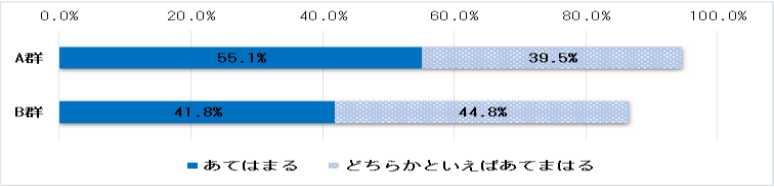


内訳として、「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合をみてみると、B 群において、「ややあてはまる」との回答傾向であり、指導者自身の提供ケアについて、やや曖昧な姿勢で臨んでいる可能性も、読み取れる。

利用者の衣服着替えの際、ボタンの取り外し等自力でできることは自分で行うよう促している

N＝234

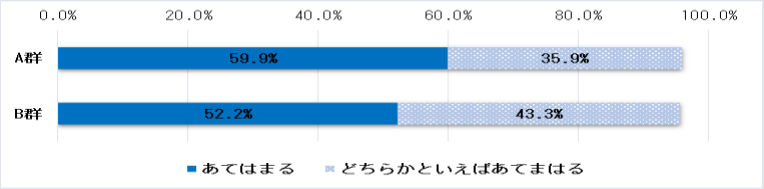
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	120	51.3%	92	55.1%	28	41.8%
どちらかといえばあてはまる	96	41.0%	66	39.5%	30	44.8%
どちらかといえばあてはまらない	11	4.7%	5	3.0%	6	9.0%
全くあてはまらない	1	0.4%	0	0.0%	1	1.5%
無回答	6	2.6%	4	2.4%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



利用者の食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促し、必要時に介助を行うようにしている

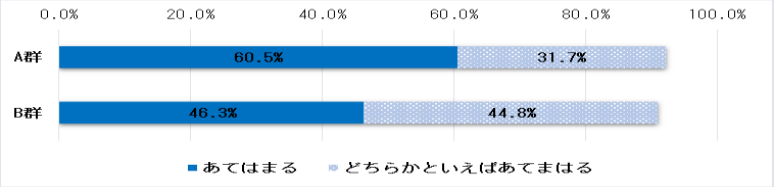
N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	135	57.7%	100	59.9%	35	52.2%
どちらかといえばあてはまる	89	38.0%	60	35.9%	29	43.3%
どちらかといえばあてはまらない	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
全くあてはまらない	1	0.4%	0	0.0%	1	1.5%
無回答	4	1.7%	3	1.8%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



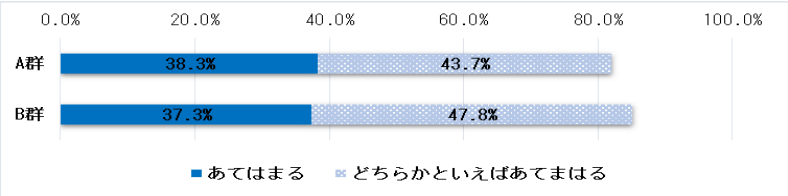
利用者の排泄介助の際、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらう等自力でできることは自分で行うよう促している　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	132	56.4%	101	60.5%	31	46.3%
どちらかといえばあてはまる	83	35.5%	53	31.7%	30	44.8%
どちらかといえばあてはまらない	13	5.6%	10	6.0%	3	4.5%
全くあてはまらない	2	0.9%	0	0.0%	2	3.0%
無回答	4	1.7%	3	1.8%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



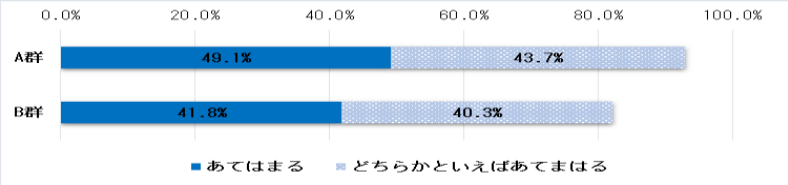
自立支援を目的とした介護の実施について、利用者・家族に説明し納得してもらい、利用者の元気なころの生活環境の維持を目指すようにしている　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	89	38.0%	64	38.3%	25	37.3%
どちらかといえばあてはまる	105	44.9%	73	43.7%	32	47.8%
どちらかといえばあてはまらない	29	12.4%	22	13.2%	7	10.4%
全くあてはまらない	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



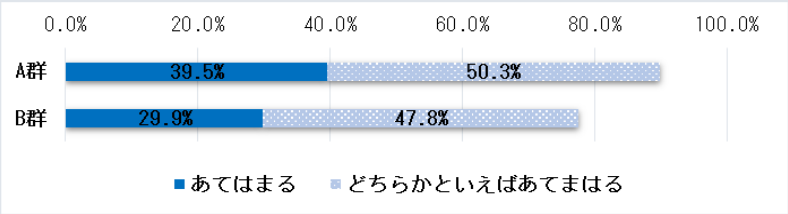
医療職やリハ職等、他の専門職と連携することを意識して介護を行っている　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	110	47.0%	82	49.1%	28	41.8%
どちらかといえばあてはまる	100	42.7%	73	43.7%	27	40.3%
どちらかといえばあてはまらない	16	6.8%	8	4.8%	8	11.9%
全くあてはまらない	1	0.4%	0	0.0%	1	1.5%
無回答	7	3.0%	4	2.4%	3	4.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



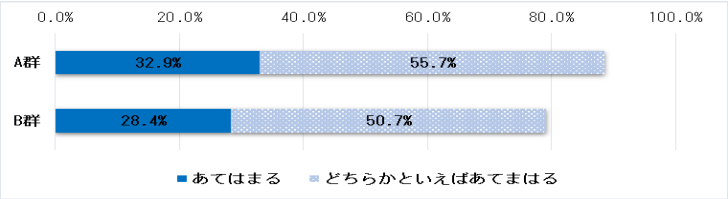
利用者の状態等常にアセスメントを行うことを心掛けて介護を行っている　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	86	36.8%	66	39.5%	20	29.9%
どちらかといえばあてはまる	116	49.6%	84	50.3%	32	47.8%
どちらかといえばあてはまらない	25	10.7%	12	7.2%	13	19.4%
全くあてはまらない	3	1.3%	2	1.2%	1	1.5%
無回答	4	1.7%	3	1.8%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



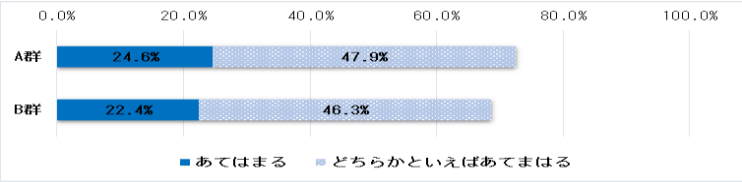
自身が行った介護について第３者にわかるよう介護記録を残している　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	74	31.6%	55	32.9%	19	28.4%
どちらかといえばあてまはる	127	54.3%	93	55.7%	34	50.7%
どちらかといえばあてはまらない	26	11.1%	14	8.4%	12	17.9%
全くあてはまらない	1	0.4%	0	0.0%	1	1.5%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



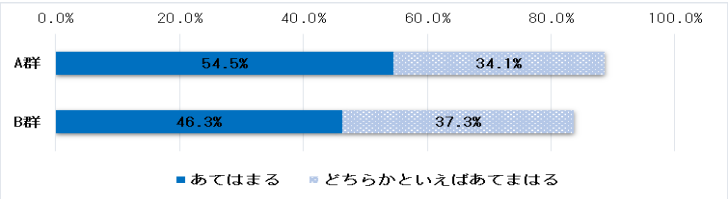
日々の介護の結果を個別介護計画に反映・更新している　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	56	23.9%	41	24.6%	15	22.4%
どちらかといえばあてまはる	111	47.4%	80	47.9%	31	46.3%
どちらかといえばあてはまらない	54	23.1%	37	22.2%	17	25.4%
全くあてはまらない	7	3.0%	4	2.4%	3	4.5%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



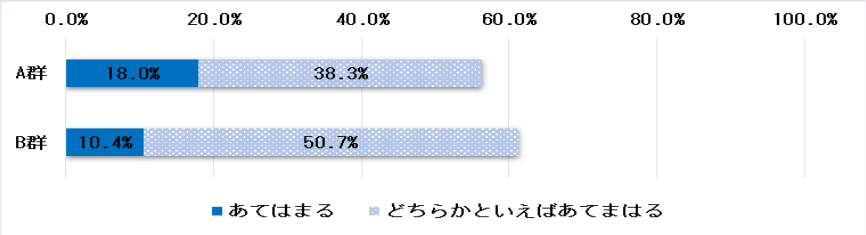
ヒヤッとしたことやハットしたことについて、報告書を作成してチーム内で共有している　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	122	52.1%	91	54.5%	31	46.3%
どちらかといえばあてまはる	82	35.0%	57	34.1%	25	37.3%
どちらかといえばあてはまらない	19	8.1%	11	6.6%	8	11.9%
全くあてはまらない	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
無回答	6	2.6%	5	3.0%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている　N＝234

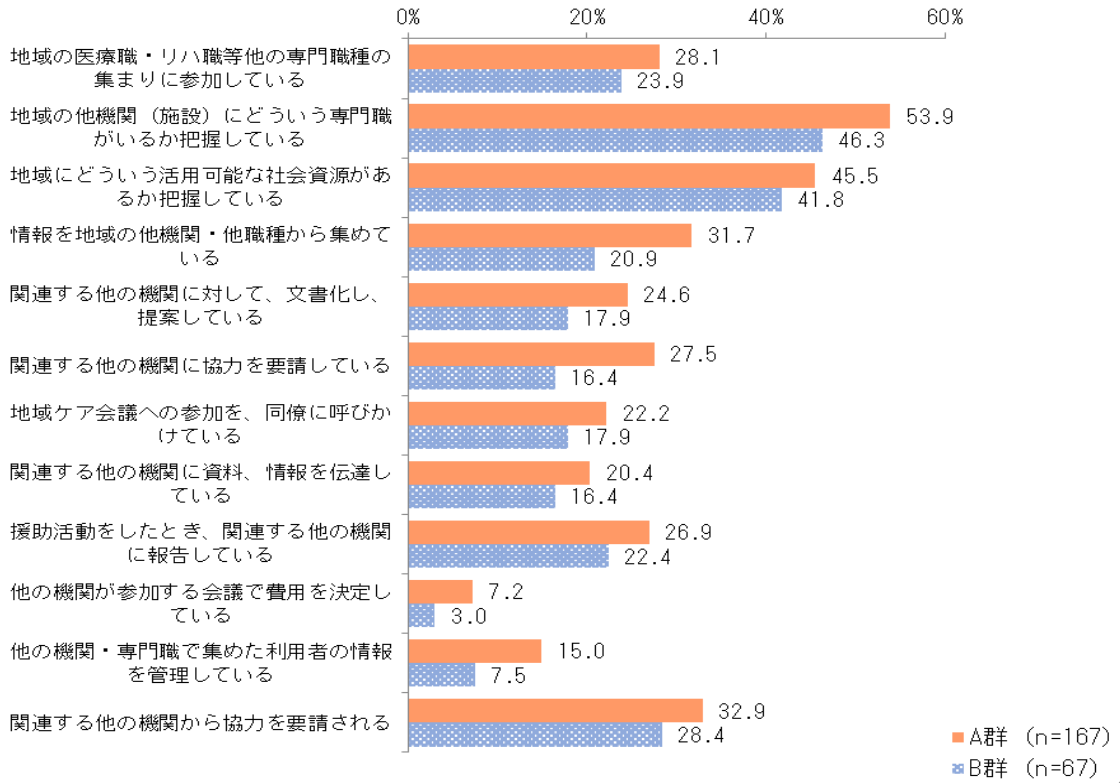
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	37	15.8%	30	18.0%	7	10.4%
どちらかといえばあてまはる	98	41.9%	64	38.3%	34	50.7%
どちらかといえばあてはまらない	77	32.9%	57	34.1%	20	29.9%
全くあてはまらない	17	7.3%	12	7.2%	5	7.5%
無回答	5	2.1%	4	2.4%	1	1.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



② 地域連携の取組の状況

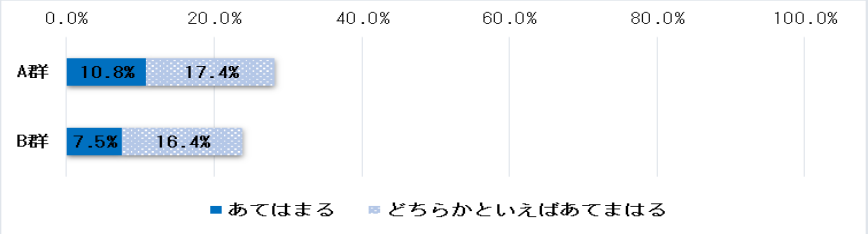
地域連携の取組について実施状況を伺ったところ、「あてはまる」「ややあてはまる」の計では、全 12 項目において、A 群が B 群を上回っている結果であり、他の設問項目でみられた結果と同様に、A 群の方が地域連携に取り組んでいる傾向が読み取れる。

地域連携の取組の状況 N=234 「あてはまる」「ややあてはまる」の計（%）



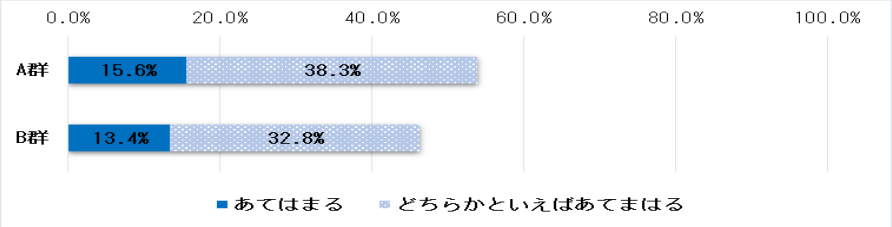
地域の医療職･リハ職等他の専門職種の集まりに参加している N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	23	9.8%	18	10.8%	5	7.5%
どちらかといえばあてはまる	40	17.1%	29	17.4%	11	16.4%
どちらかといえばあてはまらない	82	35.0%	60	35.9%	22	32.8%
全くあてはまらない	85	36.3%	58	34.7%	27	40.3%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



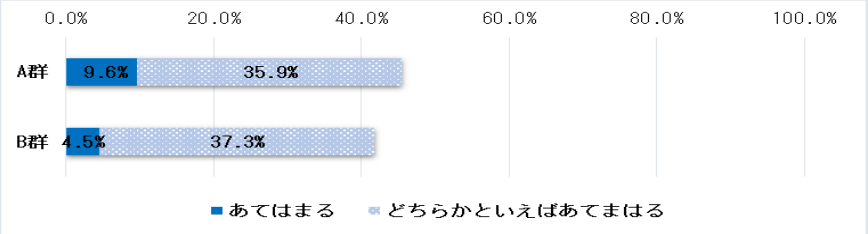
地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している　N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	35	15.0%	26	15.6%	9	13.4%
どちらかといえばあてまはる	86	36.8%	64	38.3%	22	32.8%
どちらかといえばあてはまらない	69	29.5%	46	27.5%	23	34.3%
全くあてはまらない	39	16.7%	28	16.8%	11	16.4%
無回答	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している　N＝234

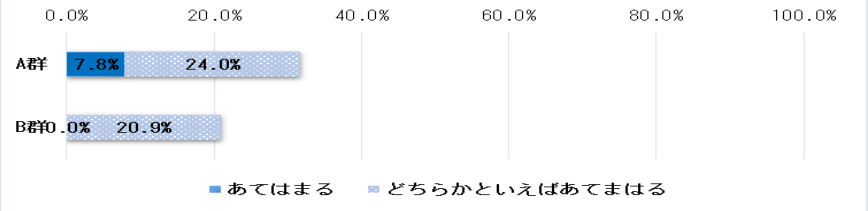
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	19	8.1%	16	9.6%	3	4.5%
どちらかといえばあてまはる	85	36.3%	60	35.9%	25	37.3%
どちらかといえばあてはまらない	92	39.3%	65	38.9%	27	40.3%
全くあてはまらない	34	14.5%	24	14.4%	10	14.9%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



サービス提供に必要な知識や情報を地域の他機関・他職種（住民組織を含む）から集めている

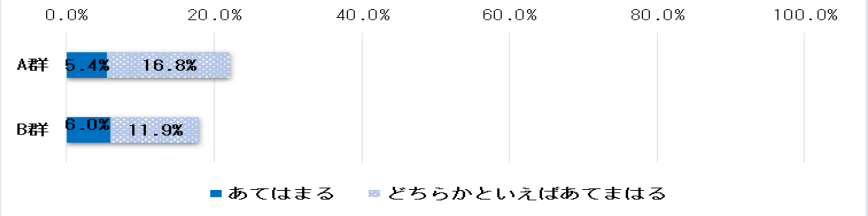
N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	13	5.6%	13	7.8%	0	0.0%
どちらかといえばあてまはる	54	23.1%	40	24.0%	14	20.9%
どちらかといえばあてはまらない	95	40.6%	61	36.5%	34	50.7%
全くあてはまらない	68	29.1%	51	30.5%	17	25.4%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



地域における事例検討会等の説明会や地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている N＝234

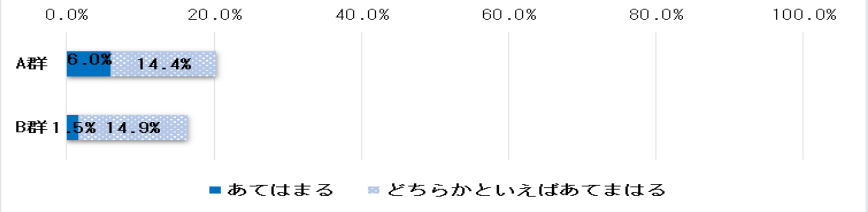
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	13	5.6%	9	5.4%	4	6.0%
どちらかといえばあてまはる	36	15.4%	28	16.8%	8	11.9%
どちらかといえばあてはまらない	87	37.2%	58	34.7%	29	43.3%
全くあてはまらない	94	40.2%	70	41.9%	24	35.8%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



自分の業務内容について、関連する他の機関（住民組織を含む）に資料、情報を伝達している

N＝234

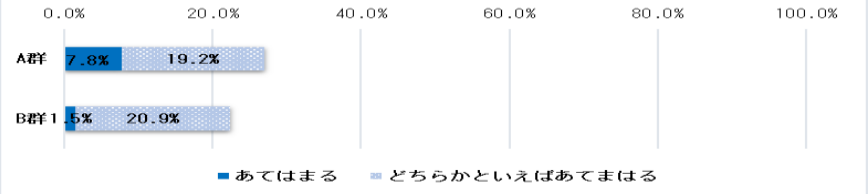
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	11	4.7%	10	6.0%	1	1.5%
どちらかといえばあてまはる	34	14.5%	24	14.4%	10	14.9%
どちらかといえばあてはまらない	88	37.6%	58	34.7%	30	44.8%
全くあてはまらない	98	41.9%	74	44.3%	24	35.8%
無回答	3	1.3%	1	0.6%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



住民・利用者に対して援助活動をしたとき、進行状況や結果を、関連する他の機関に報告している

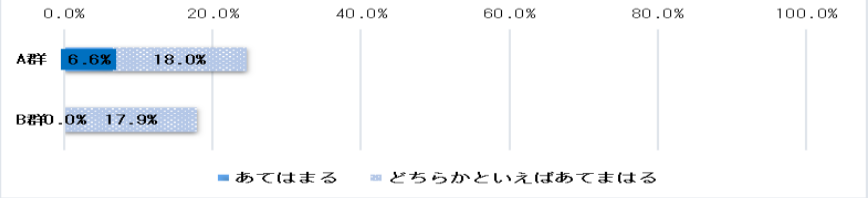
N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	14	6.0%	13	7.8%	1	1.5%
どちらかといえばあてまはる	46	19.7%	32	19.2%	14	20.9%
どちらかといえばあてはまらない	80	34.2%	51	30.5%	29	43.3%
全くあてはまらない	90	38.5%	69	41.3%	21	31.3%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



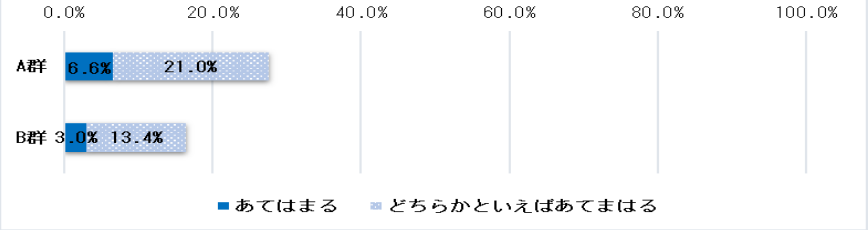
相談内容や問題状況を基に、関連する他の機関に対して、必要とされるサービスの内容を文章化し、提案している　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	11	4.7%	11	6.6%	0	0.0%
どちらかといえばあてはまる	42	17.9%	30	18.0%	12	17.9%
どちらかといえばあてはまらない	81	34.6%	53	31.7%	28	41.8%
全くあてはまらない	94	40.2%	70	41.9%	24	35.8%
無回答	6	2.6%	3	1.8%	3	4.5%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



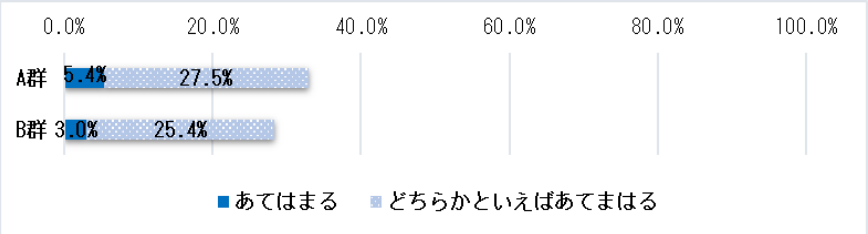
関連する他の機関（住民組織を含む）に協力を要請している　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	13	5.6%	11	6.6%	2	3.0%
どちらかといえばあてはまる	44	18.8%	35	21.0%	9	13.4%
どちらかといえばあてはまらない	77	32.9%	49	29.3%	28	41.8%
全くあてはまらない	96	41.0%	70	41.9%	26	38.8%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



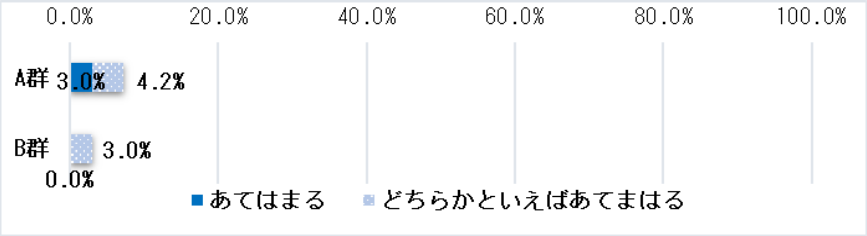
関連する他の機関（住民組織を含む）から協力を要請される　N＝234

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	11	4.7%	9	5.4%	2	3.0%
どちらかといえばあてはまる	63	26.9%	46	27.5%	17	25.4%
どちらかといえばあてはまらない	60	25.6%	39	23.4%	21	31.3%
全くあてはまらない	97	41.5%	72	43.1%	25	37.3%
無回答	3	1.3%	1	0.6%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



複数の関連する他の機関（住民組織を含む）が参加する会議等において、自分で一定の費用を決定している　N＝234

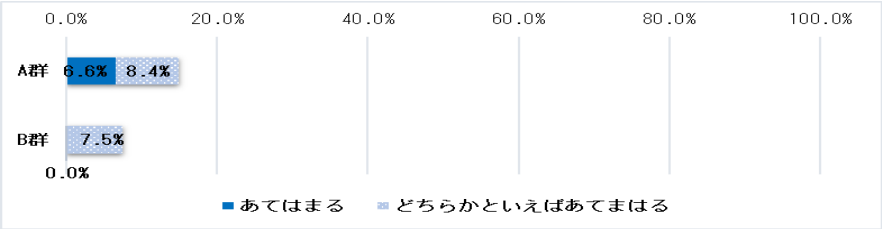
			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	5	2.1%	5	3.0%	0	0.0%
どちらかといえばあてまはる	9	3.8%	7	4.2%	2	3.0%
どちらかといえばあてはまらない	55	23.5%	37	22.2%	18	26.9%
全くあてはまらない	161	68.8%	116	69.5%	45	67.2%
無回答	4	1.7%	2	1.2%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



複数の関連する他の機関（住民組織を含む）・専門職で集めた利用者の情報を管理している

N＝234

			A群		B群	
	数	割合	数	割合	数	割合
あてはまる	11	4.7%	11	6.6%	0	0.0%
どちらかといえばあてまはる	19	8.1%	14	8.4%	5	7.5%
どちらかといえばあてはまらない	64	27.4%	40	24.0%	24	35.8%
全くあてはまらない	135	57.7%	99	59.3%	36	53.7%
無回答	5	2.1%	3	1.8%	2	3.0%
合計	234	100.0%	167	100.0%	67	100.0%



（６）職務環境、仕事について

現在の職場や仕事について、どのように感じているか、職務忠誠度、バーンアウト尺度等を用いて伺ったところ、肯定的な質問に関して、A 群が B 群を上回っている項目が多い結果となった。

例えば、「職場で、上司や同僚からのサポートが得られている」については、A 群が 60.5%に対し、B 群の回答は 49.3%、「職場では、スキルアップにむけてのサポートがある」については、A 群が 38.9%、B 群が 28.4%と、A 群では、職場におけるサポート体制がはかられている傾向が示されている。

「納得のいく勤務体制」、「他の介護職員や他職種との連携」など、事業所と現場のマネジメントの機能と関わる項目において差がみられる。

職場に関しては、「今の職場は働きやすい」「今の職場で働き続けたい」、「事業所の理念やケア方針について、共感・同意している」との回答が A 群は B 群よりも上回っている。

「仕事を通じて自分が成長していると感じる」、「自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる」、「仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている」等、日々の業務における成長実感や、成長意欲を引き立たせる状況や環境が伺える。

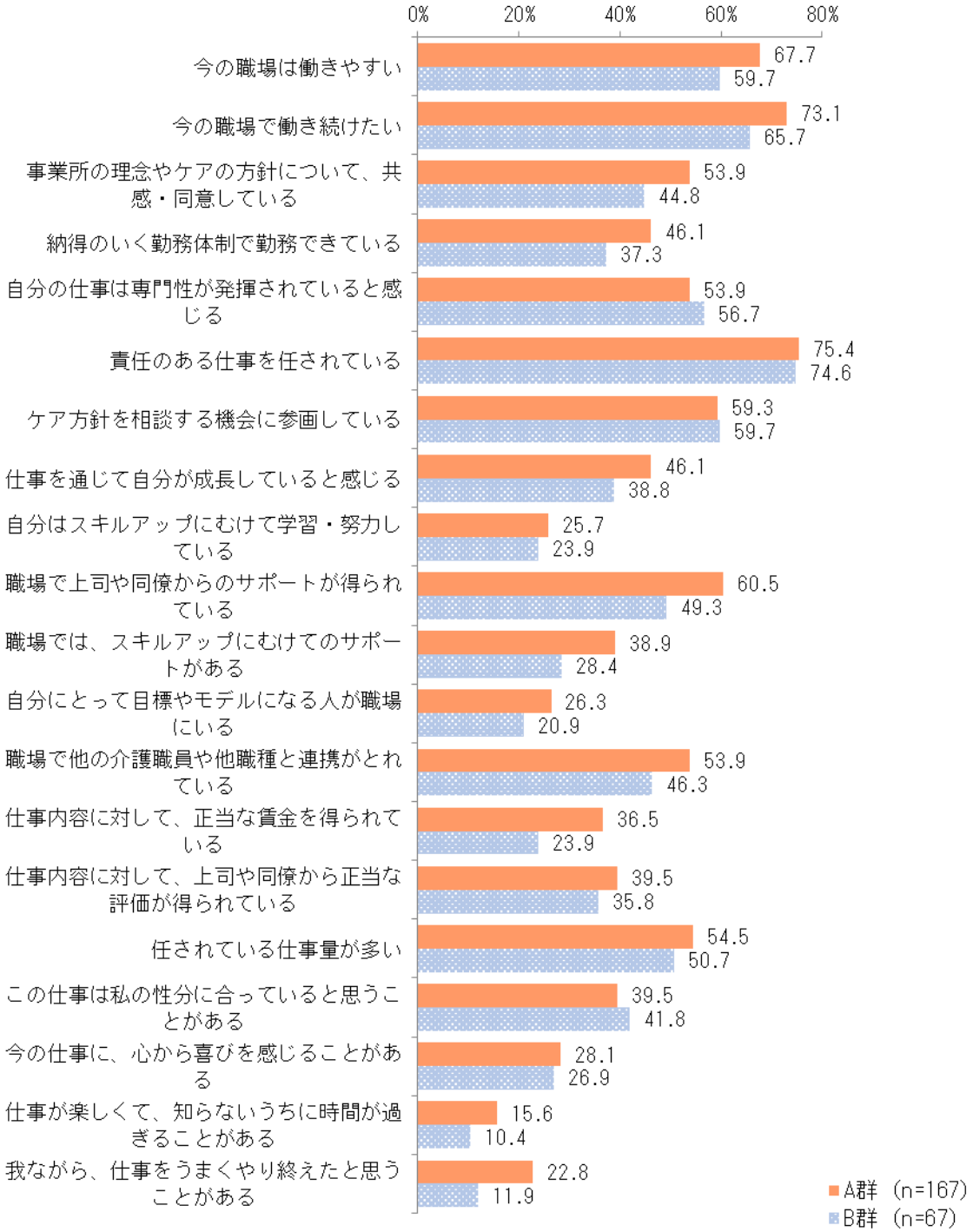
「我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある」の項目についても、A 群と B 群では約 10%の差となっている。

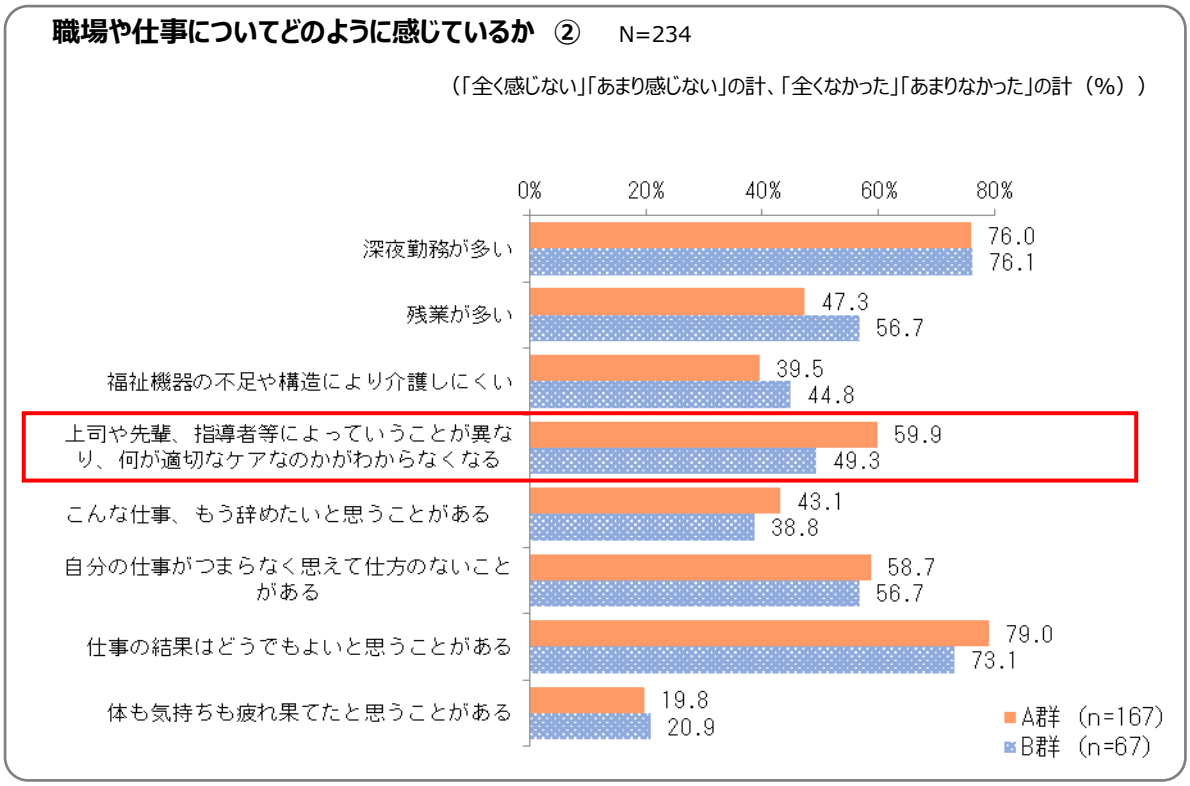
人材育成に指導者として取り組む中で、A 群の傾向として、「指導者へのサポート体制」や、「スキルアップのサポート体制」があること、すなわち、指導者に係る育成支援がシステム化されていると読み取ることができる。

職場や仕事についてどのように感じているかについては、A 群において「残業が多い」との回答が B 群を上回った。この点、勤務時間に関する設問においても、A 群の方が平均の勤務時間、残業時間、夜勤日数につき、B 群よりも高い結果となっている。調査結果からは、A 群の方がアセッサーとしての業務や、事業所において、介護に係る多様な人材を受け入れて、育成を行っている傾向、医療連携や地域連携といった、多方面連携がはかられている傾向等が、本回答につながっている可能性も伺える。

職場や仕事についてどのように感じているか ① N=234

（「いつも感じる」「よく感じる」の計、「いつもあった」「よくあった」の計（%））





介護労働者のストレスに関する調査（平成 28 年度　介護労働実態調査　特別調査）によると、「仕事内容の割に賃金が低い」につき、「あまり感じない」「全く感じない」の計は、9.3%、「勤務体制（シフト）が自分の希望通りにならない」につき、「あまり感じない」「全く感じない」の計は、27.3%であった。

「この仕事は私の性分にあっていると思うことがある」については、「いつもあった」「よくあった」の計は 19.2%、「今の仕事に、心から喜びを感じることがある」については、「いつもあった」「よくあった」の計は 16.9%である。

今回の調査結果では、「正当な賃金を得られている」につき、全体で 32.9%（A 群:36.5%）、「納得のいく勤務体制」では、全体で 43.6%（A 群：46.1%）、「この仕事は私の性分にあっている」は、全体で 40.2%（A 群：39.5%）、「今の仕事に、心から喜びを感じることがある」は、全体で 27.8%（A 群：28.1%）と、いずれも先行調査のデータと乖離した結果となっている。単純な比較はできないものの、A・B 両群ともに、納得のいく条件で、やりがいをもって働いている、と読み取ることができる。

また、仕事や職場に関して、マイナスのモチベーションに働くとされる質問項目からは、事業所の育成指導指針の標準化がはかられている傾向（「上司や先輩、指導者等により何が適切なケアなのかがわからなくなる」全く・あまりないの計　A 群：59.9%、B 群：49.3%）が読み取れ、A 群の方がケア方針につき、事業所内の統制や標準化がはかられていると読み取れる。

（７）統計的検定の実施

指導者調査についても、事業所調査と同様、A 群・B 群の 2 つの母集団について、統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチの t 検定」を採用した。

＜条件＞

・2 群は異なる集団である（対応のないデータ）
・2 群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
・サンプルサイズ（2 群計）が 30～500 である
・母集団において 2 群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチの t 検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T 値」を算出し、「T 値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において 2 群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2 群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T値 = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

Ｔ値　≧　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえる
Ｔ値　＜　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量Ｔ」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

Ｔ値　≧　棄却限界値　「差がある」
Ｔ値　＜　棄却限界値　「差がない」

とした。

指導者調査におけるｔ検定結果一覧表（1/2）

	番号	調査項目	t検定										
			A群			B群			T値	自由度	棄却限界値	T値 -棄却限界値	2群差異
			サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差					
職場環境整備の取組	5-(1)⑭	指導・評価結果の人事制度への反映	162	6.50	2.60	63	5.36	2.81	2.80	105.46	1.98	0.82	差がある
人材育成体制の整備	5-(1)③	スキルアッププランやパスの提示	158	6.54	2.47	65	5.53	2.46	2.78	119.85	1.98	0.80	差がある
	5-(1)⑤	介護技術に関する指標・基準等の明文化	160	6.55	2.60	66	5.70	2.48	2.29	126.52	1.98	0.31	差がある
	5-(1)⑯	指導者に対する支援・サポート	163	7.43	1.96	65	6.39	2.38	3.13	100.59	1.98	1.15	差がある
	5-(4)	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを提案する権限	147	9.20	2.56	54	9.00	2.83	0.47	86.72	1.99	-1.52	差がない
	5-(5)	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などの実行経験	135	8.47	3.38	52	7.75	3.90	1.17	82.28	1.99	-0.82	差がない
	5-(1)⑮	他職種カンファレンス参加の促し	163	7.16	2.56	65	6.36	2.68	2.07	113.23	1.98	0.09	差がある
	5-(11)	医療職等、他の専門職との連携する機会の設定	164	8.64	1.87	64	7.84	2.49	2.32	92.20	1.99	0.33	差がある
人材育成の取組 OJTの展開	5-(1)①	経営理念、人材育成方針の伝達	162	7.32	2.44	66	6.88	2.43	1.24	121.36	1.98	-0.74	差がない
	5-(1)②	育成計画の作成・提示	161	7.08	2.62	66	6.10	2.65	2.54	119.72	1.98	0.56	差がある
	5-(1)④	スキルアップにむけた目標設定や目標管理	160	7.22	2.31	66	6.07	2.53	3.16	112.00	1.98	1.18	差がある
	5-(1)⑥	介護職員との面談	162	7.56	2.49	65	6.77	2.75	2.00	108.48	1.98	0.02	差がある
	5-(1)⑦	介護技術指導	163	7.61	2.25	65	6.67	2.22	2.89	119.58	1.98	0.91	差がある
	5-(1)⑧	現場での現認・指導	163	7.16	2.52	66	6.44	2.49	1.97	121.84	1.98	-0.01	差がない
	5-(1)⑨	介護記録や報告書類の作成指導	163	7.68	2.11	66	6.30	2.59	3.82	101.42	1.98	1.84	差がある
	5-(7)	介護記録の分析の指導	162	6.06	2.37	66	5.36	2.54	1.93	113.82	1.98	-0.05	差がない
	5-(6)	介護記録を通じた情報共有の指導	161	7.45	2.02	65	6.63	2.63	2.26	95.94	1.99	0.27	差がある
	5-(1)⑩	ケアの根拠の説明・指導	163	7.58	2.03	66	6.54	2.37	3.13	105.72	1.98	1.15	差がある
	5-(8)	介護職員の行為や対応の振り返り支援	164	6.77	2.06	66	5.97	2.27	2.50	110.24	1.98	0.52	差がある
	5-(1)⑫	気づき支援、ケア内容改善の促し	162	7.68	1.87	66	6.54	2.30	3.59	101.80	1.98	1.61	差がある
	5-(1)⑪	目標達成状況の進捗確認	163	6.95	2.29	66	5.77	2.53	3.28	110.31	1.98	1.30	差がある
	5-(1)⑬	OJT指導報告、評価記録の作成	162	5.95	2.63	66	4.52	2.55	3.82	123.86	1.98	1.84	差がある
人材育成取組結果	7-(1)⑧	介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	162	7.11	2.55	66	6.78	2.72	0.84	114.18	1.98	-1.14	差がない
	7-(1)①	衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している	163	8.86	1.49	65	8.18	2.13	2.36	90.21	1.99	0.37	差がある
	7-(1)②	食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	164	9.00	1.42	66	8.75	1.63	1.06	106.62	1.98	-0.92	差がない
	7-(1)③	排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	164	8.85	1.77	66	8.38	2.07	1.63	105.26	1.98	-0.35	差がない
	7-(1)④	自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	162	7.89	2.35	66	7.90	2.32	0.04	122.07	1.98	-1.94	差がない
	7-(1)⑥	利用者の状態など常にアセスメントを行っている	164	8.22	1.95	66	7.43	2.45	2.34	99.83	1.99	0.35	差がある
	7-(1)⑦	第3者にわかるよう介護記録を残している	162	8.10	1.82	66	7.46	2.38	1.96	97	1.98	-0.02	差がない
	7-(1)⑨	ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している	162	8.57	2.09	66	8.04	2.46	1.52	105	1.98	-0.46	差がない
	7-(1)⑩	介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	163	6.09	2.91	66	6.10	2.70	0.03	129.12	1.98	-1.95	差がない
	7-(1)⑤	医療職等、他の専門職と連携することを意識している	163	8.64	1.65	64	8.05	2.30	1.87	89.53	1.99	-0.12	差がない
地域連携取組結果	7-(1)⑪	地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	165	4.00	3.11	65	3.60	2.97	0.89	122	1.98	-1.09	差がない
	7-(1)⑫	地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	164	5.69	3.14	65	5.33	3.09	0.79	119.35	1.98	-1.19	差がない
	7-(1)⑬	地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	165	5.22	2.91	65	4.95	2.76	0.65	123.30	1.98	-1.33	差がない
	7-(1)⑭	情報を地域の他機関・他職種から集めている	165	4.18	3.01	65	3.65	2.33	1.44	150.58	1.98	-0.54	差がない
	7-(1)⑱	関連する他の機関に対して、文書化し、提案している	164	3.57	2.96	64	3.26	2.37	0.83	142.47	1.98	-1.15	差がない
	7-(1)⑲	関連する他の機関に協力を要請している	165	3.70	3.03	65	3.20	2.48	1.31	142.01	1.98	-0.67	差がない
	7-(1)⑮	地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている	165	3.44	2.82	65	3.40	2.66	0.08	123.71	1.98	-1.90	差がない
	7-(1)⑯	自分の業務内容について、関連する他の機関に資料、情報を伝えている	166	3.31	2.80	65	3.23	2.37	0.23	137.36	1.98	-1.75	差がない
	7-(1)⑰	援助活動をしたとき、関連する他の機関に報告している	165	3.72	3.05	65	3.61	2.54	0.28	139.70	1.98	-1.70	差がない
	7-(1)㉑	他の機関が参加する会議で費用を決定している	165	2.07	2.10	65	1.84	1.46	0.94	167.00	1.98	-1.04	差がない
	7-(1)㉒	他の機関・専門職で集めた利用者の情報を管理している	164	2.74	2.75	65	2.36	1.88	1.17	169.98	1.98	-0.81	差がない
	7-(1)⑳	関連する他の機関から協力を要請される	166	3.88	3.12	65	3.77	2.87	0.26	126.40	1.98	-1.72	差がない
キャリア段位取組と効果	4-(3)	キャリア段位を用いた、介護技術向上に向けたOJT実績	151	6.66	3.00	60	4.30	3.47	4.63	95.76	1.99	2.64	差がある
	4-(1)	アセッサーとしての業務実施	162	4.36	3.20	65	2.40	1.92	5.66	191.21	1.98	3.68	差がある
	4-(4)	根拠に基づく介護を行うことの意識向上	155	7.88	1.92	55	6.15	2.62	4.47	75.63	1.99	2.48	差がある
	4-(5)	介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上	157	7.87	1.94	56	6.06	2.40	5.10	82.20	1.99	3.11	差がある

指導者調査におけるｔ検定結果一覧表（2/2）

	番号	調査項目	t検定										
			A群			B群			T値	自由度	棄却限界値	T値 -棄却限界値	2群差異
			サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差					
モチベーションプラス要因	6-(1)	今の職場は働きやすいか	165	7.18	2.12	66	7.09	2.43	0.28	106.78	1.98	-1.70	差がない
	6-(2)	今の職場で働き続けたいか	165	7.48	3.03	66	7.16	3.44	0.64	107.40	1.98	-1.34	差がない
	6-(3)⑦	事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	166	6.83	1.96	67	6.29	2.06	1.82	116.54	1.98	-0.16	差がない
	6-(3)②	納得のいく勤務体制で勤務できている	165	6.30	2.41	67	5.70	2.52	1.66	117.48	1.98	-0.32	差がない
	6-(3)⑪	自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	165	6.85	2.15	67	6.73	2.33	0.38	114.31	1.98	-1.60	差がない
	6-(3)⑨	責任のある仕事を任されている	165	7.87	1.83	67	7.77	2.03	0.34	111.90	1.98	-1.64	差がない
	6-(3)⑩	ケア方針を相談する機会に参画している	164	7.05	2.20	67	6.70	2.51	1.00	109.58	1.98	-0.98	差がない
	6-(3)⑫	仕事を通じて自分が成長していると感じる	165	6.53	2.12	67	6.00	1.99	1.82	129.76	1.98	-0.16	差がない
	6-(3)⑰	自分はスキルアップにむけて学習・努力している	165	5.62	2.12	67	5.57	2.21	0.15	117.56	1.98	-1.83	差がない
	6-(3)⑬	職場で上司や同僚からのサポートが得られている	165	7.12	2.05	67	6.36	2.44	2.24	105.74	1.98	0.26	差がある
	6-(3)⑱	職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	165	5.96	2.13	66	5.43	2.26	1.62	113.58	1.98	-0.36	差がない
	6-(3)⑯	自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	164	5.00	2.52	67	4.71	2.73	0.75	114.33	1.98	-1.23	差がない
	6-(3)⑮	職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	165	6.86	1.78	66	6.41	1.98	1.62	109.44	1.98	-0.36	差がない
	6-(3)①	仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	165	5.81	2.50	64	5.23	2.13	1.78	133.70	1.98	-0.20	差がない
	6-(3)⑭	仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	163	6.18	2.04	66	5.94	2.34	0.75	106.95	1.98	-1.23	差がない
	6-(3)⑧	任されている仕事量が多い	166	6.90	2.16	67	6.63	2.26	0.83	116.99	1.98	-1.15	差がない
	6-(4)②	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	166	6.12	2.33	66	6.04	2.23	0.25	124.64	1.98	-1.73	差がない
	6-(4)⑤	今の仕事に、心から喜びを感じることがある	166	5.57	2.09	66	5.50	2.05	0.23	121.78	1.98	-1.75	差がない
	6-(4)⑥	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	166	4.35	2.36	66	4.22	1.98	0.42	141.41	1.98	-1.56	差がない
	6-(4)⑧	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	166	5.54	1.93	66	5.00	1.89	1.97	121.63	1.98	-0.01	差がない
モチベーションマイナス要因	6-(3)③	深夜勤務が多い	156	8.21	2.20	65	8.15	2.43	0.17	110.08	1.98	-1.81	差がない
	6-(3)④	残業が多い	165	6.44	2.81	67	7.04	2.82	1.48	121.87	1.98	-0.50	差がない
	6-(3)⑤	福祉機器の不足や構造により介護しにくい	163	5.83	2.55	67	6.23	2.69	1.05	117.11	1.98	-0.93	差がない
	6-(3)⑥	指導者等により適切なケアがわからなくなる	166	6.82	2.18	67	6.66	2.30	0.49	116.38	1.98	-1.49	差がない
	6-(4)①	こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	166	6.25	2.46	67	6.10	2.52	0.41	119.46	1.98	-1.57	差がない
	6-(4)③	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	166	6.88	2.39	67	6.96	2.21	0.24	131.25	1.98	-1.74	差がない
	6-(4)④	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	166	7.99	2.10	67	7.56	2.24	1.34	115.51	1.98	-0.64	差がない
	6-(4)⑦	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	166	5.00	2.22	66	4.76	2.37	0.73	112.79	1.98	-1.25	差がない
その他	5-(9)	クレームを受けて、担当する介護職員の変更を行った経験	148	5.21	1.68	59	5.39	1.43	0.79	124.69	1.98	-1.19	差がない

なお、検定結果と各回答割合について比較した表は以下の通りとなる。(1/2)

	番号	調査項目	算定	単純差違比較			t検定	
				A群	B群	差(A-B)	T値 -棄却限界値	2群差異
職場環境整備の取組	5-(1)⑭	指導・評価結果の人事制度への反映	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	48.5%	32.8%	15.7%	0.82	差がある
人材育成体制の整備	5-(1)③	スキルアッププランやパスの提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	52.7%	34.3%	18.4%	0.80	差がある
	5-(1)⑤	介護技術に関する指標・基準等の明文化	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	49.7%	34.3%	15.4%	0.31	差がある
	5-(1)⑯	指導者に対する支援・サポート	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	66.5%	49.3%	17.2%	1.15	差がある
	5-(4)	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを提案する権限	権限がある　率（%）	80.2%	71.6%	8.6%	-1.52	差がない
	5-(5)	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などの実行経験	経験がある　率（%）	67.1%	58.2%	8.9%	-0.82	差がない
	5-(1)⑮	他職種カンファレンス参加の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	59.9%	50.7%	9.1%	0.09	差がある
	5-(11)	医療職等、他の専門職との連携する機会の設定	多くある・少しある　率（%）	87.4%	74.6%	12.8%	0.33	差がある
人材育成の取組 OJTの展開	5-(1)①	経営理念、人材育成方針の伝達	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	62.9%	59.7%	3.2%	-0.74	差がない
	5-(1)②	育成計画の作成・提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	62.3%	50.7%	11.5%	0.56	差がある
	5-(1)④	スキルアップにむけた目標設定や目標管理	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	61.1%	41.8%	19.3%	1.18	差がある
	5-(1)⑥	介護職員との面談	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	66.5%	56.7%	9.8%	0.02	差がある
	5-(1)⑦	介護技術指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	71.9%	52.2%	19.6%	0.91	差がある
	5-(1)⑧	現場での現認・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	64.7%	56.7%	8.0%	-0.01	差がない
	5-(1)⑨	介護記録や報告書類の作成指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	73.7%	58.2%	15.4%	1.84	差がある
	5-(7)	介護記録の分析の指導	常に・ある程度指導している　率（%）	47.9%	40.3%	7.6%	-0.05	差がない
	5-(6)	介護記録を通じた情報共有の指導	常に・ある程度指導している　率（%）	71.3%	59.7%	11.6%	0.27	差がある
	5-(1)⑩	ケアの根拠の説明・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	71.9%	58.2%	13.6%	1.15	差がある
	5-(8)	介護職員の行為や対応の振り返り支援	十分・どちらかといえば行っている　率（%）	60.5%	49.3%	11.2%	0.52	差がある
	5-(1)⑫	気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	75.4%	59.7%	15.7%	1.61	差がある
	5-(1)⑪	目標達成状況の進捗確認	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	59.9%	40.3%	19.6%	1.30	差がある
	5-(1)⑬	OJT指導報告、評価記録の作成	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	42.5%	22.4%	20.1%	1.84	差がある
人材育成取組結果	7-(1)⑧	介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	72.5%	68.7%	3.8%	-1.14	差がない
	7-(1)①	衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	94.6%	86.6%	8.0%	0.37	差がある
	7-(1)②	食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	95.8%	95.5%	0.3%	-0.92	差がない
	7-(1)③	排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	92.2%	91.0%	1.2%	-0.35	差がない
	7-(1)④	自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	82.0%	85.1%	-3.0%	-1.94	差がない
	7-(1)⑥	利用者の状態など常にアセスメントを行っている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	89.8%	77.6%	12.2%	0.35	差がある
	7-(1)⑦	第3者にわかるよう介護記録を残している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	88.6%	79.1%	9.5%	-0.02	差がない
	7-(1)⑨	ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	88.6%	83.6%	5.0%	-0.46	差がない
	7-(1)⑩	介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	56.3%	61.2%	-4.9%	-1.95	差がない
	7-(1)⑤	医療職等、他の専門職と連携することを意識している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	92.8%	82.1%	10.7%	-0.12	差がない
地域連携取組結果	7-(1)⑪	地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	28.1%	23.9%	4.3%	-1.09	差がない
	7-(1)⑫	地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	53.9%	46.3%	7.6%	-1.19	差がない
	7-(1)⑬	地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	45.5%	41.8%	3.7%	-1.33	差がない
	7-(1)⑭	情報を地域の他機関・他職種から集めている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	31.7%	20.9%	10.8%	-0.54	差がない
	7-(1)⑱	関連する他の機関に対して、文書化し、提案している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	24.6%	17.9%	6.6%	-1.15	差がない
	7-(1)⑲	関連する他の機関に協力を要請している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	27.5%	16.4%	11.1%	-0.67	差がない
	7-(1)⑮	地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	22.2%	17.9%	4.2%	-1.90	差がない
	7-(1)⑯	自分の業務内容について、関連する他の機関に資料、情報を伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	20.4%	16.4%	3.9%	-1.75	差がない
	7-(1)⑰	援助活動をしたとき、関連する他の機関に報告している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	26.9%	22.4%	4.6%	-1.70	差がない
	7-(1)㉑	他の機関が参加する会議で費用を決定している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	7.2%	3.0%	4.2%	-1.04	差がない
	7-(1)㉒	他の機関・専門職で集めた利用者の情報を管理している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	15.0%	7.5%	7.5%	-0.81	差がない
	7-(1)⑳	関連する他の機関から協力を要請される	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	32.9%	28.4%	4.6%	-1.72	差がない
キャリア段位取組と効果	4-(3)	キャリア段位を用いた、介護技術向上に向けたOJT実績	現在実施中　率（%）	34.7%	17.9%	16.8%	2.64	差がある
	4-(1)	アセッサーとしての業務実施	十分・行っている　率（%）	29.9%	4.5%	25.5%	3.68	差がある
	4-(4)	根拠に基づく介護を行うことの意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	71.9%	32.8%	39.0%	2.48	差がある
	4-(5)	介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	71.3%	31.3%	39.9%	3.11	差がある

(2/2)

	番号	調査項目	算定	単純差違比較			t検定	
				A群	B群	差(A-B)	T値 -棄却限界値	2群差異
モチベーション プラス要因	6-(1)	今の職場は働きやすいか	とても・ややそう思う　率（%）	67.7%	59.7%	8.0%	-1.70	差がない
	6-(2)	今の職場で働き続けたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）	73.1%	65.7%	7.4%	-1.34	差がない
	6-(3)⑦	事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	いつも・よく感じる　率（%）	53.9%	44.8%	9.1%	-0.16	差がない
	6-(3)②	納得のいく勤務体制で勤務できている	いつも・よく感じる　率（%）	46.1%	37.3%	8.8%	-0.32	差がない
	6-(3)⑪	自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	いつも・よく感じる　率（%）	53.9%	56.7%	-2.8%	-1.60	差がない
	6-(3)⑨	責任のある仕事を任されている	いつも・よく感じる　率（%）	75.4%	74.6%	0.8%	-1.64	差がない
	6-(3)⑩	ケア方針を相談する機会に参画している	いつも・よく感じる　率（%）	59.3%	59.7%	-0.4%	-0.98	差がない
	6-(3)⑫	仕事を通じて自分が成長していると感じる	いつも・よく感じる　率（%）	46.1%	38.8%	7.3%	-0.16	差がない
	6-(3)⑰	自分はスキルアップにむけて学習・努力している	いつも・よく感じる　率（%）	25.7%	23.9%	1.9%	-1.83	差がない
	6-(3)⑬	職場で上司や同僚からのサポートが得られている	いつも・よく感じる　率（%）	60.5%	49.3%	11.2%	0.26	差がある
	6-(3)⑱	職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	いつも・よく感じる　率（%）	38.9%	28.4%	10.6%	-0.36	差がない
	6-(3)⑯	自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	いつも・よく感じる　率（%）	26.3%	20.9%	5.5%	-1.23	差がない
	6-(3)⑮	職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	いつも・よく感じる　率（%）	53.9%	46.3%	7.6%	-0.36	差がない
	6-(3)①	仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	いつも・よく感じる　率（%）	36.5%	23.9%	12.6%	-0.20	差がない
	6-(3)⑭	仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	いつも・よく感じる　率（%）	39.5%	35.8%	3.7%	-1.23	差がない
	6-(3)⑧	任されている仕事量が多い	いつも・よく感じる　率（%）	54.5%	50.7%	3.7%	-1.15	差がない
	6-(4)②	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	いつも・よくあった　率（%）	39.5%	41.8%	-2.3%	-1.73	差がない
	6-(4)⑤	今の仕事に、心から喜びを感じることがある	いつも・よくあった　率（%）	28.1%	26.9%	1.3%	-1.75	差がない
	6-(4)⑥	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	いつも・よくあった　率（%）	15.6%	10.4%	5.1%	-1.56	差がない
	6-(4)⑧	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）	22.8%	11.9%	10.8%	-0.01	差がない
モチベーション マイナス要因	6-(3)③	深夜勤務が多い	全く・あまり感じない　率（%）	76.0%	76.1%	-0.1%	-1.81	差がない
	6-(3)④	残業が多い	全く・あまり感じない　率（%）	47.3%	56.7%	-9.4%	-0.50	差がない
	6-(3)⑤	福祉機器の不足や構造により介護しにくい	全く・あまり感じない　率（%）	39.5%	44.8%	-5.3%	-0.93	差がない
	6-(3)⑥	指導者等により適切なケアがわからなくなる	全く・あまり感じない　率（%）	59.9%	49.3%	10.6%	-1.49	差がない
	6-(4)①	こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	43.1%	38.8%	4.3%	-1.57	差がない
	6-(4)③	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	全く・あまりなかった　率（%）	58.7%	56.7%	2.0%	-1.74	差がない
	6-(4)④	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	79.0%	73.1%	5.9%	-0.64	差がない
	6-(4)⑦	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	19.8%	20.9%	-1.1%	-1.25	差がない
その他	5-(9)	クレームを受けて、担当する介護職員の変更を行った経験	よく・時々あった　率（%）	14.4%	16.4%	-2.0%	-1.19	差がない

（８）統計的検定結果を踏まえて

指導者調査結果に関するｔ検定結果を踏まえると、人材育成・OJT を仕組みとしての取り込み、実行していることがわかる項目について、明らかな有意差がみられた。「スキルアップのパス提示」「指標・基準の明文化」「指導者に対する支援・サポート」といった体制整備事項に加え、「育成計画策定」「目標設定」「面談実施」「技術指導」「目標達成状況の進捗確認」「OJT 指導報告、評価記録の作成」に至る一連の OJT プロセス実行に有意差がみられた。

また具体的な指導内容として、「介護記録や報告書類の作成指導」「介護記録を通じた情報共有の指導」「ケア根拠の説明・指導」「介護職員の行為や対応の振り返り支援」「気づき支援、ケア内容改善の促し」についての有意差が確認された。

提供ケアとしては衣服着脱に関する「自立支援の取組」、「利用者状態に関するアセスメント」につき有意差が確認された。

介護キャリア段位制度との関わりについては、「根拠に基づく介護への意識」、「第三者にわかる介護記録」についても明らかな有意差が確認された。

これらの結果からは、A 群では、の育成の目的意識を明確に掲げて、システム的に育成に取り掛かっている実態が明らかになったといえる。

（９）指導者調査結果より

指導者調査は、介護キャリア段位制度のアセッサーからの回答となっている。うち、約6割が主任・リーダー層であり、回答者の95%以上が介護福祉士資格を有している。

調査結果からは、A群（レベル認定輩出実績3件以上）の特徴として、以下のような傾向があげられる。

他職種連携、地域連携の取組を行っている

アンケート項目のうち、「他職種との連携」及び「地域連携」を行っていることが伺える項目につき、A群の実施率の方が高く、顕著な傾向として示された。

「地域連携に関する取組」では、地域連携評価指標を用いて設問を行ったところ、全項目につき、A群の実施率がB群を上回った。地域連携については、介護キャリア段位制度　レベル4相当の「Ⅲ．－１．地域包括ケアシステム」において、同様の内容の項目が設定されており、介護キャリア段位制度の評価基準を用いた OJT 及びレベル認定輩出の取組との関係性が指摘できる。今回の回答者のうち、A群には、レベル4認定取得者も含まれており、OJT取組事業所において、これらを活用しつつ、具体的な目標を持って、業務展開をしている現状が、実態としてあらわれたもの、と読み取ることができる。

人材育成をシステム化し、取り組んでいる

人材育成への取組として、A群においては、体制整備として、キャリアパス等を明示していること、介護技術に関する指標・基準を用意していること、指導者には、サポート体制が組まれていることが示された。

そのうえで、OJT指導のプロセスとして、「理念共有」、「育成計画作成」からはじまり、職員の「目標管理」、「職員面談」を行い、指導を行っていること、また達成状況の「進捗把握」と、達成したかどうかの「定期確認」、「OJT指導報告、評価記録の作成」に至るまで、一連のプロセスにつき、B群を上回る実施率であることが示された。

すなわち、介護キャリア段位制度が示す、OJTツール、手法、手順を、各段階丁寧に実行している実態が示されたもの、と指摘することができる。

指導者の役割、職員がどのようなスキルを身につけるべきか、イメージできている

指導にあたっては、介護職員の技術指導や介護現場での現認指導、にあたるだけでなく、「介護記録や報告書類の作成指導（A 群：73.7%、B 群：58.2%）」、「介護記録の分析指導（A 群：47.9%、B 群：40.3%）」、「介護記録を通じたチーム内の職員への情報共有の指導の実施（A 群：71.3%、59.7%）」といった、「根拠記録」を鍵とした指導に力点を置いていることが読み取れる。

さらに「ケア根拠の説明・指導」について、重視している傾向が読み取れる（A 群：71.9%、B 群：58.2%）、指導者は、職員に対して「根拠に基づくケア」の実践につなげるべく、指導を行っていることが読み取れる。

また指導では、業務においての「介護職員の行為や対応について、振り返りの支援（A 群：60.5%、B 群：49.3%）、「介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促し（A 群：75.4%、B 群：59.7%）」と、職員に考えさせ、気づかせるという「内省支援」を行っていることが読み取れる。単なる知識の伝達や指摘ではなく、職員本人に「考えさせ、気づかせる」との内容吟味のプロセスを踏むことは、指導者側のスキルを伴うものであり、意図的に取り組まない限り、自然発生的には生じえないものといえる。指導者側が、指導の狙い、指針を曖昧にしていれば、内省支援は更に難しい。この点、指導者自身が指導者の役割と、指導の意図、目的を持ち得ている実態が示されているもの、といえる。

指導者に権限が委譲されている

A 群の傾向として、人材育成がシステム的に組まれており、運用するにあたっては、「根拠に基づくケア」の実践を重視した、様々な指導が実施されていることが読み取れる。

一方で、A 群の指導者は、「取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを自身が提案する権限」や「実行した経験」が B 群よりも高い傾向であった。すなわち、現場での具体的な指導方法につき、指導者にある程度の裁量が認められている中で、職員の内省支援、気づき支援、ケア内容改善の促しがはかられている、といえる。

これらは、指導や実践の指針や基準があってこそ、システム的に運用され、権限委譲がはかられるもの、と推察される。すなわち、「介護技術に関するみえる化（指標化）」がもたらす効果として、これらの取組があらわれているといえる。

これらは実施経験から導かれている

指導者による「根拠に基づくケア」の推進、指導の背景には、指導者自身が、「根拠に基づく介護を行うことの意識」を有していることが、影響している可能性がある。

「根拠に基づく介護を行うことの意識」は、A 群と B 群では 39.0%の差となっている。また、「介護記録を第三者にもわかるように残していくことの意識」については、39.9%である。これらは、指導者自身のケアとして「利用者の状態等常にアセスメントを行っている」といった指導者自身の自己評価にもあらわれている。この点は、実際に、介護キャリア段位制度を、育成ツールとして用いているかどうかの差のあらわれ、とも読めるが、一方で具体的に一定数以上のレベル認定を輩出して、すなわち具体的にシステムとしての OJT を実行することで、気づく「意義」であるとも読み取ることができる。OJT の価値は実行してみて認識されていくもの、と読み取れる。

◆　B 群の実施率等が A 群よりも高い結果となった項目

調査項目	算定	指導者			
		全体	A群	B群	差(A-B)
保有資格　介護福祉士	介護福祉士／回答数（%）	95.3%	94.6%	97.0%	-2.4%
保有資格　介護支援専門員	介護支援専門員・主任介護支援専門員／回答数（%）	37.2%	33.5%	46.3%	-12.7%
面談時間	1ヶ月あたり　（時間）	3.1時間	3.1時間	3.2時間	-0.1時間
自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	82.9%	82.0%	85.1%	-3.0%
介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	57.7%	56.3%	61.2%	-4.9%
自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	いつも・よく感じる　率（%）	54.7%	53.9%	56.7%	-2.8%
この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	いつも・よくあった　率（%）	40.2%	39.5%	41.8%	-2.3%

両群の比較で、B 群の実績の方が高い結果であったものは、介護福祉士割合、介護支援専門員割合、1カ月あたりの面談時間といった外形的な観点のものと、自立支援に関する自己評価、介護の魅力の伝達等であった。それ以外の具体的な人材育成にむけた体制整備や、取組、取組結果に関しては、A 群の実施率等の方が高い結果が示された。

４．介護職員調査結果

回答者の選定は、各事業所のアセッサー（指導者）に託し、選定の目安としてアセッサーが日常的に業務や指導で関わるケアユニットの職員中１名～10 名の職員とした。

（１）回答者の属性

サービス種　N=837

	全体	A 群	B 群
介護老人福祉施設	379	256	123
介護老人保健施設	352	263	89
訪問介護	106	65	41
計	837	584	253

勤務年数、保有資格等　N=837

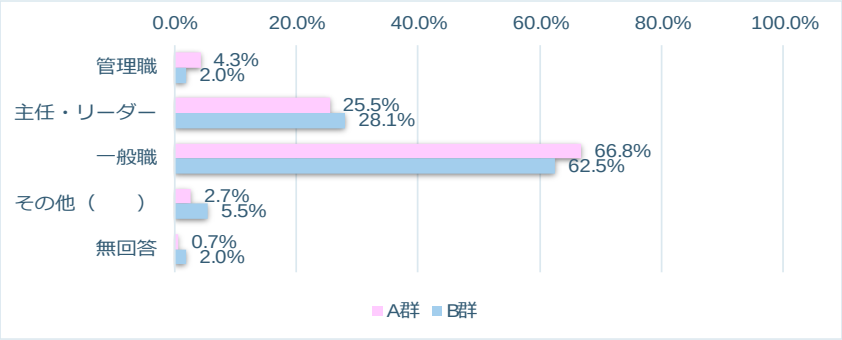
		全体	A 群	B 群
年齢	平均年齢（歳）	40.3 歳	40.1 歳	40.8 歳
性別	男性（%）	39.8%	39.9%	39.5%
	女性（%）	59.7%	60.1%	58.9%
今の勤務先（法人内）勤務年数	年	9.7 年	10.0 年	8.9 年
介護職員としての通算経験年数	年	12.0 年	12.1 年	11.8 年
介護福祉士の割合	介護福祉士／回答数（%）	89.7%	91.1%	86.6%
介護支援専門員の割合	介護支援専門員・主任介護支援専門員／回答数（%）	12.5%	12.3%	13.0%
アセッサーの割合	アセッサー登録者、予定者／回答数（%）	22.2%	28.4%	7.9%
レベル認定取得者の割合	レベル認定（２～４）取得済／回答数（%）	38.9%	55.8%	0.0%
レベル認定取得予定者の割合	レベル認定（２～４）取得予定／回答数（%）	35.2%	42.8%	17.8%

回答者属性として、職位は一般職が最も多く、A 群の 66.8%、B 群の 62.5%を占める。次いで、主任・リーダー層（A 群：25.5%、B 群：28.1%）である。

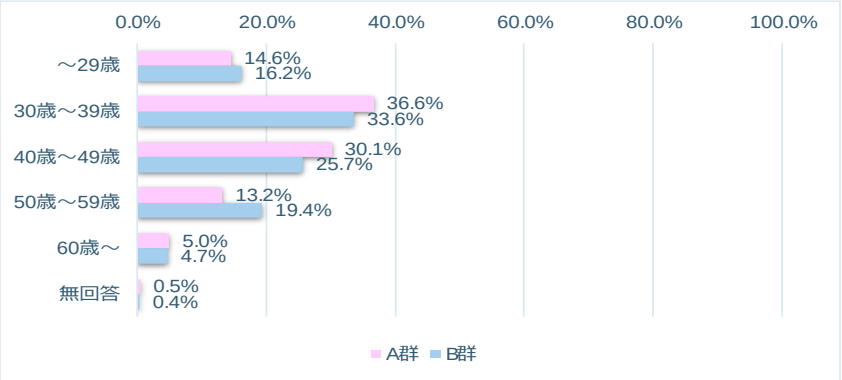
年齢は、A 群、B 群ともに平均約 40 歳であり、男女比、現在の勤務先への勤務年数、介護職員としての経験年数に大差はみられない。介護職員としての経験年数は、全体で 12.0 年である。回答者のうち約 9 割が介護福祉士資格を有する常勤職員によるものとなっている。

「介護職員等特定処遇改善加算」の影響については、A 群では 66.8%、B 群の 62.4%が、「改善された」もしくは「改善される予定」との回答であり、A 群と B 群では、大差はみられないといえる。

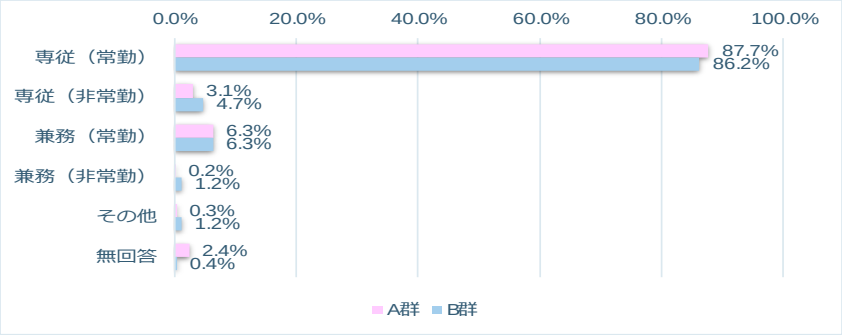
現在の職位　N=837



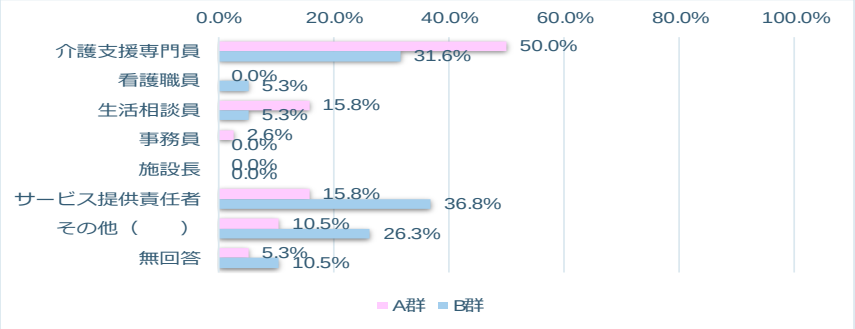
年齢　N=837



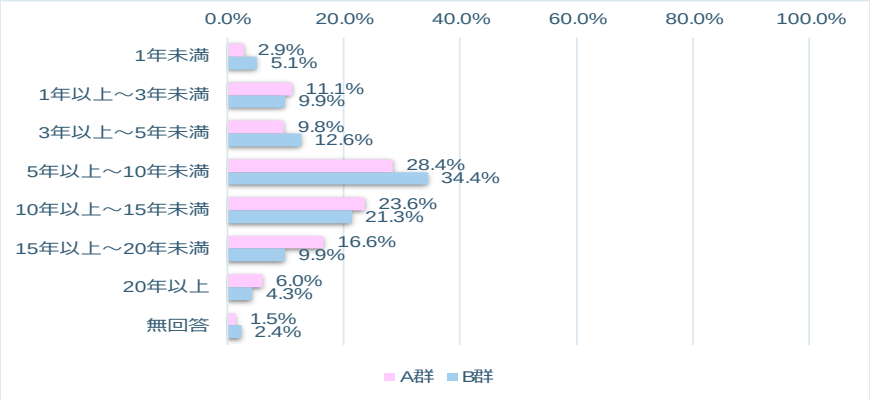
勤務形態　N=837



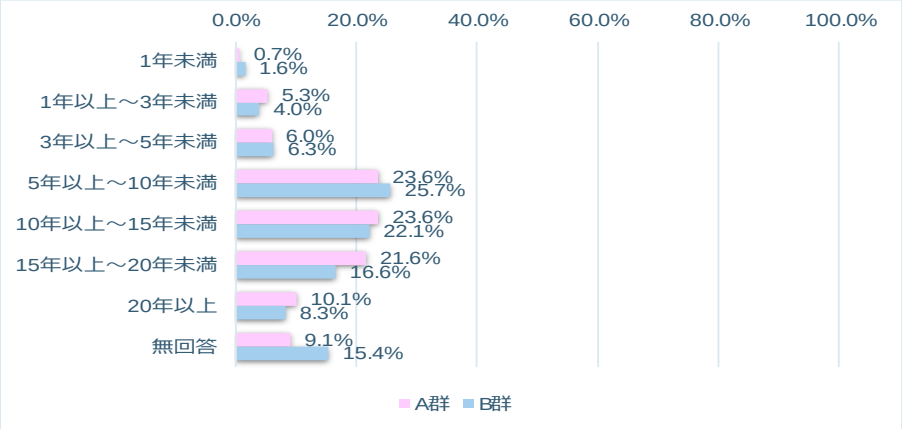
保有資格　N=837



今の勤務先の勤務年数　N=837

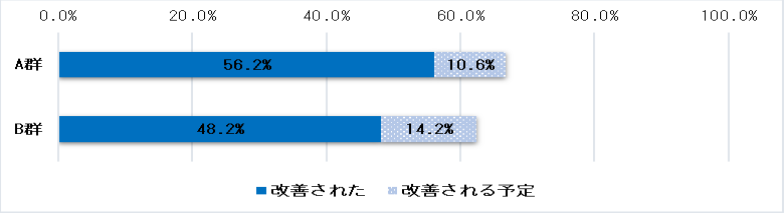


介護職員としての通算勤務年数　N=837



「介護職員等特定処遇改善加算」による自身の処遇改善状況　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
改善された	450	53.8%	328	56.2%	122	48.2%
改善される予定	98	11.7%	62	10.6%	36	14.2%
改善されていない	135	16.1%	95	16.3%	40	15.8%
わからない	144	17.2%	93	15.9%	51	20.2%
無回答	10	1.2%	6	1.0%	4	1.6%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%

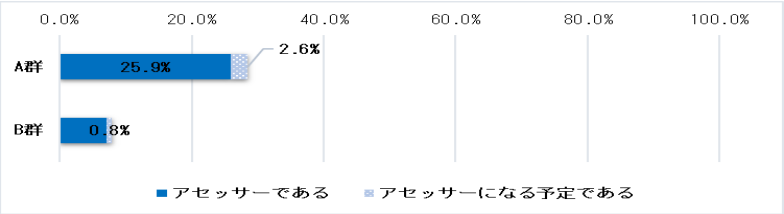


今回の調査では、A 群をレベル認定輩出実績有の事業所、B 群をレベル認定未輩出事業所と整理しており、回答者属性においては、介護キャリア段位制度に関する取組につき、違いがみられる。

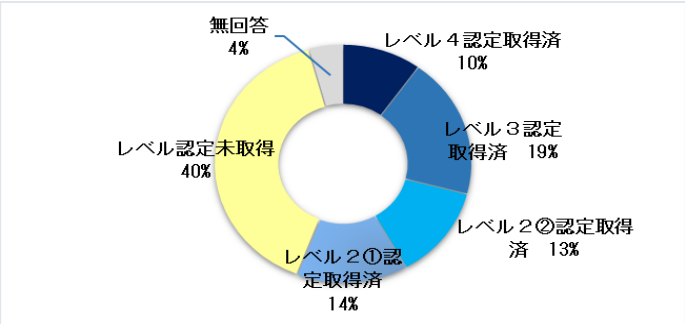
介護職員票の回答者のうち、レベル認定取得者が 55.8%を占める（A 群の割合。B 群：0%）。また、介護職員票の回答者のうち、A 群の 28.4%が、B 群では、7.9%がアセッサー（登録者または予定者）からの回答である。

また回答者のうち、A 群の半数弱（42.9%）、B 群の 17.8%が、介護キャリア段位のレベル認定を目指している。

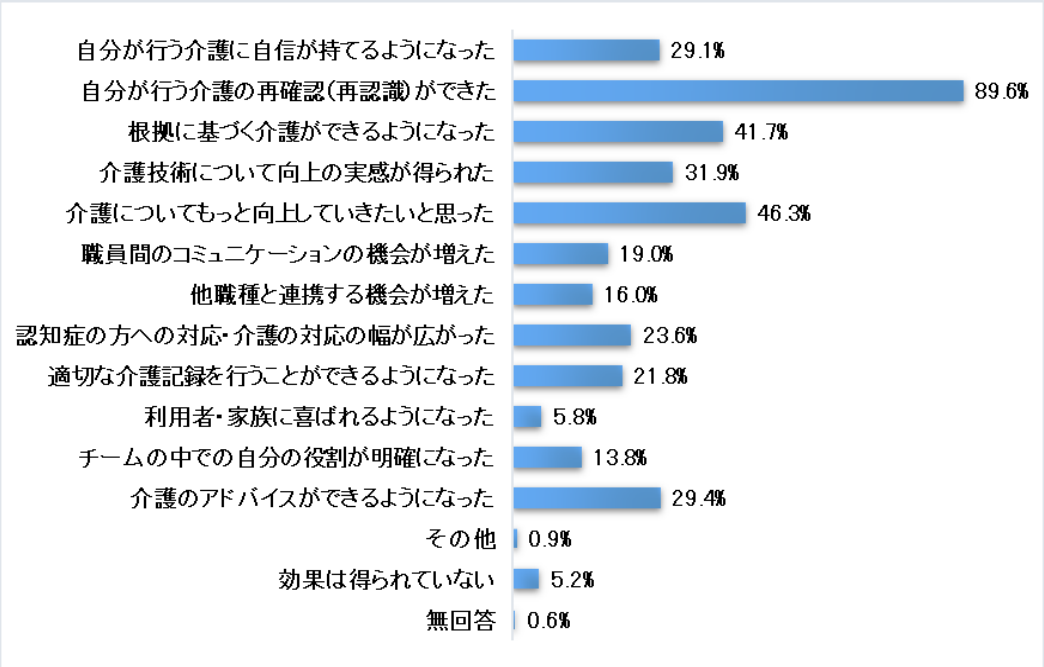
アセッサー取得状況　N＝837



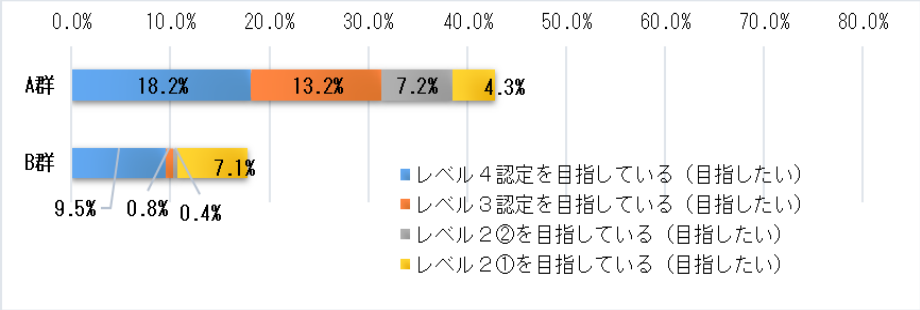
レベル認定取得状況　A群回答者の内訳



レベル認定取得を通じて得られた効果　N＝326



介護キャリア段位制度のレベル認定取組状況　N＝837



介護キャリア段位制度のレベル認定取得で得られた効果として、「自分が行う介護の再確認（再認識）ができた」が最も多く（89.6%）、次いでスキルの向上意欲（介護についてもっと向上していきたいと思った）が 46.3%、「根拠に基づく介護ができるようになった」（41.7%）の順であった。

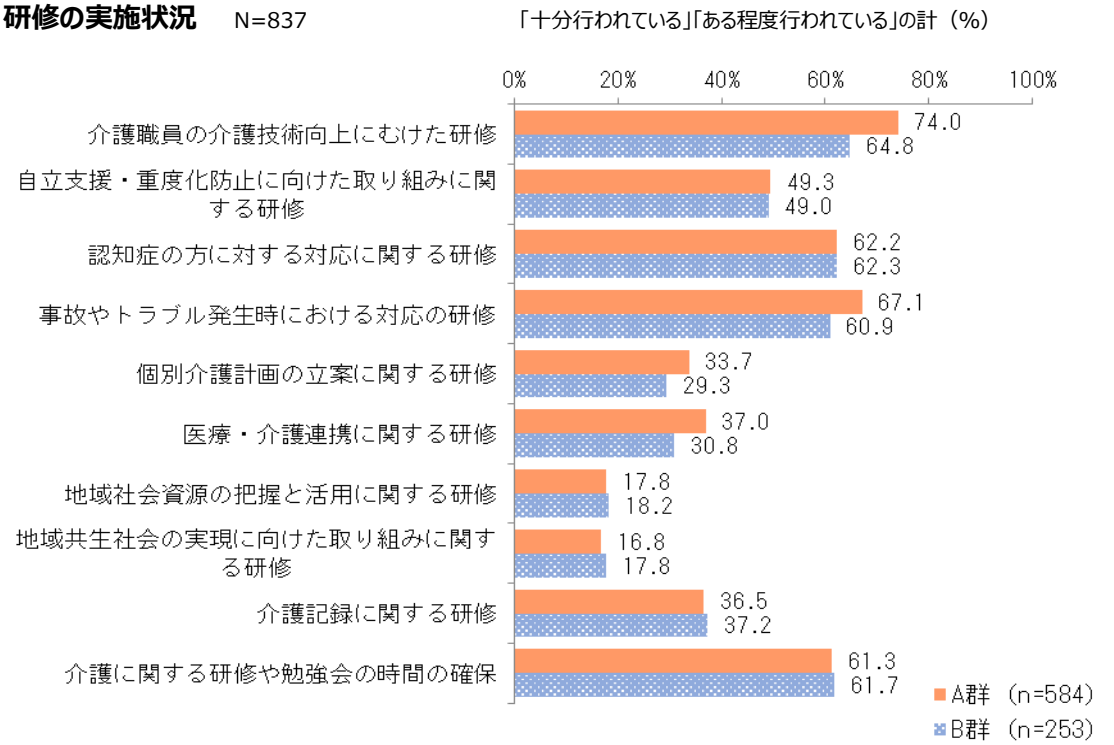
介護キャリア段位制度の OJT の意図が、実施した介護職員の実感として得られていることが示されている。

（２）人材育成の取組状況

所属する事業所における研修（Off-JT）の実施状況を伺ったところ、介護技術向上にむけた研修について、A 群と B 群で 10%近くの差がみられた。また「事故やトラブル発生時における対応の研修」、「個別介護計画の立案に関する研修」、「医療・介護連携に関する研修」においても、A 群の方が実施率がやや高い結果となった。

「他職種連携」の取組は、事業所調査結果、指導者調査結果ともに、A 群の実施率が高い結果であったが、研修実施状況として介護職員調査において、同様の傾向が確認された。

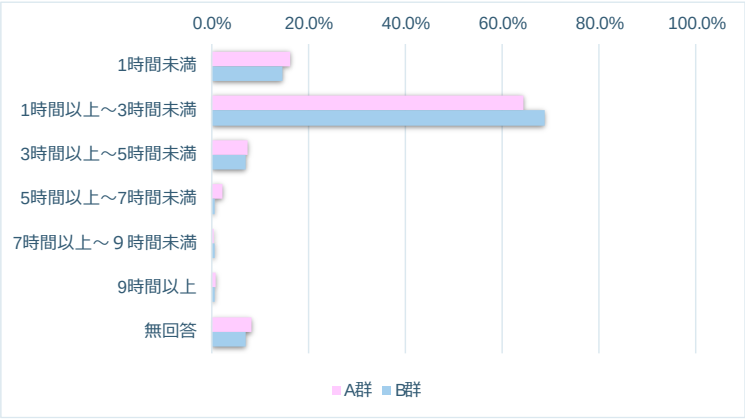
研修の実施状況　N=837



「介護技術向上にむけた研修」の実施時間は、A 群、B 群ともに平均月あたり、1.6 時間であった。

介護技術向上にむけた研修や勉強会の時間（1 カ月あたり）　N＝837

		全体	A 群	B 群
勉強会・研修会の時間	1 か月あたり（時間）	1.6 時間	1.6 時間	1.6 時間

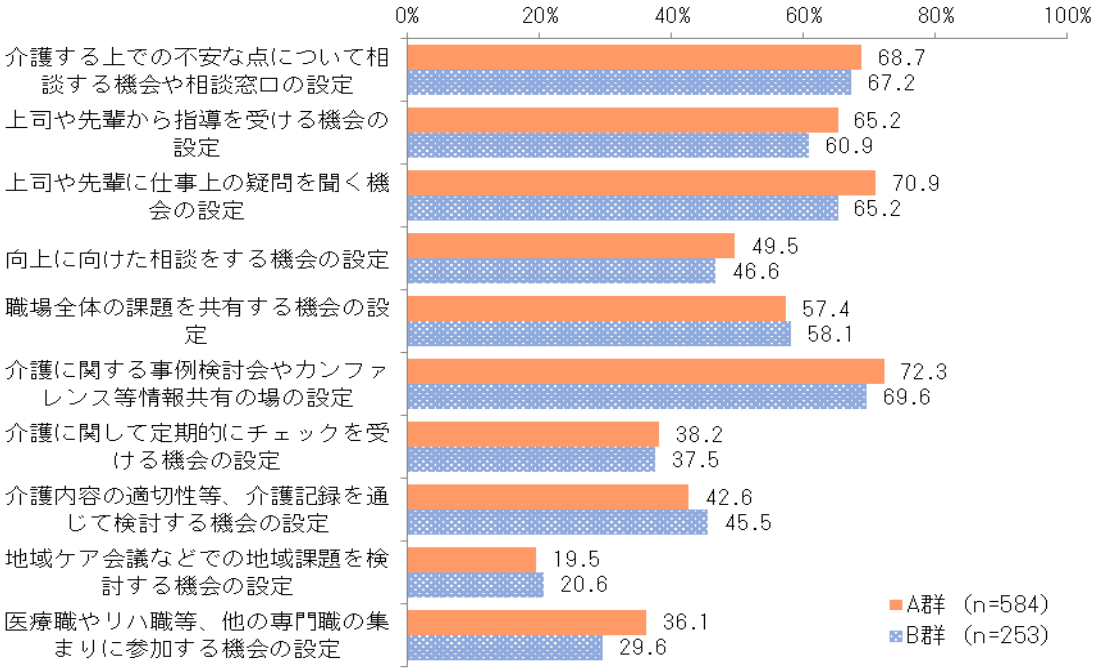


所属する事業所の人材育成の体制として、相談や確認の機会について伺ったところ、A 群と B 群に差がみられたものとして、「上司や先輩から指導を受ける機会」(A 群:65.2%、B 群 60.9%)、「上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会」(A 群:70.9%、B 群:65.2%)、「介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定」(A 群:72.3%、B 群:69.6%)、「医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会」(A 群:36.1%、B 群:29.6%)等であった。

「他職種との連携の機会」については、事業所調査、指導者調査ともに、A 群 B 群の比較において、実施率が高い結果であったが、介護職員調査においても、同様の傾向となった。

事業所における取組状況　（介護職員による認識）　N=837

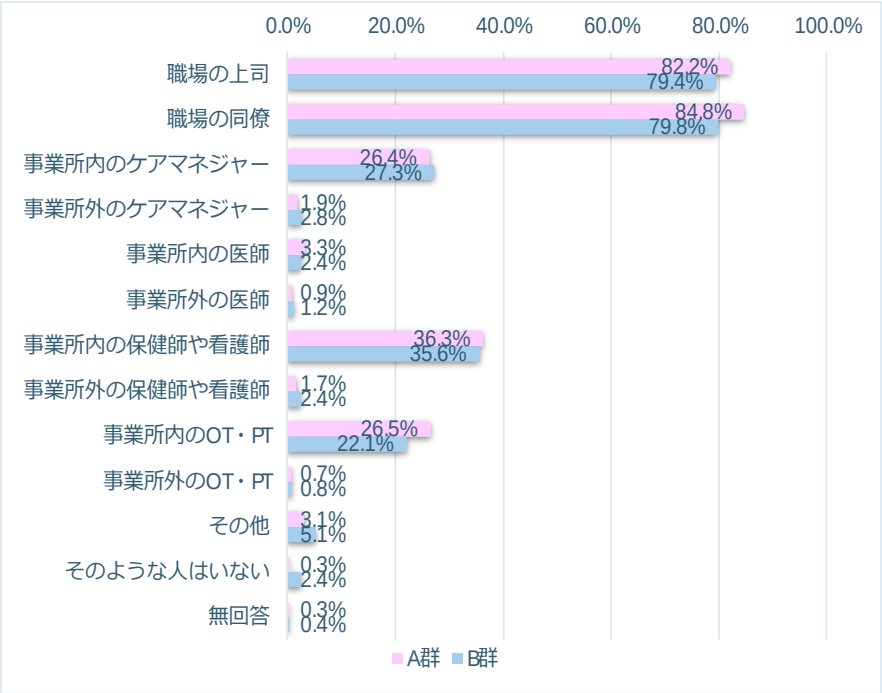
「十分行われている」「ある程度行われている」の計（%）



介護を行う上での相談相手は、職場の同僚（83.3%）、職場の上司（81.4%）、事業所内の保健師や看護師(36.1%)、事業所内のケアマネジャー(26.6%)、事業所内の OT・PT(25.2%)の順であった。両群ともに、介護職員のみならず、他の専門職の職員に相談している業務実態が示された。

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
職場の上司	681	81.4%	480	82.2%	201	79.4%
職場の同僚	697	83.3%	495	84.8%	202	79.8%
事業所内のケアマネジャー	223	26.6%	154	26.4%	69	27.3%
事業所外のケアマネジャー	18	2.2%	11	1.9%	7	2.8%
事業所内の医師	25	3.0%	19	3.3%	6	2.4%
事業所外の医師	8	1.0%	5	0.9%	3	1.2%
事業所内の保健師や看護師	302	36.1%	212	36.3%	90	35.6%
事業所外の保健師や看護師	16	1.9%	10	1.7%	6	2.4%
事業所内のOT・PT	211	25.2%	155	26.5%	56	22.1%
事業所外のOT・PT	6	0.7%	4	0.7%	2	0.8%
その他	31	3.7%	18	3.1%	13	5.1%
そのような人はいない	8	1.0%	2	0.3%	6	2.4%
無回答	3	0.4%	2	0.3%	1	0.4%
合計	837		584		253	

介護を行う上での相談相手　N＝837



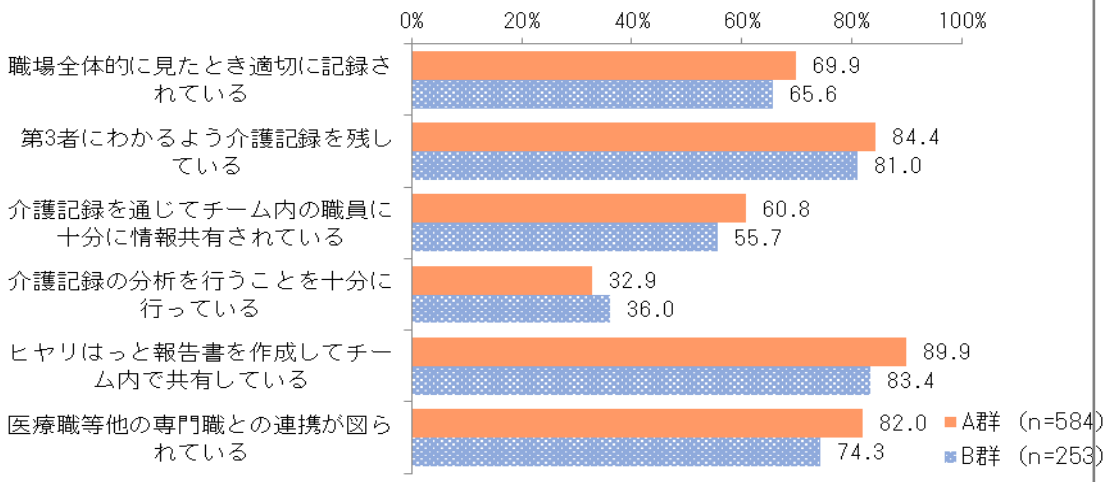
（３）記録との関わり、情報共有、連携について

日常の業務について、記録にかかる対応状況としては、「ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している」については、A 群、B 群ともに「行っている」の割合は高く、A 群では 89.9%、B 群では 83.4%であり、「職場の記録の適切性」、「介護記録のチーム内の情報共有」、「介護記録の分析」の順で、「行っている」の回答率が低くなる結果となった。

A 群と B 群の比較でみると、記録に係る取組（4 設問）のうち、3 設問につき「行っている」の割合が上回る結果となった。また地域連携の取組については、A 群と B 群とでは、7.7 ポイントの差で A 群の方が「行われている」の回答が多かった。

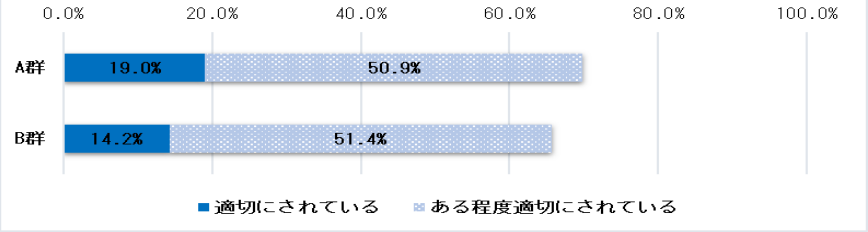
この点、介護職員による評価においても、A 群においては、B 群と比べて「根拠記録」を中心にした取組が、実施されているとの傾向が示された。

記録との関わり、情報共有、連携について N=837　「十分行われている」「ある程度行われている」の計（%）



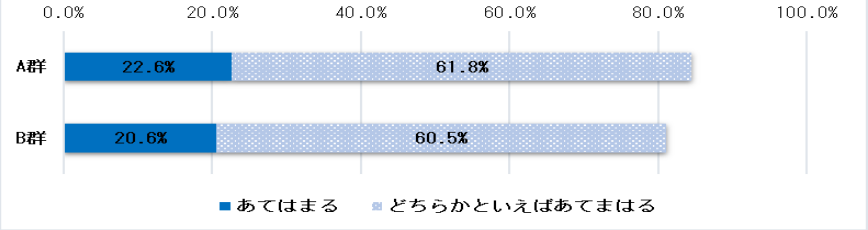
介護記録について、職場全体的にみたとき適切に記録されている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
適切にされている	147	17.6%	111	19.0%	36	14.2%
ある程度適切にされている	427	51.0%	297	50.9%	130	51.4%
どちらともいえない	192	22.9%	131	22.4%	61	24.1%
あまり適切にされていない	54	6.5%	35	6.0%	19	7.5%
まったく適切にされていない	6	0.7%	2	0.3%	4	1.6%
無回答	11	1.3%	8	1.4%	3	1.2%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



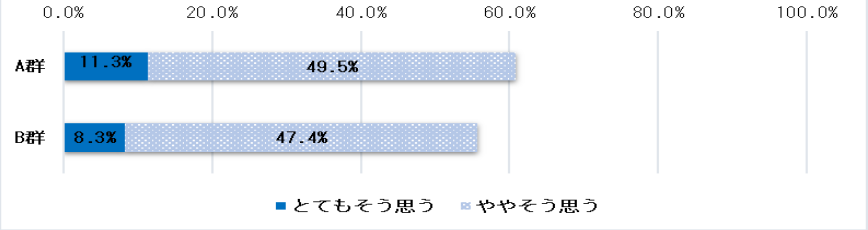
自身が行った介護について第３者にわかるよう介護記録を残している　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	184	22.0%	132	22.6%	52	20.6%
どちらかといえばあてまはる	514	61.4%	361	61.8%	153	60.5%
どちらかといえばあてはまらない	127	15.2%	85	14.6%	42	16.6%
全くあてはまらない	4	0.5%	1	0.2%	3	1.2%
無回答	8	1.0%	5	0.9%	3	1.2%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



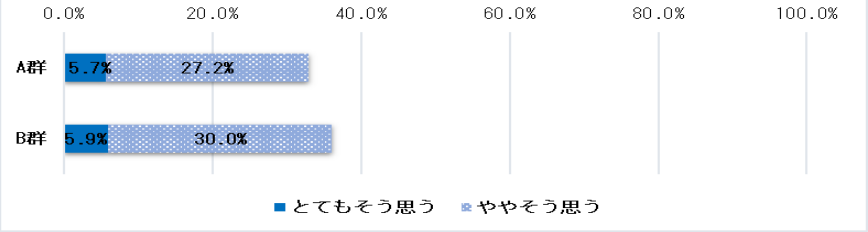
介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
とてもそう思う	87	10.4%	66	11.3%	21	8.3%
ややそう思う	409	48.9%	289	49.5%	120	47.4%
どちらともいえない	221	26.4%	145	24.8%	76	30.0%
あまりそう思わない	88	10.5%	66	11.3%	22	8.7%
そう思わない	30	3.6%	17	2.9%	13	5.1%
無回答	2	0.2%	1	0.2%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



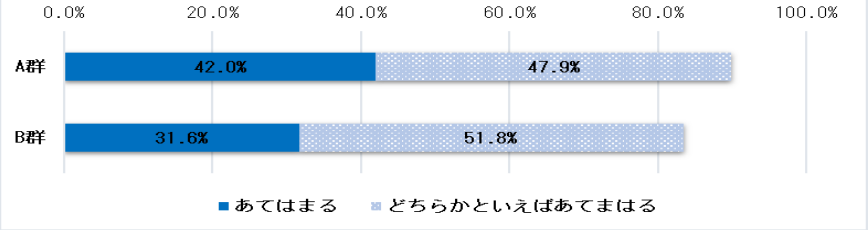
介護記録の分析を行うことを十分に行っている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
とてもそう思う	48	5.7%	33	5.7%	15	5.9%
ややそう思う	235	28.1%	159	27.2%	76	30.0%
どちらともいえない	323	38.6%	225	38.5%	98	38.7%
あまりそう思わない	173	20.7%	124	21.2%	49	19.4%
そう思わない	53	6.3%	40	6.8%	13	5.1%
無回答	5	0.6%	3	0.5%	2	0.8%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



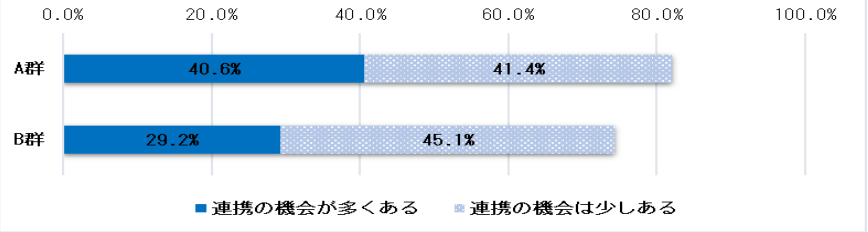
ヒヤッとしたことやハットしたことについて、報告書を作成してチーム内で共有している　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	325	38.8%	245	42.0%	80	31.6%
どちらかといえばあてまはる	411	49.1%	280	47.9%	131	51.8%
どちらかといえばあてはまらない	91	10.9%	54	9.2%	37	14.6%
全くあてはまらない	7	0.8%	4	0.7%	3	1.2%
無回答	3	0.4%	1	0.2%	2	0.8%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



医療職やリハ職、管理栄養士等、他の専門職との連携がはかられている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
連携の機会が多くある	311	37.2%	237	40.6%	74	29.2%
連携の機会は少しある	356	42.5%	242	41.4%	114	45.1%
どちらともいえない	114	13.6%	74	12.7%	40	15.8%
あまり連携の機会がない	43	5.1%	22	3.8%	21	8.3%
全く連携の機会がない	9	1.1%	7	1.2%	2	0.8%
無回答	4	0.5%	2	0.3%	2	0.8%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



（４）介護職員自身が提供するケアについて

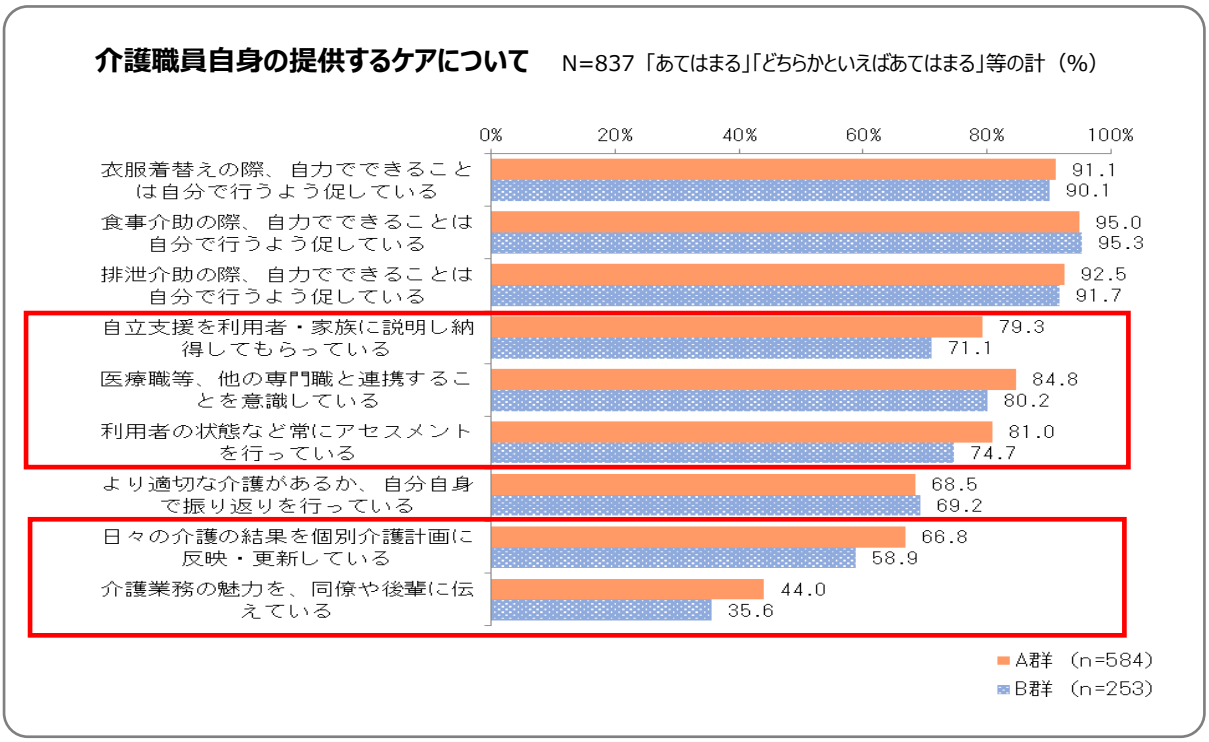
① 介護職員自身の提供するケアについて

介護職員自身が実施している日頃のケアの実施状況を伺ったところ、自立支援に関する基本介護技術（衣服着替え、食事介助、排泄介助の場面における対応）に関しては、A 群 B 群ともに、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計の回答が、9 割を超えた。しかしながら、家族との要望等と対立する可能性が想定される、一歩踏み込みこんだ場面の設問事項「自立支援を利用者・家族に説明し、納得してもらっている」では、A 群では 79.3%、B 群では 71.1%と回答に差がみられた。

また、「他職種との連携」を意識し、個別介護計画に反映利用者の状態に応じた「アセスメント」を心がけて、「日々の介護の結果を個別介護計画に反映させる」といった、介護過程の展開に係る、より専門性を求められる対応については、A 群が B 群を上回る結果となった。

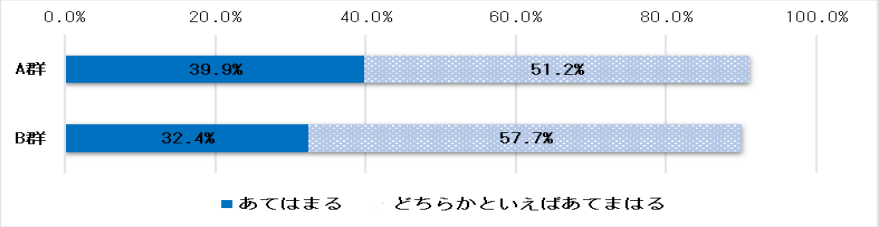
「他職種との連携」、「個別ケア」、利用者の状態を踏まえた「アセスメントのスキル」といった事項は、事業所調査、指導者調査において、取組差がみられた事項であり、職員調査においても同様の点が伺える。

また、業務中の同僚や後輩との関わりの中で、「介護の魅力を伝えているか」を伺ったところ、A 群と B 群では大差がみられた。OJT の実施自体が、根拠に基づく「個別ケア」の実践や「連携」の実践につながっている可能性が指摘できる。



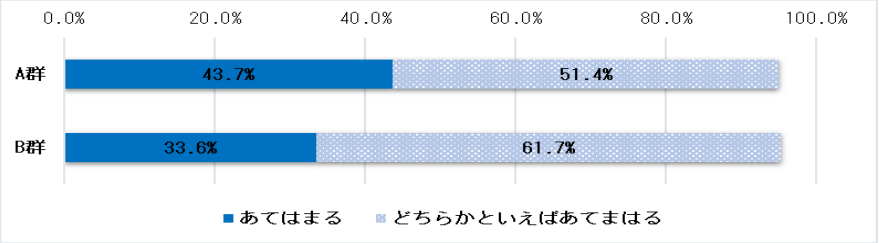
利用者の衣服着替えの際、ボタンの取り外し等自力でできることは自分で行うよう促している N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	315	37.6%	233	39.9%	82	32.4%
どちらかといえばあてはまる	445	53.2%	299	51.2%	146	57.7%
どちらかといえばあてはまらない	73	8.7%	50	8.6%	23	9.1%
全くあてはまらない	1	0.1%	0	0.0%	1	0.4%
無回答	3	0.4%	2	0.3%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



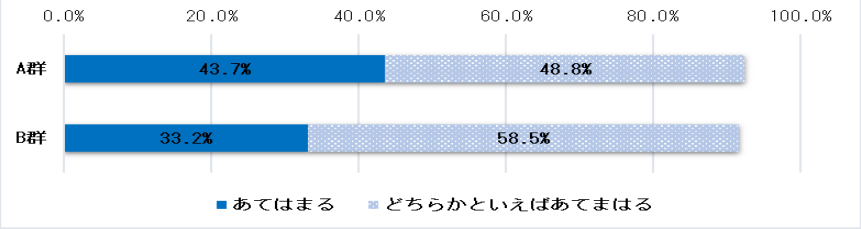
利用者の食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促し、必要時に介助を行うようにしている N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	340	40.6%	255	43.7%	85	33.6%
どちらかといえばあてはまる	456	54.5%	300	51.4%	156	61.7%
どちらかといえばあてはまらない	38	4.5%	27	4.6%	11	4.3%
全くあてはまらない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.4%	2	0.3%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



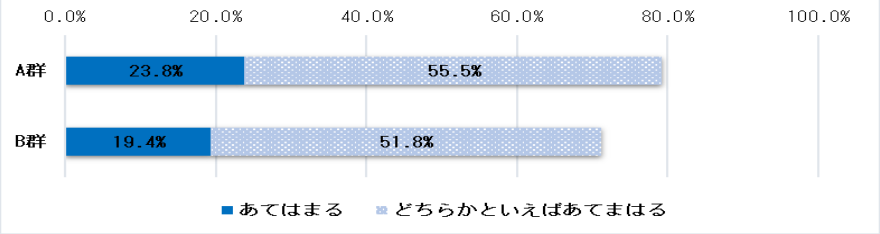
利用者の排泄介助の際、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらう等自力でできることは自分で行うよう促している N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	339	40.5%	255	43.7%	84	33.2%
どちらかといえばあてはまる	433	51.7%	285	48.8%	148	58.5%
どちらかといえばあてはまらない	60	7.2%	40	6.8%	20	7.9%
全くあてはまらない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	0.6%	4	0.7%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



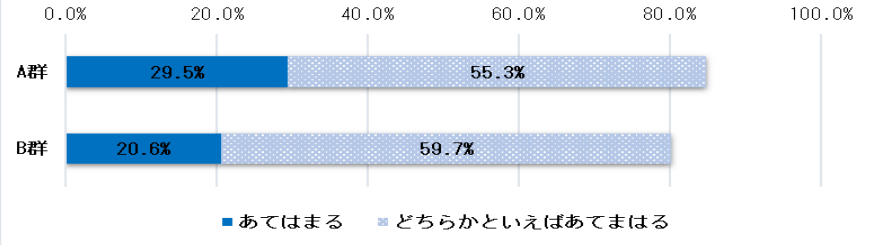
自立支援を目的とした介護の実施について、利用者・家族に説明し納得してもらい、利用者の元気なころの生活環境の維持を目指すようにしている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	188	22.5%	139	23.8%	49	19.4%
どちらかといえばあてはまる	455	54.4%	324	55.5%	131	51.8%
どちらかといえばあてはまらない	174	20.8%	110	18.8%	64	25.3%
全くあてはまらない	13	1.6%	6	1.0%	7	2.8%
無回答	7	0.8%	5	0.9%	2	0.8%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



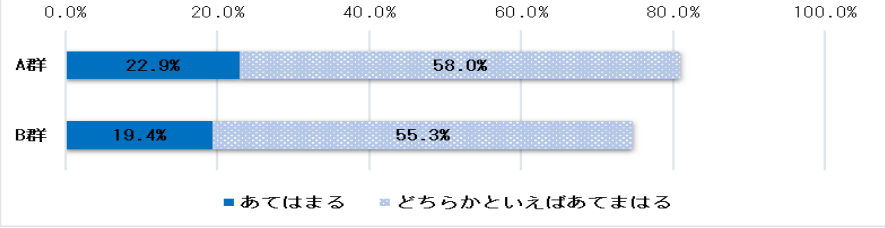
医療職やリハ職等、他の専門職と連携することを意識して介護を行っている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	224	26.8%	172	29.5%	52	20.6%
どちらかといえばあてはまる	474	56.6%	323	55.3%	151	59.7%
どちらかといえばあてはまらない	123	14.7%	79	13.5%	44	17.4%
全くあてはまらない	12	1.4%	7	1.2%	5	2.0%
無回答	4	0.5%	3	0.5%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



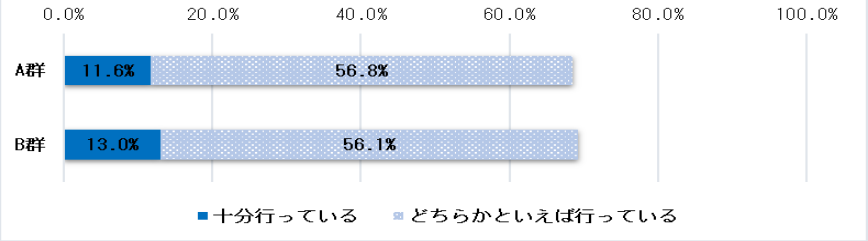
利用者の状態等常にアセスメントを行うことを心掛けて介護を行っている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	183	21.9%	134	22.9%	49	19.4%
どちらかといえばあてはまる	479	57.2%	339	58.0%	140	55.3%
どちらかといえばあてはまらない	165	19.7%	103	17.6%	62	24.5%
全くあてはまらない	5	0.6%	4	0.7%	1	0.4%
無回答	5	0.6%	4	0.7%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



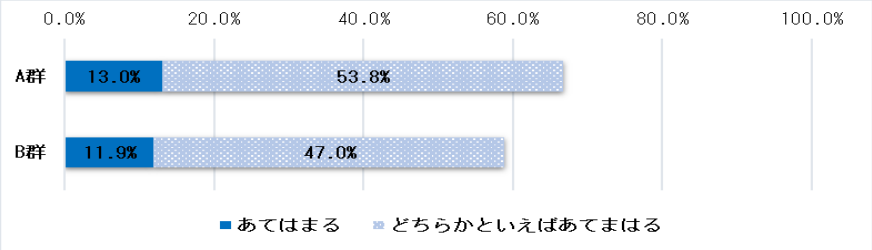
自身が行った介護について、適切であったか等、振り返りを行っている　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
十分行っている	101	12.1%	68	11.6%	33	13.0%
どちらかといえば行っている	474	56.6%	332	56.8%	142	56.1%
どちらともいえない	187	22.3%	133	22.8%	54	21.3%
あまり行っていない	68	8.1%	48	8.2%	20	7.9%
全く行っていない	2	0.2%	1	0.2%	1	0.4%
無回答	5	0.6%	2	0.3%	3	1.2%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



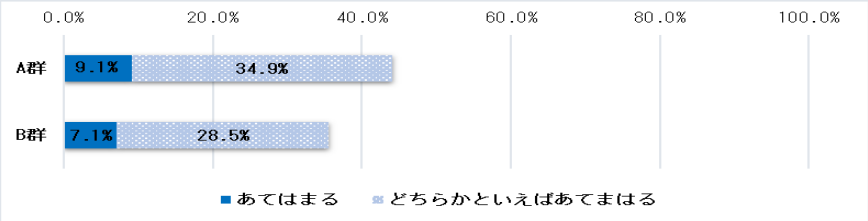
日々の介護の結果を個別介護計画に反映・更新している　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	106	12.7%	76	13.0%	30	11.9%
どちらかといえばあてはまる	433	51.7%	314	53.8%	119	47.0%
どちらかといえばあてはまらない	252	30.1%	166	28.4%	86	34.0%
全くあてはまらない	33	3.9%	20	3.4%	13	5.1%
無回答	13	1.6%	8	1.4%	5	2.0%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている　N＝837

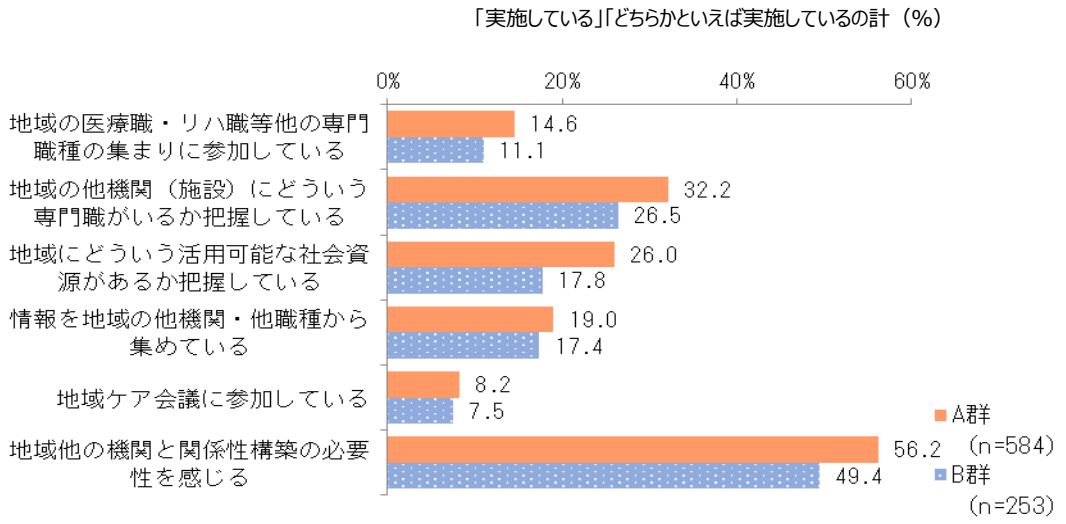
	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	71	8.5%	53	9.1%	18	7.1%
どちらかといえばあてはまる	276	33.0%	204	34.9%	72	28.5%
どちらかといえばあてはまらない	357	42.7%	238	40.8%	119	47.0%
全くあてはまらない	127	15.2%	84	14.4%	43	17.0%
無回答	6	0.7%	5	0.9%	1	0.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



② 地域連携の取組について

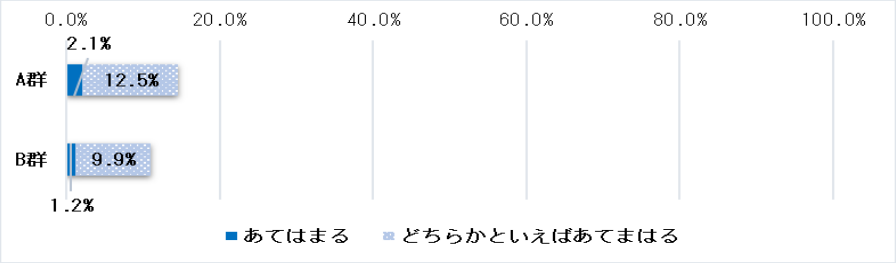
地域連携の取組に関しては、6 設問の全項目について、A 群が B 群を上回る結果となり、実施率自体は、10%～20%代ではあるものの、事業所調査結果、指導者調査結果と同様の傾向が示された。

地域連携の対応について（介護職員による自己評価） N=837



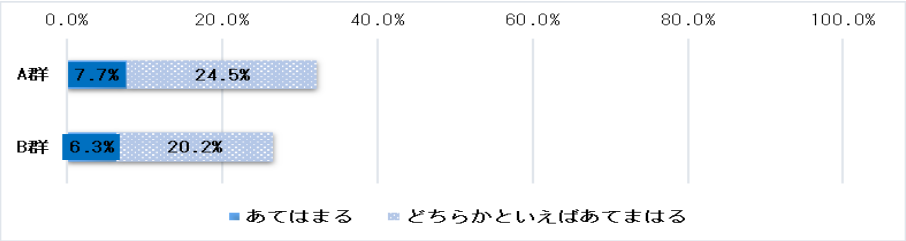
地域の医療職･リハ職等他の専門職種の集まりに参加している N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	15	1.8%	12	2.1%	3	1.2%
どちらかといえばあてまはる	98	11.7%	73	12.5%	25	9.9%
どちらかといえばあてはまらない	270	32.3%	180	30.8%	90	35.6%
全くあてはまらない	448	53.5%	316	54.1%	132	52.2%
無回答	6	0.7%	3	0.5%	3	1.2%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



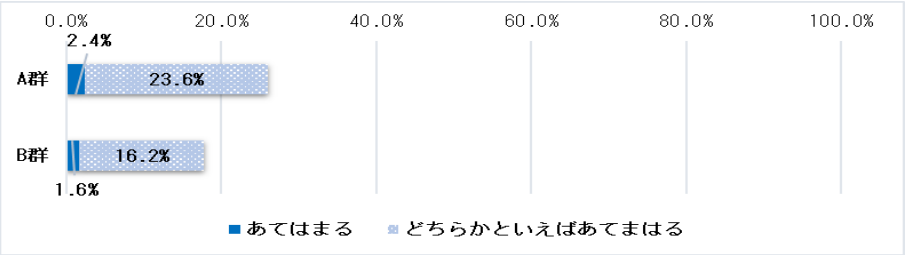
地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	61	7.3%	45	7.7%	16	6.3%
どちらかといえばあてまはる	194	23.2%	143	24.5%	51	20.2%
どちらかといえばあてはまらない	312	37.3%	217	37.2%	95	37.5%
全くあてはまらない	263	31.4%	176	30.1%	87	34.4%
無回答	7	0.8%	3	0.5%	4	1.6%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している　N＝837

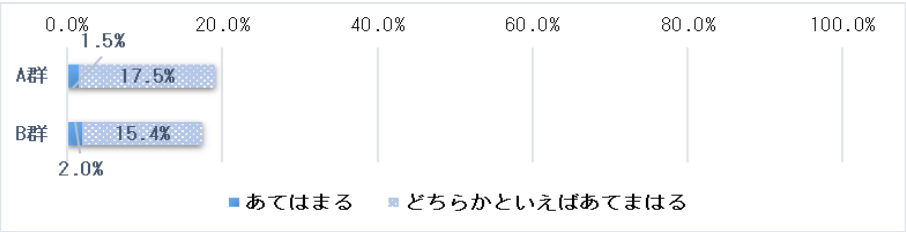
	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	18	2.2%	14	2.4%	4	1.6%
どちらかといえばあてまはる	179	21.4%	138	23.6%	41	16.2%
どちらかといえばあてはまらない	377	45.0%	257	44.0%	120	47.4%
全くあてはまらない	255	30.5%	171	29.3%	84	33.2%
無回答	8	1.0%	4	0.7%	4	1.6%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



サービス提供に必要な知識や情報を地域の他機関・他職種（住民組織を含む）から集めている

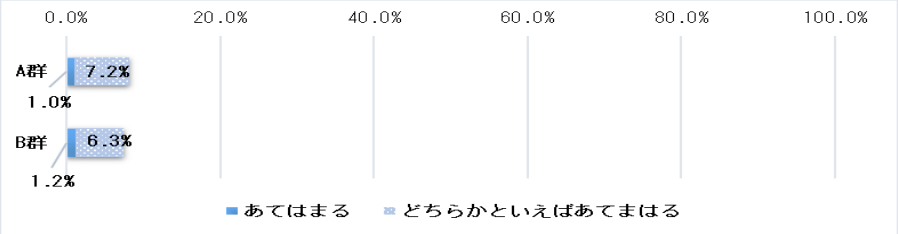
N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	14	1.7%	9	1.5%	5	2.0%
どちらかといえばあてまはる	141	16.8%	102	17.5%	39	15.4%
どちらかといえばあてはまらない	358	42.8%	247	42.3%	111	43.9%
全くあてはまらない	314	37.5%	220	37.7%	94	37.2%
無回答	10	1.2%	6	1.0%	4	1.6%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



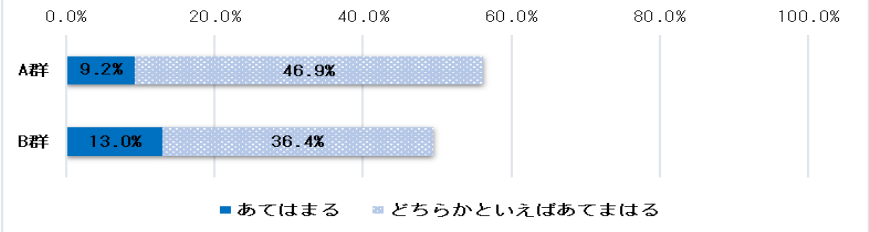
地域ケア会議に参加している　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	9	1.1%	6	1.0%	3	1.2%
どちらかといえばあてまはる	58	6.9%	42	7.2%	16	6.3%
どちらかといえばあてはまらない	226	27.0%	151	25.9%	75	29.6%
全くあてはまらない	537	64.2%	382	65.4%	155	61.3%
無回答	7	0.8%	3	0.5%	4	1.6%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



介護業務に際して、地域他の機関（住民組織を含む）と関係性構築の必要性を感じる　N＝837

	数	割合	A群 数	A群 割合	B群 数	B群 割合
あてはまる	87	10.4%	54	9.2%	33	13.0%
どちらかといえばあてまはる	366	43.7%	274	46.9%	92	36.4%
どちらかといえばあてはまらない	217	25.9%	149	25.5%	68	26.9%
全くあてはまらない	155	18.5%	101	17.3%	54	21.3%
無回答	12	1.4%	6	1.0%	6	2.4%
合計	837	100.0%	584	100.0%	253	100.0%



③ 認知症の方への対応について

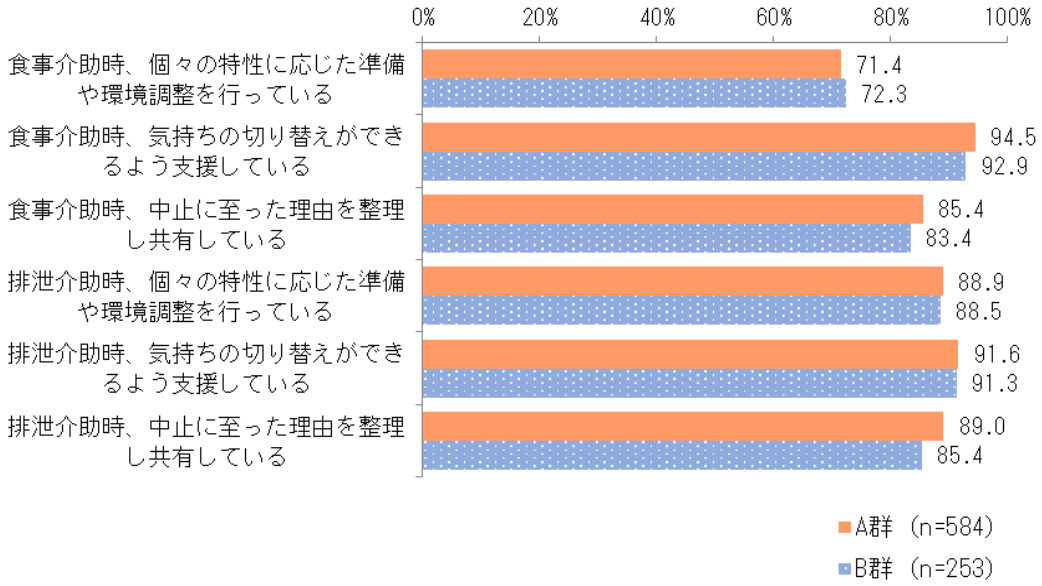
食事介助、排泄介助の場面における認知症の方への対応に際して、介護キャリア段位制度で検討を行ってきた、「認知症ケアの評価」項目案のうち、日常の生活場面として認知症の方への「食事介助」及び「排泄介助」について、「個別ケア」を実践されているかどうかを伺ったところ、両群に大差はみられなかった。

食事介助の際に動作が止まったり、拒否が見られたりしたときの「気持ちの切り替えの支援」、排泄が失敗に終わったときの対応（原因整理、記録、チーム共有）について、若干ではあるが、A 群の方が B 群よりも「実施している」との回答割合が高い結果ではあるものの、いずれも、8 割～9 割の職員が、これらの対応について、「できている」との自己評価結果であった。

認知症ケア

介護職員自身が提供する認知症の方への日頃の対応について（自己評価） N=837

「実施している」「どちらかといえば実施している」の計（%）



（５）職場環境、仕事について

現在の職場や仕事について、どのように感じているか、職務忠誠度、バーンアウト尺度等を用いて、伺ったところ、特徴がみられた点として、「職場で、上司や同僚からのサポートが得られている」については、A 群が 57.5%に対し、B 群の回答は 44.7%と差がみられた。

また、「職場では、スキルアップのサポートがある」については、A 群が 32.0%に対し、B 群は 23.7%であり、指導者調査と同様の傾向が示された。

注目すべきは、「自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる」について、A 群では、37.0%に対し、B 群は 25.7%と、目標にしたい人が身近にいるとの回答が A 群で高く示された。

その他、「自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる」、「仕事を通じて成長していると感じる」、「仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている」といった、スキルアップに関わる項目について、A 群の回答が B 群を上回る結果であった。

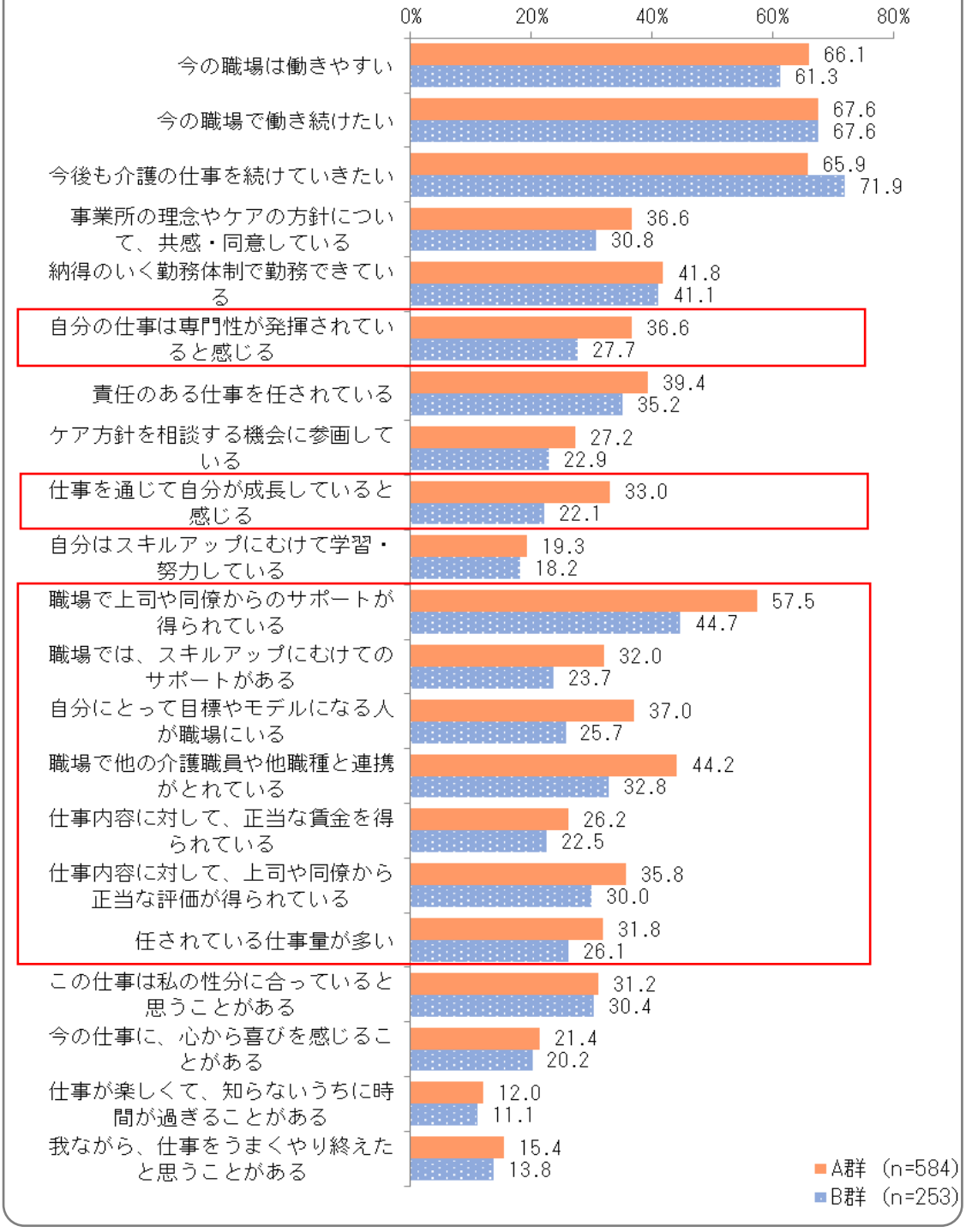
A 群では、「責任のある仕事を任されている」、「ケア方針を相談する機会に参画している」についても、B 群を上回っており、一般職層において、組織への参画の機会が確保されていると読み取れる。

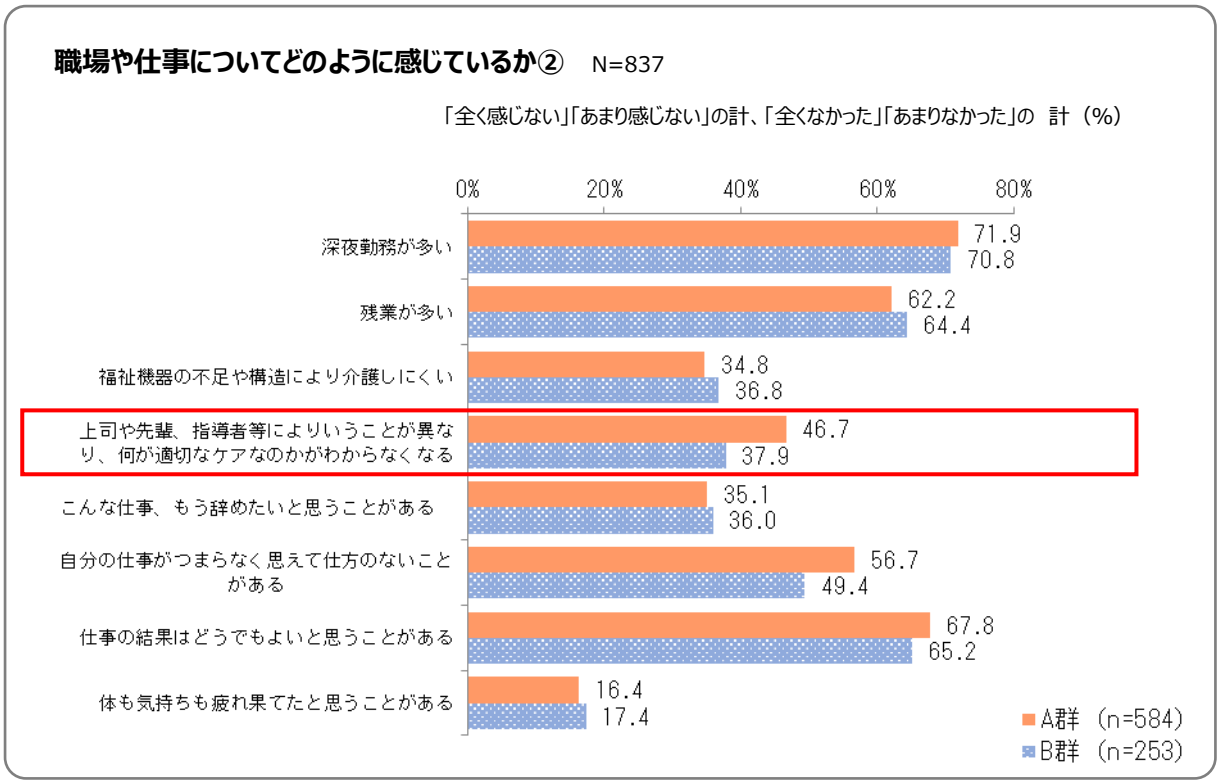
また、「他職種との連携」については、事業所調査結果、指導者調査結果と同様の傾向で、A 群が B 群を上回る結果であった。

「上司や先輩、指導者等によっていうことが異なり、何が適切なケアなのかが、わからなくなる」については、全体で 17.2%であり、A 群 B 群に大差はみられない。「あまり感じない」「全く感じない」については、全体で 44%（A 群：46.7%、B 群：37.9%）となっており、半数近くの事業所介護職員においては、介護技術指導のばらつきを感じていない。これはケア技術に関して、指針となるものを踏まえた指導がされている、と読み取れる。

職場や仕事についてどのように感じているか①　N=837

（「いつも感じる」「よく感じる」の計、「いつもあった」「よくあった」の計（%））





介護労働者のストレスに関する調査（平成 28 年度　介護労働実態調査　特別調査）の結果と比較すると、今回の調査結果では、「正当な賃金を得られている」につき、全体で 25.1%（A 群：26.2%、先行調査：15.9%）、「納得のいく勤務体制」では、全体で 41.6%（A 群：41.8%）、「この仕事は私の性分に合っている」は、全体で 30.9%（A 群：31.2%、先行調査:19.2%）、「今の仕事に、心から喜びを感じることがある」は、全体で 21.0%（A 群：２１．４%、先行調査：16.6%）と、いずれも先行調査のデータと乖離した結果であり、指導者調査結果と同様の傾向である。

この点、単純な比較はできないものの、A 群、B 群ともに納得のいく条件で、やりがいをもって働いている、と読み取ることができる。

また、仕事や職場に関するモチベーションにマイナスに働くといえる項目について、職場のケアに関する指導の標準化がはかられている傾向（「上司や先輩、指導者等によりいうことが異なり、何が適切なケアなのかがわからなくなる」（全く・あまりあてはまらないの計 A 群：46.7%、B 群：37.9%）が読み取れ、A 群の方が、ケアの標準化の取組が進んでいるものと読み取れる。

（６）統計的検定の実施

介護職員調査についても、事業所調査と同様、A 群・B 群の 2 つの母集団について、統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチの t 検定」を採用した。

＜条件＞

・2 群は異なる集団である（対応のないデータ）
・2 群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
・サンプルサイズ（2 群計）が 30～500 である
・母集団において 2 群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチの t 検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T 値」を算出し、「T 値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において 2 群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2 群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T値 = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

Ｔ値　≧　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえる
Ｔ値　＜　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量Ｔ」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

Ｔ値　≧　棄却限界値　「差がある」
Ｔ値　＜　棄却限界値　「差がない」

とした。

介護職員調査におけるｔ検定結果一覧表（1/2）

	番号	調査項目	t検定										
			A群			B群			T値	自由度	棄却限界値	T値 -棄却限界値	2群差異
			サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差					
研修の実施状況	2(1)⑪	介護職員の介護技術向上にむけた研修	584	7.26	1.50	252	6.92	2.48	2.01	333.49	1.97	0.04	差がある
	2(1)⑫	自立支援・重度化防止に向けた取り組みに関する研修	576	6.33	1.67	251	6.16	2.21	1.08	378.62	1.97	-0.89	差がない
	2(1)⑬	認知症の方に対する対応に関する研修	583	6.85	1.62	252	6.58	2.12	1.84	383.49	1.97	-0.13	差がない
	2(1)⑭	事故やトラブル発生時における対応の研修	582	6.99	1.44	250	6.72	2.06	1.84	358.12	1.97	-0.13	差がない
	2(1)⑯	個別介護計画の立案に関する研修	580	5.52	1.92	252	5.17	2.43	2.04	393.46	1.97	0.07	差がある
	2(1)⑰	医療・介護連携に関する研修	581	5.73	1.95	251	5.29	2.35	2.63	406.19	1.97	0.66	差がある
	2(1)⑱	地域社会資源の把握と活用に関する研修	580	4.65	2.28	252	4.32	2.39	1.83	457.77	1.97	-0.14	差がない
	2(1)⑲	地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修	579	4.60	2.34	252	4.32	2.36	1.61	474.47	1.97	-0.36	差がない
	2(1)⑮	介護記録に関する研修	582	5.77	1.86	252	5.68	2.28	0.54	401.75	1.97	-1.43	差がない
	2(1)⑳	介護に関する研修や勉強会の時間の確保	578	6.89	1.91	250	6.72	2.26	1.05	410.75	1.97	-0.92	差がない
人材育成体制の整備	2(1)①	介護する上での不安な点について相談する機会や相談窓口の設定	583	7.12	1.67	251	6.92	2.19	1.32	381.10	1.97	-0.65	差がない
	2(1)②	上司や先輩から指導を受ける機会の設定	584	6.93	1.62	251	6.71	2.18	1.45	373.61	1.97	-0.52	差がない
	2(1)③	上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会の設定	581	7.25	1.56	249	6.99	2.06	1.79	375.11	1.97	-0.18	差がない
	2(1)④	向上に向けた相談をする機会の設定	583	6.36	1.79	251	6.08	2.21	1.79	397.55	1.97	-0.18	差がない
	2(1)⑤	職場全体の課題を共有する機会の設定	584	6.65	1.73	252	6.64	2.20	0.01	390.61	1.97	-1.96	差がない
	2(1)⑥	介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定	581	7.32	1.65	252	7.11	2.02	1.46	403.27	1.97	-0.51	差がない
	2(1)⑦	介護に関して定期的にチェックを受ける機会の設定	582	5.80	1.78	251	5.65	2.34	0.87	379.58	1.97	-1.10	差がない
	2(1)⑧	介護内容の適切性等、介護記録を通じて検討する機会の設定	581	6.02	1.86	252	6.03	2.22	0.06	409.92	1.97	-1.91	差がない
	2(1)⑨	地域ケア会議などでの地域課題を検討する機会の設定	574	4.64	2.50	250	4.47	2.45	0.92	482.65	1.97	-1.05	差がない
	2(1)⑩	医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会の設定	581	5.37	2.41	250	5.03	2.48	1.80	459.20	1.97	-0.17	差がない
人材育成取組結果	3(1)⑧	介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	576	6.50	2.53	248	6.10	2.67	2.01	445.71	1.97	0.04	差がある
	3(1)①	衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している	582	8.24	1.87	252	8.02	1.89	1.57	472.08	1.97	-0.40	差がない
	3(1)②	食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	582	8.50	1.60	252	8.28	1.51	1.89	503.05	1.96	-0.07	差がない
	3(1)③	排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	580	8.41	1.78	252	8.12	1.77	2.17	479.81	1.97	0.20	差がある
	3(1)④	自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	579	7.35	2.30	251	6.84	2.55	2.71	434.61	1.97	0.74	差がある
	3(1)⑥	利用者の状態など常にアセスメントを行っている	580	7.40	2.21	252	7.04	2.35	2.10	451.61	1.97	0.13	差がある
	3(1)⑦	第3者にわかるよう介護記録を残している	579	7.57	2.03	250	7.36	2.19	1.29	442.07	1.97	-0.68	差がない
	2(3)	職場全体的に見たとき適切に記録されている	576	7.35	1.51	250	7.05	1.93	2.18	386.84	1.97	0.21	差がある
	2(4)	介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている	583	6.72	1.70	252	6.50	2.11	1.47	397.19	1.97	-0.50	差がない
	2(5)	介護記録の分析を行うことを十分に行っている	581	5.58	1.97	251	5.77	2.14	1.23	439.76	1.97	-0.74	差がない
	3(1)⑨	ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している	583	8.21	2.02	251	7.70	2.25	3.08	429.96	1.97	1.11	差がある
	2(6)	自分自身で振り返りを行っている	582	7.09	1.32	250	7.15	1.78	0.46	371.51	1.97	-1.51	差がない
	2(7)	指摘・アドバイスによる介護技術の向上がはかられる機会	580	6.98	1.69	251	6.91	2.10	0.45	396.72	1.97	-1.52	差がない
	3(1)⑩	介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	579	5.13	2.89	252	4.64	2.80	2.28	491.84	1.97	0.31	差がある
	2(8)	医療職等他の専門職との連携が図られている	582	8.11	1.97	251	7.61	2.07	3.27	452.60	1.97	1.30	差がある
	3(1)⑤	医療職等、他の専門職と連携することを意識している	581	7.70	2.18	252	7.27	2.28	2.53	458.47	1.97	0.56	差がある
認知症 人材育成取り組み結果	3(2)①	食事介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	580.00	7.77	2.01	250	7.66	2.07	0.67	458.98	1.97	-1.30	差がない
	3(2)②	食事介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	582	8.24	1.60	250	8.13	1.64	0.89	462.01	1.97	-1.08	差がない
	3(2)③	食事介助時、中止に至った理由を整理し共有している	580	7.71	2.07	250	7.47	2.13	1.47	461.45	1.97	-0.50	差がない
	3(2)①	排泄介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	581	7.95	1.96	250	7.93	1.92	0.15	480.99	1.97	-1.82	差がない
	3(2)②	排泄介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	582	8.13	1.80	250	8.03	1.80	0.73	470.02	1.97	-1.24	差がない
	3(2)③	排泄介助時、中止に至った理由を整理し共有している	580	7.93	1.92	250	7.64	2.12	1.84	432.92	1.97	-0.13	差がない
地域連携取組結果	3(1)⑪	地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	581	2.74	2.43	250	2.61	2.19	0.78	521.35	1.96	-1.18	差がない
	3(1)⑫	地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	581	4.21	3.00	249	3.83	2.90	1.70	484.49	1.97	-0.27	差がない
	3(1)⑬	地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	580	3.83	2.64	249	3.36	2.39	2.54	516.19	1.96	0.58	差がある
	3(1)⑭	情報を地域の他機関・他職種から集めている	578	3.31	2.48	249	3.26	2.43	0.27	477.38	1.97	-1.70	差がない
	3(1)⑮	地域ケア会議に参加している	581	2.18	2.02	249	2.23	1.98	0.38	476.77	1.97	-1.59	差がない
	3(1)⑯	地域他の機関と関係性構築の必要性を感じる	578	5.61	2.99	247	5.33	3.20	1.17	438.26	1.97	-0.80	差がない

介護職員調査におけるｔ検定結果一覧表（2/2）

	番号	調査項目	t検定										
			A群			B群			T値	自由度	棄却限界値	T値 -棄却限界値	2群差異
			サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差					
モチベーションプラス要因	2(10)	今の職場は働きやすいか	580	7.23	2.14	252	7.04	2.22	1.13	462.20	1.97	-0.84	差がない
	2(11)	今の職場で働き続けたいか	485	7.87	2.59	205	8.08	2.22	1.06	445.54	1.97	-0.91	差がない
	2(12)	今後も介護の仕事を続けていきたいか	483	7.88	2.63	208	8.38	2.29	2.51	448.20	1.97	0.54	差がある
	2(13)⑦	事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	580	5.96	2.07	251	5.71	2.06	1.57	475.49	1.97	-0.40	差がない
	2(13)②	納得のいく勤務体制で勤務できている	579	6.05	2.28	250	6.02	2.45	0.19	442.49	1.97	-1.78	差がない
	2(13)⑪	自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	582	6.04	2.02	250	5.70	2.01	2.18	474.50	1.97	0.21	差がある
	2(13)⑨	責任のある仕事を任されている	581	6.11	2.19	250	5.81	2.31	1.73	450.96	1.97	-0.24	差がない
	2(13)⑩	ケア方針を相談する機会に参画している	582	5.37	2.17	248	5.21	2.23	0.91	455.03	1.97	-1.06	差がない
	2(13)⑫	仕事を通じて自分が成長していると感じる	583	5.87	2.03	251	5.48	1.89	2.66	504.88	1.96	0.70	差がある
	2(13)⑰	自分はスキルアップにむけて学習・努力している	580	5.21	1.95	251	5.03	1.95	1.19	474.31	1.97	-0.78	差がない
	2(13)⑬	職場で上司や同僚からのサポートが得られている	581	6.91	1.97	252	6.42	1.95	3.33	481.89	1.97	1.36	差がある
	2(13)⑱	職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	581	5.70	2.15	248	5.33	2.03	2.33	490.32	1.97	0.36	差がある
	2(13)⑯	自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	582	5.45	2.74	252	4.90	2.54	2.80	511.81	1.96	0.84	差がある
	2(13)⑮	職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	582	6.39	1.93	252	5.88	1.96	3.50	470.37	1.97	1.53	差がある
	2(13)①	仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	578	5.03	2.38	250	4.80	2.41	1.31	466.61	1.97	-0.66	差がない
	2(13)⑭	仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	578	5.93	2.04	252	5.63	2.01	1.96	484.67	1.97	-0.01	差がない
	2(13)⑧	任されている仕事量が多い	580	5.64	2.32	250	5.22	2.19	2.47	499.00	1.97	0.50	差がある
	2(14)②	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	580	5.76	2.07	252	5.80	1.96	0.27	503.11	1.96	-1.69	差がない
	2(14)⑤	今の仕事に、心から喜びを感じることがある	580	5.34	1.96	252	5.23	1.96	0.73	477.90	1.97	-1.24	差がない
	2(14)⑥	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	582	4.13	2.19	252	4.23	2.18	0.63	478.17	1.97	-1.34	差がない
	2(14)⑧	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	582	5.08	1.78	252	4.91	1.74	1.29	487.40	1.97	-0.68	差がない
モチベーションマイナス要因	2(13)③	深夜勤務が多い	560	7.83	2.18	240	7.68	2.02	0.92	484.01	1.97	-1.05	差がない
	2(13)④	残業が多い	577	7.17	2.56	249	7.38	2.39	1.12	500.56	1.96	-0.84	差がない
	2(13)⑤	福祉機器の不足や構造により介護しにくい	576	5.53	2.51	251	5.59	2.47	0.33	484.71	1.97	-1.64	差がない
	2(13)⑥	指導者等により適切なケアがわからなくなる	581	6.23	2.11	252	5.93	2.03	1.98	495.13	1.97	0.01	差がある
	2(14)①	こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	581	5.79	2.42	252	5.90	2.39	0.58	482.72	1.97	-1.39	差がない
	2(14)③	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	580	6.76	2.15	251	6.54	2.04	1.43	498.45	1.97	-0.54	差がない
	2(14)④	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	580	7.35	2.00	251	7.27	1.96	0.54	485.56	1.97	-1.43	差がない
	2(14)⑦	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	581	4.62	2.20	252	4.84	2.12	1.37	492.03	1.97	-0.60	差がない

なお、検定結果と各回答割合について比較した表は以下の通りとなる。(1/2)

	番号	調査項目	算定	単純差違比較			t検定	
				A群	B群	差(A-B)	T値 -棄却限界値	2群差異
研修の実施状況	2(1)⑪	介護職員の介護技術向上にむけた研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	74.0%	64.8%	9.2%	0.04	差がある
	2(1)⑫	自立支援・重度化防止に向けた取り組みに関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	49.3%	49.0%	0.3%	-0.89	差がない
	2(1)⑬	認知症の方に対する対応に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	62.2%	61.3%	0.9%	-0.13	差がない
	2(1)⑭	事故やトラブル発生時における対応の研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	67.1%	60.9%	6.3%	-0.13	差がない
	2(1)⑯	個別介護計画の立案に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	33.7%	29.2%	4.5%	0.07	差がある
	2(1)⑰	医療・介護連携に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	37.0%	30.8%	6.2%	0.66	差がある
	2(1)⑱	地域社会資源の把握と活用に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	17.8%	18.2%	-0.4%	-0.14	差がない
	2(1)⑲	地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	16.8%	17.8%	-1.0%	-0.36	差がない
	2(1)⑮	介護記録に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	36.5%	37.2%	-0.7%	-1.43	差がない
	2(1)⑳	介護に関する研修や勉強会の時間の確保	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	61.3%	61.7%	-0.4%	-0.92	差がない
人材育成体制の整備	2(1)①	介護する上での不安な点について相談する機会や相談窓口の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	68.7%	67.2%	1.5%	-0.65	差がない
	2(1)②	上司や先輩から指導を受ける機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	65.2%	60.9%	4.4%	-0.52	差がない
	2(1)③	上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	70.9%	65.2%	5.7%	-0.18	差がない
	2(1)④	向上に向けた相談をする機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	49.5%	46.6%	2.8%	-0.18	差がない
	2(1)⑤	職場全体の課題を共有する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	57.4%	58.1%	-0.7%	-1.96	差がない
	2(1)⑥	介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	72.3%	69.6%	2.7%	-0.51	差がない
	2(1)⑦	介護に関して定期的にチェックを受ける機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	38.2%	37.5%	0.6%	-1.10	差がない
	2(1)⑧	介護内容の適切性等、介護記録を通じて検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	42.6%	45.5%	-2.8%	-1.91	差がない
	2(1)⑨	地域ケア会議などでの地域課題を検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	19.5%	20.6%	-1.0%	-1.05	差がない
	2(1)⑩	医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	36.1%	29.6%	6.5%	-0.17	差がない
人材育成 取組結果	3(1)⑧	介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	66.8%	58.9%	7.9%	0.04	差がある
	3(1)①	衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	91.1%	90.1%	1.0%	-0.40	差がない
	3(1)②	食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	95.0%	95.3%	-0.2%	-0.07	差がない
	3(1)③	排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	92.5%	91.7%	0.8%	0.20	差がある
	3(1)④	自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	79.3%	71.1%	8.1%	0.74	差がある
	3(1)⑥	利用者の状態など常にアセスメントを行っている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	81.0%	74.7%	6.3%	0.13	差がある
	3(1)⑦	第3者にわかるよう介護記録を残している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	84.4%	81.0%	3.4%	-0.68	差がない
	2(3)	職場全体的に見たとき適切に記録されている	適切・ある程度適切にされている　率（%）	69.9%	65.6%	4.3%	0.21	差がある
	2(4)	介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている	とても・ややそう思う　率（%）	60.8%	55.7%	5.1%	-0.50	差がない
	2(5)	介護記録の分析を行うことを十分に行っている	とても・ややそう思う　率（%）	32.9%	36.0%	-3.1%	-0.74	差がない
	3(1)⑨	ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	89.9%	83.4%	6.5%	1.11	差がある
	2(6)	自分自身で振り返りを行っている	十分・どちらかといえば行っている　率（%）	68.5%	69.2%	-0.7%	-1.51	差がない
	2(7)	指摘・アドバイスによる介護技術の向上がはかられる機会	多くある・少しある　率（%）	63.4%	65.6%	-2.3%	-1.52	差がない
	3(1)⑩	介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	44.0%	35.6%	8.4%	0.31	差がある
	2(8)	医療職等他の専門職との連携が図られている	多くある・少しある　率（%）	82.0%	74.3%	7.7%	1.30	差がある
	3(1)⑤	医療職等、他の専門職と連携することを意識している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	84.8%	80.2%	4.5%	0.56	差がある
認知症 人材育成 取り組み結果	3(2)①	食事介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	実施・どちらかというと実施している	71.4%	72.3%	-0.9%	-1.30	差がない
	3(2)②	食事介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	実施・どちらかというと実施している	94.5%	92.9%	1.6%	-1.08	差がない
	3(2)③	食事介助時、中止に至った理由を整理し共有している	実施・どちらかというと実施している	85.4%	83.4%	2.0%	-0.50	差がない
	3(2)①	排泄介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	実施・どちらかというと実施している	88.9%	88.5%	0.3%	-1.82	差がない
	3(2)②	排泄介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	実施・どちらかというと実施している	91.6%	91.3%	0.3%	-1.24	差がない
	3(2)③	排泄介助時、中止に至った理由を整理し共有している	実施・どちらかというと実施している	89.0%	85.4%	3.7%	-0.13	差がない
地域連携 取組結果	3(1)⑪	地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	14.6%	11.1%	3.5%	-1.18	差がない
	3(1)⑫	地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	32.2%	26.5%	5.7%	-0.27	差がない
	3(1)⑬	地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	26.0%	17.8%	8.2%	0.58	差がある
	3(1)⑭	情報を地域の他機関・他職種から集めている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	19.0%	17.4%	1.6%	-1.70	差がない
	3(1)⑮	地域ケア会議に参加している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	8.2%	7.5%	0.7%	-1.59	差がない
	3(1)⑯	地域他の機関と関係性構築の必要性を感じる	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	56.2%	49.4%	6.8%	-0.80	差がない

(2/2)

	番号	調査項目	算定	単純差違比較			t検定	
				A群	B群	差(A-B)	T値 -棄却限界値	2群差異
モチベーション プラス要因	2(10)	今の職場は働きやすいか	とても・ややそう思う　率（%）	66.1%	61.3%	4.8%	-0.84	差がない
	2(11)	今の職場で働き続けたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）	67.6%	67.6%	0.0%	-0.91	差がない
	2(12)	今後も介護の仕事を続けていきたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）	65.9%	71.9%	-6.0%	0.54	差がある
	2(13)⑦	事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	いつも・よく感じる　率（%）	36.6%	30.8%	5.8%	-0.40	差がない
	2(13)②	納得のいく勤務体制で勤務できている	いつも・よく感じる　率（%）	41.8%	41.1%	0.7%	-1.78	差がない
	2(13)⑪	自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	いつも・よく感じる　率（%）	36.6%	27.7%	9.0%	0.21	差がある
	2(13)⑨	責任のある仕事を任されている	いつも・よく感じる　率（%）	39.4%	35.2%	4.2%	-0.24	差がない
	2(13)⑩	ケア方針を相談する機会に参画している	いつも・よく感じる　率（%）	27.2%	22.9%	4.3%	-1.06	差がない
	2(13)⑫	仕事を通じて自分が成長していると感じる	いつも・よく感じる　率（%）	33.0%	22.1%	10.9%	0.70	差がある
	2(13)⑰	自分はスキルアップにむけて学習・努力している	いつも・よく感じる　率（%）	19.3%	18.2%	1.2%	-0.78	差がない
	2(13)⑬	職場で上司や同僚からのサポートが得られている	いつも・よく感じる　率（%）	57.5%	44.7%	12.9%	1.36	差がある
	2(13)⑱	職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	いつも・よく感じる　率（%）	32.0%	23.7%	8.3%	0.36	差がある
	2(13)⑯	自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	いつも・よく感じる　率（%）	37.0%	25.7%	11.3%	0.84	差がある
	2(13)⑮	職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	いつも・よく感じる　率（%）	44.2%	32.8%	11.4%	1.53	差がある
	2(13)①	仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	いつも・よく感じる　率（%）	26.2%	22.5%	3.7%	-0.66	差がない
	2(13)⑭	仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	いつも・よく感じる　率（%）	35.8%	30.0%	5.7%	-0.01	差がない
	2(13)⑧	任されている仕事量が多い	いつも・よく感じる　率（%）	31.8%	26.1%	5.8%	0.50	差がある
	2(14)②	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	いつも・よくあった　率（%）	31.2%	30.4%	0.7%	-1.69	差がない
	2(14)⑤	今の仕事に、心から喜びを感じることがある	いつも・よくあった　率（%）	21.4%	20.2%	1.2%	-1.24	差がない
	2(14)⑥	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	いつも・よくあった　率（%）	12.0%	11.1%	0.9%	-1.34	差がない
	2(14)⑧	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）	15.4%	13.8%	1.6%	-0.68	差がない
モチベーション マイナス要因	2(13)③	深夜勤務が多い	全く・あまり感じない　率（%）	71.9%	70.8%	1.2%	-1.05	差がない
	2(13)④	残業が多い	全く・あまり感じない　率（%）	62.2%	64.4%	-2.3%	-0.84	差がない
	2(13)⑤	福祉機器の不足や構造により介護しにくい	全く・あまり感じない　率（%）	34.8%	36.8%	-2.0%	-1.64	差がない
	2(13)⑥	指導者等により適切なケアがわからなくなる	全く・あまり感じない　率（%）	46.7%	37.9%	8.7%	0.01	差がある
	2(14)①	こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	35.1%	36.0%	-0.9%	-1.39	差がない
	2(14)③	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	全く・あまりなかった　率（%）	56.7%	49.4%	7.3%	-0.54	差がない
	2(14)④	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	67.8%	65.2%	2.6%	-1.43	差がない
	2(14)⑦	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	全く・あまりなかった　率（%）	16.4%	17.4%	-1.0%	-0.60	差がない

（７）統計的検定結果を踏まえて

介護職員調査結果に関するｔ検定により、A 群 B 群の母平均の有意差ありとなったものとして、研修（Off-JT）に関しては、「介護技術向上研修」、「個別介護計画の立案に関する研修」、「医療・介護連携に関する研修」が該当となった。すなわち、A 群では、技術、個別ケア、医療介護連携に着眼し、OJT と Off-JT を組み合わせて実施している、と解釈できる。

職員が提供しているケアについては、介護の提供場面で、関係者間の意見調整が求められる際に、価値基準として自立支援を位置づけているかどうか、「自立支援を目的とした介護の実施について、利用者・家族に説明し納得してもらい、利用者の元気なころの生活環境の維持を目指すようにしている」について、有意差ありとなった。また、介護記録に関して「第三者にわかるように介護記録を残している」、「職場全体的にみたとき、適切に記録されている」「ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している」といった記録に関する事項につき、有意差ありとなった。

さらに、医療介護連携に関する取組について「医療職等、他の専門職との連携がはかられている」「医療職等、他の専門職と連携することを意識している」につき、有意差が示された。

これらは、A 群の育成指導として、利害や意見が対立する場面での価値基準（＝根拠）の持たせ方、根拠記録の位置づけ、他職種との連携によるケア提供、アセスメントの在り方があらわれているといえ、事業所調査結果、指導者調査結果から伺えた育成方針と一貫している。

職員のモチベーションにかかる事項では、「介護業務に関する継続意向」は、B 群の方が上回る傾向につき、有意差が確認された。一方で、「専門性の発揮」、「成長実感」、「上司や同僚からのサポート」、「スキルアップにむけたサポート」、「目標やモデルとなる人の存在」といった、スキルの成長に関わる意識や取組に関し、A 群の平均が B 群を上回ることにつき、有意差が確認された。

（８）介護職員調査結果より

介護職員調査は、介護キャリア段位制度のアセッサーが選定した介護職員からの回答となっている。回答者は一般職が約６割を占め、A 群においては約半数がレベル認定取得者からの回答であった。調査結果からは、A 群（レベル認定輩出実績 3 件以上）の特徴として、以下のような傾向があげられる。

チームの「情報共有」が重視されている

「介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている」、「ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している」、「第三者にわかるよう介護記録を残している」といった、「記録」にまつわる取組について、A 群の方が B 群よりも取組割合が高い結果であった。

「記録」を意識したこれらの取組は、「根拠に基づくケア」の実践といえるが、これらは、いずれも A 群の実施率の方が上回っている、「利用者の状態など常にアセスメントを行うことを心がけて介護を行っている」、「日々の介護の結果を個別介護計画に反映・更新している」といった取組へとつながっている、と読み取れる。すなわちアセスメントの基盤となる情報として、「根拠記録」があり、これに、知見を蓄積し、共有をはかる取組を重視している、と読み取れる。

「根拠に基づくアセスメントスキルの習得」は、事業所調査、指導者調査において、人材育成の目的として掲げられているところである。

「連携」が重視されている「他職種との連携」、「地域連携の取組」

「根拠記録」を中心とした、情報共有の取組の重視は、他職種連携の実践につながっている、と解することができる。

アンケート項目のうち、「他職種との連携」及び「地域連携」の取組に関し、A 群の実施率の方が高い傾向が示された。これは、事業所調査結果、指導者調査結果の傾向と同様であり、OJT 実施事業所（レベル認定実績を一定数有する事業所）においては、他の事業所よりも、「他の職種との連携」、及び「地域における連携」に取り組んでいるという実態が示された。

上司や先輩、同僚などからのサポート体制がある

調査結果からは、A 群では、B 群よりも、「上司や先輩から指導を受ける機会」があり、「スキルアップに向けてのサポートを受けている」実感があること、「仕事の疑問を聞く機会」があり、実感として、「上司や同僚からのサポートが得られている」、との傾向がみられた。

スキルアップに向けた指導やサポートとは、OJT の取組そのものであり、事業所に仕組みがあることを示しているといえる。

「成長」を意識させる環境にある

Ａ群にみられた傾向として、スキルアップのサポート体制が機能していることに加え、「自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる」、「仕事を通じて成長していると感じる」「自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる」といった、自身の「成長」を意識させる環境で、業務に臨んでいることが伺える。「仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている」といった、スキルアップに向けた支援（OJT）を評価とともに仕組として取り組んでいる実態が、これらにつながっているもの、と推察できる。

※B 群の実施率等が A 群よりも高い結果となった項目

調査項目	算定	全体	A群	B群	差(A-B)
地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	17.1%	16.8%	17.8%	-1.0%
介護内容の適切性等、介護記録を通じて検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	43.5%	42.6%	45.5%	-2.8%
地域ケア会議などでの地域課題を検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）	19.8%	19.5%	20.6%	-1.0%
介護記録の分析を行うことを十分に行っている	とても・ややそう思う　率（%）	33.8%	32.9%	36.0%	-3.1%
指摘・アドバイスによる介護技術の向上がはかられる機会	多くある・少しある　率（%）	64.0%	63.4%	65.6%	-2.3%
今後も介護の仕事を続けていきたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）	67.7%	65.9%	71.9%	-6.0%

両群の比較で、B 群の実績の方が高い結果であったもの（1%以上の差）として、「地域共生社会の実現にむけた取組に関する研修」、「介護記録を通じた検討の機会」、「地域ケア会議での検討の機会」、「介護記録の分析の実施」、「指摘、アドバイスによる介護技術向上の機会」、職務継続意欲等であった。

地域連携の取組、介護記録を踏まえた根拠に基づくケア実践、介護技術の向上にむけた指摘やアドバイスは、「事業所調査」、「指導者調査」においては、A 群と B 群で大差がみられたところと重なる。この点、今回の介護職員調査の結果をどのように解すべきか、統計検定を行い、検証を行うこととする。

５．アンケート調査結果を踏まえて

本調査は、介護事業所における、介護技術向上に資する人材育成にむけての取組実態を調査し、介護技術向上の OJT 取組事業所と未取組事業所との比較を通じて、介護技術向上の取組がもたらす事項を探ることとし、実施した。

介護技術向上の取組の測定可能な指標として、介護キャリア段位制度のレベル認定実績を用い、1 事業所においてレベル認定実績を 3 名以上輩出している事業所を、A 群（OJT 実施事業所）、レベル認定実績を生んでいない事業所を B 群（OJT 未実施事業所群）とし、両群の比較を行った。

調査客体は、介護キャリア段位制度のアセッサーが 1 名以上在籍している事業所であることから、A 群、B 群のいずれの群も、全国介護事業所において、人材育成を重視して取り組んでいる事業所といえる。このことは、今回の調査からの研修（Off-JT）実施状況をみても、伺える。

今回の調査で両群の相違として表出された取組事項の差異は、実際の全国介護事業所との比較となると、更なる差異が生じているものと想定できる。

事業所調査、指導者調査、介護職員調査につき、A 群と B 群の実施率等の差分に着目してみると、事業所調査と、指導者調査において、両群の取組差が、顕著に示され、A 群では、人材育成を仕組みとして取り込み、運用している実態が示された。

人材育成･OJT をシステム化している

介護技術向上の取組は、事業所における自律的な取組に任されているが、A 群では、取組自体をシステム化して取り込み、運用していることが指摘できる。

A 群の傾向として、OJT にあたっては、スキルアップのパスを明示し、介護技術に関する評価基準・指標という、ツールを導入している。また、指導者を配置し、指導者への支援体制を組んでいる。その上で、目的共有、計画作成、目標設定、面談の実施、業務中の指導、進捗状況把握、定期確認評価の実施の各段階を実施している。その際、指導者には、ある程度の権限委譲がなされており、工夫や提案ができる立場にあり、指導者の指導は、業務そのものとして位置づけている。

これらは、個々の現場任せの場当たり的な OJT とは一線を画す。OJT を「仕組み」としてとらえ、スキルアップの方向性、現状スキルの「みえる化」をはかりながら、指導者に役割と権限を与え、指導者へのサポート体制を組み、手順・手法に即して、システム的に運用している、といえる。

OJT は手順や行動様式に留まらず、思考方法の習得に着目している

介護技術向上の指導内容では A 群では、「介護技術指導」、「現認を伴う指導」に加えて、「ケア根拠の説明指導」「記録や報告書類の作成指導」、「記録の分析指導」、「記録を用いたチーム職員への情報共有の指導」といった、「根拠」を辿る指導がされている。

また、「職員の行為や対応についての振り返りにむけた支援指導」、「職員の気づきを支援し、ケア内容の改善にむけていく指導」が行われていることが、示された。

ここでは、ケアの手順や、行動様式をなぞる指導ではなく、「根拠」との照らし合わせとして「ケア根拠の説明指導」をしたり、「根拠記録」にまつわる指導がされているといえる。

さらに職員自身に「考えさせる」指導とは、複雑可変の条件において、対応していく力、すなわち介護の実践的スキルの獲得を目指し、思考方法の習得に着眼しているもの、といえる。

日常業務を漠然とした「学習」の場ととらえるだけでなく、OJT 実施群では、指導者の役割として、職員自身の「振り返り」「気づき」といった、職員の内省支援を担うと位置づけている。このような「経験学習サイクル」を意識した指導により、介護行為の意味合い、原因分析力、対応策を導く思考方法の獲得の方策として、OJT の仕組み化に価値を見出している。

これらに「着目」した人材育成により、実践力を伴うスキルを獲得し、「ケアプロセスの標準化」にむけて取り組んでいることが、取組実態として明示されたといえる。

なぜシステム化されているのか

指導内容に関する A 群と B 群の違いは、育成する「実践的スキル」について、明確化しているか、曖昧なものとして受け止めているか、認識の違いのあらわれともいえる。

そもそも、人材育成とは概念的であり、育成の目的が曖昧な場合は、手法が確立されず、実態化はされにくい。

今回の調査で確認された認識の違いは、具体的には介護キャリア段位制度を用いた OJT 評価、レベル認定の一連のプロセスを実行したことによって、意識化され、認識されていったもの、とも解釈できる。すなわち、OJT を実行してみたことで、取組の意義が関係者に認識される、との構図であって、やってみたことで価値を認識し、結果、システム的な運用として、展開している可能性が指摘できる。

仕組みとしての展開では、介護キャリア段位制度のツール・枠組の活用が寄与しているもの、と思われる。この点、介護キャリア段位制度では、OJT の実行の仕方と手順を示しており、手法の活用は、システム化の基盤づくりに資するものである。

一方で、「根拠に基づくケア」の実践スキルを習得していくために、どのようなタイミングで、職員に対し「振り返り」指導を行うのか、根拠記録の作成にむけた指導の仕方をどのように行うのか、また、状況の変化に応じて、求められるアセスメントスキルをどのように身につけさせていくのかといった、具体的な OJT 実践の仕方は事業所、アセッサーの取組に任されている。

そのような中で、A 群にみえる特徴的な傾向として、「根拠」を意識させるトレーニングと、職員の「内省・思考」を意識した育成手法が取り組まれていることが、明らかとなった。

OJT 取組事業所（A 群）では、「介護キャリア段位制度の評価基準」と、職員自身の行為や対応との「照らし合わせ」を通じて、「ケアの根拠」を確認し、ギャップを見出し、課題を整理し、解決へとつなげていくという、制度設計意図を忠実にくみ取り、事業所における育成の仕組みとして実態化させているといえる。

根拠に基づくケアがもたらすもの

「根拠に基づくケアの実践」に焦点を絞った人材育成と関連するケア提供として、「連携」の取組が考えられる。事業所調査、指導者調査、介護職員調査の全てにおいて、OJT 取組事業所からは、「他の専門職種との連携」「医療連携」につき、未実施群よりも実施していることが傾向として示された。

また、介護職員調査からは、「介護記録を通じたチームでの情報共有」等のチームでの情報共有がはかられている傾向である。

また、「日々の介護の結果を個別介護計画に反映することを意識し、業務を組み立てている」や「ICT 活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施」（事業所調査）、「利用者状態等、常にアセスメントを行うことを心がけて介護を行っている」（指導者調査、介護職員調査）に示されるように、個別ケア実践にむけてアセスメントを行っていると読み取れる項目につき、A 群の実施率が高い傾向である。

OJT を通じて、ケアの根拠を辿るトレーニングを行い、「根拠記録」を基盤としたケアの提供を実践することによって、チーム連携、他職種連携が実現される。

また、「根拠記録」を基盤としたアセスメントの実践により、利用者個別のケアが実践されていく。OJT 実施事業所からは、これらの傾向が実態として示されたといえ、「根拠に基づくケア」実践を主眼にした人材育成システムの有効性を示している。

地域連携の取組

今回の調査からは、OJT 取組事業所では、「地域連携」の取組が推進されている傾向が、事業所調査、指導者調査、介護職員調査に共通して確認された。「根拠（エビデンス）」に基づくケアの提供が、「地域連携」を実現している可能性や、介護キャリア段位制度の評価基準の活用によって、地域包括支援システムの構築の仕方、関わり方を探り、取り組んでいる可能性も指摘できる。また、人材育成を重視している事業所においては、「地域における役割」も明確にし、価値創出にむけた試みが実施されている、とも読み取ることができる。

「成長」を意識する環境

介護技術の向上にむけた取組が事業所にあると、職員に対してどのような影響を及ぼすのか。介護職員調査結果からは、「職場で他の介護職員や他職種と連携が取れている」、「自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる」「仕事を通じて自分が成長していると感じる」といった項目が、未実施群との差において、顕著であった。

介護職員の離職理由として、「人間関係に問題があった」(平成 30 年度介護労働実態調査)との回答が最も高い結果になっている中、今回の調査では、スキルアップの仕組みがある事業所では、「目標となる人の存在」があり、「連携」がはかられ、「成長を実感」できている、とのことである。また、「専門性の発揮」、「責任のある仕事を任されている」、「ケア方針を相談する機会に参画している」といった、組織における役割を持ち、参画の機会を保障されている傾向が示された。さらに、自己の仕事につき「正当な評価が得られている」との傾向も示された。

今回の調査対象においては、A 群 B 群ともに全国平均よりも低い離職率の事業所であるが、A 群においては、更に低く、8.4%との結果であった。これらは、OJT の取組が起因したとはいえないが、少なくとも今回の調査で、実態として示されおり、職員にむけた育成の取組が、組織コミットメントを高めている可能性には着目すべきである。

OJT がもたらす事項

今回の調査では、事業所のレベル認定実績差は、OJT を仕組化できているところとしていないところという形で、明らかな違いとなって示された。

今回の調査では、レベル認定実績を有する事業所においては、可視化された評価基準とツール、手法を活用することで、基準に照らしながらの「内省」支援を実行している。

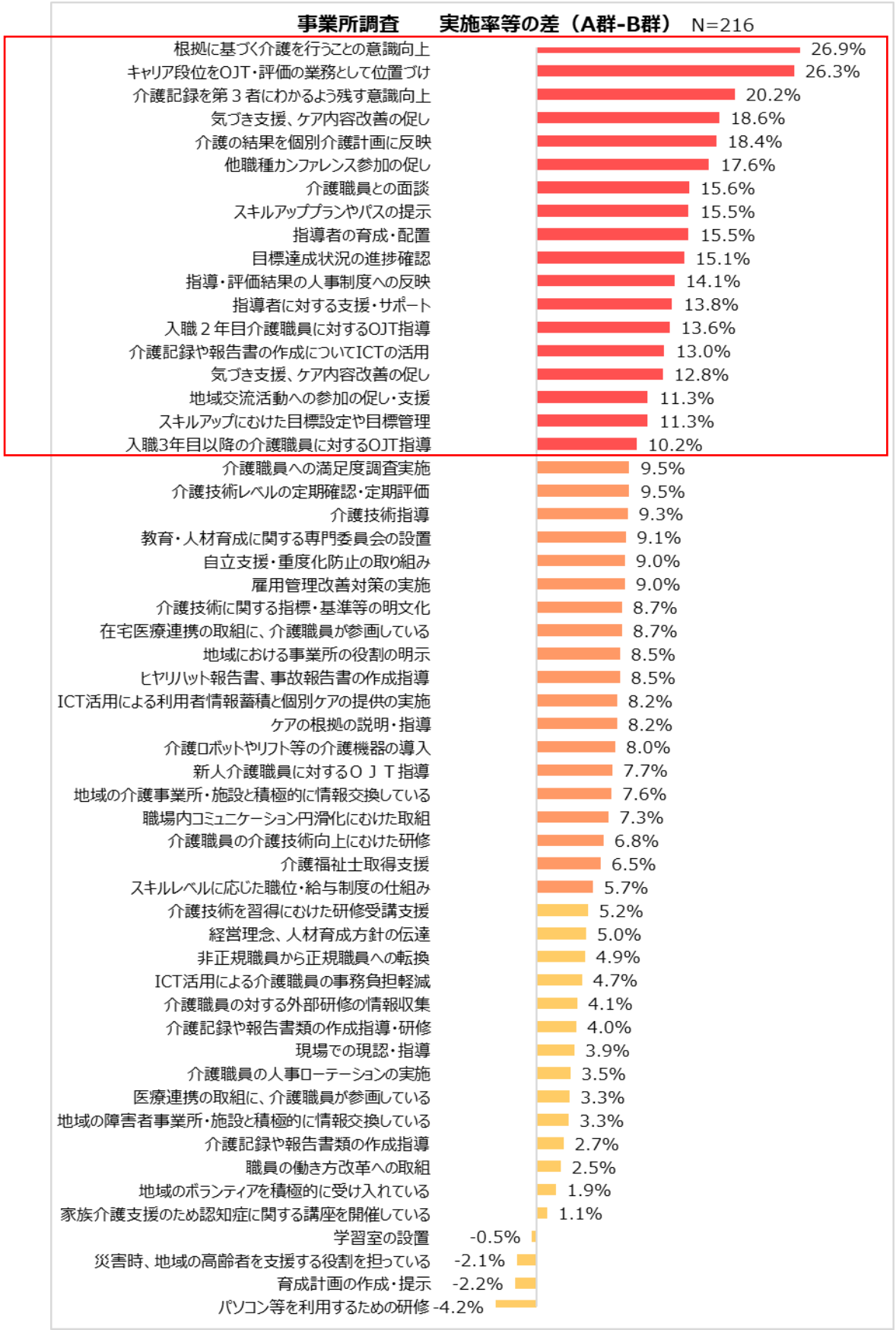
これらがもたらすものは、可変的な状況下での「対応力」といえる。一方で、手法と実施目的が具体化されない OJT では、指導方法も曖昧になり、課題が整理できず、「経験学習サイクル」の機能は難しくなる。

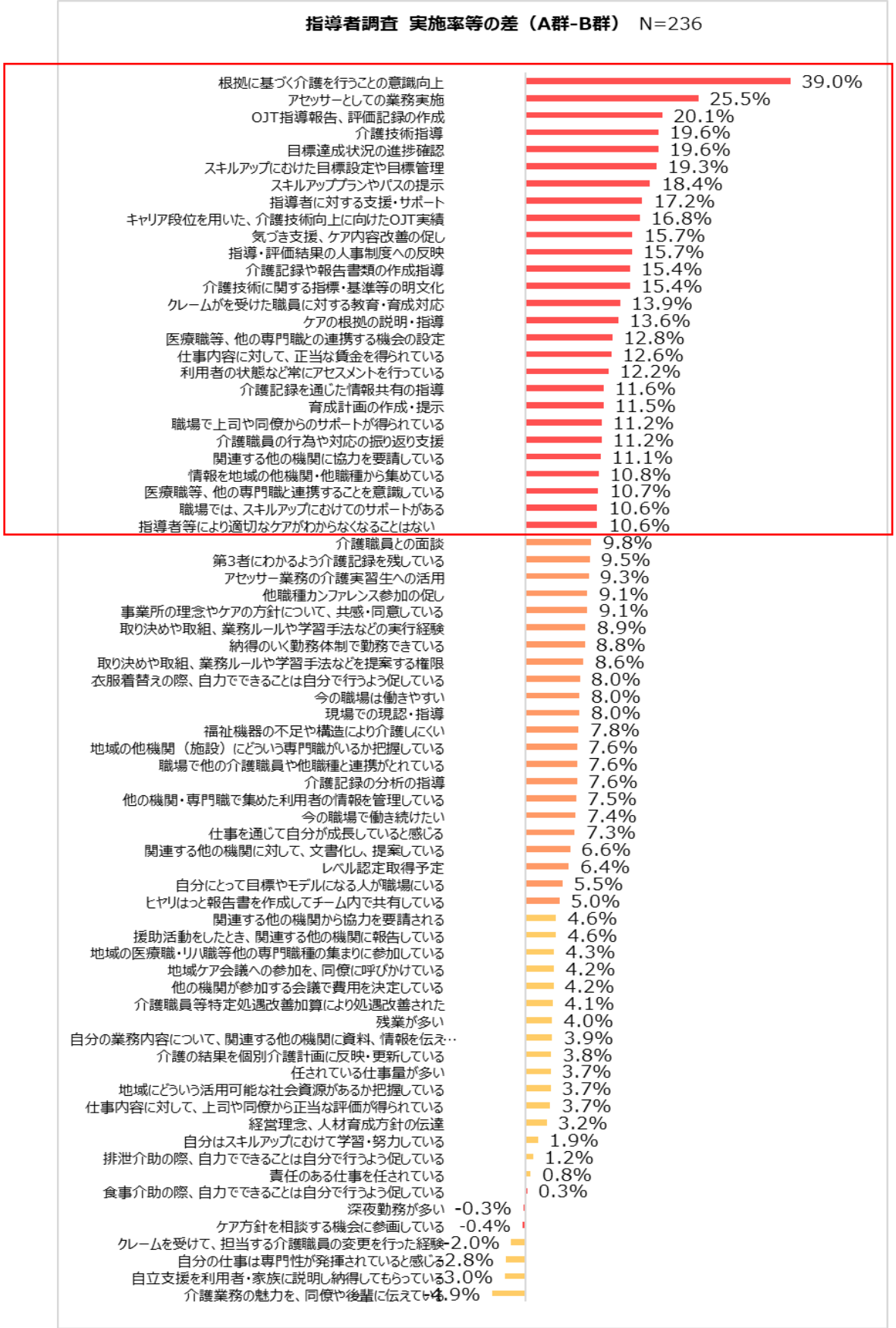
アンケート結果からは、無形性、同時性、可変性を有する介護の「実践スキル」の習得において、可視化・明文化された評価基準をはじめとしたツールと方法論を用いることによって、目標設定と PDCA プロセスでの OJT 実践が可能となることが示された。またこれらのツールを使いこなすには、指導者の存在と指導者へのサポート体制が必要である。

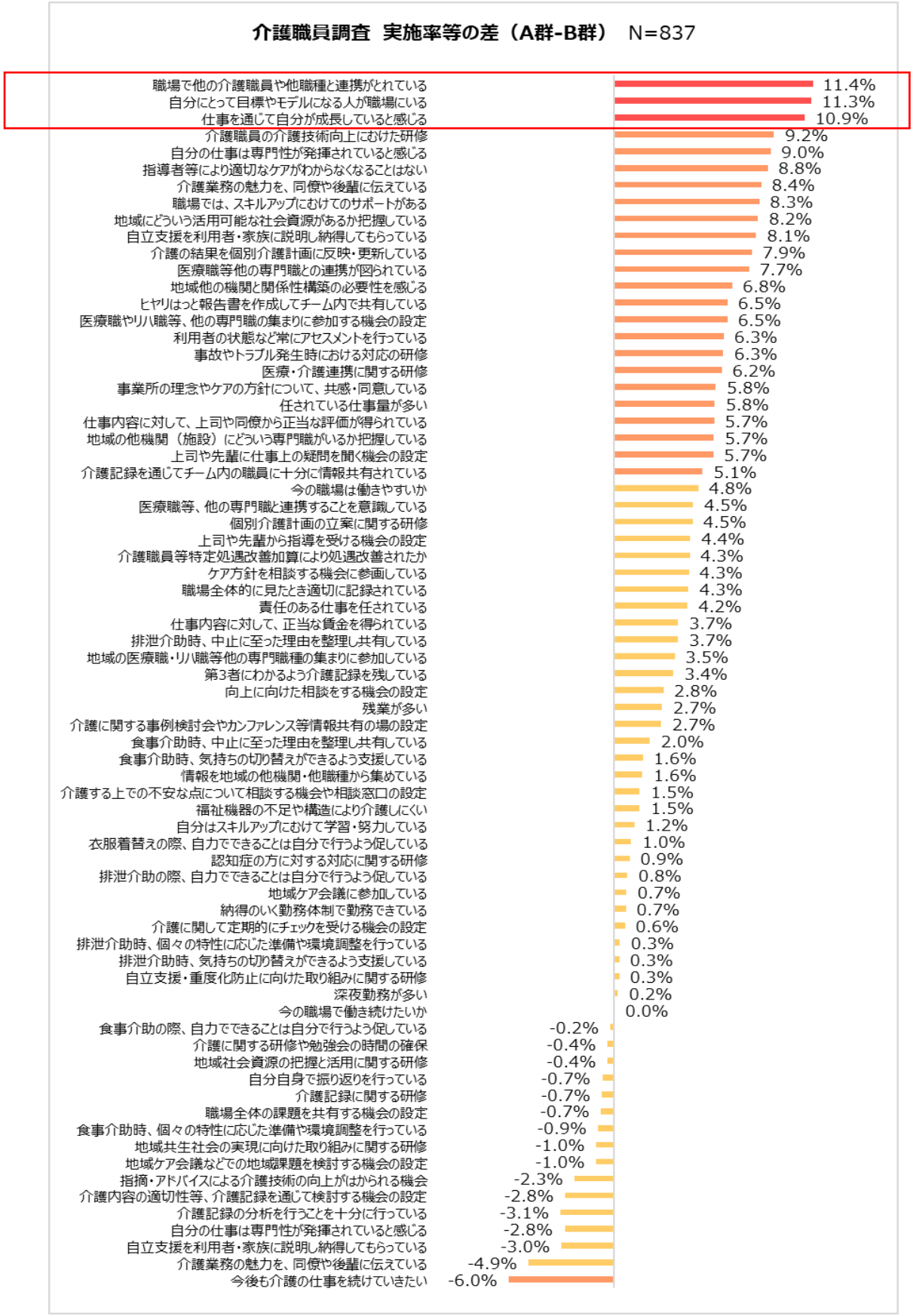
指導に際しては、取組目的を曖昧にせず、「根拠に基づくケア」の実践にむけての指導策が多様な手法で展開しており、そこでは職員の「経験学習サイクル」を意識した「思考」訓練がなされている。

これら育成取組の結果は、個別の介護過程の展開、チームケアの実践、他職種との連携として実態化している。さらに、地域連携の取組としても示されている。

介護キャリア段位制度の評価基準と照らし合わせながら、個人の「内省」を通じて積み重ねていく「実践スキル」は、ケアプロセスの標準化を実現し、組織にとってのリスクマネジメントとして機能するものといえ、実践の場での「学習」がもたらす効果は、「専門性」「役割」「責任」「目標とする人の存在」といった、個々の「成長」を意識できる環境の構築、ガバナンスの構築につながるといえる。


事業所調査　実施率等の差（A群-B群）　N=216
根拠に基づく介護を行うことの意識向上 26.9%
キャリア段位をOJT・評価の業務として位置づけ 26.3%
介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上 20.2%
気づき支援、ケア内容改善の促し 18.6%
介護の結果を個別介護計画に反映 18.4%
他職種カンファレンス参加の促し 17.6%
介護職員との面談 15.6%
スキルアッププランやパスの提示 15.5%
指導者の育成・配置 15.5%
目標達成状況の進捗確認 15.1%
指導・評価結果の人事制度への反映 14.1%
指導者に対する支援・サポート 13.8%
入職２年目介護職員に対するOJT指導 13.6%
介護記録や報告書の作成についてICTの活用 13.0%
気づき支援、ケア内容改善の促し 12.8%
地域交流活動への参加の促し・支援 11.3%
スキルアップにむけた目標設定や目標管理 11.3%
入職3年目以降の介護職員に対するOJT指導 10.2%
介護職員への満足度調査実施 9.5%
介護技術レベルの定期確認・定期評価 9.5%
介護技術指導 9.3%
教育・人材育成に関する専門委員会の設置 9.1%
自立支援・重度化防止の取り組み 9.0%
雇用管理改善対策の実施 9.0%
介護技術に関する指標・基準等の明文化 8.7%
在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している 8.7%
地域における事業所の役割の明示 8.5%
ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導 8.5%
ICT活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施 8.2%
ケアの根拠の説明・指導 8.2%
介護ロボットやリフト等の介護機器の導入 8.0%
新人介護職員に対するＯＪＴ指導 7.7%
地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している 7.6%
職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組 7.3%
介護職員の介護技術向上にむけた研修 6.8%
介護福祉士取得支援 6.5%
スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み 5.7%
介護技術を習得にむけた研修受講支援 5.2%
経営理念、人材育成方針の伝達 5.0%
非正規職員から正規職員への転換 4.9%
ICT活用による介護職員の事務負担軽減 4.7%
介護職員の対する外部研修の情報収集 4.1%
介護記録や報告書類の作成指導・研修 4.0%
現場での現認・指導 3.9%
介護職員の人事ローテーションの実施 3.5%
医療連携の取組に、介護職員が参画している 3.3%
地域の障害者事業所・施設と積極的に情報交換している 3.3%
介護記録や報告書類の作成指導 2.7%
職員の働き方改革への取組 2.5%
地域のボランティアを積極的に受け入れている 1.9%
家族介護支援のため認知症に関する講座を開催している 1.1%
学習室の設置 -0.5%
災害時、地域の高齢者を支援する役割を担っている -2.1%
育成計画の作成・提示 -2.2%
パソコン等を利用するための研修 -4.2%


指導者調査　実施率等の差（A群-B群）　N=236
根拠に基づく介護を行うことの意識向上 39.0%
アセッサーとしての業務実施 25.5%
OJT指導報告、評価記録の作成 20.1%
介護技術指導 19.6%
目標達成状況の進捗確認 19.6%
スキルアップにむけた目標設定や目標管理 19.3%
スキルアッププランやパスの提示 18.4%
指導者に対する支援・サポート 17.2%
キャリア段位を用いた、介護技術向上に向けたOJT実績 16.8%
気づき支援、ケア内容改善の促し 15.7%
指導・評価結果の人事制度への反映 15.7%
介護記録や報告書類の作成指導 15.4%
介護技術に関する指標・基準等の明文化 15.4%
クレームがを受けた職員に対する教育・育成対応 13.9%
ケアの根拠の説明・指導 13.6%
医療職等、他の専門職との連携する機会の設定 12.8%
仕事内容に対して、正当な賃金を得られている 12.6%
利用者の状態など常にアセスメントを行っている 12.2%
介護記録を通じた情報共有の指導 11.6%
育成計画の作成・提示 11.5%
職場で上司や同僚からのサポートが得られている 11.2%
介護職員の行為や対応の振り返り支援 11.2%
関連する他の機関に協力を要請している 11.1%
情報を地域の他機関・他職種から集めている 10.8%
医療職等、他の専門職と連携することを意識している 10.7%
職場では、スキルアップにむけてのサポートがある 10.6%
指導者等により適切なケアがわからなくなることはない 10.6%
介護職員との面談 9.8%
第3者にわかるよう介護記録を残している 9.5%
アセッサー業務の介護実習生への活用 9.3%
他職種カンファレンス参加の促し 9.1%
事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している 9.1%
取り決めや取組、業務ルールや学習手法などの実行経験 8.9%
納得のいく勤務体制で勤務できている 8.8%
取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを提案する権限 8.6%
衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している 8.0%
今の職場は働きやすい 8.0%
現場での現認・指導 8.0%
福祉機器の不足や構造により介護しにくい 7.8%
地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している 7.6%
職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている 7.6%
介護記録の分析の指導 7.6%
他の機関・専門職で集めた利用者の情報を管理している 7.5%
今の職場で働き続けたい 7.4%
仕事を通じて自分が成長していると感じる 7.3%
関連する他の機関に対して、文書化し、提案している 6.6%
レベル認定取得予定 6.4%
自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる 5.5%
ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している 5.0%
関連する他の機関から協力を要請される 4.6%
援助活動をしたとき、関連する他の機関に報告している 4.6%
地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している 4.3%
地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている 4.2%
他の機関が参加する会議で費用を決定している 4.2%
介護職員等特定処遇改善加算により処遇改善された 4.1%
残業が多い 4.0%
自分の業務内容について、関連する他の機関に資料、情報を伝え… 3.9%
介護の結果を個別介護計画に反映・更新している 3.8%
任されている仕事量が多い 3.7%
地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している 3.7%
仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている 3.7%
経営理念、人材育成方針の伝達 3.2%
自分はスキルアップにむけて学習・努力している 1.9%
排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している 1.2%
責任のある仕事を任されている 0.8%
食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している 0.3%
深夜勤務が多い -0.3%
ケア方針を相談する機会に参画している -0.4%
クレームを受けて、担当する介護職員の変更を行った経験 -2.0%
自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる -2.8%
自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている -3.0%
介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている -4.9%


介護職員調査　実施率等の差（A群-B群）　N=837
職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている 11.4%
自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる 11.3%
仕事を通じて自分が成長していると感じる 10.9%
介護職員の介護技術向上にむけた研修 9.2%
自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる 9.0%
指導者等により適切なケアがわからなくなることはない 8.8%
介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている 8.4%
職場では、スキルアップにむけてのサポートがある 8.3%
地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している 8.2%
自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている 8.1%
介護の結果を個別介護計画に反映・更新している 7.9%
医療職等他の専門職との連携が図られている 7.7%
地域他の機関と関係性構築の必要性を感じる 6.8%
ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している 6.5%
医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会の設定 6.5%
利用者の状態など常にアセスメントを行っている 6.3%
事故やトラブル発生時における対応の研修 6.3%
医療・介護連携に関する研修 6.2%
事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している 5.8%
任されている仕事量が多い 5.8%
仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている 5.7%
地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している 5.7%
上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会の設定 5.7%
介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている 5.1%
今の職場は働きやすいか 4.8%
医療職等、他の専門職と連携することを意識している 4.5%
個別介護計画の立案に関する研修 4.5%
上司や先輩から指導を受ける機会の設定 4.4%
介護職員等特定処遇改善加算により処遇改善されたか 4.3%
ケア方針を相談する機会に参画している 4.3%
職場全体的に見たとき適切に記録されている 4.3%
責任のある仕事を任されている 4.2%
仕事内容に対して、正当な賃金を得られている 3.7%
排泄介助時、中止に至った理由を整理し共有している 3.7%
地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している 3.5%
第3者にわかるよう介護記録を残している 3.4%
向上に向けた相談をする機会の設定 2.8%
残業が多い 2.7%
介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定 2.7%
食事介助時、中止に至った理由を整理し共有している 2.0%
食事介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している 1.6%
情報を地域の他機関・他職種から集めている 1.6%
介護する上での不安な点について相談する機会や相談窓口の設定 1.5%
福祉機器の不足や構造により介護しにくい 1.5%
自分はスキルアップにむけて学習・努力している 1.2%
衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している 1.0%
認知症の方に対する対応に関する研修 0.9%
排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している 0.8%
地域ケア会議に参加している 0.7%
納得のいく勤務体制で勤務できている 0.7%
介護に関して定期的にチェックを受ける機会の設定 0.6%
排泄介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている 0.3%
排泄介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している 0.3%
自立支援・重度化防止に向けた取り組みに関する研修 0.3%
深夜勤務が多い 0.2%
今の職場で働き続けたいか 0.0%
食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している -0.2%
介護に関する研修や勉強会の時間の確保 -0.4%
地域社会資源の把握と活用に関する研修 -0.4%
自分自身で振り返りを行っている -0.7%
介護記録に関する研修 -0.7%
職場全体の課題を共有する機会の設定 -0.7%
食事介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている -0.9%
地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修 -1.0%
地域ケア会議などでの地域課題を検討する機会の設定 -1.0%
指摘・アドバイスによる介護技術の向上がはかられる機会 -2.3%
介護内容の適切性等、介護記録を通じて検討する機会の設定 -2.8%
介護記録の分析を行うことを十分に行っている -3.1%
自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる -2.8%
自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている -3.0%
介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている -4.9%
今後も介護の仕事を続けていきたい -6.0%

アンケート集計結果　事業所調査・指導者調査・介護職員調査　①

	調査項目	算定	事業所					指導者					介護職員				
			番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)
職員	勤務先（法人内）の勤務年数	（年）						1-(6)①	15年	15年	13年	2年	1-(5)①	9.7年	10.0年	8.9年	1.1年
	介護職員としての通算経験年数	（年）						1-(6)②	17年	17年	15年	2年	1-(5)②	12.0年	12.1年	11.8年	0.3年
	保有資格　介護福祉士	介護福祉士／回答数（%）						1-(7)	95.3%	94.6%	97.0%	-2.4%	1-(6)	89.7%	91.1%	86.6%	4.5%
	保有資格　介護支援専門員	介護支援専門員・主任介護支援専門員／回答数（%）						1-(7)	37.2%	33.5%	46.3%	-12.7%	1-(7)	12.5%	12.3%	13.0%	-0.7%
	アセッサーであるか	アセッサーである。なる予定である／回答数（%）											1-(8)	22.2%	28.4%	7.9%	20.5%
	レベル認定取得状況	レベル認定（2～4）取得済み／回答数（%）						1-(8)	29.9%	41.9%	0.0%	41.9%	1-(9)	38.9%	55.8%	0.0%	55.8%
	レベル認定取得予定	レベル認定（2～4）取得予定／回答数（%）						1-(9)	38.9%	40.7%	34.3%	6.4%	1-(10)	35.2%	42.8%	17.8%	25.0%
	介護職員のうち、介護福祉士が占める割合	介護福祉士数／介護職員数（%）	2-(2)	66.6%	68.2%	63.1%	5.0%										
	介護職員のうち、勤続10年以上介護福祉士が占める割合	勤続10年以上介護福祉士数／介護職員数（%）	2-(2)	25.6%	26.6%	23.5%	3.1%										
	介護福祉士のうち、勤続10年以上介護福祉士が占める割合	勤続10年以上介護福祉士数／介護福祉士数（%）	2-(2)	40.9%	37.8%	47.8%	-10.0%										
	採用割合	採用者数／介護職員（%）	2-(3)	10.7%	10.0%	12.4%	-2.4%										
	離職割合	離職者数／介護職員（%）	2-(3)	9.1%	8.4%	10.8%	-2.5%										
処遇	処遇改善加算Ⅰ～Ⅲ	処遇改善加算Ⅰ～Ⅲ取得数／回答数（%）	2-(1)	92.1%	92.7%	90.9%	1.8%										
	特定処遇改善加算（2019年10月～）	特定処遇改善加算取得数／回答数（%）	2-(1)	64.4%	64.7%	63.6%	1.0%										
	介護職員等特定処遇改善加算により処遇改善されたか	改善された・される予定						1-(13)	70.1%	71.3%	67.2%	4.1%	1-(14)	65.5%	66.8%	62.5%	4.3%
	福利厚生費	年間（円）	2-(4)	¥39,019	¥35,005	¥49,496	-14,492										
研修体制	研修費	年間（円）	2-(4)	¥12,318	¥12,404	¥12,100	¥304										
	書籍購入費	年間（円）	2-(5)	¥36,309	¥36,658	¥35,441	¥1,217										
	書籍購入冊数	年間（冊）	2-(5)	17.4冊	18.6冊	14.2冊	4.4冊										
	教育・人材育成に関する専門委員会の設置	設置している　率（%）	2-(6)	47.2%	50.0%	40.9%	9.1%										
	教育・人材育成に関する専門委員会の開催数	年間（回）	2-(6)	11.5回	12.2回	9.7回	2.5回										
	介護職員の介護技術向上にむけた研修	積極的・ある程度実施している　率（%）	2-(7)	86.6%	88.7%	81.8%	6.8%						2(1)⑪	71.2%	74.0%	64.8%	9.2%
	介護技術向上にむけた研修の開催数	年間（回）	2-(7)	18.9回	18.8回	19.2回	-0.4回										
	自立支援・重度化防止に向けた取り組みに関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑫	49.2%	49.3%	49.0%	0.3%
	認知症の方に対する対応に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑬	61.9%	62.2%	61.3%	0.9%
	事故やトラブル発生時における対応の研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑭	65.2%	67.1%	60.9%	6.3%
	個別介護計画の立案に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑯	32.4%	33.7%	29.2%	4.5%
	医療・介護連携に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑰	35.1%	37.0%	30.8%	6.2%
	地域社会資源の把握と活用に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑱	17.9%	17.8%	18.2%	-0.4%
	地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑲	17.1%	16.8%	17.8%	-1.0%
	介護記録に関する研修	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑮	36.7%	36.5%	37.2%	-0.7%
	介護記録や報告書類の作成指導・研修	積極的・ある程度実施している　率（%）	2-(8)	52.8%	54.0%	50.0%	4.0%										
	介護記録や報告書類の作成指導研修開催数	年間（回）	2-(8)	8.8回	8.4回	9.6回	-1.2回										
	介護に関する研修や勉強会の時間の確保	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑳	61.4%	61.3%	61.7%	-0.4%
	介護に関する研修や勉強会の時間	①ヶ月あたり（時間）											2(2)	1.6時間	1.6時間	1.6時間	0.0時間
	学習室の設置状況	学習室がある　率（%）	2-(9)	14.8%	14.7%	15.2%	-0.5%										
	パソコン等を利用するための研修	積極的・ある程度実施している　率（%）	2-(10)	21.3%	20.0%	24.2%	-4.2%										
	介護職員の対する外部研修の情報収集	積極的・ある程度実施している　率（%）	2-(11)	90.7%	92.0%	87.9%	4.1%										

アンケート集計結果　事業所調査・指導者調査・介護職員調査

	調査項目	算定	事業所					指導者					介護職員				
			番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)
キャリア開発支援	介護福祉士取得支援	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)①	83.3%	85.3%	78.8%	6.5%										
	介護技術を習得にむけた研修受講支援	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)②	82.4%	84.0%	78.8%	5.2%										
職場環境	職員の働き方改革への取組	積極的・ある程度取り組んでいる　率（%）	2-(13)	86.6%	87.3%	84.8%	2.5%										
	雇用管理改善対策の実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑨	59.3%	62.0%	53.0%	9.0%										
	介護職員への満足度調査実施	積極的・ある程度実施している　率（%）	2-(14)	44.4%	47.3%	37.9%	9.5%										
	介護記録や報告書の作成についてICTの活用	積極的・ある程度推進している　率（%）	2-(12)	56.0%	60.0%	47.0%	13.0%										
	ICT活用による介護職員の事務負担軽減	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑩	53.2%	54.7%	50.0%	4.7%										
	ICT活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑪	48.1%	50.7%	42.4%	8.2%										
	介護ロボットやリフト等の介護機器の導入	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑫	38.9%	41.3%	33.3%	8.0%										
	職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑮	77.8%	80.0%	72.7%	7.3%										
人事制度	指導・評価結果の人事制度への反映	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)③	70.4%	74.7%	60.6%	14.1%	5-(1)⑭	44.0%	48.5%	32.8%	15.7%					
	スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)④	67.6%	69.3%	63.6%	5.7%										
	介護職員の人事ローテーションの実施	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑤	56.9%	58.0%	54.5%	3.5%										
	非正規職員から正規職員への転換	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑰	79.2%	80.7%	75.8%	4.9%										
人材育成体制整備	スキルアッププランやパスの提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)③	59.3%	64.0%	48.5%	15.5%	5-(1)③	47.4%	52.7%	34.3%	18.4%					
	介護技術に関する指標・基準等の明文化	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑤	56.0%	58.7%	50.0%	8.7%	5-(1)⑤	45.3%	49.7%	34.3%	15.4%					
	指導者の育成・配置	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑥	75.9%	80.7%	65.2%	15.5%										
	指導者に対する支援・サポート	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑯	61.1%	65.3%	51.5%	13.8%	5-(1)⑯	61.5%	66.5%	49.3%	17.2%					
	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを提案する権限	権限がある　率（%）						5-(4)	77.8%	80.2%	71.6%	8.6%					
	取り決めや取組、業務ルールや学習手法などの実行経験	経験がある　率（%）						5-(5)	64.5%	67.1%	58.2%	8.9%					
	介護する上での不安な点について相談する機会や相談窓口の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)①	68.2%	68.7%	67.2%	1.5%
	上司や先輩から指導を受ける機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)②	63.9%	65.2%	60.9%	4.4%
	上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)③	69.2%	70.9%	65.2%	5.7%
	向上に向けた相談をする機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)④	48.6%	49.5%	46.6%	2.8%
	職場全体の課題を共有する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑤	57.6%	57.4%	58.1%	-0.7%
	介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑥	71.4%	72.3%	69.6%	2.7%
	介護に関して定期的にチェックを受ける機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑦	38.0%	38.2%	37.5%	0.6%
	介護内容の適切性等、介護記録を通じて検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑧	43.5%	42.6%	45.5%	-2.8%
	地域ケア会議などでの地域課題を検討する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑨	19.8%	19.5%	20.6%	-1.0%
	医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会の設定	十分・ある程度おこなわれている　率（%）											2(1)⑩	34.2%	36.1%	29.6%	6.5%
	他職種カンファレンス参加の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑮	71.3%	76.7%	59.1%	17.6%	5-(1)⑮	57.3%	59.9%	50.7%	9.1%					
	医療職等、他の専門職との連携する機会の設定	多くある・少しある　率（%）						5-(11)	83.8%	87.4%	74.6%	12.8%					
	地域交流活動への参加の促し・支援	十分・ある程度おこなわれている　率（%）+DM	4-(2)⑯	57.9%	61.3%	50.0%	11.3%										
	地域における事業所の役割の明示	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)③	68.1%	70.7%	62.1%	8.5%										
	新人介護職員に対するＯＪＴ指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑥	85.6%	88.0%	80.3%	7.7%										
	入職２年目介護職員に対するOJT指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑦	51.9%	56.0%	42.4%	13.6%										
	入職3年目以降の介護職員に対するOJT指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑧	38.9%	42.0%	31.8%	10.2%										

アンケート集計結果　事業所調査・指導者調査・介護職員調査

	調査項目	算定	事業所					指導者					介護職員				
			番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)
人材育成取り組み	経営理念、人材育成方針の伝達	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)①	83.8%	85.3%	80.3%	5.0%	5-(1)①	62.0%	62.9%	59.7%	3.2%					
	育成計画の作成・提示	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)②	72.7%	72.0%	74.2%	-2.2%	5-(1)②	59.0%	62.3%	50.7%	11.5%					
	スキルアップにむけた目標設定や目標管理	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)④	74.5%	78.0%	66.7%	11.3%	5-(1)④	55.6%	61.1%	41.8%	19.3%					
	介護職員との面談	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑦	86.6%	91.3%	75.8%	15.6%	5-(1)⑥	63.7%	66.5%	56.7%	9.8%					
	面談時間	1ヶ月あたり　（時間）						5-(2)①	3.1時間	3.1時間	3.2時間	-0.1時間					
	面談時間	一人あたり　（時間）						5-(2)②	0.7時間	0.8時間	0.4時間	0.3時間					
	介護技術指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑧	73.1%	76.0%	66.7%	9.3%	5-(1)⑦	66.2%	71.9%	52.2%	19.6%					
	現場での現認・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑨	64.8%	66.0%	62.1%	3.9%	5-(1)⑧	62.4%	64.7%	56.7%	8.0%					
	介護記録や報告書類の作成指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑩	62.5%	63.3%	60.6%	2.7%	5-(1)⑨	69.2%	73.7%	58.2%	15.4%					
	記録物（介護記録等）検証時間	1ヶ月あたり　（時間）						5-(3)	6.1時間	6.4時間	5.1時間	1.3時間					
	介護記録の分析の指導	常に・ある程度指導している　率（%）						5-(7)	45.7%	47.9%	40.3%	7.6%					
	ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑭	90.7%	93.3%	84.8%	8.5%										
	介護記録を通じた情報共有の指導	常に・ある程度指導している　率（%）						5-(6)	67.9%	71.3%	59.7%	11.6%					
	ケアの根拠の説明・指導	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑪	70.8%	73.3%	65.2%	8.2%	5-(1)⑩	67.9%	71.9%	58.2%	13.6%					
	介護職員の行為や対応の振り返り支援	十分・どちらかといえば行っている　率（%）						5-(8)	57.3%	60.5%	49.3%	11.2%					
	気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑭	69.0%	74.7%	56.1%	18.6%	5-(1)⑫	70.9%	75.4%	59.7%	15.7%					
	気づき支援、ケア内容改善の促し	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(2)⑬	74.1%	78.0%	65.2%	12.8%										
	クレームがを受けた職員に対する教育・育成対応	十分・どちらかといえば実施してた　率（%）						5-(9)①	78.5%	82.8%	68.9%	13.9%					
	目標達成状況の進捗確認	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑫	68.1%	72.7%	57.6%	15.1%	5-(1)⑪	54.3%	59.9%	40.3%	19.6%					
	OJT指導報告、評価記録の作成	よく・どちらかといえば実施している　率（%）						5-(1)⑬	36.8%	42.5%	22.4%	20.1%					
	介護技術レベルの定期確認・定期評価	よく・どちらかといえば実施している　率（%）	4-(1)⑬	44.4%	47.3%	37.9%	9.5%										
人材育成取り組み結果	自立支援・重度化防止の取り組み	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)①	86.6%	89.3%	80.3%	9.0%										
	介護の結果を個別介護計画に反映	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)②	76.4%	82.0%	63.6%	18.4%										
	介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑧	71.4%	72.5%	68.7%	3.8%	3(1)⑧	64.4%	66.8%	58.9%	7.9%
	衣服着替えの際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)①	92.3%	94.6%	86.6%	8.0%	3(1)①	90.8%	91.1%	90.1%	1.0%
	食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)②	95.7%	95.8%	95.5%	0.3%	3(1)②	95.1%	95.0%	95.3%	-0.2%
	排泄介助の際、自力でできることは自分で行うよう促している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)③	91.9%	92.2%	91.0%	1.2%	3(1)③	92.2%	92.5%	91.7%	0.8%
	自立支援を利用者・家族に説明し納得してもらっている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)④	82.9%	82.0%	85.1%	-3.0%	3(1)④	76.8%	79.3%	71.1%	8.1%
	利用者の状態など常にアセスメントを行っている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑥	86.3%	89.8%	77.6%	12.2%	3(1)⑥	79.1%	81.0%	74.7%	6.3%
	第3者にわかるよう介護記録を残している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑦	85.9%	88.6%	79.1%	9.5%	3(1)⑦	83.4%	84.4%	81.0%	3.4%
	職場全体的に見たとき適切に記録されている	適切・ある程度適切にされている　率（%）											2(3)	68.6%	69.9%	65.6%	4.3%
	介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されている	とても・ややそう思う　率（%）											2(4)	59.3%	60.8%	55.7%	5.1%
	介護記録の分析を行うことを十分に行っている	とても・ややそう思う　率（%）											2(5)	33.8%	32.9%	36.0%	-3.1%
	ヒヤリはっと報告書を作成してチーム内で共有している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑨	87.2%	88.6%	83.6%	5.0%	3(1)⑨	87.9%	89.9%	83.4%	6.5%
	自分自身で振り返りを行っている	十分・どちらかといえば行っている　率（%）											2(6)	68.7%	68.5%	69.2%	-0.7%
	指摘・アドバイスによる介護技術の向上がはかられる機会	多くある・少しある　率（%）											2(7)	64.0%	63.4%	65.6%	-2.3%
	介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑩	57.7%	56.3%	61.2%	-4.9%	3(1)⑩	41.5%	44.0%	35.6%	8.4%
	医療職等他の専門職との連携が図られている	多くある・少しある　率（%）											2(8)	79.7%	82.0%	74.3%	7.7%
	医療職等、他の専門職と連携することを意識している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑤	89.7%	92.8%	82.1%	10.7%	3(1)⑤	83.4%	84.8%	80.2%	4.5%

アンケート集計結果　事業所調査・指導者調査・介護職員調査

	調査項目	算定	事業所					指導者					介護職員				
			番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)
認知症 人材育成 取り組み結果	食事介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	実施・どちらかというと実施している											3(2)①	71.7%	71.4%	72.3%	-0.9%
	食事介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	実施・どちらかというと実施している											3(2)②	94.0%	94.5%	92.9%	1.6%
	食事介助時、中止に至った理由を整理し共有している	実施・どちらかというと実施している											3(2)③	84.8%	85.4%	83.4%	2.0%
	排泄介助時、個々の特性に応じた準備や環境調整を行っている	実施・どちらかというと実施している											3(2)①	88.8%	88.9%	88.5%	0.3%
	排泄介助時、気持ちの切り替えができるよう支援している	実施・どちらかというと実施している											3(2)②	91.5%	91.6%	91.3%	0.3%
	排泄介助時、中止に至った理由を整理し共有している	実施・どちらかというと実施している											3(2)③	87.9%	89.0%	85.4%	3.7%
地域連携 取り組み結果	地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑥	64.4%	66.7%	59.1%	7.6%										
	地域の障害者事業所・施設と積極的に情報交換している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑦	25.0%	26.0%	22.7%	3.3%										
	医療連携の取組に、介護職員が参画している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)④	52.3%	53.3%	50.0%	3.3%										
	在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑤	39.4%	42.0%	33.3%	8.7%										
	家族介護支援のため認知症に関する講座を開催している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑨	41.7%	42.0%	40.9%	1.1%										
	地域のボランティアを積極的に受け入れている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑧	74.1%	74.7%	72.7%	1.9%										
	災害時、地域の高齢者を支援する役割を担っている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）	5-(1)⑩	71.3%	70.7%	72.7%	-2.1%										
	地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑪	26.9%	28.1%	23.9%	4.3%	3(1)⑪	13.5%	14.6%	11.1%	3.5%
	地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑫	51.7%	53.9%	46.3%	7.6%	3(1)⑫	30.5%	32.2%	26.5%	5.7%
	地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑬	44.4%	45.5%	41.8%	3.7%	3(1)⑬	23.5%	26.0%	17.8%	8.2%
	情報を地域の他機関・他職種から集めている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑭	28.6%	31.7%	20.9%	10.8%	3(1)⑭	18.5%	19.0%	17.4%	1.6%
	関連する他の機関に対して、文書化し、提案している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑱	22.6%	24.6%	17.9%	6.6%					
	関連する他の機関に協力を要請している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑲	24.4%	27.5%	16.4%	11.1%					
	地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑮	20.9%	22.2%	17.9%	4.2%					
	自分の業務内容について、関連する他の機関に資料、情報を伝えている	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑯	19.2%	20.4%	16.4%	3.9%					
	地域ケア会議に参加している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）											3(1)⑮	8.0%	8.2%	7.5%	0.7%
	地域他の機関と関係性構築の必要性を感じる	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）											3(1)⑯	54.1%	56.2%	49.4%	6.8%
	援助活動をしたとき、関連する他の機関に報告している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑰	25.6%	26.9%	22.4%	4.6%					
	他の機関が参加する会議で費用を決定している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)㉑	6.0%	7.2%	3.0%	4.2%					
	他の機関・専門職で集めた利用者の情報を管理している	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)㉒	12.8%	15.0%	7.5%	7.5%					
	関連する他の機関から協力を要請される	あてはまる・どちらかといえばあてはまる　率（%）						7-(1)⑳	31.6%	32.9%	28.4%	4.6%					
キャリア段位 取り組みと効果	キャリア段位をOJT・評価の業務として位置づけ	十分・どちらかといえば位置づけている　率（%）	3-(1)	54.6%	62.7%	36.4%	26.3%										
	キャリア段位を用いた、介護技術向上に向けたOJT実績	現在実施中　率（%）						4-(3)	29.9%	34.7%	17.9%	16.8%					
	アセッサーとしての業務実施	十分・行っている　率（%）						4-(1)	22.6%	29.9%	4.5%	25.5%					
	アセッサーとしての業務時間							4-(2)	9.5時間	11.8時間	3.0時間	8.8時間					
	根拠に基づく介護を行うことの意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	3-(3)	44.4%	52.7%	25.8%	26.9%	4-(4)	60.7%	71.9%	32.8%	39.0%					
	介護記録を第３者にわかるよう残す意識向上	高まった・少し高まった　率（%）	3-(4)	39.8%	46.0%	25.8%	20.2%	4-(5)	59.8%	71.3%	31.3%	39.9%					
	アセッサー業務の介護実習生への活用	活用している　率（%）						4-(6)	20.1%	22.8%	13.4%	9.3%					
	キャリア段位の今後の活用	積極的・活用していく　率（%）	3-(5)	64.8%	74.0%	43.9%	30.1%										

アンケート集計結果　事業所調査・指導者調査・介護職員調査　⑤

	調査項目	算定	事業所					指導者					介護職員				
			番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)	番号	全体	A群	B群	差(A-B)
モチベーションプラス要因	今の職場は働きやすいか	とても・ややそう思う　率（%）						6-(1)	65.4%	67.7%	59.7%	8.0%	2(10)	64.6%	66.1%	61.3%	4.8%
	今の職場で働き続けたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）						6-(2)	70.9%	73.1%	65.7%	7.4%	2(11)	67.6%	67.6%	67.6%	0.0%
	今後も介護の仕事を続けていきたいか	できるだけ・しばらく続けたい　率（%）											2(12)	67.7%	65.9%	71.9%	-6.0%
	事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑦	51.3%	53.9%	44.8%	9.1%	2(13)⑦	34.9%	36.6%	30.8%	5.8%
	納得のいく勤務体制で勤務できている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)②	43.6%	46.1%	37.3%	8.8%	2(13)②	41.6%	41.8%	41.1%	0.7%
	自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑪	54.7%	53.9%	56.7%	-2.8%	2(13)⑪	33.9%	36.6%	27.7%	9.0%
	責任のある仕事を任されている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑨	75.2%	75.4%	74.6%	0.8%	2(13)⑨	38.1%	39.4%	35.2%	4.2%
	ケア方針を相談する機会に参画している	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑩	59.4%	59.3%	59.7%	-0.4%	2(13)⑩	25.9%	27.2%	22.9%	4.3%
	仕事を通じて自分が成長していると感じる	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑫	44.0%	46.1%	38.8%	7.3%	2(13)⑫	29.7%	33.0%	22.1%	10.9%
	自分はスキルアップにむけて学習・努力している	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑰	25.2%	25.7%	23.9%	1.9%	2(13)⑰	19.0%	19.3%	18.2%	1.2%
	職場で上司や同僚からのサポートが得られている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑬	57.3%	60.5%	49.3%	11.2%	2(13)⑬	53.6%	57.5%	44.7%	12.9%
	職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑱	35.9%	38.9%	28.4%	10.6%	2(13)⑱	29.5%	32.0%	23.7%	8.3%
	自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑯	24.8%	26.3%	20.9%	5.5%	2(13)⑯	33.6%	37.0%	25.7%	11.3%
	職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑮	51.7%	53.9%	46.3%	7.6%	2(13)⑮	40.7%	44.2%	32.8%	11.4%
	仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)①	32.9%	36.5%	23.9%	12.6%	2(13)①	25.1%	26.2%	22.5%	3.7%
	仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑭	38.5%	39.5%	35.8%	3.7%	2(13)⑭	34.1%	35.8%	30.0%	5.7%
	任されている仕事量が多い	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑧	53.4%	54.5%	50.7%	3.7%	2(13)⑧	30.1%	31.8%	26.1%	5.8%
	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)②	40.2%	39.5%	41.8%	-2.3%	2(14)②	30.9%	31.2%	30.4%	0.7%
	今の仕事に、心から喜びを感じることがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)⑤	27.8%	28.1%	26.9%	1.3%	2(14)⑤	21.0%	21.4%	20.2%	1.2%
	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)⑥	14.1%	15.6%	10.4%	5.1%	2(14)⑥	11.7%	12.0%	11.1%	0.9%
	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)⑧	19.7%	22.8%	11.9%	10.8%	2(14)⑧	14.9%	15.4%	13.8%	1.6%
モチベーションマイナス要因	深夜勤務が多い	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)③	7.3%	7.2%	7.5%	-0.3%	2(13)③	6.1%	6.2%	5.9%	0.2%
	残業が多い	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)④	22.2%	23.4%	19.4%	4.0%	2(13)④	13.4%	14.2%	11.5%	2.7%
	福祉機器の不足や構造により介護しにくい	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑤	26.5%	28.7%	20.9%	7.8%	2(13)⑤	29.9%	30.3%	28.9%	1.5%
	指導者等により適切なケアがわからなくなる	いつも・よく感じる　率（%）						6-(3)⑥	12.4%	12.6%	11.9%	0.6%	2(13)⑥	17.2%	17.0%	17.8%	-0.8%
	こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)①	21.4%	20.4%	23.9%	-3.5%	2(14)①	24.5%	24.5%	24.5%	0.0%
	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)③	12.0%	13.8%	7.5%	6.3%	2(14)③	12.2%	12.0%	12.6%	-0.7%
	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)④	6.4%	5.4%	9.0%	-3.6%	2(14)④	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%
	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	いつも・よくあった　率（%）						6-(4)⑦	38.9%	37.1%	43.3%	-6.2%	2(14)⑦	44.2%	46.4%	39.1%	7.3%
その他	クレームを受けて、担当する介護職員の変更を行った経験	よく・時々あった　率（%）						5-(9)	15.0%	14.4%	16.4%	-2.0%					

第２章

介護技術向上に関するデータ分析

第２章　介護技術向上に関するデータ分析

１．介護技術向上に関するデータ分析実施概要

（１）目的

第1章　介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケートにおいて、介護職員に対する介護技術の指導や評価（介護職員に対する OJT）に取り組んでいる介護事業所と、取組ができていない事業所の比較分析を行い、介護技術向上にむけた取組がもたらす事項につき、検証を行ったが、同様に、介護キャリア段位におけるレベル認定への取組のプロセスである「期首評価」及び「期末評価」のデータを用いて、介護キャリア段位のおける介護技術の評価の取組が、介護技術向上として介護事業所に対してどのようなことをもたらしているのか、また、全国に展開している介護キャリア段位制度が、全国の介護事業所に対して 3 年にわたってどのようなことをもたらしたか、その影響や効果について検証することを目的にデータ分析を行った。

また、合わせて OJT として重点すべき介護技術の分析を行い、それらの介護技術に対する OJT の標準的な時間を示すとともに、事業所評価指標となり得る OJT 項目について明らかにすることで、介護事業所の効果的・効率的な OJT 実施が推進されることを目的にデータ分析を行った。

（２）分析対象データ

介護キャリア段位制度におけるレベル認定申請システムに登録されている「期首評価票」データ及び「期末評価票」データ

・

（３）対象データ抽出条件

- 「期首評価票」データ　：　全体 9,149 件
  2019 年 12 月までにレベル認定となった期首評価票データ：4,192 件
  評価開始から 1 年以上経過し、レベル認定に至らなかった期首評価票データ：4,957 件

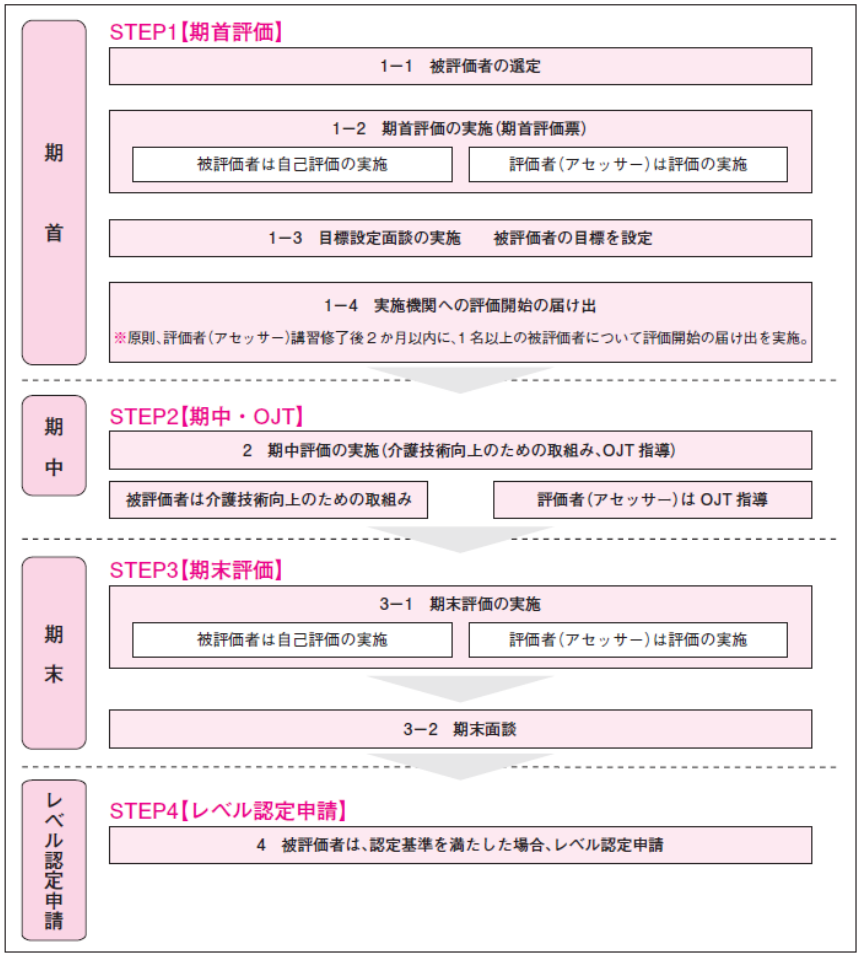
- 「期末評価票」データ　：　全体：2,174 件
  新様式を用いて評価を行い、2019 年 12 月までにレベル認定となった期末評価票データ

２．期首評価票データ分析結果

（１）期首評価票データの分析（全体）

介護キャリア段位制度におけるレベル認定までのプロセスは以下の通りとなっており、期首の段階において、介護技術を客観的に評価するアセッサー（評価者）が、レベル認定を目指す介護職員に対して、日頃のケアの状況を振り返りながら、介護技術の評価項目に基づき「できる」「できていない」評価を行っている。これが今回データ分析の対象となる期首評価票データとなる。なお、この期首評価の際に見出された「できていない」介護技術を中心に、ある一定期間において「できる」ようになるよう OJT を実施し、一定期間経過後、介護技術の定着がはかられたか確認する期末評価を行う、いわゆる介護技術の評価と OJT を一体的に実施するプロセスを介護キャリア段位では構築している。

介護キャリア段位制度におけるレベル認定までのプロセス



介護キャリア段位制度における期首評価票

Ⅰ．基本介護技術の評価					目標レベル			
中項目	No	小項目	小項目評価					
			自己評価	評価者評価				
1．入浴介助	1	入浴前の確認ができる			レベル2①	レベル2②	レベル3	レベル4
	2	衣服の着脱ができる						
	3	洗体ができる（浴槽に入ることを含む）						
	4	清拭ができる						
2．食事介助	1	食事前の準備を行うことができる						
	2	食事介助ができる						
	3	口腔ケアができる						
3．排泄介助	1	排泄の準備を行うことができる						
	2	トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる						
	3	おむつ交換を行うことができる						
4．移乗・移動・体位変換	1	起居の介助ができる						
	2	一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる						
	3	全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる						
	4	杖歩行の介助ができる						
	5	体位変換ができる						
5．状態の変化に応じた対応	1	咳やむせこみに対応ができる						
	2	便・尿の異常（血便・血尿、バイタル、ショック状態など）に対応ができる						
	3	皮膚の異常（炎症、表皮剥離、水疱、潰瘍等）に対応ができる						
	4	認知症の方がいつもと違う行動（攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等）を行った場合に対応できる						

Ⅱ．利用者視点での評価					目標レベル			
中項目	No	小項目	小項目評価					
			自己評価	評価者評価				
1．利用者・家族とのコミュニケーション	1	相談・苦情対応ができる				2②	レベル3	レベル4
	2	利用者特性に応じたコミュニケーションができる						
2．介護過程の展開	1	利用者に関する情報を収集できる						
	2	個別介護計画を立案できる						
	3	個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる						
	4	個別介護計画の評価ができる						
3．感染症対策・衛生管理	1	感染症予防対策ができる				2②		
	2	感染症発生時に対応できる						
4．事故発生防止	1	ヒヤリハットの視点を持っている				2②		
	2	事故発生時の対応ができる						
	3	事故報告書を作成できる						
5．身体拘束廃止	1	身体拘束廃止に向けた対応ができる						
	2	身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる						
6．終末期ケア	1	終末期の利用者や家族の状況を把握できる						
	2	終末期に医療機関または医療職との連携ができる						

Ⅲ．地域包括ケアシステム＆リーダーシップ					目標レベル			
中項目	No	小項目	小項目評価					
			自己評価	評価者評価				
1．地域包括ケアシステム	1	地域内の社会資源との情報共有						レベル4
	2	地域内の社会資源との業務協力						
	3	地域内の関係職種との交流						
	4	地域包括ケアシステムの管理業務						
2．リーダーシップ	1	現場で適切な技術指導ができる						
	2	部下の業務支援を適切に行っている						
	3	評価者として適切に評価できる						

この期首評価票における小項目単位での評価結果、「○（できる）」「×（できていない）」を用いて、期首評価の段階、いわゆる OJT 実施前に介護技術項目としてどのくらいできているか、○（できる）の評価数／評価総数により介護技術項目別「○（できる）」割合を算出した。割合において 100%に近いほど「○（できる）」ということであり、例えば 50%であれば半数が「○（できる）」ということ、半数が「×（できていない）」ということになる。

その上で、介護職員としての経験年数と期首評価票データ全体における「○（できる）」割合を一覧表形式にて集計分析すると以下の通りとなった。

なお、視認性を高める上で、90%以上「○（できる）」場合は白抜き、「○（できる）」割合が 80%台の場合は 、「○（できる）」割合が 70%台の場合は 、「○（できる）」割合が 60%台の場合は 、「○（できる）」割合が 50%台の場合は 「○（できる）」割合が 50%未満の場合は にて網掛けを行っている。

経験年数ごと介護技術項目「○（できる）」割合一覧表（n＝9,149 件）

90%以上： 80%台： 70%台： 60%台： 50%台： 50%未満：

評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	84.5	87.6	88.7	92.1	94.2	93.8	93.0	91.7	94.7	93.8	95.3	95.2	96.1	95.1	95.6	97.6	94.8	99.2	98.9	95.9	93.9
		2 衣服の着脱ができる	83.6	86.2	90.7	89.1	92.5	92.5	94.0	92.0	94.2	94.6	95.3	95.0	95.8	94.2	94.3	96.2	98.5	96.1	96.7	96.6	93.4
		3 洗体ができる	77.4	82.6	87.9	88.4	92.1	92.3	92.2	90.1	92.1	93.7	94.5	90.9	93.9	95.7	94.3	95.7	94.0	93.8	97.8	97.3	91.8
		4 清拭ができる	55.8	68.9	74.8	81.9	84.7	90.5	87.7	85.8	87.6	91.0	91.7	92.6	93.0	94.8	92.9	93.4	96.2	95.3	97.8	93.2	87.5
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	83.5	86.1	88.4	89.7	92.8	93.0	91.8	90.8	92.3	94.2	96.4	93.1	95.0	95.4	94.3	94.3	95.5	96.9	97.8	95.9	92.9
		2 食事介助ができる	75.0	80.6	85.1	85.8	89.0	91.9	91.2	89.2	88.2	90.5	92.5	92.1	92.7	92.9	91.7	94.8	90.3	93.0	93.3	91.8	89.6
		3 口腔ケアができる	72.7	77.6	83.3	85.0	87.7	90.4	87.8	88.0	91.9	90.8	95.0	91.9	93.0	93.5	91.1	96.2	93.3	92.1	93.3	92.5	89.4
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	89.6	89.1	92.4	93.1	94.7	95.2	94.4	95.4	95.3	96.5	97.5	95.5	96.4	97.5	95.8	97.2	96.3	97.7	96.7	97.3	95.2
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	76.7	76.8	82.5	87.3	89.7	91.4	90.6	89.3	91.6	91.8	93.3	91.1	93.0	94.2	93.7	94.3	94.0	94.5	96.7	91.8	90.2
		3 おむつ交換を行うことができる	72.2	79.4	82.9	88.5	90.5	92.1	91.8	89.4	93.0	92.4	93.9	92.6	94.7	96.0	94.3	96.2	93.3	94.5	95.5	97.3	91.0
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	80.6	82.8	88.3	88.4	91.6	93.5	93.2	92.6	94.0	94.6	96.9	95.0	94.7	96.9	96.4	96.2	97.8	98.4	98.9	97.3	93.4
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.1	75.3	81.6	84.0	87.8	91.4	89.4	88.8	90.0	91.7	92.7	90.2	91.0	92.6	92.4	93.4	88.8	93.7	95.5	92.5	88.9
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	65.9	69.6	74.3	81.1	84.3	86.9	85.2	86.0	87.2	89.5	91.9	88.5	89.9	90.5	91.4	89.0	90.3	89.1	94.4	91.0	85.8
		4 杖歩行の介助ができる	66.5	73.0	78.5	81.9	85.7	88.7	89.5	88.2	90.1	88.0	93.5	89.4	93.5	91.9	87.9	91.4	93.1	93.5	97.8	89.5	87.6
		5 体位変換ができる	68.3	73.7	81.2	83.4	88.6	89.2	91.6	90.2	91.6	92.3	94.2	92.5	94.6	94.5	94.3	96.7	92.5	95.3	94.4	96.5	89.8
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	66.3	71.7	80.5	84.6	86.2	88.6	91.5	90.7	92.6	93.1	92.7	93.1	94.1	95.1	91.9	95.7	98.3	95.5	95.9	96.9	89.8
		2 便・尿の異常に対応ができる	50.3	62.7	74.1	74.2	79.7	82.0	85.1	86.3	91.4	89.7	89.0	90.9	91.7	90.5	89.2	91.4	97.5	90.2	93.2	92.2	84.6
		3 皮膚の異常に対応ができる	49.0	59.7	72.3	77.0	77.9	82.0	83.8	86.5	91.7	87.7	87.7	89.5	91.7	90.2	88.6	90.4	97.5	89.3	95.9	90.7	83.9
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	44.0	50.4	56.9	64.8	68.8	73.8	76.0	77.9	79.9	80.7	82.4	80.7	86.1	85.6	83.6	86.6	87.5	87.4	89.2	81.4	76.2
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケー	1 相談・苦情対応ができる	40.7	45.0	56.6	65.5	67.0	75.5	72.0	73.9	77.5	77.4	83.4	85.7	81.8	86.2	85.0	89.8	89.2	88.4	90.8	86.2	75.9
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	67.8	68.1	76.3	78.1	84.2	85.5	85.3	88.6	88.4	90.9	91.5	91.8	92.7	93.8	90.3	92.4	94.2	94.7	94.7	90.2	87.0
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	75.3	81.8	76.7	84.6	87.1	88.4	88.1	90.9	92.0	92.2	97.1	95.5	92.6	92.4	92.1	96.0	97.1	92.7	93.7	92.2	89.9
		2 個別介護計画を立案できる	40.7	49.1	48.7	58.3	58.1	63.7	65.2	67.8	73.4	71.1	79.7	79.6	80.9	80.6	80.6	88.6	83.3	82.3	87.3	75.7	70.7
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	48.1	61.5	59.3	64.6	67.6	73.4	72.4	77.5	80.7	75.8	83.8	84.6	86.0	83.9	85.1	90.6	85.3	84.4	87.3	85.2	76.9
		4 個別介護計画の評価ができる	45.7	55.6	46.9	59.5	60.4	69.9	68.3	74.8	74.1	71.6	81.3	80.7	80.2	80.8	83.1	83.9	84.3	81.3	84.1	80.0	72.3
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	65.8	66.7	74.3	76.7	81.9	87.0	83.4	87.9	90.1	88.1	92.4	89.8	92.0	89.6	89.7	90.9	92.6	93.8	97.3	88.7	85.9
		2 感染症発生時に対応できる	51.9	54.5	63.1	75.8	75.2	85.6	80.7	85.0	88.1	87.5	90.1	88.7	88.3	88.1	87.9	89.9	92.1	90.5	95.2	86.0	82.2
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	80.5	83.2	84.9	86.5	88.0	91.3	92.6	92.7	92.0	93.9	92.2	95.5	91.5	92.0	92.9	93.3	97.1	94.8	95.3	91.4	91.1
		2 事故発生時の対応ができる	65.4	67.0	77.2	81.6	84.5	87.2	88.5	90.0	91.3	91.5	93.8	95.5	93.4	92.5	91.7	96.0	92.2	93.8	90.6	92.2	87.8
		3 事故報告書を作成できる	71.3	64.2	79.3	82.9	83.5	89.3	88.4	87.2	89.5	91.0	92.9	88.3	91.1	91.5	88.7	92.6	87.4	91.7	88.9	90.4	86.5
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	48.1	61.7	62.0	69.5	75.5	79.7	77.7	80.1	85.6	80.4	87.8	85.3	82.7	85.7	87.1	89.2	92.2	91.6	93.4	85.2	80.0
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	26.9	28.6	33.5	42.5	44.1	51.9	54.3	50.2	62.5	58.2	66.7	67.4	66.0	69.1	67.2	70.9	75.5	76.6	78.7	76.1	58.3
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	40.5	51.9	54.8	62.1	62.7	67.2	70.9	68.5	70.8	74.1	76.3	76.8	73.8	78.4	78.5	85.0	82.0	84.2	91.7	82.7	71.7
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	29.1	39.8	52.9	56.3	57.0	57.5	67.3	60.1	66.2	67.4	72.2	73.3	74.9	74.2	72.1	76.9	78.8	77.9	85.0	78.2	65.9
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	35.7	32.1	26.1	43.0	42.1	49.3	45.6	56.1	48.4	55.6	59.6	62.8	59.3	62.5	62.8	72.6	61.7	62.5	72.7	62.1	53.6
		2 地域内の社会資源との業務協力	42.9	25.0	21.7	38.5	37.7	42.8	38.9	45.8	38.0	49.4	52.9	57.1	52.5	57.6	57.1	70.2	64.4	58.3	66.7	65.2	49.1
		3 地域内の関係職種との交流	42.9	28.6	26.1	48.7	39.7	48.1	45.6	51.0	45.9	54.4	50.0	59.6	58.0	64.3	63.5	73.8	55.2	59.6	78.8	69.7	53.2
		4 地域包括ケアの管理業務	14.3	7.1	10.9	17.9	19.9	30.9	17.5	26.0	28.6	36.6	26.7	34.6	38.9	43.3	40.3	59.5	43.1	32.6	57.6	45.5	31.6
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	50.0	42.9	52.2	66.7	66.0	74.7	71.3	75.6	78.9	81.6	80.4	85.3	87.1	80.7	85.4	91.7	90.0	83.3	91.4	82.1	75.9
		2 部下の業務支援を適切に行っている	35.7	53.6	60.9	67.9	61.8	72.2	72.2	73.7	76.2	76.7	76.8	80.1	83.4	75.9	85.4	92.9	91.7	87.5	91.4	80.6	74.8
		3 評価者として適切に評価できる	42.9	42.9	42.2	48.1	47.4	65.8	57.5	64.5	63.2	64.9	69.6	72.9	76.7	71.3	78.8	91.7	86.7	78.7	94.3	74.2	66.7
		平均	58.5	79.3	84.0	86.6	89.7	91.5	90.9	89.8	91.6	92.4	94.3	92.4	93.8	94.4	93.4	94.8	93.9	94.9	96.4	94.4	

認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応

「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」については、介護職員としての経験年数 5 年～10 年の介護職員について、できていると評価された介護職員は 8 割未満となっており、経験年数 6 年～10 年をもってしても 2 割以上の介護職員が対応できていないとなっている。4 年～5 年の介護職員については 3 割以上、2 年～3 年の介護職員については 4 割以上と、半数近くの介護職員が対応できていないとなっている。

要介護者における認知症高齢者割合が今後も益々高まっていくことを鑑みれば、新人職員に対する認知症ケアに関する OJT の実施はもとより、2 年～5 年の介護職員に対する認知症ケアに関する介護技術の評価と OJT の実施、特に 4～5 年目の介護職員に対する認知症ケアに関する介護技術の評価と OJT を重点的に行うことで、事業所としてより効果的・効率的な OJT の実施が推進されることになるといえる。

相談・苦情の対応

「相談・苦情の対応」については、「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」と同一傾向にあり、介護職員としての経験年数 6 年～10 年の介護職員について、できていると評価された介護職員は 8 割未満となっており、経験年数 5 年～10 年をもってしても 2 割以上の介護職員が対応できていないとなっている。「相談・苦情の対応」ついてはその要因分析力と課題解決力、多職種連携による対応力など、ケアの展開には不可欠な対応力が求められることから、中堅職員、特に 4～5 年目の介護職員に対する介護技術の評価と OJT を重点的に行うことが必要であるといえる。

介護過程の展開

「介護過程の展開」、いわゆる個別ケアへの対応については、「利用者に関する情報収集」まではほとんどできているものの、「個別介護計画の立案」、「計画に基づく支援」、「モニタリング」などについては、経験年数 6 年～10 年の介護職員について、できていると評価された介護職員は約 7 割程度にとどまっており、特に経験年数 8 年未満の介護職員については 3 割以上の介護職員が対応できていない。根拠に基づく個別ケアへの対応については介護の専門性の中核をなす実践スキルといえ、チームケアとして実体化されるところである。事業所の提供サービスの質を左右するものであり、中長期的に従事する介護職員には不可欠な対応力として、6～10 年目の介護職員に対する介護技術の評価と OJT を重点的に行うことが必要であるといえる。

終末期ケア

「終末期ケア」を必要とする利用者への対応については、認知的側面の対応力も求められる中、利用者の尊厳への配慮は一層重要とされる。一方で対応の機会は限られることから、経験年数 10 年以上のいわゆるベテランの介護職員についても、できていると評価された介護職員は約 7 割程度に留まっており、経験年数 6 年～10 年の介護職員と比較しても、できるようになる割合の変化が少ない傾向にある。ただいつ何時、「終末期ケア」の対応を行わなければならない機会に直面するかわからない中で、実践の場でできるだけ多くの中堅介護職員に経験であり学習する機会を積極的に設けていくことが重要となる。OJT については、特に 6～10 年目の介護職員に対して、ある程度長い期間を設定し、経験であり学習する機会を積極的に設け、介護技術の評価と OJT を重点的に行うことが必要であるといえる。

地域包括ケアシステムへの取組

地域包括ケアシステムへの取組については、残念ながら経験年数 10 年以上のいわゆるベテランの介護職員についても、できていると評価された介護職員は約 5 割程度にとどまっており、介護職員の半数以上が地域包括ケアシステムへの取組ができていない、実施していない、との実態といえる。国の方針としても地域における社会資源を更に活用し、地域共生社会の実現にむけて、地域包括ケアシステムの構築推進、深化が期待されているところであるが、その担い手として大きな期待がされる介護職員について、できる職員が半数以下という現実は非常に危惧するところである。地域包括ケアシステムへの取組については、終末期ケアとは違い、経験年数を問わずに関わりを持ち、OJT の機会を作ることができるものであり、常日頃から意識して実施することが望ましいと考える。

一方で取組として実体化しにくい、また基盤がない現実を早期に打破するためには、経験年数 10 年以上、いわゆるベテランの介護職員に対する地域包括ケアシステムへの取組に関する評価と OJT について重点的に実施することが必要となり、効果が得られやすいともいえる。

（２）期首評価票データの分析（認定者群･未認定者群の比較）

次に､期首評価票データを 2019 年 12 月までにレベル認定となった期首評価票データと、評価を開始してから 1 年以上経過し、結果レベル認定に至らなかった期首評価票データの 2 群に分けてデータ比較分析を行った。

なお、この 2 群の位置づけについて、2019 年 12 月までにレベル認定となった期首評価票データ群を「認定者群」＝レベル認定を取得できる事業所に所属する介護職員、いわゆる評価と OJT が一体的に実施され、より効果的・効率的な OJT が実施されている事業所群と、レベル認定に至らなかった期首評価票データ群を「未認定者群」＝レベル認定が取得できない事業所に所属する介護職員、いわゆる評価と OJT が一体的に実施されず、効果的・効率的な OJT が実施されていない事業所群の 2 群としている。

「認定者群」における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

＜認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（小項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝4,192 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1　入浴前の確認ができる	80.7	89.0	88.8	92.1	91.5	92.5	93.7	90.9	96.4	92.9	96.3	94.2	95.4	93.3	94.3	97.3	95.7	98.5	100.0	96.8	93.5
		2　衣服の着脱ができる	81.5	85.4	90.5	91.8	89.8	90.2	94.1	90.9	93.3	94.4	95.1	93.2	95.4	93.9	93.1	94.6	97.1	97.0	97.6	96.8	92.8
		3　洗体ができる	77.3	82.5	88.4	90.8	89.8	91.3	92.5	87.4	91.0	92.9	95.1	89.8	92.0	95.0	92.5	95.5	91.4	92.5	97.6	96.8	91.1
		4　清拭ができる	54.5	70.9	76.4	84.0	82.3	88.8	87.8	83.0	84.3	89.8	93.3	91.2	92.5	97.2	90.8	91.0	94.2	95.5	97.6	95.2	87.0
	2.食事介助	1　食事前の準備を行うことができる	83.0	85.8	87.3	90.4	92.2	92.9	93.7	89.5	92.4	94.1	97.0	91.7	94.8	95.5	91.4	96.4	95.7	97.0	100.0	93.5	92.7
		2　食事介助ができる	73.3	80.1	86.7	86.6	86.7	90.2	92.1	87.7	87.9	89.5	91.5	89.3	91.9	92.7	88.5	93.7	87.1	92.4	97.6	95.2	89.0
		3　口腔ケアができる	71.9	77.6	83.6	84.2	89.1	87.4	87.0	87.7	91.0	88.3	94.5	90.7	94.2	94.4	90.2	95.5	90.0	97.0	97.6	95.2	89.4
	3.排泄介助	1　排泄の準備を行うことができる	90.3	89.8	93.2	93.5	94.2	95.2	94.1	94.8	95.5	95.7	97.6	94.6	96.6	97.2	96.0	97.3	94.3	98.5	100.0	96.8	95.3
		2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	78.1	76.4	85.7	88.7	87.0	89.7	92.5	88.5	91.5	91.7	93.3	88.3	90.2	94.4	92.4	95.5	90.0	92.4	97.6	96.8	90.0
		3　おむつ交換を行うことができる	70.0	79.1	84.6	91.0	89.0	90.5	92.1	89.5	91.9	91.6	95.1	89.7	95.4	95.0	90.8	96.4	90.0	95.5	100.0	98.4	90.8
	4.移乗・移動・体位変換	1　起居の介助ができる	79.3	80.9	90.0	89.0	90.1	90.9	95.4	89.5	91.9	93.8	96.3	93.6	94.8	96.1	94.2	94.6	97.1	97.0	100.0	98.4	92.7
		2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.2	76.7	83.6	85.3	87.0	88.6	90.4	86.9	87.4	89.8	93.2	86.8	90.8	90.4	88.4	91.0	82.9	92.4	95.2	91.9	87.7
		3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	68.1	69.9	77.5	81.4	84.6	84.6	84.9	84.6	82.5	86.4	92.0	85.3	89.1	89.4	89.0	86.5	85.7	87.9	95.2	91.9	84.8
		4　杖歩行の介助ができる	67.9	73.0	78.4	83.6	83.8	87.6	92.9	87.4	89.6	87.9	93.8	87.7	94.2	92.0	84.9	91.9	89.6	90.6	97.6	90.3	87.2
		5　体位変換ができる	68.4	76.8	82.4	84.6	90.3	87.8	91.6	90.4	89.2	91.6	94.5	89.2	95.3	93.3	90.8	96.4	91.4	95.5	92.9	96.8	89.5
	5.状況の変化に応じた対応	1　咳やむせこみに対応ができる	68.2	66.9	83.9	87.6	89.7	90.4	92.7	90.6	90.6	91.8	92.7	91.6	94.6	94.6	88.4	94.8	98.3	94.5	97.0	98.0	89.9
		2　便・尿の異常に対応ができる	58.2	62.5	79.2	78.6	85.0	84.8	86.5	85.3	91.2	90.1	89.8	89.9	89.2	92.5	85.7	92.8	94.9	90.9	97.0	98.0	86.1
		3　皮膚の異常に対応ができる	58.2	59.6	78.6	82.3	81.2	84.8	85.4	85.2	91.2	87.6	91.2	88.1	93.1	92.6	87.1	91.8	98.3	89.1	97.0	96.1	85.9
		4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	47.7	44.4	58.3	70.3	70.1	73.6	77.0	77.5	80.0	78.9	86.1	76.5	86.2	88.5	80.3	84.5	86.4	83.6	97.0	84.3	76.6
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケー	1　相談・苦情対応ができる	50.0	44.4	69.8	77.8	68.2	79.0	80.6	71.8	80.2	72.6	81.3	89.6	75.5	87.7	83.5	89.3	94.1	85.1	100.0	91.1	78.6
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	71.2	68.3	77.5	83.9	82.8	85.6	91.6	87.3	92.4	90.6	93.4	91.2	92.2	93.4	88.3	89.7	93.2	91.2	100.0	96.2	88.0
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	77.8	88.0	81.0	85.7	86.2	84.6	86.2	92.6	89.6	89.6	97.9	95.7	94.5	92.0	88.1	97.4	96.1	89.4	100.0	97.8	90.5
		2　個別介護計画を立案できる	38.9	60.0	55.6	64.4	60.6	68.0	65.1	66.1	79.0	75.0	76.8	86.1	81.5	78.6	78.0	85.5	78.4	83.0	100.0	80.0	73.0
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	61.1	68.0	66.7	71.4	68.2	76.9	78.0	77.1	82.5	78.0	86.3	88.7	87.2	82.3	83.5	88.2	80.4	83.0	96.0	84.4	79.4
		4　個別介護計画の評価ができる	55.6	72.0	54.0	69.2	63.6	74.0	73.4	71.6	75.4	73.2	84.2	84.2	79.8	79.6	81.7	80.3	78.4	76.6	100.0	84.4	75.6
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	69.6	62.6	74.6	82.4	84.5	86.7	84.7	84.5	90.7	87.3	94.9	88.8	89.9	92.1	88.3	92.9	93.2	93.0	93.8	96.2	86.5
		2　感染症発生時に対応できる	55.6	59.3	66.7	83.2	78.2	88.7	85.3	87.3	91.3	89.1	91.8	89.6	88.2	89.5	85.2	90.8	92.0	93.6	96.2	93.3	84.7
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	77.8	92.6	82.5	89.8	91.8	91.5	95.4	90.0	96.1	94.5	97.9	97.4	94.5	91.2	87.2	92.1	98.0	93.6	100.0	97.8	92.6
		2　事故発生時の対応ができる	66.7	74.1	84.1	87.0	85.5	90.6	89.9	88.2	89.8	91.5	95.9	97.4	94.5	93.9	87.2	94.7	96.1	91.5	96.2	95.6	89.5
		3　事故報告書を作成できる	61.1	68.0	84.1	81.7	86.4	86.7	89.0	84.3	89.7	89.0	95.7	87.8	86.2	90.3	87.2	92.1	90.2	87.2	96.0	95.6	86.4
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	58.8	56.0	63.9	74.3	80.7	83.7	75.7	79.4	87.0	78.4	88.3	87.0	79.6	85.7	82.2	92.1	96.1	93.5	100.0	88.9	81.6
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	25.0	28.0	44.3	47.1	51.9	62.4	58.7	48.1	72.5	56.3	68.8	71.7	64.2	71.4	64.8	68.4	84.3	73.9	92.0	79.5	61.7
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	64.7	56.0	65.0	68.6	73.1	70.7	70.8	70.2	78.5	79.1	79.6	80.7	74.5	83.8	75.0	85.1	88.0	78.3	91.7	86.7	76.0
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	52.9	36.0	62.3	65.0	68.5	59.2	69.8	62.5	71.1	71.2	73.6	77.0	76.4	77.5	72.9	78.7	82.0	73.9	87.5	82.2	70.0
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	0.0	20.0	25.0	40.0	60.0	56.3	55.3	58.5	63.0	65.3	58.8	69.8	63.8	65.5	60.0	75.0	71.4	58.8	73.3	75.0	55.7
		2　地域内の社会資源との業務協力	0.0	0.0	25.0	41.7	57.5	46.9	50.0	51.2	46.7	55.6	54.9	58.7	58.0	63.8	50.0	83.3	67.9	52.9	66.7	66.7	49.9
		3　地域内の関係職種との交流	0.0	40.0	37.5	50.0	50.0	53.1	50.0	58.5	60.9	56.9	54.9	65.1	63.8	65.5	62.5	80.6	48.1	43.8	86.7	70.8	54.9
		4　地域包括ケアの管理業務	0.0	0.0	12.5	20.8	27.5	34.7	23.7	35.0	38.6	45.8	36.0	42.9	43.5	50.0	40.0	72.2	51.9	41.2	60.0	58.3	36.7
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	0.0	20.0	50.0	80.0	72.5	77.6	73.7	70.7	76.1	88.9	80.8	87.3	85.5	84.2	87.2	91.7	92.9	76.5	100.0	79.2	73.7
		2　部下の業務支援を適切に行っている	0.0	20.0	75.0	72.0	77.5	75.5	65.8	73.2	84.8	84.9	73.1	79.4	84.1	71.9	87.5	94.4	92.9	88.2	100.0	87.5	74.4
		3　評価者として適切に評価できる	0.0	0.0	50.0	56.0	60.0	73.5	60.5	63.4	67.4	76.4	66.0	79.0	73.9	82.1	82.1	88.9	89.3	70.6	100.0	79.2	65.9
		平均	54.6	79.6	85.1	87.8	88.5	89.9	91.7	88.6	90.4	91.4	94.6	90.4	93.5	94.0	91.1	94.2	91.5	94.6	97.8	95.4	

「未定者群」における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

＜未認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝4,957 件）

90％以上：　80％台：　70％台：　60％台：　50％台：　50％未満：

評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1　入浴前の確認ができる	87.3	86.5	88.6	92.1	96.2	94.8	92.4	92.3	92.8	94.5	94.4	96.3	96.7	97.3	96.7	98.0	93.8	100.0	98.0	95.3	94.2
		2　衣服の着脱ができる	85.1	86.8	90.8	86.7	94.5	94.2	93.9	93.0	95.2	94.8	95.4	96.7	96.2	94.6	95.3	98.0	100.0	95.2	95.9	96.5	93.9
		3　洗体ができる	77.4	82.6	87.5	86.3	93.7	93.0	92.0	92.3	93.3	94.5	93.9	92.0	95.7	96.6	95.7	96.0	96.9	95.2	98.0	97.7	92.5
		4　清拭ができる	56.7	67.4	73.6	79.9	86.5	91.7	87.6	88.2	91.3	92.0	90.4	93.9	93.4	91.8	94.7	96.0	98.4	95.1	97.9	91.8	87.9
	2.食事介助	1　食事前の準備を行うことができる	83.9	86.4	89.2	89.1	93.2	93.0	90.0	91.9	92.3	94.2	95.9	94.4	95.1	95.2	96.7	92.0	95.3	96.8	95.8	97.6	92.9
		2　食事介助ができる	76.3	81.0	83.8	85.1	90.7	93.3	90.3	90.4	88.5	91.4	93.4	94.8	93.5	93.2	94.3	96.0	93.8	93.5	89.6	89.4	90.1
		3　口腔ケアができる	73.3	77.6	83.0	85.6	86.6	92.7	88.5	88.2	92.8	93.1	95.4	93.0	91.8	92.4	91.9	97.0	96.9	86.9	89.6	90.6	89.4
	3.排泄介助	1　排泄の準備を行うことができる	89.1	88.6	91.8	92.7	95.0	95.1	94.6	96.0	95.2	97.2	97.4	96.2	96.2	98.0	95.7	97.0	98.4	96.8	93.9	97.6	95.1
		2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	75.7	77.0	80.1	86.1	91.7	92.7	88.8	90.0	91.8	91.9	93.4	93.9	95.7	93.9	94.7	93.0	98.4	96.8	95.9	88.1	90.5
		3　おむつ交換を行うことができる	73.8	79.7	81.5	86.3	91.6	93.3	91.5	89.3	94.2	93.0	92.8	95.3	94.0	97.3	97.1	96.0	96.9	93.4	91.5	96.4	91.3
	4.移乗・移動・体位変換	1　起居の介助ができる	81.5	84.3	87.0	87.8	92.7	95.4	91.1	95.2	96.1	95.3	97.4	96.2	94.6	98.0	98.1	98.0	98.4	100.0	97.9	96.4	94.1
		2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	75.0	74.3	80.0	82.9	88.4	93.6	88.4	90.4	92.8	93.4	92.3	93.4	91.2	95.2	95.7	96.0	95.3	95.1	95.7	92.9	90.1
		3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	64.3	69.4	71.9	80.9	84.1	88.7	85.4	87.1	92.3	92.2	91.8	91.5	90.7	91.8	93.4	91.9	95.3	90.3	93.6	90.4	86.9
		4　杖歩行の介助ができる	65.5	73.0	78.6	80.4	87.1	89.5	86.4	88.9	90.6	88.1	93.2	91.1	92.9	91.8	90.4	90.9	96.9	96.7	97.9	88.9	87.9
		5　体位変換ができる	68.3	71.4	80.3	82.3	87.4	90.2	91.5	90.1	94.2	92.8	93.9	95.8	94.0	95.9	97.1	97.0	93.8	95.2	95.7	96.3	90.2
	5.状況の変化に応じた対応	1　咳やむせこみに対応ができる	65.3	74.7	78.5	82.4	83.9	87.5	90.5	90.8	94.4	94.0	92.8	94.5	93.7	95.6	94.7	96.7	98.4	96.5	95.1	96.2	89.8
		2　便・尿の異常に対応ができる	46.0	62.8	71.1	70.9	76.3	80.3	83.8	87.0	91.6	89.3	88.3	91.8	93.6	88.3	92.0	90.0	100.0	89.5	90.2	88.5	83.6
		3　皮膚の異常に対応ができる	43.9	59.7	68.5	73.1	75.7	80.2	82.4	87.4	92.1	87.7	85.0	90.7	90.8	87.6	89.8	88.9	96.7	89.5	95.1	87.2	82.6
		4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	41.9	54.2	56.0	60.8	68.0	73.9	75.1	78.2	79.8	82.1	79.6	84.6	86.1	82.5	86.2	88.9	88.5	91.1	82.9	79.5	76.0
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケー	1　相談・苦情対応ができる	38.1	45.2	50.4	57.2	66.4	73.7	66.3	75.1	75.3	80.4	84.8	82.8	86.5	84.7	86.0	90.3	84.3	91.7	84.6	83.1	74.3
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	66.0	67.9	75.6	73.8	85.1	85.5	79.9	89.5	84.5	91.2	90.1	92.4	93.1	94.1	91.9	95.5	95.2	98.2	90.7	86.3	86.3
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	74.6	80.0	74.6	83.9	87.4	90.2	89.3	90.0	94.0	93.9	96.6	95.4	91.2	92.8	94.9	94.5	98.1	95.9	89.5	88.6	89.8
		2　個別介護計画を立案できる	41.3	45.8	45.3	54.2	57.0	61.7	65.2	68.8	68.7	68.6	81.5	74.7	80.5	82.7	82.4	91.8	88.2	81.6	78.9	72.9	69.6
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	44.4	59.5	55.7	60.0	67.4	71.6	68.6	77.8	79.1	74.4	82.2	81.5	85.2	85.6	86.2	93.2	90.2	85.7	81.6	85.7	75.8
		4　個別介護計画の評価ができる	42.9	50.6	43.4	52.9	58.9	67.9	64.8	76.7	73.0	70.5	79.5	78.0	80.5	82.0	84.2	87.7	90.2	85.7	73.7	77.1	71.0
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	63.7	69.2	74.1	72.4	80.2	87.2	82.3	90.4	89.6	88.6	90.4	90.8	93.6	86.9	90.9	88.6	91.9	94.6	100.0	83.8	85.5
		2　感染症発生時に対応できる	50.8	52.9	61.4	70.9	73.8	84.1	77.6	83.8	85.3	86.5	89.0	88.1	88.4	86.6	89.8	88.9	92.2	87.5	94.6	81.2	80.7
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	81.3	80.2	86.0	84.3	86.2	91.2	90.7	94.2	88.6	93.5	88.4	94.1	89.3	92.9	96.9	94.5	96.2	95.9	92.1	87.3	90.2
		2　事故発生時の対応ができる	65.1	64.7	73.9	78.0	84.1	85.6	87.6	91.1	92.6	91.6	92.4	94.1	92.6	91.1	94.9	97.3	88.5	95.9	86.8	90.1	86.9
		3　事故報告書を作成できる	74.2	63.1	76.9	83.8	82.2	90.7	88.1	88.9	89.3	92.3	91.0	88.7	94.6	92.8	89.8	93.2	84.6	95.9	84.2	87.1	86.6
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	45.2	63.4	61.1	66.2	73.0	77.8	79.0	80.4	84.4	81.7	87.4	84.0	85.0	85.7	90.4	86.1	88.2	89.8	88.9	82.9	79.0
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	27.4	28.8	28.3	39.5	40.4	46.9	51.3	51.4	54.2	59.4	65.2	64.2	67.4	66.7	68.9	73.6	66.7	79.2	69.4	73.9	56.1
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	33.9	50.6	50.0	57.8	57.7	65.5	71.1	67.6	64.3	70.9	74.1	73.8	73.3	72.9	81.0	84.9	76.0	89.8	91.7	80.0	69.3
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	22.6	41.0	48.4	50.7	51.5	56.7	65.6	58.8	62.0	64.9	71.3	70.3	73.8	70.8	71.5	75.0	75.5	81.6	83.3	75.4	63.5
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	38.5	34.8	26.3	44.4	35.7	46.2	40.8	55.3	39.5	51.5	60.0	58.1	55.9	60.5	63.8	70.8	53.1	64.5	72.2	54.8	51.3
		2　地域内の社会資源との業務協力	46.2	30.4	21.1	37.0	30.6	40.8	33.3	43.9	32.9	46.7	51.8	55.9	48.4	53.5	59.5	60.4	61.3	61.3	66.7	64.3	47.3
		3　地域内の関係職種との交流	46.2	26.1	23.7	48.1	36.0	45.7	43.4	48.2	36.8	53.3	47.1	55.9	53.8	63.5	63.8	68.8	61.3	67.7	72.2	69.0	51.5
		4　地域包括ケアの管理業務	15.4	8.7	10.5	16.7	17.1	29.1	14.5	22.8	22.7	32.5	21.2	29.0	35.5	38.8	40.4	50.0	35.5	27.6	55.6	38.1	28.1
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	53.8	47.8	52.6	60.7	63.7	73.4	70.1	77.4	80.5	78.4	80.2	83.9	88.3	78.4	84.7	91.7	87.5	87.1	84.2	83.7	75.4
		2　部下の業務支援を適切に行っている	38.5	60.9	57.9	66.1	56.3	70.6	75.3	73.9	71.3	73.1	79.1	80.6	83.0	78.4	84.7	91.7	90.6	87.1	84.2	76.7	74.0
		3　評価者として適切に評価できる	46.2	52.2	40.5	44.6	42.9	62.3	56.0	64.9	60.8	59.9	71.8	68.8	78.7	64.4	77.8	93.8	84.4	83.3	89.5	71.4	65.7
		平均	58.2	79.1	83.2	85.6	90.6	92.8	90.2	90.9	92.9	93.2	94.1	94.3	94.1	94.9	95.2	95.5	96.6	95.1	95.1	93.7	

「認定者群」における中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

＜認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝4,192 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	91.3	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4	91.1
	2.食事介助	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.6	90.4
	3.排泄介助	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3	92.0
	4.移乗・移動・体位変換	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9	88.3
	5.状況の変化に応じた対応	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.0	94.5	89.5	97.0	94.1	84.6
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3	84.6
	2.介護過程の展開	58.3	72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7	79.6
	3.感染症対策・衛生管理	67.9	61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	91.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3	85.2
	4.事故発生防止	68.5	77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3	89.4
	5.身体拘束廃止	44.1	42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.0	79.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4	71.8
	6.終末期ケア	58.8	46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4	73.1
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	0.0	15.0	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.5	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7	49.5
	2.リーダーシップ	0.0	13.3	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.4	100.0	81.9	71.4

また、「未認定者群」における中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

＜未認定者群＞

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝4,957 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3	92.1
	2.食事介助	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5	90.8
	3.排泄介助	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1	92.3
	4.移乗・移動・体位変換	71.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1	89.8
	5.状況の変化に応じた対応	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9	83.0
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8	81.5
	2.介護過程の展開	50.8	59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1	76.6
	3.感染症対策・衛生管理	59.6	64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5	83.0
	4.事故発生防止	72.9	69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.0	89.7	95.9	87.7	88.3	87.8
	5.身体拘束廃止	36.3	45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.6	74.3	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9	67.8
	6.終末期ケア	28.2	45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	85.7	87.5	77.7	66.5
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	36.5	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	33.1	42.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5	44.8
	2.リーダーシップ	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1	71.8

ここで、2 つの群、「認定者群」と「未認定者群」の 2 つの母集団について、中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合に統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチの t 検定」を採用した。

＜条件＞

・2 群は異なる集団である（対応のないデータ）
・2 群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
・サンプルサイズ（2 群計）が 30～500 である
・母集団において 2 群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチの t 検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「Ｔ値」を算出し、「Ｔ値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において 2 群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2 群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量Ｔ

$$T値 = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

Ｔ値　≧　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえる
Ｔ値　＜　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量Ｔ」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

Ｔ値　≧　棄却限界値　「差がある」
Ｔ値　＜　棄却限界値　「差がない」

とした。

検定における結果は以下の通りである。

認定者群･未認定者群におけるｔ検定結果一覧表（1/3）

評価項目				経験年数																			
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	91.3	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4
			標本標準偏差	30.2	26.6	23.9	21.1	24.0	21.3	19.3	24.2	19.1	18.4	14.4	20.2	15.9	14.4	18.2	16.2	17.0	12.7	8.4	11.7
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3
			標本標準偏差	29.2	28.0	24.6	25.7	17.9	16.6	20.4	22.0	18.8	17.6	16.5	17.1	14.9	17.2	14.9	10.2	9.0	11.7	9.1	16.8
		Ｔ値		1.25	0.55	0.54	1.89	2.66	1.75	0.34	1.66	1.03	1.05	0.89	1.44	1.04	0.13	1.73	1.30	1.18	0.22	0.42	0.43
		自由度		569	543	641	618	518	465	498	468	429	669	358	401	351	285	332	187	107	127	88	146
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	1.99	1.98
		T値-棄却限界値		-0.71	-1.41	-1.42	-0.07	0.70	-0.22	-1.63	-0.31	-0.94	-0.91	-1.08	-0.53	-0.93	-1.84	-0.24	-0.68	-0.80	-1.76	-1.57	-1.55
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.6
			標本標準偏差	32.5	29.6	26.7	25.7	23.3	22.4	22.5	26.5	23.6	22.5	18.8	23.7	17.3	17.2	21.8	17.2	22.5	12.8	10.2	17.1
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5
			標本標準偏差	32.7	28.9	27.2	27.3	22.8	19.3	24.3	23.4	22.7	18.7	16.0	17.9	19.8	19.6	16.8	14.4	16.5	17.4	22.0	20.0
		Ｔ値		0.69	0.21	0.22	0.30	0.48	1.60	0.62	0.84	0.34	1.44	0.39	1.70	0.08	0.28	2.12	0.09	1.29	1.10	1.92	0.68
		自由度		582	520	637	618	624	500	499	462	430	631	321	381	354	293	321	208	126	112	70	142
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98
		T値-棄却限界値		-1.27	-1.75	-1.74	-1.66	-1.48	-0.36	-1.35	-1.13	-1.63	-0.52	-1.58	-0.27	-1.89	-1.69	0.15	-1.88	-0.69	-0.88	-0.08	-1.30
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3
			標本標準偏差	29.7	28.8	25.2	23.1	23.0	20.4	20.2	23.0	18.8	20.6	16.0	22.9	18.1	16.3	19.0	13.7	24.4	14.1	5.1	12.4
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1
			標本標準偏差	30.7	29.3	27.5	24.3	18.8	18.9	20.5	21.6	19.8	16.1	17.4	17.8	18.9	14.1	15.7	14.2	10.0	15.2	18.7	17.8
		Ｔ値		0.08	0.00	1.66	1.42	1.66	1.13	0.67	0.41	0.42	0.78	0.53	2.12	0.54	0.50	1.55	0.55	2.05	0.09	1.92	1.28
		自由度		591	533	657	618	555	521	496	475	424	610	355	387	356	323	335	205	93	124	56	146
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.99	1.98	2.01	1.98
		T値-棄却限界値		-1.88	-1.96	-0.30	-0.54	-0.30	-0.83	-1.30	-1.56	-1.55	-1.18	-1.44	0.15	-1.43	-1.47	-0.42	-1.42	0.06	-1.89	-0.09	-0.70
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・体位変換	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9
			標本標準偏差	31.9	31.3	27.9	26.5	24.9	24.0	20.9	25.5	24.0	21.4	16.9	24.8	18.2	19.7	21.1	17.5	23.3	19.0	10.0	16.3
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	71.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1
			標本標準偏差	32.9	32.0	30.0	28.9	22.7	18.4	22.7	21.0	18.8	18.9	16.8	17.7	17.7	17.5	14.4	14.6	11.3	12.7	13.3	18.9
		Ｔ値		0.27	0.41	1.31	1.02	0.46	2.00	1.25	1.32	2.49	1.62	0.15	2.41	0.14	1.14	2.90	1.24	2.20	1.03	0.02	0.27
		自由度		590	535	653	620	598	461	499	444	417	648	346	369	354	322	296	208	101	116	88	141
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.99	1.98
		T値-棄却限界値		-1.69	-1.55	-0.65	-0.94	-1.50	0.03	-0.72	-0.65	0.52	-0.34	-1.82	0.44	-1.83	-0.83	0.93	-0.73	0.22	-0.95	-1.97	-1.71
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に応じた対応	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.0	94.5	89.5	97.0	94.1
			標本標準偏差	38.3	36.5	31.6	30.4	27.8	27.4	25.4	26.5	21.7	24.0	22.5	27.3	20.8	19.3	27.0	21.6	14.6	22.7	13.4	12.7
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9
			標本標準偏差	38.9	36.5	34.0	34.3	32.2	30.3	29.2	25.8	22.5	22.8	24.9	23.0	20.7	22.5	22.0	22.1	11.3	21.6	21.2	24.9
		Ｔ値		2.79	1.39	2.54	3.03	2.41	1.21	0.99	0.50	0.60	0.67	1.40	1.55	0.11	1.54	2.09	0.04	0.63	0.54	1.67	2.00
		自由度		585	528	655	621	674	567	498	482	426	668	356	401	355	289	332	206	128	127	82	133
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.99	1.98
		T値-棄却限界値		0.83	-0.57	0.58	1.07	0.45	-0.75	-0.98	-1.47	-1.37	-1.29	-0.57	-0.42	-1.86	-0.43	0.12	-1.93	-1.35	-1.44	-0.32	0.02
		2群差異		差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある

認定者群･未認定者群におけるｔ検定結果一覧表（2/3）

評価項目				経験年数																			
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3
			標本標準偏差	45.0	45.5	41.4	35.8	37.9	34.7	29.6	34.2	26.6	30.5	27.9	28.6	26.9	23.3	31.9	27.0	24.0	26.5	0.0	21.0
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8
			標本標準偏差	45.9	45.3	40.6	42.0	35.9	34.7	39.7	31.7	36.3	29.4	28.4	28.0	26.3	26.7	28.2	20.2	24.0	18.0	28.7	33.3
		Ｔ値		2.31	0.60	0.83	4.81	0.10	0.92	4.60	0.65	2.74	0.96	0.32	0.36	1.80	0.87	0.72	1.19	0.69	1.55	3.12	2.37
		自由度		586	527	625	620	612	544	481	472	380	670	349	417	354	292	348	202	131	117	48	144
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.02	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		0.35	-1.36	-1.13	2.85	-1.86	-1.04	2.63	-1.32	0.77	-1.00	-1.65	-1.61	-0.17	-1.10	-1.25	-0.78	-1.29	-0.43	1.10	0.39
		2群差異		差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	2.介護過程の展開	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	58.3	72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7
			標本標準偏差	40.0	29.4	39.3	35.4	36.7	34.0	34.3	33.1	30.8	33.1	26.1	26.4	28.0	29.1	31.5	25.5	30.4	31.4	4.9	27.2
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	50.8	59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1
			標本標準偏差	39.3	40.2	39.7	38.6	36.8	35.5	35.8	33.3	31.0	33.0	29.5	30.1	28.2	29.6	27.4	21.5	22.3	26.3	33.2	32.3
		Ｔ値		2.37	4.25	2.94	3.41	0.65	1.15	1.21	0.61	0.84	0.74	0.47	2.26	0.47	0.64	1.36	1.22	1.85	0.84	3.77	1.14
		自由度		574	578	635	620	633	555	498	488	428	676	358	414	355	310	346	208	126	126	50	142
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.01	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		0.41	2.29	0.98	1.45	-1.31	-0.81	-0.76	-1.36	-1.13	-1.22	-1.50	0.29	-1.50	-1.33	-0.61	-0.75	-0.13	-1.14	1.76	-0.84
		2群差異		差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない
	3.感染症対策・衛生管理	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	67.9	61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	91.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3
			標本標準偏差	45.7	47.7	42.8	36.9	36.5	32.5	34.2	35.3	25.3	29.8	22.8	31.8	26.6	23.7	31.1	26.1	26.3	23.8	24.2	18.6
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	59.6	64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5
			標本標準偏差	46.6	44.6	42.7	43.4	37.6	32.9	38.1	29.5	31.7	31.8	29.4	29.2	25.3	32.6	28.0	29.9	24.1	25.2	10.8	34.6
		Ｔ値		2.25	0.76	0.64	3.47	1.47	0.37	1.59	1.35	1.40	0.16	1.67	0.42	0.71	1.85	0.95	0.56	0.09	0.44	0.94	2.68
		自由度		586	507	630	620	641	547	499	447	397	684	357	412	352	260	352	198	132	125	55	136
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	2.01	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		0.29	-1.20	-1.32	1.51	-0.49	-1.59	-0.38	-0.62	-0.57	-1.80	-0.30	-1.55	-1.26	-0.12	-1.02	-1.42	-1.89	-1.54	-1.07	0.70
		2群差異		差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	4.事故発生防止	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	68.5	77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3
			標本標準偏差	37.6	29.1	26.5	27.2	24.9	25.6	21.8	26.9	19.6	22.1	13.9	16.0	20.9	22.3	26.7	22.5	17.9	24.5	11.3	10.5
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	72.9	69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.0	89.7	95.9	87.7	88.3
			標本標準偏差	36.3	36.6	32.3	32.5	28.7	25.7	25.2	22.2	22.9	20.1	24.4	21.1	20.3	21.8	17.9	18.0	22.2	12.8	27.0	27.5
		Ｔ値		1.48	2.78	2.25	1.95	1.80	0.34	1.25	1.72	0.67	0.24	3.11	1.03	0.20	0.18	2.86	0.71	1.43	1.51	2.15	2.47
		自由度		567	575	680	619	673	544	498	444	410	656	320	397	353	314	292	206	121	101	67	116
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		-0.48	0.82	0.29	-0.01	-0.16	-1.62	-0.72	-0.25	-1.30	-1.72	1.14	-0.94	-1.77	-1.79	0.89	-1.26	-0.55	-0.47	0.15	0.49
		2群差異		差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	5.身体拘束廃止	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	44.1	42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.0	79.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4
			標本標準偏差	41.6	39.2	43.7	41.4	37.7	36.7	41.6	38.5	33.7	39.9	33.9	34.3	40.4	35.2	36.4	31.5	22.2	27.7	13.6	29.5
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	36.3	45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.6	74.3	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9
			標本標準偏差	42.3	38.4	40.7	42.2	40.4	39.0	38.5	38.8	35.2	36.9	34.4	37.3	36.1	34.7	32.8	35.0	33.3	28.9	34.1	37.5
		Ｔ値		2.33	1.14	2.88	2.40	3.25	3.36	0.56	0.76	2.98	0.92	0.45	1.37	1.18	0.40	1.94	0.09	2.58	0.20	3.17	1.20
		自由度		585	522	606	614	654	559	485	488	425	661	349	417	346	313	352	200	108	125	65	145
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.00	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		0.37	-0.82	0.92	0.44	1.29	1.40	-1.41	-1.21	1.01	-1.04	-1.52	-0.60	-0.79	-1.57	-0.03	-1.88	0.60	-1.78	1.17	-0.78
		2群差異		差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない
	6.終末期ケア	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	58.8	46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4
			標本標準偏差	46.1	42.2	42.6	44.0	41.5	42.8	42.2	43.5	39.7	39.3	39.2	37.4	39.6	35.0	40.5	35.3	33.5	40.0	28.8	34.7
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	28.2	45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	85.7	87.5	77.7
			標本標準偏差	40.8	44.0	46.3	44.8	45.3	44.9	40.8	44.2	44.2	42.4	41.7	42.7	41.0	43.3	38.4	36.8	40.3	31.9	29.8	39.3
		Ｔ値		8.70	0.06	4.32	3.63	4.90	1.12	0.50	0.78	2.84	2.26	0.85	1.76	0.43	2.06	0.59	0.37	1.40	1.52	0.34	1.11
		自由度		536	540	657	614	659	556	491	489	418	685	354	414	356	279	361	205	123	124	88	140
		棄却限界値		1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.99	1.98
		Ｔ値-棄却限界値		6.74	-1.90	2.36	1.67	2.94	-0.84	-1.47	-1.19	0.87	0.30	-1.12	-0.21	-1.54	0.09	-1.38	-1.60	-0.58	-0.46	-1.65	-0.87
		2群差異		差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない

認定者群・未認定者群におけるｔ検定結果一覧表（3/3）

評価項目				経験年数																			
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	0.0	15.0	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.5	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7
			標本標準偏差	0.0	20.0	37.5	43.0	41.8	43.5	40.6	43.5	41.2	42.4	42.1	38.9	42.4	41.6	42.3	34.7	40.9	41.5	38.6	41.1
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	36.5	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	33.1	42.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5
			標本標準偏差	38.7	34.6	34.3	38.4	39.6	44.2	37.4	39.7	38.9	43.1	38.9	40.2	41.9	41.8	41.2	42.7	42.9	39.1	41.7	41.2
		T値		18.14	4.38	1.65	1.04	5.85	1.71	3.32	2.32	5.28	3.02	1.50	2.43	1.99	1.57	0.93	2.83	0.94	1.12	0.59	1.63
		自由度		369	550	599	588	611	548	484	469	430	679	336	418	354	311	366	191	130	127	88	132
		棄却限界値		1.97	1.96	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.98	1.99	1.98
		T値-棄却限界値		16.17	2.42	-0.31	-0.92	3.89	-0.25	1.35	0.35	3.31	1.06	-0.47	0.46	0.02	-0.40	-1.04	0.85	-1.04	-0.86	-1.40	-0.35
		2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.リーダーシップ	認定者	サンプルサイズ	270	246	294	292	294	254	239	230	223	324	164	206	174	179	174	111	70	67	42	62
			標本平均	0.0	13.3	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.4	100.0	81.9
			標本標準偏差	0.0	16.3	43.3	37.6	40.7	39.7	41.9	40.6	31.6	31.0	37.6	32.4	31.3	34.6	29.7	25.3	19.2	32.2	0.0	36.0
		未認定者	サンプルサイズ	370	334	394	331	399	329	262	273	209	364	197	214	184	147	212	100	64	62	49	86
			標本平均	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1
			標本標準偏差	46.3	46.9	41.7	40.2	41.6	40.4	38.4	38.1	38.7	37.5	36.0	35.0	30.7	38.0	32.1	21.8	29.8	29.1	33.0	36.7
		T値		19.18	14.56	2.27	3.91	4.89	1.96	0.24	0.83	1.39	4.93	1.04	1.29	0.66	1.49	1.06	0.21	0.95	1.41	2.98	0.80
		自由度		369	436	618	619	639	548	483	475	402	682	342	417	354	299	378	209	106	127	48	133
		棄却限界値		1.97	1.97	1.96	1.96	1.96	1.96	1.97	1.97	1.97	1.96	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	2.02	1.98
		T値-棄却限界値		17.21	12.59	0.31	1.95	2.93	0.00	-1.73	-1.14	-0.58	2.97	-0.93	-0.68	-1.31	-0.48	-0.91	-1.76	-1.03	-0.57	0.96	-1.18
		2群差異		差がある	差がある	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない

また、これらの認定者群と未認定者群における「○（できる）」割合の差と検定結果を一覧にまとめると以下の通りとなる。なお、認定者群と未認定者群における割合の差において 8.0%以上の差があるものについては 網掛けをしている。

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（1/2）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	認定者	73.5	81.9	86.0	89.7	88.4	90.6	92.1	88.0	91.3	92.5	95.0	92.1	93.8	94.8	92.6	94.6	94.5	95.9	98.2	96.4
		未認定者	76.5	80.7	85.0	86.1	92.8	93.4	91.4	91.5	93.1	94.0	93.5	94.7	95.5	95.1	95.6	97.0	97.3	96.4	97.4	95.3
		単純差	-3.0	1.3	1.0	3.5	-4.4	-2.8	0.6	-3.4	-1.9	-1.4	1.4	-2.6	-1.7	-0.2	-3.0	-2.4	-2.7	-0.5	0.8	1.0
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	認定者	76.0	81.2	85.8	87.1	89.3	90.2	90.9	88.3	90.4	90.6	94.2	90.6	93.6	94.2	90.0	95.2	91.0	95.5	98.4	94.6
		未認定者	77.8	81.7	85.4	86.5	90.2	93.0	89.6	90.2	91.2	92.9	94.9	94.1	93.5	93.7	94.3	95.0	95.3	92.5	91.7	92.5
		単純差	-1.8	-0.5	0.5	0.6	-0.9	-2.8	1.3	-1.9	-0.8	-2.3	-0.7	-3.5	0.2	0.6	-4.3	0.2	-4.4	3.0	6.7	2.1
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	認定者	79.4	81.8	87.8	91.0	90.1	91.8	92.9	91.0	93.0	93.0	95.3	90.9	94.1	95.5	93.1	96.4	91.4	95.5	99.2	97.3
		未認定者	79.6	81.8	84.5	88.3	92.8	93.7	91.7	91.8	93.8	94.1	94.4	95.1	95.1	96.4	95.9	95.3	97.9	95.7	93.9	94.1
		単純差	-0.2	0.0	3.3	2.7	-2.7	-1.9	1.2	-0.8	-0.8	-1.1	0.9	-4.3	-1.0	-0.8	-2.8	1.1	-6.5	-0.2	5.3	3.2
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・体位変換	認定者	71.7	75.5	82.5	84.8	87.1	87.9	91.0	87.6	88.1	89.9	94.0	88.5	92.9	92.2	89.5	92.1	89.1	92.4	96.2	93.9
		未認定者	71.0	74.4	79.6	82.6	87.9	91.5	88.6	90.4	93.2	92.4	93.7	93.6	92.6	94.6	95.0	94.8	95.9	95.3	96.3	93.1
		単純差	0.7	1.1	2.9	2.3	-0.8	-3.6	2.4	-2.8	-5.1	-2.5	0.3	-5.1	0.3	-2.4	-5.5	-2.7	-6.9	-2.9	-0.1	0.8
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に応じた対応	認定者	58.1	58.4	75.0	79.8	81.5	83.4	85.4	84.7	88.3	87.1	90.0	86.6	90.8	92.1	85.4	91.0	94.5	89.5	97.0	94.1
		未認定者	49.5	62.7	68.6	71.9	76.0	80.5	83.0	85.9	89.6	88.3	86.5	90.4	91.0	88.4	90.7	91.1	95.9	91.7	90.9	87.9
		単純差	8.6	-4.3	6.4	7.9	5.5	2.9	2.4	-1.2	-1.3	-1.2	3.5	-3.8	-0.2	3.6	-5.3	-0.1	-1.4	-2.1	6.1	6.2
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（2/2）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	認定者	68.5	64.7	73.2	81.3	77.2	82.8	86.8	80.9	88.4	84.0	88.2	88.8	84.9	91.8	86.2	89.3	92.4	88.6	100.0	94.3
		未認定者	60.1	62.4	70.6	66.3	77.5	80.1	72.5	82.8	79.9	86.2	87.3	87.8	89.9	89.3	88.4	93.2	89.5	94.7	87.2	83.8
		単純差	8.4	2.3	2.6	15.0	-0.3	2.7	14.3	-1.9	8.4	-2.2	0.9	1.0	-5.1	2.4	-2.2	-3.9	2.9	-6.1	12.8	10.6
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	2.介護過程の展開	認定者	58.3	72.0	64.3	72.9	69.5	76.2	75.7	76.6	81.5	79.0	86.3	88.7	85.8	83.2	82.8	87.8	83.3	83.0	99.0	86.7
		未認定者	50.8	59.7	55.3	62.7	67.7	72.9	71.9	78.4	79.0	77.1	84.9	82.5	84.4	85.3	86.9	91.8	91.8	87.2	80.9	81.1
		単純差	7.5	12.3	8.9	10.1	1.8	3.3	3.8	-1.8	2.5	1.9	1.4	6.2	1.4	-2.1	-4.2	-4.0	-8.5	-4.3	18.1	5.6
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない
	3.感染症対策・衛生管理	認定者	67.9	61.5	72.5	81.1	81.3	85.9	83.6	83.3	90.7	86.9	93.1	87.1	88.8	91.1	86.9	90.8	91.5	93.0	93.8	94.3
		未認定者	59.6	64.5	70.4	69.9	77.1	84.9	78.5	87.3	86.8	86.5	88.5	88.3	90.7	85.1	89.8	88.6	91.9	91.1	97.6	82.5
		単純差	8.3	-3.0	2.1	11.2	4.2	1.0	5.1	-4.0	3.9	0.4	4.6	-1.3	-1.9	6.0	-2.9	2.2	-0.4	1.9	-3.8	11.8
		2群差異	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	4.事故発生防止	認定者	68.5	77.2	83.6	86.4	87.9	89.6	91.4	87.6	91.6	91.7	96.6	94.2	91.7	91.8	87.2	93.0	94.8	90.8	96.8	96.3
		未認定者	72.9	69.6	78.6	81.8	84.2	88.9	88.8	91.4	90.2	92.1	90.2	92.3	92.1	92.3	93.9	95.0	89.7	95.9	87.7	88.3
		単純差	-4.4	7.6	5.0	4.7	3.7	0.7	2.6	-3.8	1.4	-0.4	6.4	1.9	-0.4	-0.4	-6.8	-2.0	5.0	-5.1	9.1	8.0
		2群差異	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある
	5.身体拘束廃止	認定者	44.1	42.0	54.8	61.0	66.5	73.6	67.3	64.0	79.3	67.9	78.2	79.1	71.8	77.9	73.4	80.3	90.2	83.7	96.0	84.4
		未認定者	36.3	45.7	45.4	52.9	56.8	63.0	65.3	66.7	69.4	70.6	76.6	74.3	76.5	76.3	80.3	79.9	77.5	84.7	79.2	77.9
		単純差	7.8	-3.7	9.4	8.0	9.7	10.6	2.0	-2.6	9.9	-2.7	1.6	4.8	-4.8	1.5	-6.9	0.4	12.7	-1.0	16.8	6.6
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない
	6.終末期ケア	認定者	58.8	46.0	63.9	67.2	70.8	65.5	70.3	66.3	74.8	75.2	76.3	78.9	75.5	80.6	74.1	82.0	85.0	76.1	89.6	84.4
		未認定者	28.2	45.8	49.2	54.2	54.6	61.4	68.4	63.3	63.3	68.1	72.7	72.1	73.6	71.5	76.5	80.1	76.0	85.7	87.5	77.7
		単純差	30.6	0.2	14.7	12.9	16.2	4.1	1.9	3.0	11.5	7.0	3.6	6.9	1.8	9.1	-2.4	1.9	9.0	-9.6	2.1	6.8
		2群差異	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	認定者	―	―	25.0	40.0	48.8	47.4	44.7	51.2	53.3	55.9	51.5	59.1	57.2	61.6	53.1	77.8	60.7	48.5	71.7	67.7
		未認定者	36.5	25.0	20.4	36.6	30.4	41.2	33.1	42.5	32.9	46.1	45.0	49.7	48.4	54.4	57.1	62.5	53.9	56.5	66.7	56.5
		単純差	―	―	4.6	3.4	18.4	6.3	11.6	8.7	20.4	9.8	6.5	9.4	8.9	7.3	-4.0	15.3	6.8	-7.9	5.0	11.2
		2群差異	―	―	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.リーダーシップ	認定者	―	―	58.3	69.3	70.0	75.5	66.7	69.1	76.1	83.3	73.1	82.0	81.2	79.5	85.8	91.7	91.7	78.4	100.0	81.9
		未認定者	46.2	53.6	50.9	57.1	54.6	69.0	67.5	72.0	71.3	70.5	77.1	77.8	83.3	73.5	82.5	92.4	87.5	86.0	86.0	77.1
		単純差	―	―	7.5	12.2	15.4	6.5	-0.9	-2.9	4.7	12.9	-4.1	4.2	-2.2	6.0	3.3	-0.7	4.2	-7.6	14.0	4.8
		2群差異	―	―	差がある	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない

（３）認定者群･未認定者群の比較による OJT 効果の違い

これら「○（できる）」割合の差と検定結果検定結果を踏まえると、認定者群と未認定者群において以下の通りの差があるといえる。

状況の変化に応じた対応

「状況の変化に応じた対応」、「便・尿の異常時の対応」、「皮膚の異常時の対応」、「認知症の方がいつもと違う行動を行った場合の対応」について、介護職員経験年数 1 年～5 年の職員について「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、認定者群と未認定者群を比較すると、介護職員経験として 1 年～5 年の早い段階、特に経験年数が 1 年未満のいわゆる新人の介護職員に対し、状況の変化に応じた対応に対する 0JT が実践され、介護技術として身につけている新人の介護職員が多いといえる。従って認定者群をレベル認定が取得できる事業所群とすると、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、状況の変化に応じた対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員の段階から評価と 0JT が一体的に実施され、早い段階で実践力が身につき、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

利用者家族とのコミュニケーション

「利用者家族とのコミュニケーション」、その中でも「相談・苦情に対する対応」について、介護職員経験年数 1 年～10 年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、相談・苦情が発生した場合の対応について、対応する介護職員に偏りがあり、対応力として学ぶ 0JT が限られた介護職員に対して行われているか、あるいは 0JT を通じて学ぶ機会をできるだけ均等に配分しているかの差が出ているといえる。したがって、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、相談・苦情に対する対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、相談・苦情が発生した場合の対応について 0JT を通じて学ぶ機会をできるだけ均等に配分し、より多くの介護職員について実践力が身につき、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

介護過程の展開

「介護過程の展開」について、介護職員経験年数 2 年～4 年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。全体として経験年数 6 年～10 年の介護職員について、できていると評価された介護職員は約 7 割程度にとどまっており、特に経験年数 8 年未満の介護職員については 3 割以上の介護職員が対応できていないとなっている。介護過程の展開に関する対応力について、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、介護職員経験年数 2 年～4 年の早い段階から、介護過程の展開に関する対応力の OJT が実践されていることがわかる。取組がされていない事業所と比較すると、介護の専門職として、専門的知見であり経験、実践力が求められる介護過程の展開に関する対応力について重視し、重点的に OJT を実施している事業所である、といえる。

感染症対策･衛生管理

「感染症対策・衛生管理」について、介護職員経験年数 1 年と 4 年に「○（できる）」割合の差が出ている。感染症対策・衛生管理については昨今の新型コロナウィルスのような感染症が発生した際、新人職員であろうがベテランの職員であろうが感染症対策・衛生管理ができていなければならない。これは普段からスタンダートプリコーション、医療・介護を提供するすべての場所で適用される標準的感染予防措置策が事業所内で徹底的に実施されている必要がある、ということである。介護職員経験年数 1 年に「○（できる）」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、新人職員の段階から、スタンダートプリコーションの実施が徹底され、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員に対するスタンダートプリコーション、感染症発生時の対応について OJT が徹底的に実施されている事業である、といえる。また、感染症対策・衛生管理については普段からの実施、継続性が重要である。このことについて、介護職員経験年数 4 年にて「○（できる）」割合の差が出ていることに注目したい。介護職員として経験年数を重ねると、こうした継続的実施事項について緩慢になることがあるが、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、そうした気のゆるみが発生しないよう、介護キャリア段位を活用し、一定期間において評価・点検を行っていると考えられ、それがこの差にあらわれていると考えられる。

事故発生防止

事故発生防止について、特に事故発生時の対応について介護職員経験年数 2 年～3 年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、状況の変化に応じた対応と同様に、経験年数が 1 年未満のいわゆる新人の介護職員に対し、事故発生時の対応に対する OJT が実践され、対応力を身につけている新人の介護職員が多いといえる。したがって認定者群をレベル認定が取得できる事業所群とすると、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、事故発生時の対応の実践力について、取組がされていない事業所と比較すると、新人職員の段階から評価と OJT が一体的に実施され、早い段階で実践力が身につき、対応ができるようになっている事業所である、といえる。

身体拘束廃止

身体拘束廃止にむけた取組について、介護キャリア段位制度に取り組んでいない介護事業所等からはよく誤解を招くところであるが、介護キャリア段位制度における身体拘束廃止にむけた取組については、決して身体拘束を行っている事業所だけが廃止にむけた取組を行い、評価として「○（できる）」ようになる、というわけではない。というのも、スピーチロックやドラッグロック、認知症患者の徘徊を防ぐため、あるいは転倒防止のためにつける離床センサー（マット）の使用等、物理的な拘束はしておらず、一見、身体拘束にはあたらないと思われるもの、得てして自身では気づかないものが日頃の介護において多く潜んでいるからである。身体拘束廃止にむけた取組にあたっては、そうしたことをできるだけ見出しなくしていく仕組みを作り、日頃から意識すること、そのために身体拘束の定義を正しく理解し、新人職員、ベテラン職員関係なくそれを事業所内で共有していくことが重要であるといえる。

そうした中で介護職員経験年数 1 年～10 年にわたって「○（できる）」割合の差が出ている。このことは介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、身体拘束廃止にむけた取組について、介護キャリア段位に取組がされていない事業所と比較すると、新人職員からベテラン職員まで幅広く、身体拘束に関する最新情報などを入手し、身体拘束に関する定義を正しく理解、そして事業所内で共有できる仕組みが構築されている事業所である、といえる。

終末期ケア

終末期ケアを必要とする利用者への対応については、全体においても、経験年数 10 年以上のいわゆるベテランの介護職員について、できていると評価された介護職員は約 7 割程度に留まっており、終末期ケアの対応を行う機会、経験であり学習する機会があまりない中で、対応力を身につけていくことは容易ではないことは明らかである。そうした中で介護職員経験年数 1 年～10 年にわたって「○（できる）」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、終末期ケアの対応を行う機会において、できるだけ多くの中堅介護職員に経験であり学習する機会を積極的に設けている事業所である、といえる。終末期ケアについては利用者の身体的・精神的ケアをはじめとして、置かれた環境であり、家族に対する対応、精神的ケアも必要なことであることから、介護職員としての専門的な対応の中でも特に高度な技量を要するものである。したがってその対応ができる職員が早くからトレーニングを受けているということは介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、取り組んでいない事業所と比較すると、専門的知見と高度な技量を兼ねそろえた介護職員が多くいる、といえる。

地域包括ケアシステムの取組

今回の認定者群・未認定者群を比較し、「○（できる）」割合の差について、その差が有意であり、介護職員の経験年数においても新人職員から 10 年以上のベテラン職員まで、多くの差であり、大きな差がみられたのがこの地域包括ケアシステムへの取組であった。このことは、介護キャリア段位制度の取組を通じて、初めて地域包括ケアシステムへの取組について学習し、対応力向上にむけた取組がされている、といえる。

つまり、介護キャリア段位制度に取り組まない事業所については、介護職員に対して地域包括ケアシステムについて学習する機会、対応力向上にむけた OJT の実施が皆無に等しい、といえる。逆に言うと、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、国の方針でもある、地域共生社会の実現にむけた地域包括ケアシステムの構築、地域における様々な社会資源を把握し、多職種連携をはかる必要が出てきた場合に、適宜調整を行い対応ができる、いわゆるコーディネート力が備わった介護職員がより多くいる事業所である、といえる。

リーダーシップ

介護職員のキャリアパスにおける重要な必要要素として、介護職員としてのリーダーシップが挙げられる。チームケアを行う中で、チームとしての対応力の違いは、リーダーが如何にリーダーシップを発揮し、個々の介護職員の連携を高め、様々な角度でのアセスメントであり状況といった情報を収集・集約し、チーム内に共有することができるか、また所属するチームについて客観的評価を行い、個々の介護職員に対して指導でありアドバイスができるか、そして何よりもチームを構成する介護職員や他職種を含めて積極的にコミュニケーションをとることができるか、というところに出てくるといえる。そうした中で介護職員経験年数 3 年～5 年について「○（できる）」割合の差が出ているということは、介護キャリア段位に取り組み、レベル認定を輩出する事業所は、できるだけ早期に次世代リーダーを育てる気風がある、ひいては介護職員のキャリアパスについて構築がされている割合が高い、といえる。

認定者群、未認定者群の期首評価データ比較によって、認定者群事業所においては、入職後～5 年目の間に、専門性を構築する上記の分野の経験と学習の機会を設けていることが伺える。換言すると、入職以降の 5 年を見据えた教育がシステム化されている事業所と、特段システム化されておらず、分野によって未経験のまま経過をたどる事業所、すなわちスキルアップのパスがなく教育システムがない事業所との違いが、数値として如実に示されている。

（４）期首評価票データの分析（2016 年群･2019 年群の比較）

次に、2016 年に登録された期首評価票データと、3 年経過後の 2019 年に登録された期首評価票データの 2 群に分けてデータ比較分析を行った。

「2016 年」に登録された期首評価票における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

<2016 年>

経験年数ごと介護技術項目（小項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝3,893 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	81.7	84.8	88.1	92.7	93.5	93.4	95.0	90.5	92.6	94.5	95.3	95.6	95.3	98.5	96.3	100.0	97.6	100.0	97.3	95.5	93.9
		2 衣服の着脱ができる	80.3	79.6	89.0	89.0	92.4	90.7	95.0	91.0	93.7	93.3	94.6	96.5	95.9	92.4	95.6	95.6	97.6	94.7	94.6	97.0	92.4
		3 洗体ができる	73.9	76.7	84.5	86.9	92.7	89.4	94.1	88.4	92.0	93.0	95.9	93.0	93.5	91.6	93.8	98.9	90.5	93.0	97.3	97.0	90.8
		4 清拭ができる	52.4	62.5	69.7	83.9	83.1	87.6	85.6	86.8	87.4	92.1	92.6	93.8	91.1	92.4	92.5	98.9	97.6	94.6	100.0	94.0	86.9
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	76.5	81.0	85.4	89.0	90.1	92.9	93.0	91.5	90.2	93.9	94.6	92.9	94.1	93.9	93.8	96.7	97.6	98.2	94.6	97.0	91.9
		2 食事介助ができる	70.5	74.7	81.7	86.4	87.2	88.4	89.4	88.4	86.8	89.6	93.2	92.0	92.3	90.8	89.9	98.9	92.9	91.2	89.2	94.0	88.4
		3 口腔ケアができる	68.5	74.0	77.9	85.7	83.2	90.7	91.1	87.8	93.1	92.4	94.6	93.8	90.5	92.3	90.6	97.8	90.5	91.2	94.6	95.5	88.8
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	85.8	85.9	92.5	92.7	93.4	94.2	94.5	94.2	96.0	96.0	98.0	96.5	95.8	95.4	95.0	97.8	97.6	94.7	94.6	97.0	94.4
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	73.2	73.6	77.4	87.3	89.0	89.8	91.5	87.2	92.5	91.7	92.6	91.6	91.7	90.1	92.5	95.6	92.9	93.0	97.3	92.4	89.1
		3 おむつ交換を行うことができる	67.0	74.7	80.7	88.9	90.7	91.1	93.0	90.4	94.3	90.8	91.9	93.4	94.0	93.9	92.4	96.7	92.9	94.7	94.6	98.5	90.2
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	76.3	79.6	84.2	85.7	92.3	89.4	92.0	93.1	94.3	95.7	96.6	94.7	95.2	96.9	93.7	98.9	100.0	98.2	100.0	98.5	92.8
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	70.8	66.8	76.0	82.4	86.3	88.1	89.6	85.7	87.4	91.2	90.5	90.3	88.0	90.8	90.5	94.4	85.7	91.2	94.4	95.5	86.8
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	62.5	65.1	70.2	80.7	82.3	81.9	85.6	83.6	85.6	89.3	89.9	90.3	88.0	86.9	88.6	92.1	88.1	87.7	94.4	90.9	84.2
		4 杖歩行の介助ができる	64.5	67.4	76.0	80.0	82.6	88.1	88.4	88.2	87.3	88.7	94.5	91.6	93.4	90.8	86.8	93.3	82.9	92.6	97.2	89.2	86.2
		5 体位変換ができる	64.3	69.4	77.1	87.7	88.1	86.3	94.0	92.1	93.1	92.4	92.6	92.4	93.4	94.7	93.1	96.7	90.5	98.2	94.4	96.9	89.4
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	61.3	71.3	80.5	85.3	83.7	88.9	87.6	91.1	94.0	94.2	93.9	91.8	96.2	95.9	89.9	96.3	100.0	96.1	97.1	94.6	89.5
		2 便・尿の異常に対応ができる	48.7	62.2	76.3	77.6	78.1	84.1	83.7	87.0	91.3	89.6	86.4	90.2	95.5	86.9	89.1	93.9	97.2	92.2	91.2	94.5	84.8
		3 皮膚の異常に対応ができる	48.0	58.5	73.8	79.2	76.4	83.1	82.6	85.8	93.2	88.8	85.6	89.2	95.5	86.9	85.0	95.1	97.2	92.2	94.1	98.2	84.4
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	38.4	49.1	56.3	67.7	70.4	74.1	72.9	80.5	81.2	80.9	81.2	82.0	84.5	84.4	75.7	90.2	91.7	84.0	88.2	78.2	75.6
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1 相談・苦情対応ができる	34.7	41.2	58.0	63.0	65.5	68.7	75.2	76.5	72.5	79.6	83.0	85.4	82.3	86.7	83.1	92.8	83.3	85.7	83.9	90.7	74.6
		2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる	63.9	65.9	72.1	78.4	86.2	86.4	83.1	90.5	88.6	90.9	93.9	92.3	90.3	95.0	86.9	94.0	91.9	94.1	91.4	86.2	86.1
	2.介護過程の展開	1 利用者に関する情報を収集できる	61.2	73.1	72.9	84.6	89.0	90.1	85.7	91.0	89.3	92.8	97.3	95.1	95.3	89.5	92.4	94.2	96.8	90.7	90.0	92.6	88.2
		2 個別介護計画を立案できる	32.7	47.0	48.3	55.2	56.5	64.6	66.7	67.7	68.8	71.6	79.5	79.8	82.9	78.8	80.7	88.4	86.7	86.0	83.3	81.5	70.3
		3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	38.8	52.2	53.4	64.1	64.2	77.1	72.2	75.9	76.7	79.8	84.8	83.4	89.9	81.7	86.6	87.0	86.7	88.4	90.0	83.3	75.8
		4 個別介護計画の評価ができる	36.7	45.5	44.4	54.3	57.7	74.8	68.4	72.9	70.8	73.1	82.1	81.5	80.8	76.9	84.7	85.5	80.0	86.0	80.0	85.2	71.1
	3.感染症対策・衛生管理	1 感染症予防対策ができる	59.4	65.3	70.4	75.3	79.3	87.8	83.8	86.4	88.0	89.1	90.9	89.3	91.6	89.3	90.4	88.0	91.9	92.0	93.9	86.2	84.4
		2 感染症発生時に対応できる	49.0	49.3	65.8	73.7	74.8	85.6	79.3	82.0	89.3	88.0	88.5	89.6	88.4	83.7	89.8	95.6	93.3	92.9	93.3	86.8	81.9
	4.事故発生防止	1 ヒヤリハットの視点を持っている	77.6	72.9	78.5	82.5	88.5	90.2	90.4	91.7	86.9	95.1	93.8	93.3	92.3	88.6	93.3	95.7	93.5	93.0	93.3	90.7	89.1
		2 事故発生時の対応ができる	59.2	56.5	71.7	82.5	84.8	88.6	88.9	88.6	89.3	92.4	92.0	91.5	96.2	91.4	93.2	94.2	87.1	93.0	86.7	90.7	85.9
		3 事故報告書を作成できる	63.3	59.1	71.8	83.6	82.3	90.0	88.8	86.4	87.0	92.8	91.9	91.5	94.6	88.6	89.0	97.1	83.9	95.3	90.0	90.7	85.9
	5.身体拘束廃止	1 身体拘束廃止に向けた対応ができる	44.0	50.0	59.5	65.0	75.0	79.4	75.0	80.9	82.8	86.0	84.5	86.6	83.6	87.6	88.0	89.9	80.6	90.5	93.3	81.5	78.2
		2 身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	22.0	22.2	30.7	37.1	44.9	46.1	48.0	47.7	57.6	61.9	58.7	72.3	69.4	65.7	70.2	80.9	58.1	90.5	80.0	74.1	56.9
	6.終末期ケア	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	36.0	46.2	54.5	61.2	63.2	63.5	68.0	68.0	70.6	77.6	74.3	78.6	75.4	81.4	75.0	83.6	66.7	90.2	93.3	81.1	70.4
		2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる	24.0	40.0	52.2	47.4	59.9	54.0	64.3	54.7	66.4	68.7	69.7	73.6	77.0	75.5	72.2	77.9	70.0	80.5	80.0	79.2	64.4
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1 地域内の社会資源との情報共有	40.0	25.0	27.8	53.3	39.8	32.9	45.3	45.5	43.8	53.1	53.3	53.8	56.3	60.6	55.1	65.9	63.2	72.0	76.5	65.0	51.4
		2 地域内の社会資源との業務協力	20.0	25.0	27.8	47.7	35.6	35.7	42.9	39.0	32.8	47.6	51.7	48.1	48.3	54.9	51.3	61.0	73.7	72.0	76.5	70.0	48.1
		3 地域内の関係職種との交流	40.0	25.0	25.0	56.8	34.5	33.8	56.3	45.5	39.1	53.1	51.7	54.8	59.8	61.4	57.7	63.4	66.7	68.0	70.6	70.0	51.7
		4 地域包括ケアの管理業務	0.0	6.3	11.1	18.2	17.2	18.6	17.2	20.8	25.4	35.9	20.0	28.8	43.7	35.7	38.2	41.5	38.9	48.0	70.6	50.0	29.3
	2.リーダーシップ	1 現場で適切な技術指導ができる	40.0	25.0	55.6	66.7	62.9	69.3	75.4	77.9	77.9	80.6	78.7	82.7	86.5	74.0	83.5	87.8	73.7	92.0	83.3	80.0	72.7
		2 部下の業務支援を適切に行っている	40.0	37.5	50.0	68.9	58.0	68.0	72.3	76.6	78.8	77.8	72.1	77.9	82.0	74.0	82.3	90.2	89.5	92.0	83.3	80.0	72.6
		3 評価者として適切に評価できる	40.0	31.3	40.0	46.7	44.3	63.5	52.4	61.0	63.6	67.4	70.0	77.5	77.5	65.3	76.9	85.4	73.7	92.0	88.9	70.0	64.4
		平均	53.3	74.4	80.7	86.6	88.5	89.5	91.5	89.3	91.1	92.3	93.8	93.2	92.8	92.8	92.3	96.8	93.0	94.2	95.6	95.3	

「2019 年」に登録された期首評価票における経験年数ごとの小項目単位での評価結果「○（できる）」の割合は以下の通りである。

<2019 年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝1,835 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																				平均
大項目	中項目	小項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1　入浴前の確認ができる	87.6	89.5	89.3	88.1	93.2	95.7	92.5	91.3	93.3	96.8	100.0	93.8	98.4	98.4	97.5	100.0	96.6	93.8	100.0	97.4	94.6
		2　衣服の着脱ができる	90.0	94.7	88.5	82.6	93.2	94.2	91.8	96.2	92.1	96.7	94.8	93.8	98.4	98.4	96.2	97.4	96.6	96.9	100.0	100.0	94.6
		3　洗体ができる	80.8	88.4	85.0	90.8	91.7	92.8	92.5	98.1	89.9	97.6	96.6	89.1	98.4	93.7	96.2	97.4	96.6	96.9	100.0	100.0	93.6
		4　清拭ができる	61.3	72.6	74.1	78.1	82.9	89.9	84.1	85.3	86.2	93.4	94.7	87.5	95.1	93.5	96.2	92.3	89.7	93.5	100.0	92.1	87.1
	2.食事介助	1　食事前の準備を行うことができる	89.8	86.3	91.7	87.0	91.7	94.9	90.5	92.2	89.9	95.9	96.6	89.1	96.7	93.7	97.5	92.3	89.7	96.9	100.0	97.4	93.0
		2　食事介助ができる	82.9	85.1	85.1	81.5	88.4	94.2	85.0	89.3	88.8	95.9	91.4	87.3	95.1	95.2	94.9	87.2	89.7	93.8	90.5	92.1	89.7
		3　口腔ケアができる	78.8	86.2	86.0	81.1	85.5	90.6	86.4	89.3	87.6	91.1	98.2	93.8	98.4	92.1	97.5	84.6	92.9	93.8	90.5	86.8	89.6
	3.排泄介助	1　排泄の準備を行うことができる	90.8	96.8	91.6	89.8	93.2	97.1	93.2	94.2	93.3	96.7	96.5	93.8	96.7	100.0	94.9	89.7	93.1	96.9	100.0	97.4	94.8
		2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	81.7	90.5	84.0	84.3	90.4	93.5	85.7	89.1	92.1	97.5	98.2	89.1	96.7	96.8	98.7	92.3	89.7	90.6	95.2	94.7	91.5
		3　おむつ交換を行うことができる	75.0	82.8	78.3	84.3	84.2	91.3	88.4	92.1	93.2	95.0	96.5	93.8	96.7	98.4	98.7	92.1	89.7	96.9	90.5	94.7	90.6
	4.移乗・移動・体位変換	1　起居の介助ができる	84.2	83.0	89.3	88.0	90.4	93.5	93.2	93.2	93.1	98.4	96.5	93.7	93.4	96.8	96.2	97.4	100.0	93.8	95.2	97.3	93.3
		2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	82.5	86.2	89.3	83.3	87.7	89.1	83.7	89.2	92.0	95.1	91.2	87.3	95.1	93.7	94.9	84.6	89.7	96.9	90.5	94.6	89.8
		3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	68.9	77.9	79.2	77.8	84.9	88.4	83.0	84.3	90.9	88.6	94.7	88.9	93.4	91.9	94.9	87.2	93.1	90.6	85.7	94.6	87.0
		4　杖歩行の介助ができる	69.0	82.2	80.9	76.0	83.4	88.2	84.8	85.3	90.8	91.0	89.5	83.9	95.0	87.1	96.1	89.2	96.6	90.6	95.2	100.0	87.7
		5　体位変換ができる	71.2	77.4	81.7	77.8	86.2	93.4	87.0	87.4	90.9	95.9	98.2	93.7	95.1	96.8	94.9	92.3	93.1	100.0	95.2	100.0	90.4
	5.状況の変化に応じた対応	1　咳やむせこみに対応ができる	65.0	80.8	80.6	78.6	83.0	85.6	92.2	93.8	87.1	95.6	91.3	90.2	95.7	96.2	94.0	93.8	96.3	100.0	83.3	100.0	89.2
		2　便・尿の異常に対応ができる	50.0	71.2	75.0	70.0	80.0	86.7	86.3	87.8	88.6	92.3	91.3	92.2	93.6	90.6	94.0	90.6	96.3	100.0	88.9	87.9	85.7
		3　皮膚の異常に対応ができる	48.8	73.1	69.4	72.9	77.0	82.7	83.3	82.7	84.3	86.8	84.8	92.2	89.4	88.7	94.0	84.4	92.6	100.0	88.9	84.8	83.0
		4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	53.7	56.6	67.6	58.6	66.7	73.5	67.6	69.1	85.3	81.3	80.4	68.6	80.9	84.9	92.5	84.4	88.9	81.5	83.3	72.7	74.9
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1　相談・苦情対応ができる	40.0	41.2	51.4	69.4	69.4	77.8	66.7	75.4	80.9	84.5	73.5	73.1	87.5	90.9	88.0	85.7	94.7	89.5	85.7	72.0	74.9
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	66.7	71.7	77.8	70.4	75.0	80.6	76.5	86.9	91.4	91.2	89.1	90.2	93.3	98.1	92.3	93.5	88.9	92.3	100.0	81.8	85.4
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	80.0	64.7	80.0	82.4	81.6	90.5	89.5	91.2	91.5	93.1	87.9	92.3	93.8	91.2	96.0	90.5	100.0	100.0	100.0	88.0	89.2
		2　個別介護計画を立案できる	20.0	37.5	51.4	55.9	65.3	67.7	66.1	64.3	72.3	75.9	60.6	53.8	81.3	85.3	82.0	85.7	89.5	89.5	92.9	80.0	68.8
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	40.0	62.5	74.3	61.8	75.5	74.2	71.9	78.6	76.6	82.8	63.6	73.1	90.6	94.1	90.0	95.2	94.7	89.5	85.7	88.0	78.1
		4　個別介護計画の評価ができる	20.0	56.3	60.0	58.8	67.3	72.6	66.7	75.0	76.6	82.8	63.6	69.2	87.5	91.2	82.0	85.7	94.7	89.5	85.7	88.0	73.7
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	69.8	75.5	69.0	78.9	79.8	81.6	82.5	89.3	88.7	90.3	84.4	90.2	95.6	85.2	95.4	93.5	96.3	85.2	94.7	97.0	86.1
		2　感染症発生時に対応できる	60.0	50.0	61.8	72.2	81.6	88.9	80.7	86.0	80.9	94.9	82.4	96.2	93.8	90.9	90.0	85.7	94.7	100.0	85.7	84.0	83.0
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	80.0	75.0	88.6	91.7	83.7	92.1	91.2	87.7	97.9	96.6	85.3	100.0	93.8	100.0	96.0	90.5	100.0	94.7	92.9	84.0	91.1
		2　事故発生時の対応ができる	60.0	68.8	82.9	72.2	79.6	93.7	86.0	87.7	93.6	93.2	85.3	80.8	96.9	94.1	96.0	95.2	94.7	94.7	78.6	96.0	86.5
		3　事故報告書を作成できる	60.0	66.7	85.7	79.4	79.6	92.1	93.0	84.2	91.5	96.6	84.8	76.9	96.9	100.0	88.0	90.5	94.7	89.5	85.7	88.0	86.2
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	40.0	50.0	80.0	70.6	72.3	79.0	77.2	80.4	85.1	93.2	75.0	80.8	100.0	94.1	88.0	90.5	100.0	94.7	92.9	92.0	81.8
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	20.0	25.0	41.2	47.1	55.3	62.3	49.1	55.6	63.0	67.2	58.1	66.7	83.9	71.9	69.4	61.9	78.9	73.7	71.4	64.0	59.3
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	40.0	40.0	63.6	64.7	55.1	66.7	67.3	75.0	71.1	86.2	71.0	80.8	96.8	87.5	75.5	81.0	100.0	89.5	85.7	80.0	73.9
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	20.0	53.3	51.5	54.5	57.1	63.3	63.6	70.9	66.7	77.6	61.3	65.4	96.6	83.9	69.4	66.7	84.2	84.2	85.7	76.0	67.6
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	#DIV/0!	50.0	28.6	41.7	75.0	53.8	64.7	53.6	45.0	85.2	62.5	63.6	40.9	58.8	67.9	70.0	76.9	66.7	83.3	45.5	#DIV/0!
		2　地域内の社会資源との業務協力	0.0	25.0	14.3	41.7	68.8	38.5	47.1	39.3	45.0	77.8	62.5	72.7	45.5	52.9	64.3	60.0	84.6	66.7	66.7	54.5	51.4
		3　地域内の関係職種との交流	0.0	25.0	14.3	50.0	81.3	46.2	52.9	35.7	60.0	77.8	56.3	63.6	54.5	52.9	67.9	90.0	69.2	77.8	66.7	54.5	54.8
		4　地域包括ケアの管理業務	0.0	0.0	14.3	33.3	56.3	26.9	41.2	32.1	30.0	63.0	37.5	27.3	31.8	35.3	53.6	40.0	61.5	55.6	50.0	27.3	35.8
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	0.0	0.0	42.9	66.7	93.8	66.7	76.5	75.9	81.0	92.6	75.0	72.7	95.5	100.0	85.7	90.0	100.0	100.0	83.3	90.9	74.4
		2　部下の業務支援を適切に行っている	0.0	25.0	28.6	58.3	87.5	70.4	76.5	75.9	81.0	77.8	68.8	90.9	81.8	94.1	67.9	90.0	92.3	88.9	83.3	81.8	71.0
		3　評価者として適切に評価できる	0.0	0.0	28.6	58.3	56.3	63.0	70.6	67.9	57.1	77.8	62.5	63.6	77.3	88.2	59.3	100.0	92.3	88.9	83.3	72.7	63.4
		平均	#DIV/0!	85.3	84.9	83.4	88.5	92.4	88.1	90.4	90.9	95.0	95.6	90.5	96.2	95.1	96.3	91.7	93.1	94.8	95.2	95.9	

中項目単位での 2016 年における介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

<2016 年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝3,893 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9	91.0
	2.食事介助	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.8	93.7	93.6	92.8	95.5	89.7
	3.排泄介助	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0	91.3
	4.移乗・移動・体位変換	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3	87.8
	5.状況の変化に応じた対応	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.0	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5	83.6
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	87.8	89.2	87.1	87.1	81.2
	2.介護過程の展開	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6	76.4
	3.感染症対策・衛生管理	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.7	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3	82.7
	4.事故発生防止	66.7	62.9	73.4	82.6	85.3	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.9	95.7	88.2	93.8	90.0	90.7	86.9
	5.身体拘束廃止	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8	67.6
	6.終末期ケア	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2	67.4
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	31.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8	45.3
	2.リーダーシップ	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	87.8	78.9	92.0	85.2	76.7	70.0

また、中項目単位での 2019 年における介護技術項目「○（できる）」割合一覧表は以下の通りである。

<2019 年>

経験年数ごと介護技術項目（中項目）「○（できる）」割合一覧表（n＝1,835 件）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目		経験年数																				平均
大項目	中項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4	92.5
	2.食事介助	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.3	90.3	88.8	94.3	95.1	90.1	96.7	93.7	96.6	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1	90.7
	3.排泄介助	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.4	91.5	90.8	94.8	95.2	95.6	92.3
	4.移乗・移動・体位変換	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3	89.6
	5.状況の変化に応じた対応	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4	83.1
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	65.5	68.9	72.2	67.6	71.5	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8	81.8
	2.介護過程の展開	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0	77.6
	3.感染症対策・衛生管理	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4	84.0
	4.事故発生防止	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3	87.9
	5.身体拘束廃止	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0	70.7
	6.終末期ケア	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0	70.8
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	－	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5	52.3
	2.リーダーシップ	－	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8	73.3

ここで、2 つの群、「2016 年」と「2019 年」の 2 つの母集団について、中項目単位での介護技術項目「○（できる）」割合に統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「ウエルチの t 検定」を採用した。

＜条件＞

・2 群は異なる集団である（対応のないデータ）
・2 群の母集団が正規分布であるかどうかわからない
・サンプルサイズ（2 群計）が 30～500 である
・母集団において 2 群の標準偏差が異なるといえる

「ウエルチの t 検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T 値」を算出し、「T 値」が統計学によって定められた「棄却限界値」より大きければ母集団において 2 群の母平均は異なる、つまり「有意な差がある」と判断する。

＜標本調査の結果＞

2 群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T値 = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right)^2 \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

Ｔ値　≧　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえる
Ｔ値　＜　棄却限界値　「2 群の母平均は異なる」はいえない

これら統計的検定の方法を使い、各設問ごとの、サンプルサイズ、標本平均、標本標準偏差、「検定統計量Ｔ」並びに「棄却限界値」は以下の表の通りとなり、

Ｔ値　≧　棄却限界値　「差がある」
Ｔ値　＜　棄却限界値　「差がない」

とした。

検定における結果は以下の通りである。

2016 年･2019 年における t 検定結果一覧表（1/3）

評価項目				経験年数																				
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9
			標本標準偏差	30.6	30.4	25.6	22.0	20.8	20.4	19.5	24.0	18.7	17.8	15.0	16.7	17.7	17.6	14.7	7.3	10.8	13.3	9.7	14.7
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4
			標本標準偏差	29.3	25.3	27.7	27.2	22.7	17.5	22.0	15.8	25.1	14.6	12.6	21.8	10.8	12.0	13.8	8.4	13.7	18.2	0.0	7.7
		T値		2.26	3.26	0.49	1.17	0.09	1.45	0.97	1.45	0.34	1.79	0.98	1.26	1.86	1.08	0.97	1.00	0.33	0.08	1.70	0.67
		自由度		233	196	205	173	274	323	292	282	139	269	126	85	174	170	164	64	51	50	36	102
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.98	2.00	2.01	2.01	2.04	1.98
		T値-棄却限界値		0.29	1.28	-1.48	-0.81	-1.88	-0.52	-1.00	-0.52	-1.64	-0.18	-1.00	-0.73	-0.12	-0.90	-1.01	-1.00	-1.68	-1.93	-0.34	-1.31
		2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.8	93.7	93.6	92.8	95.5
			標本標準偏差	34.7	31.9	30.4	25.9	26.2	21.8	23.0	23.9	23.8	21.0	17.6	20.5	21.1	22.4	19.1	8.3	16.6	17.0	19.2	15.1
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.3	90.3	88.8	94.3	95.1	90.1	96.7	93.7	96.6	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1
			標本標準偏差	31.2	26.7	25.0	31.6	26.3	19.7	25.6	23.1	29.5	18.9	16.4	26.8	11.6	20.5	11.4	26.7	27.5	16.9	19.6	20.9
		T値		3.49	2.79	2.10	1.27	0.64	1.17	1.46	0.37	0.35	1.13	0.38	0.78	2.00	0.40	2.61	2.23	0.50	0.33	0.16	0.89
		自由度		247	195	264	175	295	312	294	219	147	244	114	85	191	133	229	41	42	65	41	59
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.97	2.02	2.02	2.00	2.02	2.01
		T値-棄却限界値		1.52	0.81	0.13	-0.71	-1.33	-0.80	-0.51	-1.60	-1.63	-0.84	-1.60	-1.21	0.02	-1.58	0.64	0.21	-1.52	-1.67	-1.86	-1.12
		2群差異		差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0
			標本標準偏差	32.3	31.7	26.9	22.9	20.7	21.4	19.3	22.5	16.9	19.5	16.3	18.8	20.2	19.6	19.3	14.1	19.1	17.8	15.8	15.8
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.4	91.5	90.8	94.8	95.2	95.6
			標本標準偏差	26.2	21.0	27.5	26.9	25.3	17.1	24.0	22.1	22.0	15.9	12.9	23.4	14.4	7.1	10.4	21.0	27.5	18.8	15.6	15.6
		T値		2.35	4.19	0.40	1.18	0.76	1.13	1.62	0.34	0.51	1.98	1.36	0.51	1.27	2.73	2.14	1.42	0.62	0.16	0.06	0.13
		自由度		273	249	215	180	250	337	272	215	142	271	134	87	149	182	235	53	46	61	42	78
		棄却限界値		1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.97	2.01	2.02	2.00	2.02	1.99
		T値-棄却限界値		0.38	2.22	-1.57	-0.80	-1.21	-0.84	-0.35	-1.63	-1.47	0.01	-0.62	-1.48	-0.71	0.75	0.17	-0.59	-1.40	-1.84	-1.96	-1.86
		2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・体位変換	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3
			標本標準偏差	33.7	33.1	30.9	28.4	24.4	25.7	22.7	22.4	22.8	19.5	16.8	21.1	20.2	19.9	19.7	16.1	21.5	18.5	9.2	15.8
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3
			標本標準偏差	30.3	27.9	29.0	30.1	25.8	20.2	25.6	23.6	24.1	16.6	17.6	23.6	17.8	16.7	16.2	21.3	15.7	16.0	19.0	11.5
		T値		2.28	3.27	2.20	0.85	0.09	1.68	1.36	0.29	0.67	1.29	0.45	0.72	1.08	0.47	2.04	1.31	1.20	0.33	0.85	1.11
		自由度		247	194	233	197	282	340	291	203	169	258	102	93	120	143	185	58	69	72	25	96
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.99	1.98	1.98	1.98	2.01	2.00	1.99	2.09	1.99
		T値-棄却限界値		0.31	1.29	0.23	-1.13	-1.88	-0.29	-0.61	-1.68	-1.31	-0.68	-1.53	-1.27	-0.90	-1.51	0.06	-0.70	-0.80	-1.66	-1.24	-0.88
		2群差異		差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に応じた対応	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.0	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5
			標本標準偏差	39.0	36.1	34.3	31.6	31.0	28.0	30.6	25.2	21.2	23.5	25.0	25.5	16.2	22.0	27.4	17.7	10.5	21.5	16.6	19.1
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4
			標本標準偏差	36.0	38.7	35.4	34.2	33.6	30.8	28.4	27.1	27.9	24.4	27.0	26.8	21.7	25.1	17.5	24.2	17.5	9.7	29.1	25.4
		T値		1.37	2.04	0.41	1.96	0.12	0.15	0.19	0.79	1.17	0.24	0.03	0.66	1.02	0.34	2.97	1.31	0.83	1.26	0.94	1.09
		自由度		241	155	213	192	276	269	328	200	141	214	100	98	85	109	222	56	42	84	28	61
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.97	1.98	1.99	1.99	1.98	1.97	2.01	2.02	1.99	2.09	2.00
		T値-棄却限界値		-0.60	0.06	-1.56	-0.02	-1.85	-1.82	-1.78	-1.19	-0.81	-1.73	-1.95	-1.33	-0.97	-1.64	1.00	-0.70	-1.19	-0.73	-1.15	-0.91
		2群差異		差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない

2016 年･2019 年におけるｔ検定結果一覧表（2/3）

評価項目				経験年数																				
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	87.8	89.2	87.1	87.1
			標本標準偏差	45.8	45.8	43.1	40.2	35.9	34.8	37.4	32.3	32.5	30.0	24.9	26.9	29.6	22.9	34.1	21.6	27.0	24.9	30.1	31.6
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	65.5	68.9	72.2	67.6	71.5	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8
			標本標準偏差	46.9	44.7	39.0	45.3	41.4	37.2	41.2	34.3	28.9	29.7	31.4	31.8	27.7	17.4	24.6	26.7	32.2	27.8	15.3	39.2
		Ｔ値		1.54	1.71	1.19	0.80	1.50	0.32	1.40	0.29	1.56	0.96	1.16	0.74	0.52	1.36	1.78	0.63	0.11	0.20	1.27	1.52
		自由度		219	168	241	186	262	274	297	202	196	223	88	90	113	156	205	61	53	59	56	64
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.97	2.00	2.01	2.01	2.01	2.00
		Ｔ値-棄却限界値		-0.43	-0.27	-0.78	-1.18	-0.47	-1.65	-0.57	-1.68	-0.42	-1.01	-0.83	-1.25	-1.46	-0.62	-0.19	-1.37	-1.90	-1.81	-0.74	-0.48
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.介護過程の展開	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6
			標本標準偏差	41.4	41.5	41.8	38.4	36.7	32.7	36.1	33.2	32.0	31.4	27.3	28.4	25.2	32.7	29.3	28.4	26.1	29.7	30.1	29.5
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0
			標本標準偏差	33.9	42.7	35.3	41.2	38.2	36.7	33.6	33.7	34.7	31.3	38.0	34.9	23.4	22.7	25.6	21.2	17.4	20.0	22.4	27.5
		Ｔ値		0.60	0.50	2.86	0.11	1.42	0.02	0.13	0.18	0.58	1.29	3.13	2.72	0.38	2.29	0.37	0.11	1.33	0.82	0.75	0.06
		自由度		270	161	257	194	286	264	327	210	165	222	83	88	114	168	175	95	69	84	52	82
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	1.99	2.01	1.99
		Ｔ値-棄却限界値		-1.37	-1.48	0.89	-1.87	-0.55	-1.95	-1.84	-1.79	-1.40	-0.68	1.14	0.73	-1.60	0.31	-1.61	-1.88	-0.67	-1.17	-1.26	-1.93
		2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.感染症対策・衛生管理	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.7	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3
			標本標準偏差	47.7	45.7	44.0	42.2	38.8	31.3	36.3	34.5	26.7	31.3	27.7	29.8	26.6	30.1	28.0	26.3	24.7	25.2	23.9	32.2
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4
			標本標準偏差	45.8	42.9	45.0	41.0	38.9	36.6	37.2	30.5	33.1	28.6	36.4	28.0	22.6	35.8	21.9	26.7	20.8	35.5	26.1	21.7
		Ｔ値		2.62	1.99	0.13	0.40	0.59	0.97	0.35	1.42	0.94	1.16	1.22	0.54	1.12	0.42	0.78	0.01	0.47	0.96	0.65	1.34
		自由度		232	174	215	212	295	256	310	235	148	240	86	107	124	105	193	71	66	49	39	100
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.02	2.04	1.99
		Ｔ値-棄却限界値		0.65	0.01	-1.84	-1.57	-1.38	-1.00	-1.62	-0.55	-1.04	-0.81	-0.77	-1.44	-0.86	-1.56	-1.20	-1.98	-1.53	-1.06	-1.39	-0.65
		2群差異		差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	4.事故発生防止	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	66.7	62.9	73.4	82.6	85.3	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.9	95.7	88.2	93.8	90.0	90.7
			標本標準偏差	36.9	38.3	33.4	32.0	26.0	24.7	24.6	25.2	23.7	19.6	19.2	22.0	17.1	24.9	19.8	16.0	21.7	19.4	23.0	25.2
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3
			標本標準偏差	42.2	39.2	30.1	28.8	32.3	24.8	25.7	30.5	15.9	15.6	30.5	24.8	13.8	7.8	18.9	22.8	10.2	23.1	30.1	24.4
		Ｔ値		0.00	1.49	3.72	0.34	1.39	1.20	0.25	0.67	2.66	1.21	1.72	1.80	0.67	3.56	0.55	0.89	2.16	0.17	0.57	0.28
		自由度		199	162	242	228	247	289	306	181	243	277	77	93	131	174	162	55	62	55	33	79
		棄却限界値		1.98	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.99	1.99	1.98	1.98	1.98	2.01	2.00	2.01	2.04	1.99
		Ｔ値-棄却限界値		-1.98	-0.49	1.75	-1.63	-0.58	-0.77	-1.72	-1.31	0.69	-0.76	-0.27	-0.19	-1.31	1.58	-1.43	-1.12	0.16	-1.84	-1.47	-1.71
		2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	5.身体拘束廃止	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8
			標本標準偏差	40.8	38.0	41.5	42.2	39.6	39.0	40.6	38.4	36.1	34.5	37.3	34.4	36.9	34.5	34.1	31.0	35.2	22.5	28.7	38.1
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0
			標本標準偏差	40.0	41.5	38.0	41.1	42.2	39.7	39.5	39.6	37.0	30.6	42.6	37.3	18.4	29.0	34.9	33.2	20.4	28.3	30.5	31.9
		Ｔ値		0.69	0.32	3.90	1.67	0.94	1.79	0.62	0.81	0.73	1.85	0.73	1.25	4.17	1.51	0.31	1.38	3.04	1.08	0.55	0.03
		自由度		227	153	238	212	280	285	320	207	173	248	95	95	206	144	152	68	67	53	40	89
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.99	1.97	1.98	1.98	2.00	2.00	2.01	2.04	1.99
		Ｔ値-棄却限界値		-1.28	-1.66	1.93	-0.30	-1.03	-0.18	-1.35	-1.16	-1.25	-0.12	-1.26	-0.74	2.20	-0.47	-1.67	-0.62	1.04	-0.93	-1.49	-1.96
		2群差異		差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	6.終末期ケア	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2
			標本標準偏差	41.2	45.5	46.9	44.5	43.7	45.5	42.9	45.2	43.0	40.0	42.0	39.6	38.7	38.0	41.2	35.4	41.8	29.7	28.7	38.0
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0
			標本標準偏差	40.0	46.4	44.6	42.8	44.8	46.1	44.6	40.0	43.8	34.4	42.9	37.3	12.3	33.6	41.7	39.7	18.2	31.8	35.0	40.2
		Ｔ値		0.00	0.65	0.84	0.82	1.15	1.44	0.20	2.32	0.11	2.27	0.90	0.57	6.12	1.39	0.22	0.96	3.26	0.22	0.11	0.27
		自由度		230	162	230	214	290	286	308	235	174	256	105	106	226	137	154	65	60	61	35	73
		棄却限界値		1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.98	1.98	1.97	1.98	1.98	2.00	2.00	2.00	2.04	1.99
		Ｔ値-棄却限界値		-1.97	-1.33	-1.13	-1.15	-0.82	-0.53	-1.77	0.35	-1.87	0.30	-1.08	-1.41	4.15	-0.59	-1.76	-1.04	1.26	-1.78	-1.93	-1.72
		2群差異		差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない

2016 年･2019 年における t 検定結果一覧表（3/3）

評価項目				経験年数																				
大項目	中項目			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	31.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8
			標本標準偏差	31.6	32.1	36.5	39.3	39.2	40.8	38.8	39.2	39.5	43.0	39.1	40.0	43.4	41.2	41.7	42.6	40.9	39.4	42.4	42.6
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	―	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5
			標本標準偏差	―	30.6	34.6	43.7	39.7	42.7	42.4	42.4	40.8	34.3	42.6	40.0	42.1	43.7	44.6	35.7	37.3	42.5	40.0	43.7
		T値		―	1.27	1.35	0.68	9.36	2.29	2.47	0.50	1.87	7.31	1.64	1.84	1.39	0.54	2.07	0.97	1.20	0.18	0.61	2.08
		自由度		―	172	230	188	292	279	298	198	172	276	99	101	109	116	147	85	64	60	44	75
		棄却限界値		―	1.98	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.98	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.00	2.02	1.99
		T値-棄却限界値		―	-0.71	-0.62	-1.30	7.39	0.32	0.50	-1.48	-0.11	5.34	-0.35	-0.14	-0.59	-1.44	0.09	-1.02	-0.80	-1.82	-1.41	0.09
		2群差異		―	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	2.リーダーシップ	2016	サンプルサイズ	295	270	318	247	275	227	202	189	175	329	148	227	169	131	160	90	42	57	37	67
			標本平均	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	87.8	78.9	92.0	85.2	76.7
			標本標準偏差	49.0	43.3	41.9	39.9	42.1	42.7	38.6	39.5	36.5	36.4	36.1	35.3	31.6	40.1	33.4	26.3	34.6	19.5	33.7	37.4
		2019	サンプルサイズ	121	95	122	109	146	138	147	104	89	124	59	64	61	63	79	39	29	32	21	38
			標本平均	―	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8
			標本標準偏差	―	14.4	43.6	42.7	26.0	42.6	42.1	36.7	33.5	31.9	39.9	35.1	27.9	17.1	36.4	20.0	17.8	21.0	37.3	32.9
		T値		―	7.59	3.42	0.08	7.13	0.10	1.66	0.24	0.22	2.14	0.75	0.75	0.65	5.67	1.97	1.31	2.54	0.13	0.19	0.73
		自由度		―	362	212	195	409	290	298	226	191	250	98	102	119	190	144	94	65	61	38	85
		棄却限界値		―	1.97	1.97	1.98	1.97	1.97	1.97	1.97	1.98	1.97	1.99	1.98	1.98	1.98	1.98	1.99	2.00	2.00	2.04	1.99
		T値-棄却限界値		―	5.62	1.45	-1.90	5.16	-1.87	-0.31	-1.73	-1.76	0.17	-1.24	-1.23	-1.33	3.69	-0.01	-0.68	0.54	-1.87	-1.85	-1.26
		2群差異		―	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない

また、これらの 2016 年に登録された期首評価票データと 2019 年に登録された期首評価データにおける「○（できる）」割合の差と検定結果を一覧にまとめると以下の通りとなる。なお、認定者群と未認定者群における割合の差において 8.0%以上の差があるものについては　　網掛けをしている。

「○（できる）」割合･検定結果一覧表（1/2）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	2016	72.2	75.9	82.9	88.2	90.5	90.2	92.5	89.2	91.4	93.2	94.6	94.7	93.9	93.7	94.5	98.3	95.8	95.6	97.3	95.9
		2019	79.4	86.3	84.4	84.7	90.2	93.1	90.2	92.5	90.4	96.2	96.6	91.0	97.5	96.0	96.4	96.8	94.8	95.3	100.0	97.4
		単純差	7.2	10.4	1.4	-3.4	-0.2	2.9	-2.2	3.4	-1.0	2.9	2.0	-3.7	3.6	2.3	1.9	-1.5	-1.0	-0.3	2.7	1.5
		2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.食事介助	2016	71.8	76.6	81.7	87.1	86.9	90.6	91.2	89.2	90.0	92.0	94.1	92.9	92.3	92.4	91.5	97.8	93.7	93.6	92.8	95.5
		2019	83.9	86.0	87.6	82.7	88.6	93.2	87.3	90.3	88.8	94.3	95.1	90.1	96.7	93.7	96.6	88.0	90.8	94.8	93.7	92.1
		単純差	12.1	9.4	6.0	-4.4	1.7	2.6	-3.9	1.0	-1.3	2.3	1.0	-2.8	4.4	1.3	5.2	-9.7	-2.8	1.2	0.9	-3.4
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.排泄介助	2016	75.4	78.1	83.5	89.6	91.1	91.7	93.0	90.7	94.3	92.9	94.1	93.8	93.7	93.1	93.3	96.7	94.4	94.2	95.5	96.0
		2019	82.5	90.2	84.7	86.1	89.3	94.0	89.1	91.6	92.9	96.4	97.1	92.2	96.7	98.4	97.4	91.5	90.8	94.8	95.2	95.6
		単純差	7.1	12.1	1.2	-3.5	-1.8	2.3	-3.9	0.9	-1.4	3.5	2.9	-1.6	3.1	5.3	4.1	-5.2	-3.6	0.6	-0.3	-0.4
		2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	4.移乗・移動・体位変換	2016	67.7	69.7	76.8	83.3	86.3	86.5	89.9	88.5	89.5	91.4	92.8	91.9	91.4	92.1	90.6	95.1	89.2	93.2	96.1	94.3
		2019	75.4	81.2	83.7	80.4	86.5	90.5	86.3	87.6	91.6	93.8	94.0	89.5	94.4	93.3	95.4	90.1	94.5	94.4	92.4	97.3
		単純差	7.7	11.5	6.9	-2.9	0.2	4.1	-3.6	-0.8	2.1	2.4	1.2	-2.3	3.0	1.3	4.9	-5.0	5.3	1.2	-3.7	3.0
		2群差異	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	5.状況の変化に応じた対応	2016	49.0	60.1	71.7	77.5	77.1	82.5	81.7	86.1	90.0	88.4	86.8	88.3	93.0	88.5	85.0	93.9	96.5	91.2	92.6	91.5
		2019	54.5	69.3	73.3	70.0	76.8	82.1	82.4	83.5	86.1	89.0	87.0	85.8	89.9	89.8	93.7	88.3	93.5	95.4	86.1	86.4
		単純差	5.5	9.3	1.5	-7.5	-0.4	-0.5	0.6	-2.6	-3.9	0.6	0.1	-2.5	-3.1	1.3	8.7	-5.6	-3.0	4.2	-6.5	-5.2
		2群差異	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない

「○（できる）」割合・検定結果一覧表（2/2）

90%以上：　80%台：　70%台：　60%台：　50%台：　50%未満：

評価項目			経験年数																			
大項目	中項目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	2016	57.7	59.7	67.1	71.6	77.6	79.3	78.1	82.7	81.0	85.5	89.0	88.5	86.7	91.3	83.9	93.4	87.8	89.2	87.1	87.1
		2019	65.5	68.9	72.2	67.6	71.5	78.1	72.1	81.5	87.1	88.5	83.7	85.3	88.9	95.4	90.8	90.3	87.0	90.4	94.7	75.8
		単純差	7.7	9.2	5.1	-4.0	-6.1	-1.3	-6.0	-1.2	6.1	3.0	-5.3	-3.2	2.2	4.0	6.9	-3.1	-0.8	1.2	7.6	-11.3
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	2.介護過程の展開	2016	42.3	54.9	55.1	64.2	67.0	76.7	73.2	76.9	76.7	79.4	85.9	85.1	86.9	81.2	86.1	88.8	87.9	87.8	85.8	85.6
		2019	40.0	57.4	66.4	64.7	72.4	76.6	73.7	77.6	79.3	83.6	68.9	72.1	88.3	90.4	87.5	89.3	94.7	92.1	91.1	86.0
		単純差	-2.3	2.5	11.3	0.5	5.5	-0.1	0.5	0.8	2.5	4.2	-17.0	-12.9	1.4	9.3	1.4	0.5	6.8	4.3	5.2	0.4
		2群差異	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	3.感染症対策・衛生管理	2016	55.5	61.4	66.8	73.5	76.9	85.8	81.0	82.5	88.3	86.7	89.0	88.0	89.4	86.5	89.7	90.4	91.9	92.0	93.9	85.3
		2019	68.6	71.7	66.2	75.4	79.3	82.1	79.6	88.1	84.5	90.3	82.6	90.2	93.3	84.3	92.3	90.3	94.4	85.2	89.5	92.4
		単純差	13.1	10.3	-0.6	1.9	2.4	-3.6	-1.4	5.6	-3.8	3.6	-6.4	2.2	4.0	-2.2	2.6	0.0	2.6	-6.8	-4.5	7.1
		2群差異	差がある	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない
	4.事故発生防止	2016	66.7	62.9	73.4	82.6	85.3	89.4	89.4	88.9	87.8	93.3	92.6	92.1	94.4	89.5	91.9	95.7	88.2	93.8	90.0	90.7
		2019	66.7	69.8	85.7	81.5	81.0	92.6	90.1	86.5	94.3	95.5	85.3	85.9	95.8	98.0	93.3	92.1	96.5	93.0	85.7	89.3
		単純差	0.0	6.9	12.3	-1.2	-4.3	3.2	0.7	-2.3	6.5	2.1	-7.3	-6.2	1.5	8.5	1.5	-3.6	8.3	-0.8	-4.3	-1.4
		2群差異	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	5.身体拘束廃止	2016	33.0	35.9	45.3	50.8	59.9	63.4	61.4	64.9	69.9	74.3	71.8	79.6	76.6	76.7	79.5	84.8	69.4	90.5	86.7	77.8
		2019	30.0	37.5	61.4	58.8	63.8	71.0	64.0	68.8	73.4	80.5	67.2	73.1	91.9	83.8	78.0	76.2	89.5	84.2	82.1	78.0
		単純差	-3.0	1.6	16.2	8.0	4.0	7.6	2.7	3.9	3.5	6.2	-4.6	-6.5	15.4	7.2	-1.5	-8.6	20.1	-6.3	-4.5	0.2
		2群差異	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
	6.終末期ケア	2016	30.0	43.1	53.5	54.7	61.3	58.7	66.4	61.3	68.3	73.3	72.0	76.1	76.2	78.4	73.7	80.9	68.3	85.4	86.7	80.2
		2019	30.0	46.7	57.6	58.8	56.1	65.9	65.5	73.2	68.9	81.9	66.1	73.1	96.8	85.9	72.4	73.8	92.1	86.8	85.7	78.0
		単純差	0.0	3.6	4.0	4.1	-5.2	7.1	-1.0	11.9	0.6	8.6	-5.9	-3.0	20.6	7.5	-1.3	-7.1	23.8	1.5	-1.0	-2.2
		2群差異	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	2016	25.0	20.3	22.9	45.0	32.4	31.0	40.5	37.7	35.2	47.5	44.2	46.4	52.0	53.5	51.0	57.9	61.8	65.0	73.5	63.8
		2019	―	25.0	17.9	41.7	70.3	41.3	51.5	40.2	45.0	75.9	54.7	56.8	43.2	50.0	63.4	65.0	73.1	66.7	66.7	45.5
		単純差	#VALUE!	4.7	-5.1	-3.3	37.9	10.4	11.0	2.5	9.8	28.4	10.5	10.4	-8.8	-3.5	12.4	7.1	11.2	1.7	-6.9	-18.3
		2群差異	―	差がない	差がない	差がない	差がある	差がある	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある
	2.リーダーシップ	2016	40.0	31.3	49.1	60.7	55.4	67.1	67.2	71.9	74.0	75.2	73.2	79.5	82.0	70.8	81.0	87.8	78.9	92.0	85.2	76.7
		2019	―	8.3	33.3	61.1	79.2	66.7	74.5	73.0	73.0	82.7	68.8	75.8	84.8	94.1	71.4	93.3	94.9	92.6	83.3	81.8
		単純差	#VALUE!	-22.9	-15.7	0.4	23.7	-0.4	7.3	1.1	-1.0	7.5	-4.5	-3.7	2.8	23.3	-9.6	5.5	15.9	0.6	-1.9	5.2
		2群差異	―	差がある	差がある	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がある	差がない	差がない	差がない

（５）2016 年群･2019 年群の比較による介護キャリア段位制度の OJT 推進効果

これら「○（できる）」割合の差と検定結果検定結果を踏まえると、介護キャリア段位制度が 3 年に渡ってもたらした介護技術の OJT 推進効果について、以下の通りといえる。

基本介護技術

「入浴介助」「食事介助」といった基本介護技術について、介護職員経験年数 1 年と 2 年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、介護キャリア段位制度が介護職員経験年数 1 年～2 年といったいわゆる新人職員に対する評価と OJT の仕組みを提供し、3 年経過において 10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができている、といえる。

感染症対策･衛生管理

「感染症対策・衛生管理」について、基本介護技術と同様に、介護職員経験年数 1 年と 2 年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、アセッサー講習にて個別で講義を行うあるいは、レベル認定委員会において厳密に審査を行うなど、介護キャリア段位制度において、普段からのスタンダートプリコーション実施を重要視し、事業所内で徹底的に実施されているかどうかの確認を積み重ねてきた結果のあらわれであると考えられる。つまり、介護キャリア段位制度がスタンダートプリコーション実施に関する評価と OJT の仕組みを提供し、3 年経過において 10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができている、といえる。

終末期ケア

「終末期ケア」について、介護職員経験年数 8 年と 10 年、13 年に「○（できる）」割合の差が出ている。このことは、いわゆるベテラン層に対して、経験であり学習する機会を積極的に設けることを推進し、介護職員としての専門的な対応の中でも特に高度な技量を要する終末期ケアについて評価と OJT の仕組みを提供し、3 年経過において 10%近くの介護職員について「○（できる）」割合を高めることができている、といえる。

地域包括ケアシステムの取組

域包括ケアシステムへの取組について、認定者群・未認定者群の比較において「○（できる）」割合の差にて多くの差であり、大きな差がみられたところであるが、2016 年から 2019 年の 3 年間での変化についても同様に、多くの差であり、大きな差がみられた。

先出の通り、介護キャリア段位制度の取組を通じて、初めて地域包括ケアシステムへの取組について学習し、対応力向上にむけた取組がされている、とここでもいえるということである。

介護キャリア段位制度の取組を展開し推進することで、介護事業所における地域包括ケアシステムの学習する機会の創出、対応力向上にむけた OJT の推進がはかられ、その結果 3 年経過において特に介護職員経験年数の 5 年～15 年の介護職員について、10%近くの「○（できる）」割合を高めることができている、といえる。

介護キャリア段位制度として、介護技術評価基準が、明文化されたものとして世に出され、活用が広がっている中、2016 年時点と 2019 年時点の変化比較からは、明文化された評価基準がもたらした事項として、基本介護技術に関する OJT の推進がなされてきたことが、数値として示された。

また、介護キャリア段位制度のアセッサー講習及びレベル認定審査の重点項目として、感染症予防対策・衛生管理（スタンダードプリコーション）の徹底についても、今回、数値としてあらわれることとなった。期せずしてまさにリスクマネジメントとして、現場で発揮されている中、本視点の重要性は再認識されているものといえる。

「終末期ケア」に関しては、スキルアップのパスとして、レベル 3 相当に位置づけられることにより、ベテラン層の OJT、スキルを深める分野として広まりつつあることが読み取れる。

さらに、「地域包括ケアシステム」に至っては、介護技術評価基準によるシステム構築にむけた取組への誘導と、各地域、事業所における認識の定着とが相まってか、3 カ年での広まりが数値として示されている。これらは、まさに介護キャリア段位制度創設のねらいがスキルとなって形になっていることの証明といえ、148 にまで集約化され、行為・対応として明文化された介護技術評価基準を用いた OJT システムがもたらした結果といえる。

３．期首評価票データ分析結果を踏まえて

期首評価データ分析について、認定者群と未認定者群、いわゆる評価と OJT が一体的に実施されている事業所群と、評価と OJT が一体的に実施されていない事業所群の 2 群の比較することで OJT の効果・実態の差を数値で明らかにするとともに、2016 年時と 2019 年時の 2 群の期首評価データ比較による、介護キャリア段位制度が介護事業所にもたらす介護技術の OJT 推進の寄与度合いについて、数値で明らかとなった。

このことは、言い換えると、介護キャリア段位制度といった全国共通の介護技術評価指標によるデータが蓄積され、そのデータを分析・活用することで、既に介護事業所における介護技術向上の指標であり KPI といった数値目標、いわゆる介護技術向上のみえる化が可能となっているということである。

例えば介護キャリア段位制度に取り組み、評価と OJT が一体的に実施されている事業所を目標水準として、介護職員として 1 年経過した職員について、「基本介護技術」については介護キャリア段位制度の評価指標に基づき、介護技術の定着度合いを評価し、所属する職員のうち 8 割の職員について介護技術定着を目指す、あるいは「状況の変化に応じた対応」や「感染予防・衛生管理の対応」について、7 割の職員について介護技術定着を目指すといったことが可能となる。

また、介護事業所における OJT の実施状況があまり芳しくない、3 年目以降の介護職員について、例えば介護職員としての経験年数 5 年の介護職員を対象に介護技術の評価を行い、「状況の変化に応じた対応」が 8 割の職員についてできているか、「介護過程の展開」について 7 割の介護職員ができているか、「地域包括ケアシステムの対応」については 5 割職員についてできているかなど、介護事業所として介護職員の介護技術における評価、事業所全体として介護技術の習得度合いを確認し、全国水準より上回っているのか、下回っているのかを確認し、下回っているものを重点的に OJT の実施をしていく、そうしたシステムを構築することが重要であると考えられる。

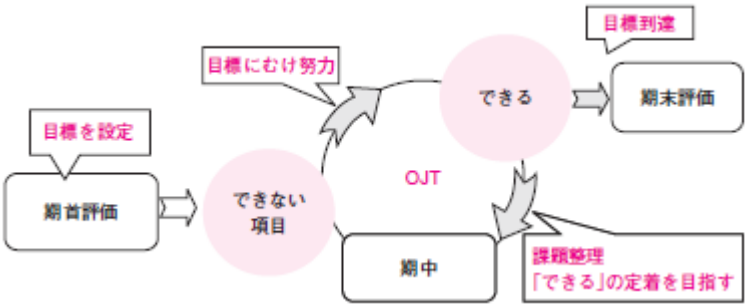
このことは OJT 項目のみえる化につながり、より効率的・効果的 OJT の実施に寄与するものであり、3 年経過後には介護技術向上に明らかな効果を得ることができる、数値で明らかにすることができる、ともいえる。

キャリアパスにおける事業所評価についてはどちらというと抽象的な努力目標に傾倒している。これを具体的な数値目標、KPI を設定し、その数値をもって精緻に事業所評価を行っていくことが、今後、介護事業所における介護職員の質の向上をはかる上では必須である、と結論づける。

４．期末評価票データ分析結果

（１）期末評価票データの分析

介護キャリア段位制度における期首評価については、介護技術を客観的に評価するアセッサー（評価者）が、レベル認定を目指す介護職員に対して、日頃のケアの状況を振り返りながら、介護技術評価項目に基づく「○（できる）」「×（できていない）」評価を、OJT 前に実施することとなっている。この期首評価結果に基づき、OJT 実施計画を立て「できていない」介護技術を中心に、ある一定期間において「できる」ようになるよう OJT を実施し、一定期間経過後、介護技術の定着がはかられたかの確認である期末評価を行う、そうした評価と OJT を一体化した仕組みを介護キャリア段位では構築しているところである。



介護キャリア段位制度における　評価　⇒　できていない　⇒　できる育成のサイクル

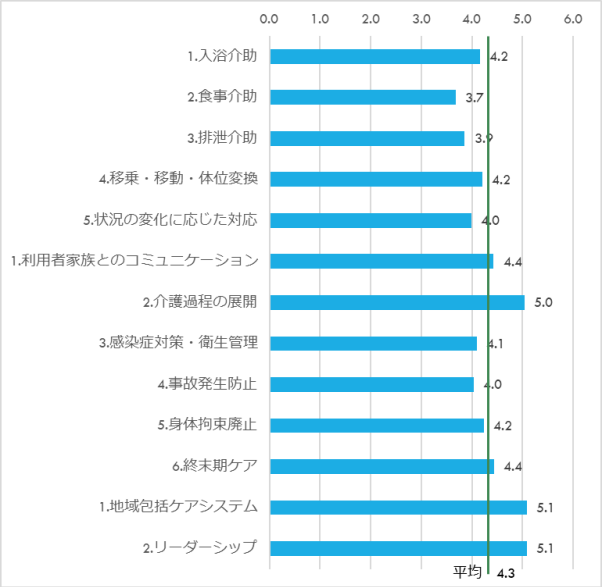
また、介護キャリア段位制度における評価データについては、この「期首評価」で「できていない」と評価された介護技術項目を、介護現場において OJT を実施し「期末評価」にて「できる」となった介護技術項目ごとのある一定期間の評価データが蓄積されており、そのデータの一部である評価日に着目し、評価開始日を OJT の開始日、期末評価にて「できる」と評価した日を OJT 終了日とすることで､介護技術項目それぞれの OJT 実施期間を算出し、介護技術項目の平均 OJT 実施期間並びに介護事業所におけるモデル的 OJT 期間等について分析を行った。

介護キャリア段位制度における介護技術評価項目の中項目単位での「×（できていない）」⇒「○（できる）」となった延べ人数、並びに平均 OJT 実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなった。

（n＝4, 386）

評価項目		×⇒○	平均
大項目	中項目	人数	月数
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1,595	4.2
	2.食事介助	1,377	3.7
	3.排泄介助	1,152	3.9
	4.移乗・移動・体位変換	2,644	4.2
	5.状況の変化に応じた対応	1,687	4.0
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1,034	4.4
	2.介護過程の展開	1,028	5.0
	3.感染症対策・衛生管理	812	4.1
	4.事故発生防止	862	4.0
	5.身体拘束廃止	301	4.2
	6.終末期ケア	538	4.4
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	810	5.1
	2.リーダーシップ	248	5.1

（単位：人）（単位：カ月）



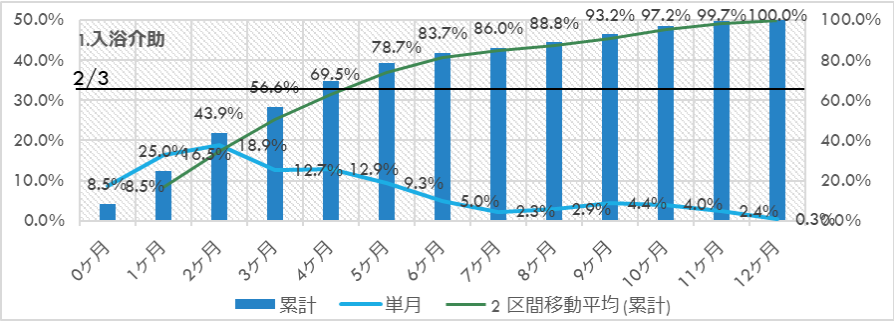
評価項目全体においては平均 4.3 カ月の OJT 実施期間となり、基本介護技術については平均 4.0 カ月、利用者視点での介護については平均 4.4 カ月、地域包括ケアシステム＆リーダーシップについては 5.1 カ月の OJT 実施期間となった。ほとんどの介護技術項目について概ね 3 カ月から 4 カ月の OJT 実施期間となっているが、介護過程の展開、地域包括ケアシステム、リーダーシップについては 5 カ月以上の OJT 実施期間を要しており、これらの項目については OJT ツールや OJT プログラムなど、ある程度体制を整備した上で OJT を実施しないと、長期の OJT 期間を要することとなり、結果として全体的な OJT 実施完了に行きつかない要因となりえることに留意が必要といえる。

なお、中項目単位での OJT 実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

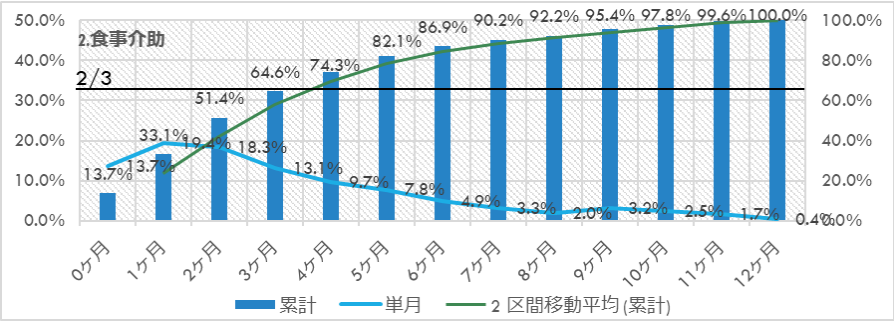
評価項目		OJT期間												
大項目	中項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	8.5%	16.5%	18.9%	12.7%	12.9%	9.3%	5.0%	2.3%	2.9%	4.4%	4.0%	2.4%	0.3%
	2.食事介助	13.7%	19.4%	18.3%	13.1%	9.7%	7.8%	4.9%	3.3%	2.0%	3.2%	2.5%	1.7%	0.4%
	3.排泄介助	11.8%	18.8%	19.0%	12.7%	10.2%	8.1%	3.6%	2.7%	2.8%	4.0%	3.6%	1.9%	0.8%
	4.移乗・移動・体位変換	9.1%	17.1%	19.5%	11.6%	10.7%	10.0%	4.1%	3.5%	3.2%	4.4%	3.5%	3.1%	0.3%
	5.状況の変化に応じた対応	11.9%	15.7%	17.2%	14.5%	10.7%	9.5%	4.7%	2.8%	3.8%	3.9%	2.3%	2.8%	0.2%
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	10.4%	14.2%	15.7%	13.6%	11.0%	10.7%	5.4%	4.8%	3.4%	4.3%	3.8%	2.4%	0.2%
	2.介護過程の展開	5.5%	10.8%	11.6%	12.5%	13.5%	15.0%	6.7%	5.0%	5.4%	5.2%	5.4%	3.0%	0.5%
	3.感染症対策・衛生管理	14.2%	15.0%	16.3%	12.3%	8.7%	11.6%	5.0%	3.2%	3.4%	3.8%	2.7%	3.4%	0.2%
	4.事故発生防止	11.8%	17.3%	15.9%	13.5%	10.1%	11.1%	4.6%	4.2%	3.7%	4.8%	1.6%	1.2%	0.2%
	5.身体拘束廃止	8.3%	11.0%	15.9%	12.6%	13.3%	15.9%	5.0%	5.6%	4.0%	4.7%	1.7%	2.0%	0.0%
	6.終末期ケア	10.6%	9.9%	15.2%	12.6%	13.6%	16.2%	5.6%	3.3%	2.8%	3.5%	3.3%	3.0%	0.4%
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	7.2%	9.9%	12.1%	14.1%	11.2%	16.0%	4.9%	3.0%	4.6%	5.6%	5.6%	5.8%	0.1%
	2.リーダーシップ	5.6%	9.3%	14.9%	14.1%	12.1%	14.9%	4.8%	2.8%	4.8%	6.0%	5.6%	4.0%	0.8%

■ 基本介護技術

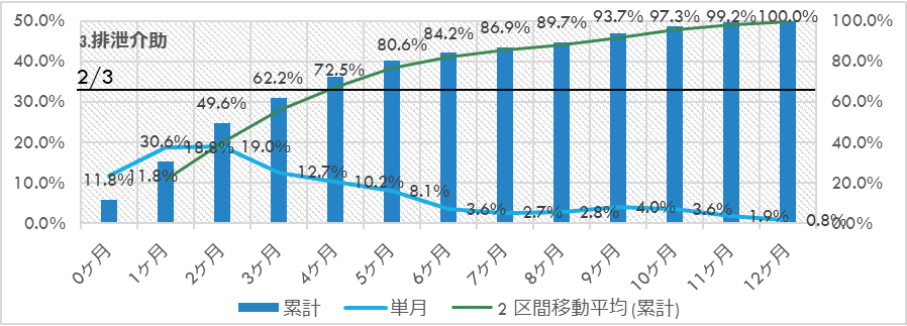
＜入浴介助＞



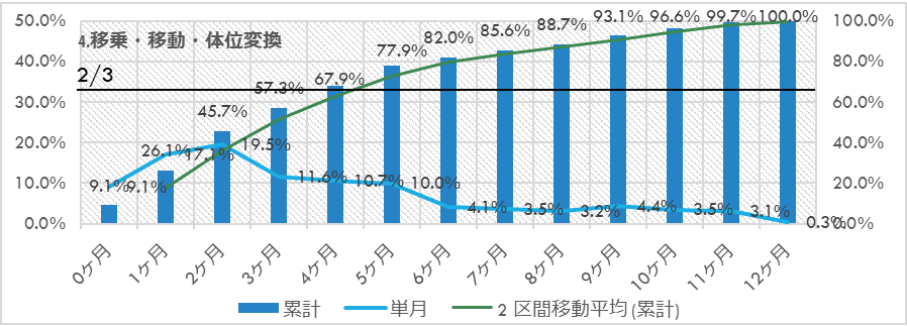
＜食事介助＞



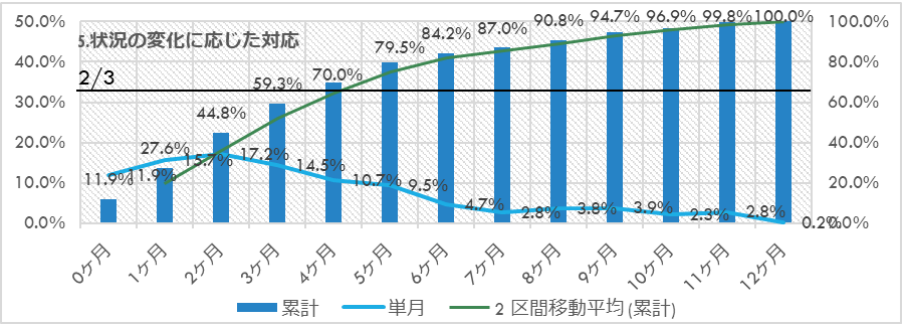
＜排泄介助＞



＜移乗・移動・体位変換＞



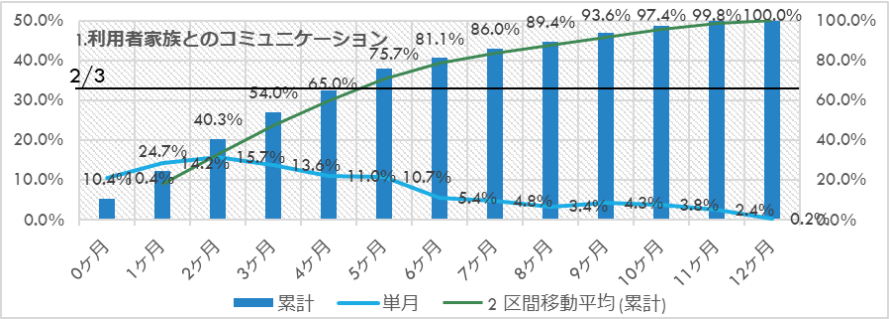
＜状況の変化に応じた対応＞



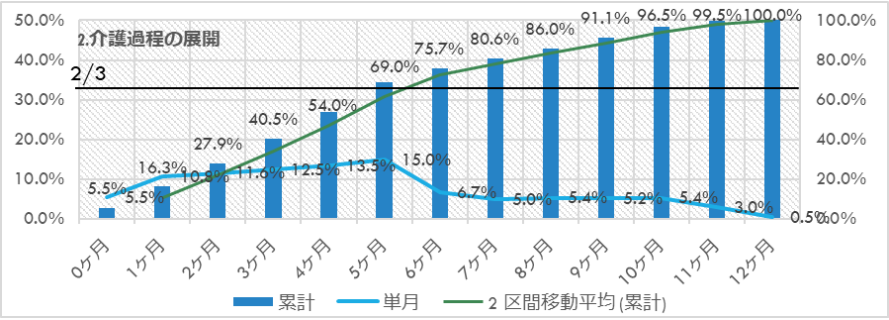
基本介護技術に関する OJT について、全般的に概ね 1 カ月ないし、2 カ月程度期間をかけて実施している傾向にあり、3 人のうち 2 人ができる割合、2/3 ラインでみてみると、3 カ月から 4 カ月の OJT 実施で達成傾向にあるといえる。

■ 利用者視点での評価（介護）

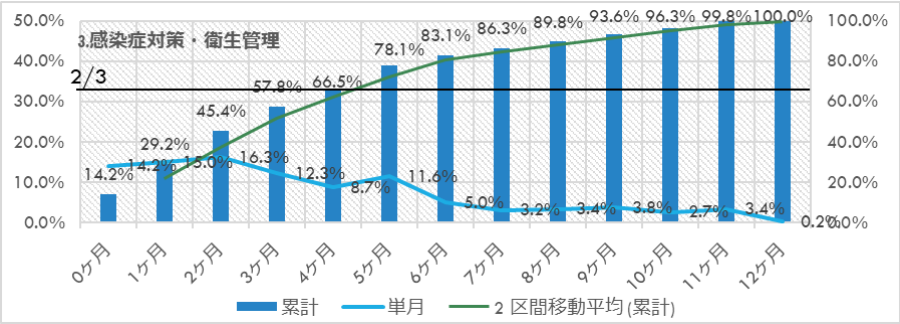
＜利用者家族とのコミュニケーション＞



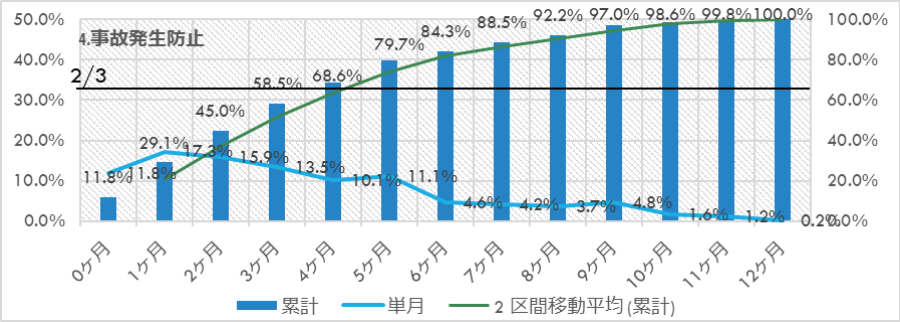
＜介護過程の展開＞



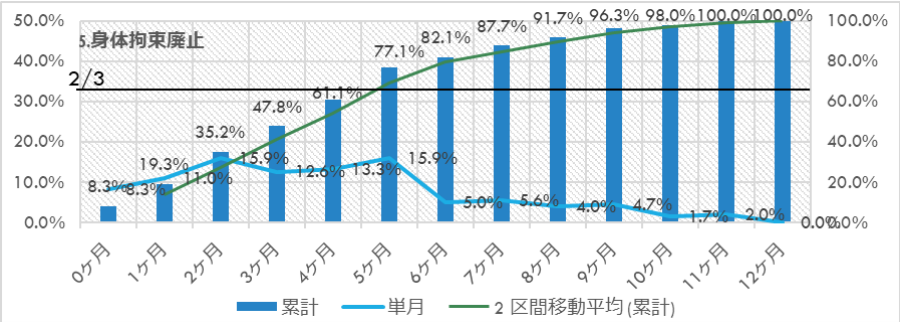
＜感染症対策･衛生管理＞



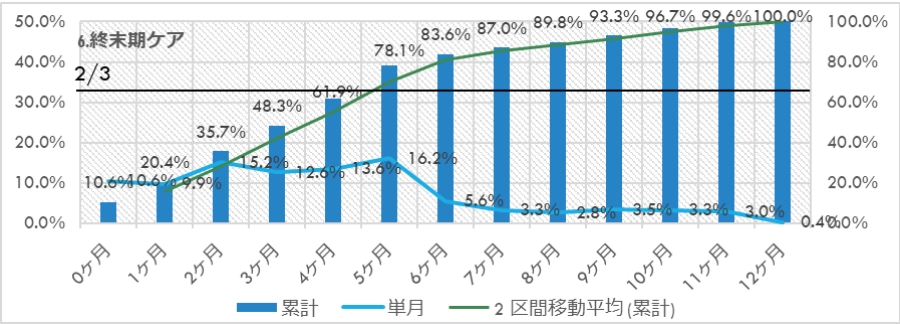
＜事故発生防止＞



＜身体拘束廃止＞



＜終末期ケア＞

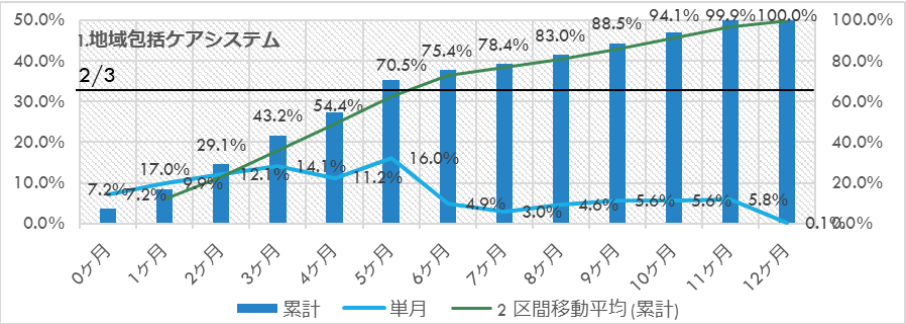


利用者視点での評価（介護）に関する OJT のうち、感染症対策・衛生管理及び事故発生防止については 2 カ月～3 カ月程度期間をかけて実施している傾向にあり、3 人のうち 2 人ができる割合、2/3 ラインでみてみると、3 カ月から 4 カ月の OJT 実施で達成傾向にあるといえる。これは先での基本介護技術と同じ傾向にあり、基本介護技術を OJT で学ぶと同時にこれらの項目を OJT で学び身につけているといえる。言い換えると、介護現場では、基本介護技術を学ぶと同時に、感染症対策・衛生管理及び事故発生防止について OJT で学ぶ必要がある、といえる。

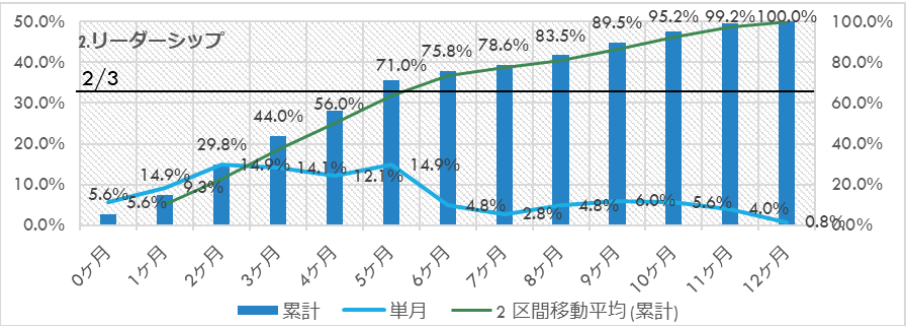
また、利用者家族とのコミュニケーション、介護過程の展開、身体拘束廃止、終末期ケアについては 2 カ月から 5 カ月程度期間をかけて OJT を実施している傾向にあり、3 人のうち 2 人ができる割合、2/3 ラインでみてみると 5 カ月でようやく到達できている。特に介護過程の展開に関する OJT については 5 カ月かけている割合最も多く、約半年間をかけて OJT を実施し、身につけている、あるいは身につける必要があるといえる。

■ 地域包括ケアシステム＆リーダーシップ

＜地域包括ケアシステム＞



＜リーダーシップ＞



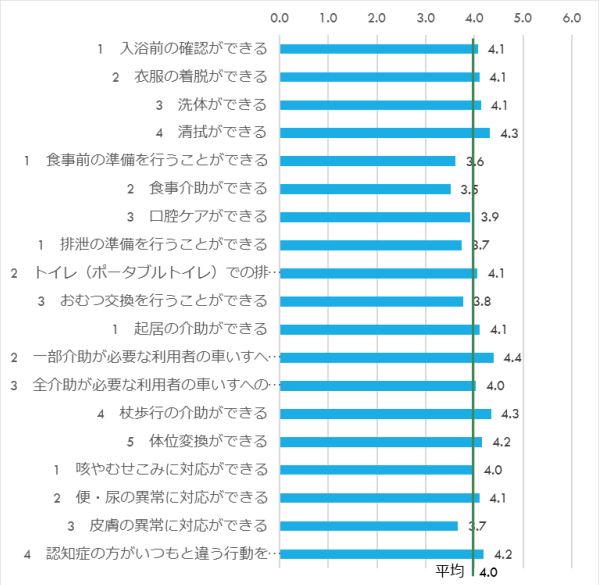
地域包括ケアシステム＆リーダーシップに関する OJT については 2 カ月から 5 カ月の実施期間、特に 5 カ月実施している割合が高くなっている。また、6 カ月までに OJT を通じて身につく割合の伸びが低く、6 カ月を超えて 11 カ月程度まで OJT を実施している割合も一定数あることから、本評価項目を OJT で学ぶことについては、半年で学び身につけることができる体制を構築しないと、半年を超えて 1 年程度かかってしまう可能性があるといえ、OJT の効果的・効率的実施について、ツールであり教育の材料といったものが必要であると考えられる。

なお、介護キャリア段位制度における介護技術評価項目の小項目単位での「×（できていない）」⇒「○（できる）」となった延べ人数、並びに平均 OJT 実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなっている。

■ 基本介護技術

（n＝4, 386）　　（単位：カ月）

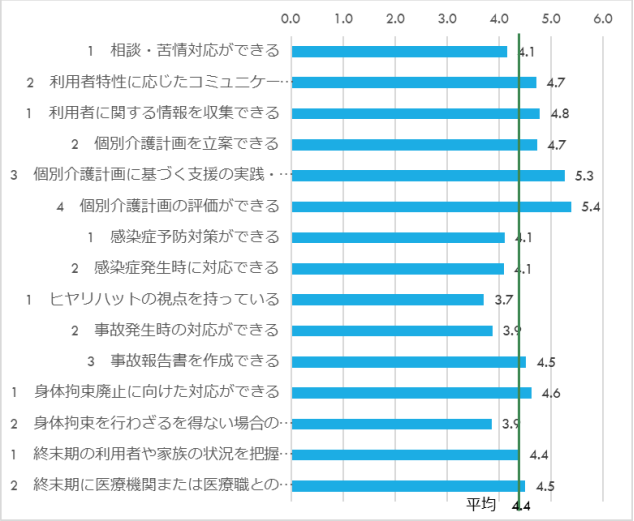
評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1　入浴前の確認ができる	333	4.1
		2　衣服の着脱ができる	352	4.1
		3　洗体ができる	431	4.1
		4　清拭ができる	479	4.3
	2.食事介助	1　食事前の準備を行うことができる	361	3.6
		2　食事介助ができる	518	3.5
		3　口腔ケアができる	498	3.9
	3.排泄介助	1　排泄の準備を行うことができる	241	3.7
		2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	479	4.1
		3　おむつ交換を行うことができる	432	3.8
	4.移乗・移動・体位変換	1　起居の介助ができる	377	4.1
		2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	572	4.4
		3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	713	4.0
		4　杖歩行の介助ができる	465	4.3
		5　体位変換ができる	517	4.2
	5.状況の変化に応じた対応	1　咳やむせこみに対応ができる	273	4.0
		2　便・尿の異常に対応ができる	372	4.1
		3　皮膚の異常に対応ができる	375	3.7
		4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	667	4.2



（単位：人）（単位：カ月）

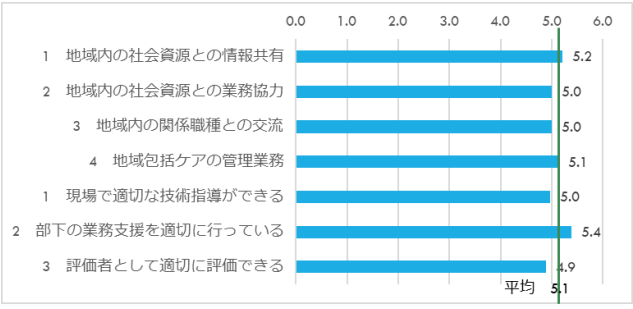
■ 利用者視点での評価（介護）

評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1　相談・苦情対応ができる	705	4.1
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	329	4.7
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	115	4.8
		2　個別介護計画を立案できる	342	4.7
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	260	5.3
		4　個別介護計画の評価ができる	311	5.4
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	366	4.1
		2　感染症発生時に対応できる	446	4.1
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	288	3.7
		2　事故発生時の対応ができる	405	3.9
		3　事故報告書を作成できる	169	4.5
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	221	4.6
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	80	3.9
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	241	4.4
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	297	4.5



■ 地域包括ケアシステム＆リーダーシップ

評価項目			×⇒○ 人数	平均 月数
大項目	中項目	小項目		
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	158	5.2
		2　地域内の社会資源との業務協力	194	5.0
		3　地域内の関係職種との交流	181	5.0
		4　地域包括ケアの管理業務	277	5.1
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	67	5.0
		2　部下の業務支援を適切に行っている	76	5.4
		3　評価者として適切に評価できる	105	4.9



基本介護技術については概ね 4 カ月程度 OJT 実施期間となっており、特に大きな差異はみられていないが、清拭、一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗、杖歩行介助については他の介護項目と比較して若干長い傾向がみられた。

利用者視点での評価（介護）については、特に介護過程の展開、その中で個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリング、個別介護計画の評価の関する OJT 実施期間が長くなっている。これは個別介護計画立案後、ある一定程度期間経過後、概ね 3 カ月もしくは 6 カ月にてモニタリングであり評価を行うとこから、この期間が他と比較して長くなることは必然であり、介護過程の展開としての OJT が介護現場においてしっかり行われているあかしでもある、ということができる。

地域包括ケアシステム＆リーダーシップについては概ね 5 カ月程度 OJT 実施期間となっており特に大きな差異はみられていない。

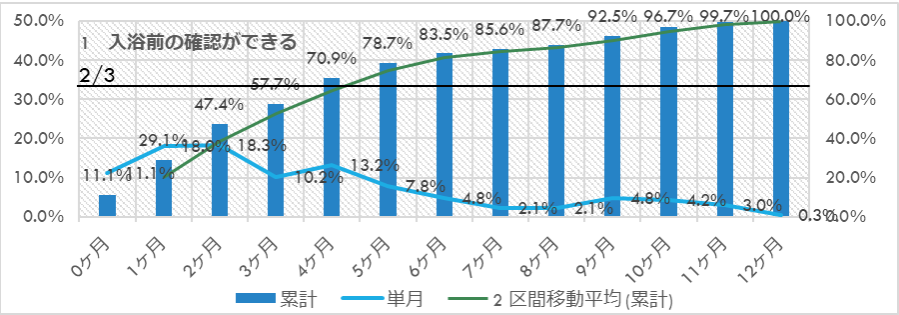
なお、小項目単位での OJT 実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

■ 基本介護技術

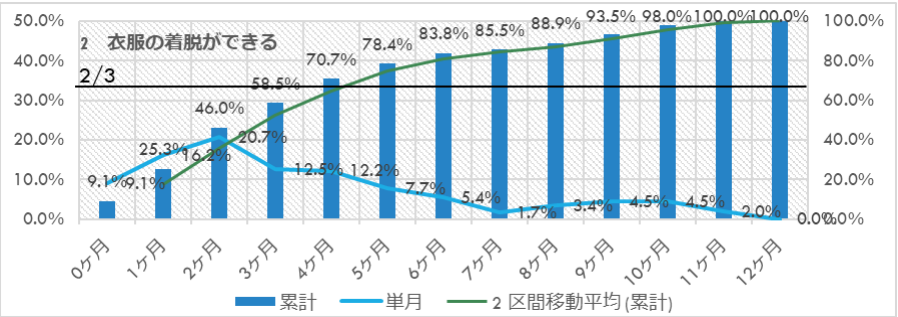
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	12ヶ月
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	1 入浴前の確認ができる	11.1%	18.0%	18.3%	10.2%	13.2%	7.8%	4.8%	2.1%	2.1%	4.8%	4.2%	3.0%	0.3%
		2 衣服の着脱ができる	9.1%	16.2%	20.7%	12.5%	12.2%	7.7%	5.4%	1.7%	3.4%	4.5%	4.5%	2.0%	0.0%
		3 洗体ができる	7.7%	17.9%	18.6%	14.2%	11.6%	8.4%	5.3%	2.3%	3.5%	5.1%	3.9%	1.2%	0.5%
		4 清拭ができる	7.1%	14.4%	18.4%	13.2%	14.2%	12.3%	4.4%	2.7%	2.5%	3.3%	3.5%	3.5%	0.4%
	2.食事介助	1 食事前の準備を行うことができる	15.8%	17.7%	17.2%	13.9%	10.5%	7.5%	6.9%	2.8%	1.1%	1.9%	1.9%	2.2%	0.6%
		2 食事介助ができる	14.3%	21.2%	19.7%	12.7%	7.7%	6.9%	4.6%	3.7%	2.3%	3.1%	2.3%	1.0%	0.4%
		3 口腔ケアができる	11.6%	18.7%	17.7%	13.1%	11.2%	8.8%	3.6%	3.2%	2.2%	4.2%	3.0%	2.2%	0.4%
	3.排泄介助	1 排泄の準備を行うことができる	15.8%	19.1%	16.6%	12.4%	10.0%	7.5%	2.5%	3.3%	2.5%	5.0%	2.9%	1.7%	0.8%
		2 トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる	10.4%	18.2%	18.2%	14.0%	10.2%	6.9%	4.6%	2.1%	3.5%	4.4%	4.6%	1.9%	1.0%
		3 おむつ交換を行うことができる	11.1%	19.2%	21.3%	11.3%	10.4%	9.7%	3.2%	3.0%	2.1%	3.0%	3.0%	2.1%	0.5%
	4.移乗・移動・体位変換	1 起居の介助ができる	9.3%	17.0%	22.3%	10.3%	9.0%	10.6%	4.8%	2.7%	2.7%	5.3%	2.4%	3.7%	0.0%
		2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	8.9%	15.6%	17.7%	11.5%	12.8%	8.9%	4.9%	3.7%	3.8%	4.5%	4.0%	3.1%	0.5%
		3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	10.4%	19.2%	18.9%	11.8%	9.8%	9.4%	3.6%	3.8%	2.1%	3.9%	3.9%	2.7%	0.4%
		4 杖歩行の介助ができる	9.2%	16.6%	17.0%	11.8%	11.0%	10.3%	3.9%	4.7%	4.7%	3.9%	3.0%	3.4%	0.4%
		5 体位変換ができる	7.2%	16.2%	22.6%	12.2%	10.4%	11.2%	3.7%	2.5%	2.9%	4.6%	3.5%	2.7%	0.2%
	5.状況の変化に応じた対応	1 咳やむせこみに対応ができる	12.1%	16.8%	15.8%	14.7%	12.1%	9.5%	3.3%	3.7%	2.9%	3.7%	2.6%	2.9%	0.0%
		2 便・尿の異常に対応ができる	12.9%	12.9%	19.4%	14.5%	9.1%	8.6%	4.6%	3.8%	6.2%	2.2%	3.0%	3.0%	0.0%
		3 皮膚の異常に対応ができる	17.1%	16.8%	16.3%	14.4%	8.3%	8.5%	6.4%	1.3%	2.9%	2.4%	2.9%	2.4%	0.3%
		4 認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる	8.2%	16.2%	17.2%	14.4%	12.4%	10.5%	4.5%	2.7%	3.3%	5.7%	1.3%	3.0%	0.4%

＜入浴介助＞

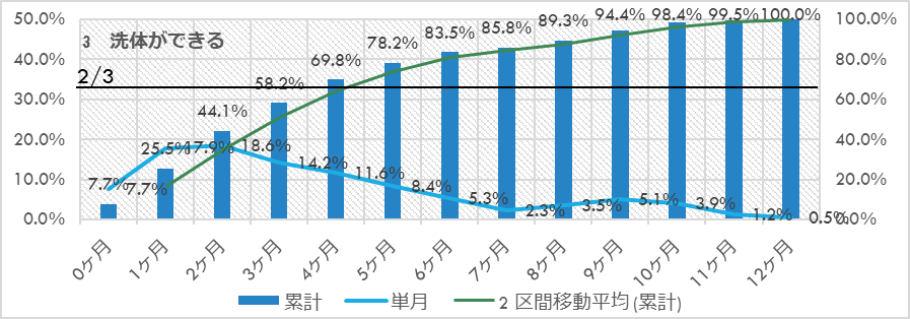
1　入浴前の確認ができる



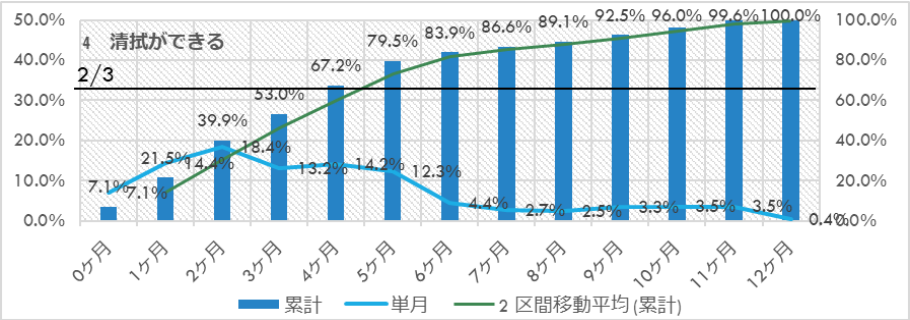
2　衣服の着脱ができる



3　洗体ができる

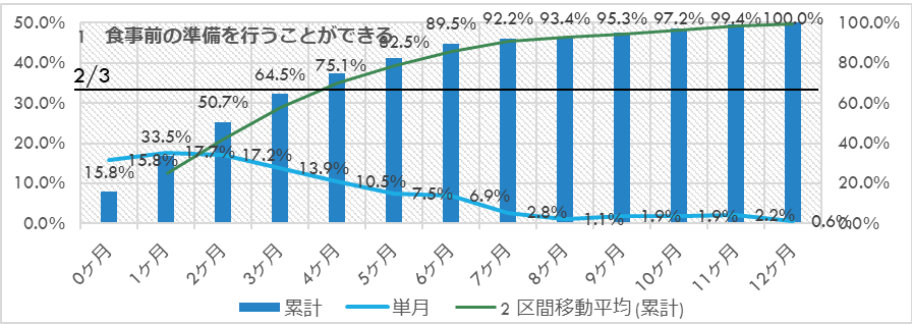


4　清拭ができる

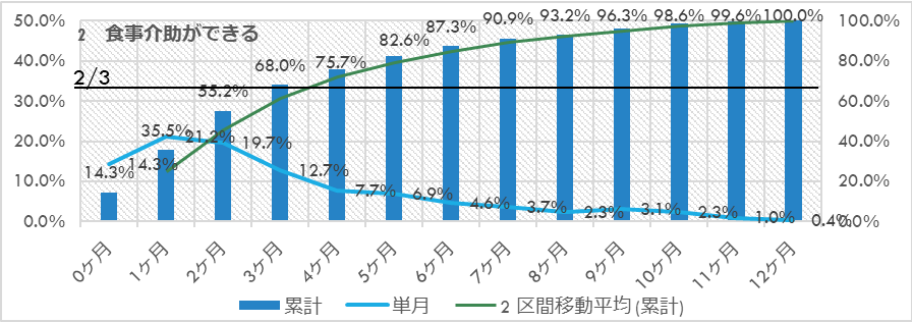


＜食事介助＞

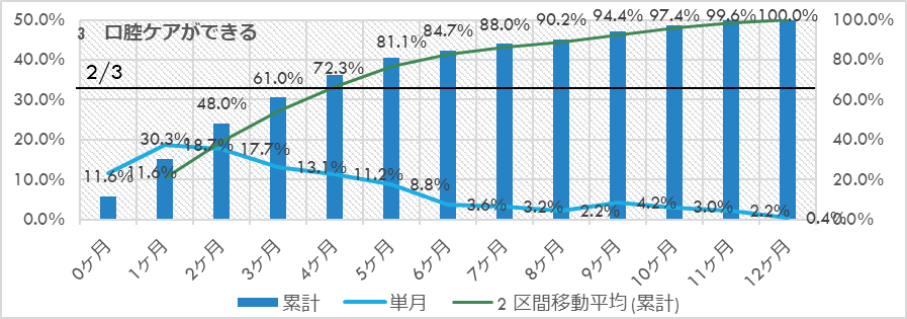
1　食事前の準備を行うことができる



2　食事介助ができる

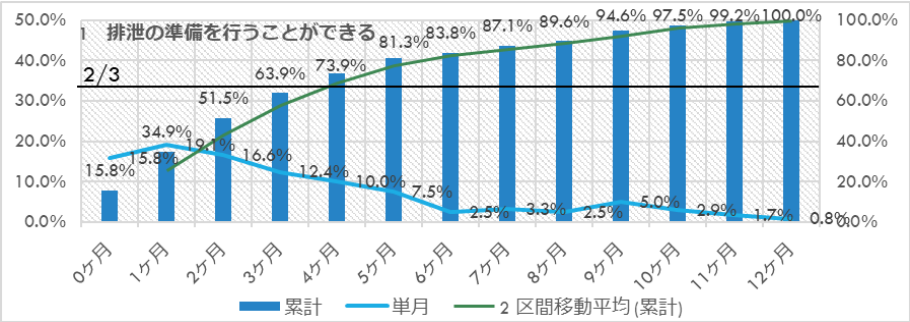


3　口腔ケアができる

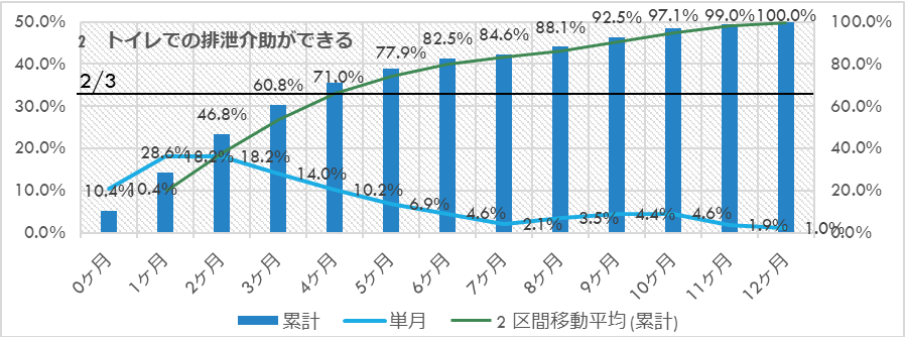


＜排泄介助＞

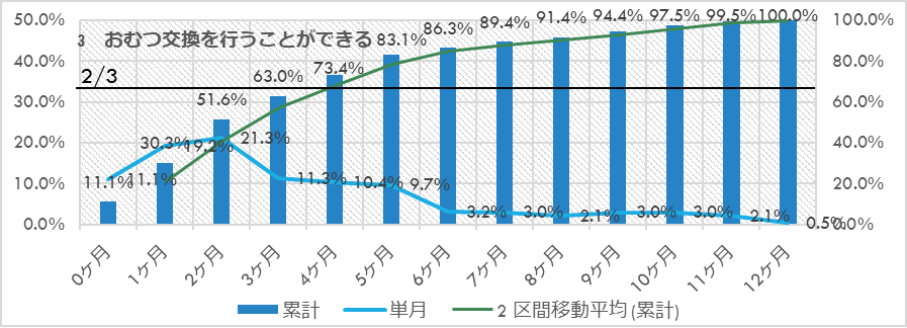
1　排泄の準備を行うことができる



2　トイレ（ポータブルトイレ）での排泄介助ができる

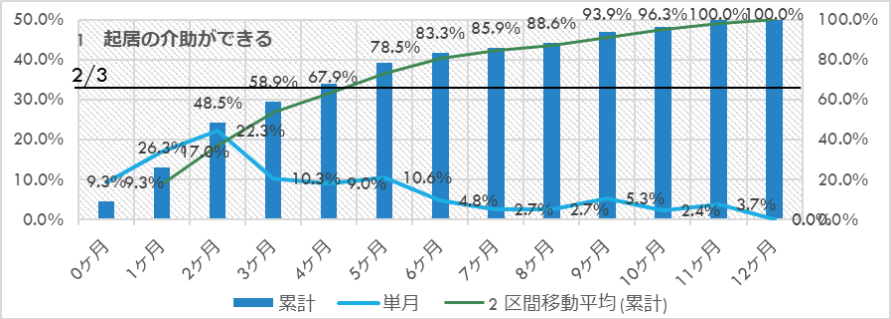


3　おむつ交換を行うことができる

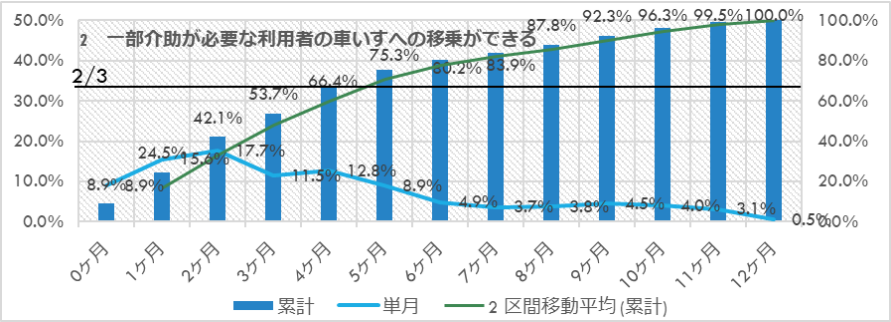


＜移乗・移動・体位変換＞

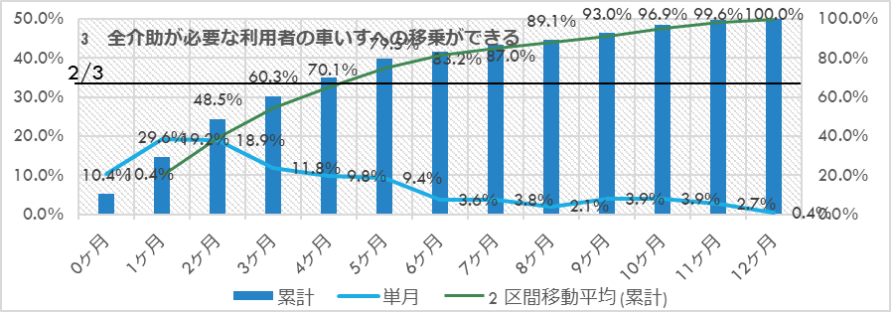
1　起居の介助ができる



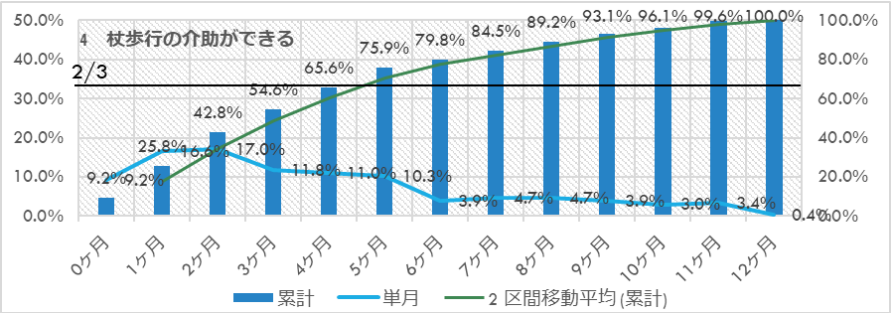
2　一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる



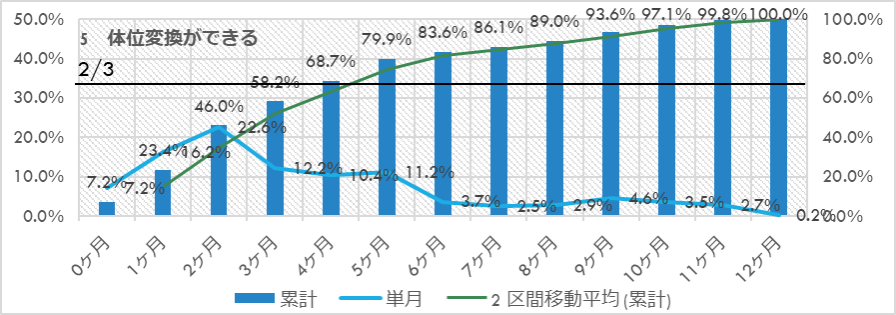
3　全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる



4　杖歩行の介助ができる

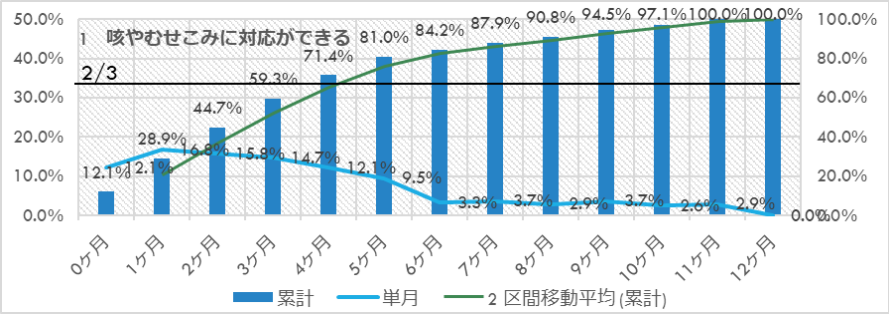


5　体位変換ができる

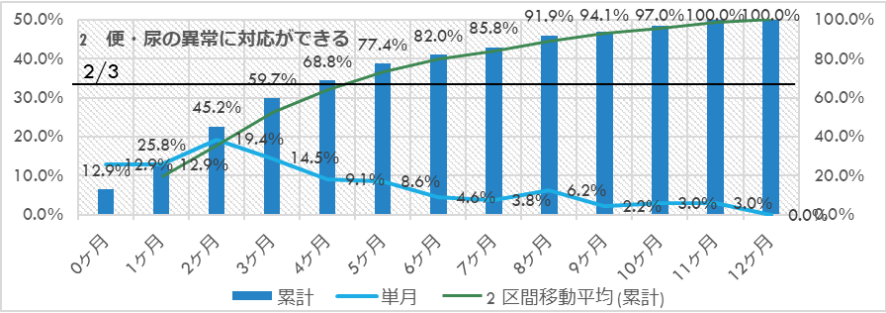


＜状況の変化に応じた対応＞

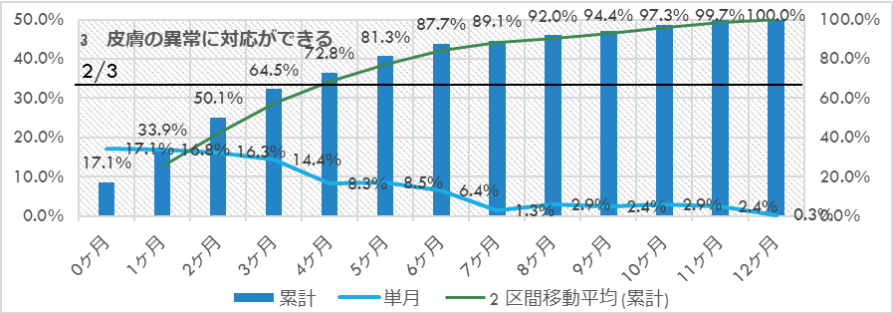
1　咳やむせこみに対応ができる



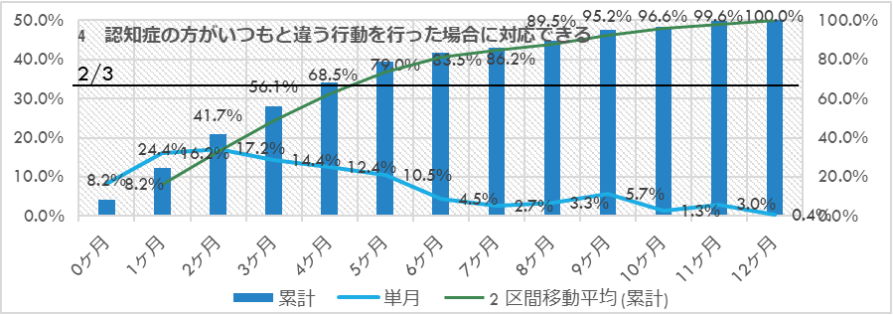
2　便･尿の異常に対応ができる



3　皮膚の異常に対応ができる



4　認知症の方がいつもと違う行動を行った場合に対応できる

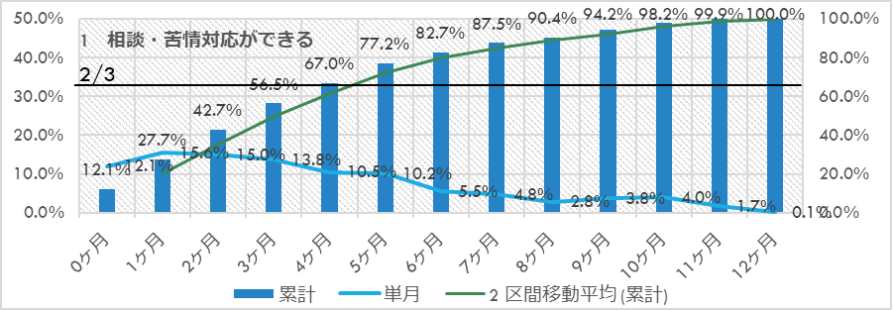


■　利用者視点での評価（介護）

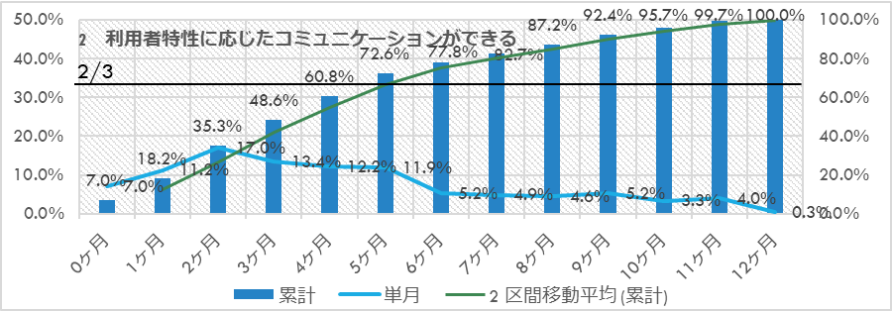
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ケ月	1ケ月	2ケ月	3ケ月	4ケ月	5ケ月	6ケ月	7ケ月	8ケ月	9ケ月	10ケ月	11ケ月	12ケ月
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	1　相談・苦情対応ができる	12.1%	15.6%	15.0%	13.8%	10.5%	10.2%	5.5%	4.8%	2.8%	3.8%	4.0%	1.7%	0.1%
		2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる	7.0%	11.2%	17.0%	13.4%	12.2%	11.9%	5.2%	4.9%	4.6%	5.2%	3.3%	4.0%	0.3%
	2.介護過程の展開	1　利用者に関する情報を収集できる	7.0%	10.4%	13.0%	13.0%	13.9%	17.4%	3.5%	6.1%	3.5%	2.6%	7.0%	1.7%	0.9%
		2　個別介護計画を立案できる	7.3%	13.5%	12.6%	11.7%	12.6%	14.6%	6.1%	5.0%	5.3%	4.7%	4.4%	2.0%	0.3%
		3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	5.0%	9.6%	10.0%	13.1%	13.8%	14.6%	8.5%	4.2%	5.8%	6.5%	5.8%	2.3%	0.8%
		4　個別介護計画の評価ができる	3.5%	9.0%	11.3%	12.9%	14.1%	14.8%	7.1%	5.1%	5.8%	5.5%	5.5%	5.1%	0.3%
	3.感染症対策・衛生管理	1　感染症予防対策ができる	12.6%	13.7%	17.2%	13.7%	10.1%	12.6%	3.8%	3.3%	4.4%	4.1%	1.6%	2.7%	0.3%
		2　感染症発生時に対応できる	15.5%	16.1%	15.5%	11.2%	7.6%	10.8%	6.1%	3.1%	2.7%	3.6%	3.6%	4.0%	0.2%
	4.事故発生防止	1　ヒヤリハットの視点を持っている	10.8%	17.4%	18.1%	16.3%	10.4%	10.1%	5.2%	4.5%	2.8%	2.4%	1.0%	0.7%	0.3%
		2　事故発生時の対応ができる	14.1%	17.5%	16.5%	12.6%	8.9%	9.6%	4.4%	4.2%	3.5%	5.7%	1.2%	1.5%	0.2%
		3　事故報告書を作成できる	8.3%	16.6%	10.7%	10.7%	12.4%	16.6%	4.1%	3.6%	5.9%	6.5%	3.6%	1.2%	0.0%
	5.身体拘束廃止	1　身体拘束廃止に向けた対応ができる	7.2%	11.3%	14.0%	11.3%	14.9%	15.4%	5.4%	5.9%	5.4%	4.1%	2.3%	2.7%	0.0%
		2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	11.3%	10.0%	21.3%	16.3%	8.8%	17.5%	3.8%	5.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	6.終末期ケア	1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる	10.4%	10.8%	16.6%	13.3%	12.4%	14.1%	5.4%	4.6%	2.5%	3.7%	2.9%	2.9%	0.4%
		2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる	10.8%	9.1%	14.1%	12.1%	14.5%	17.8%	5.7%	2.4%	3.0%	3.4%	3.7%	3.0%	0.3%

＜利用者家族とのコミュニケーション＞

1　咳やむせこみに対応ができる

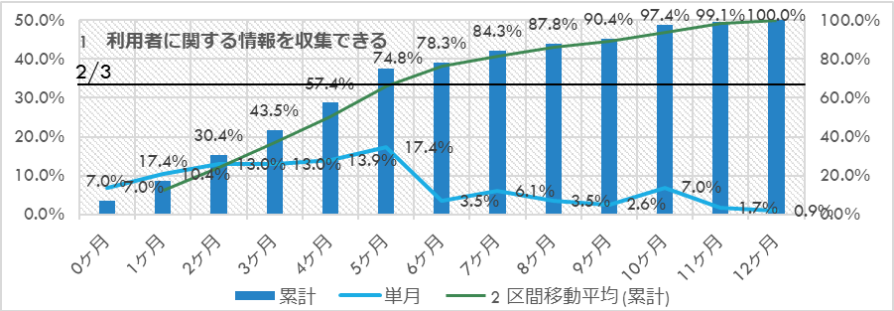


2　利用者特性に応じたコミュニケーションができる

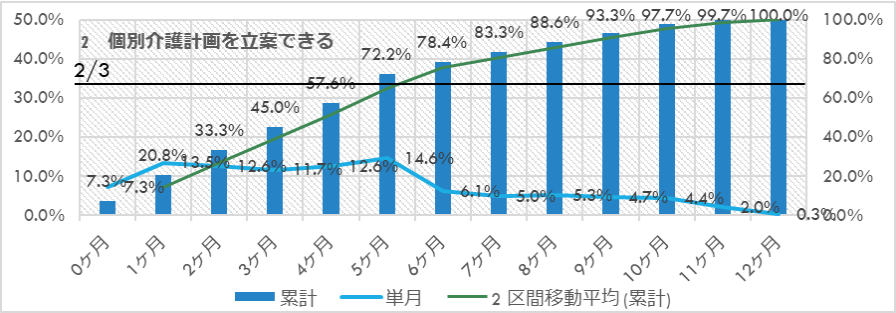


＜介護過程の展開＞

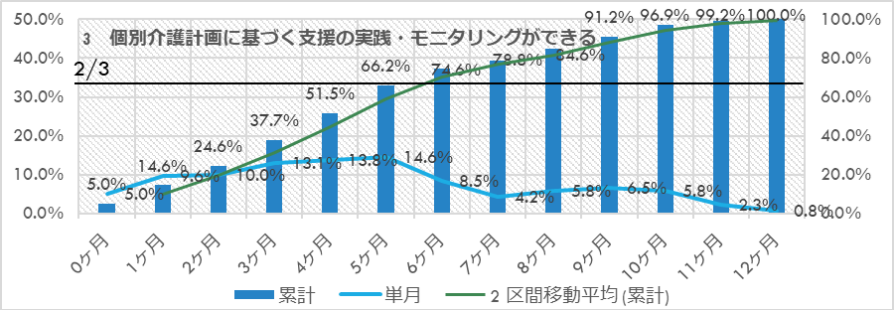
1　利用者に関する情報を収集できる



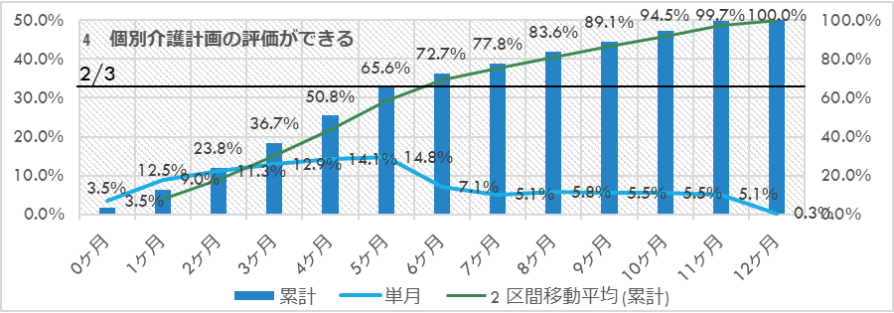
2　個別介護計画を立案できる



3　個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる

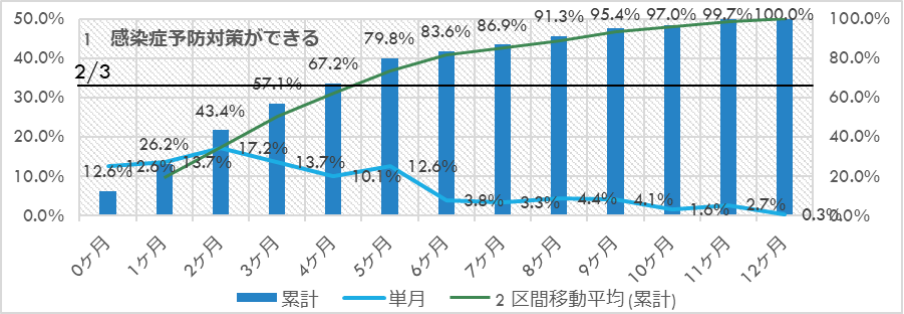


4　個別介護計画の評価ができる

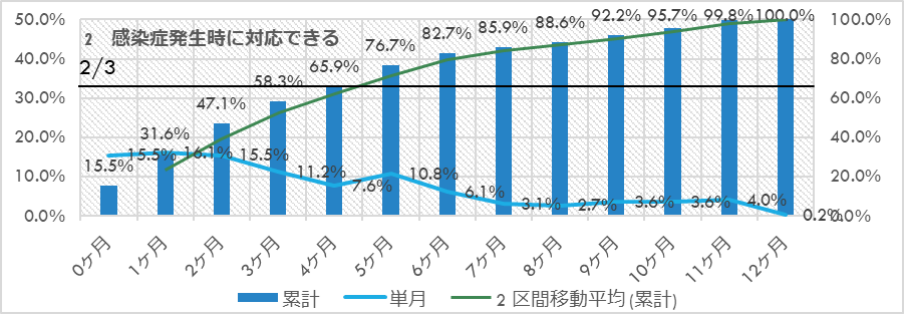


＜感染症対策･衛生管理＞

1　感染症予防対策ができる

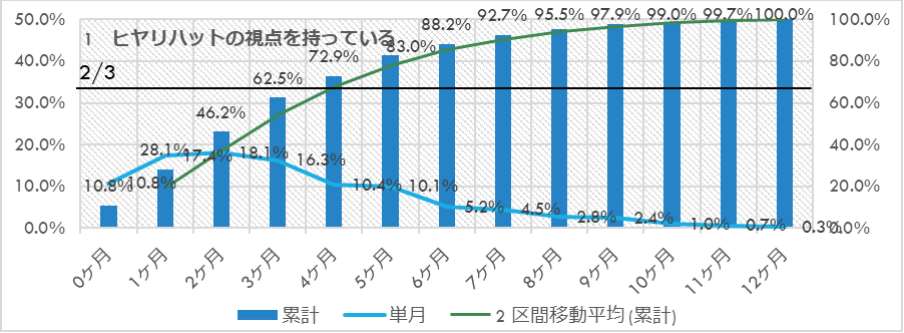


2　感染症発生時に対応できる

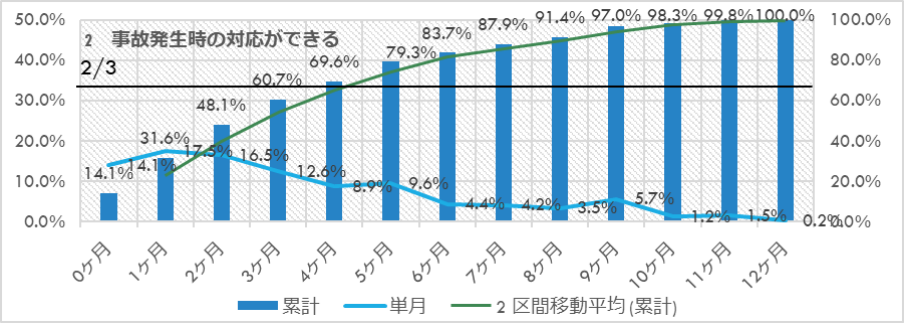


＜事故発生防止＞

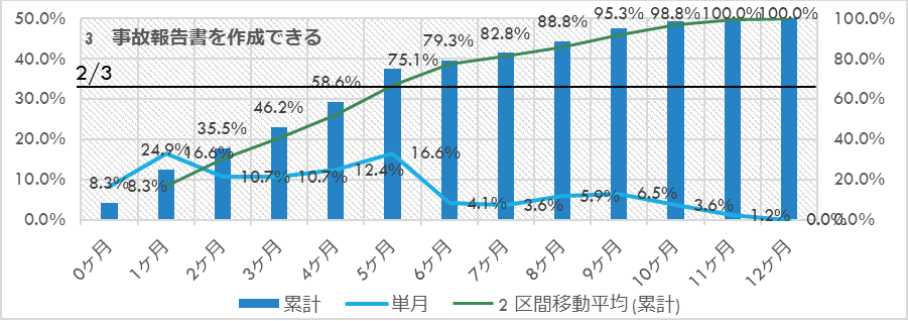
1　ヒヤリハットの視点を持っている



2　事故発生時の対応ができる

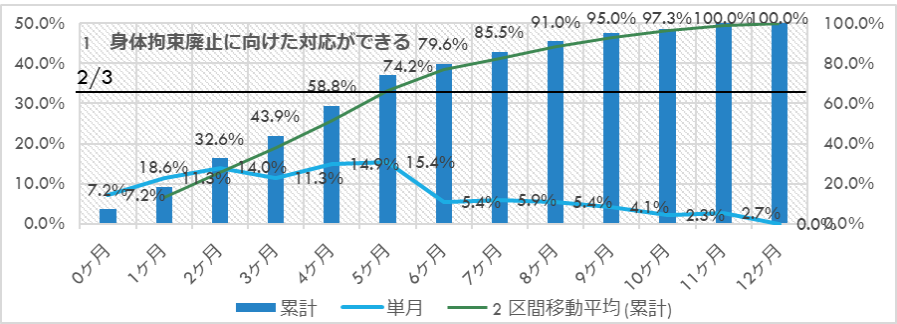


3　事故報告書を作成できる

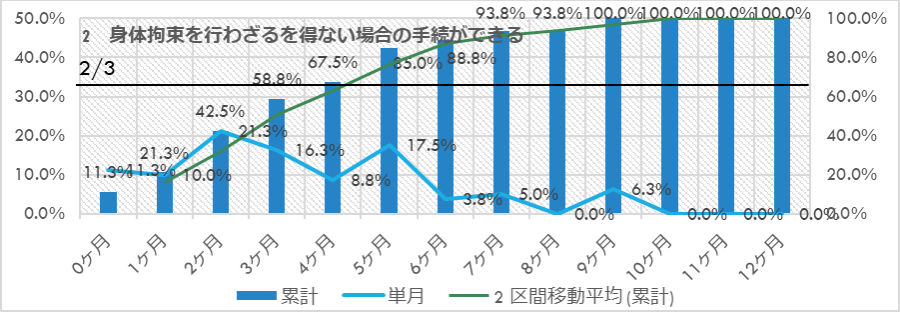


＜身体拘束廃止＞

1　身体拘束廃止にむけた対応ができる

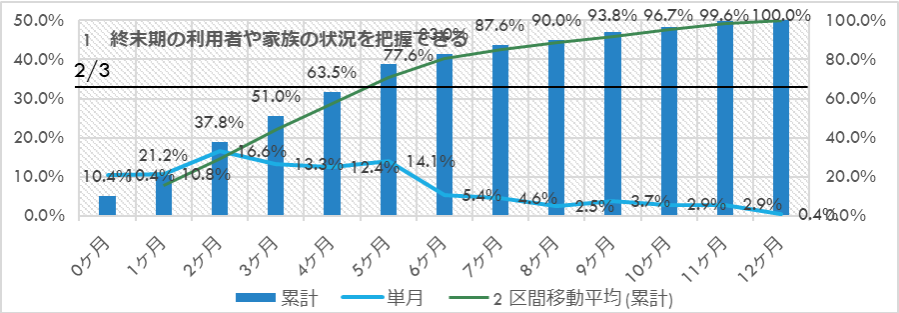


2　身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる

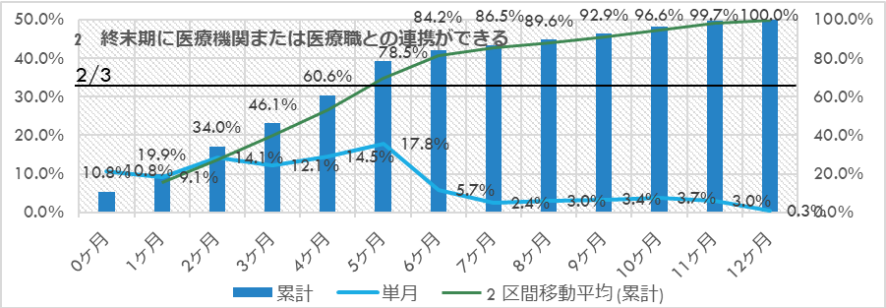


＜終末期ケア＞

1　終末期の利用者や家族の状況を把握できる



2　終末期に医療機関または医療職との連携ができる

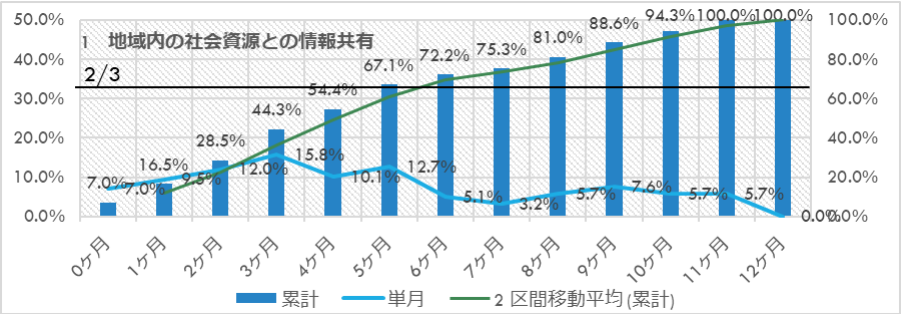


■　地域包括ケアシステム＆リーダーシップ

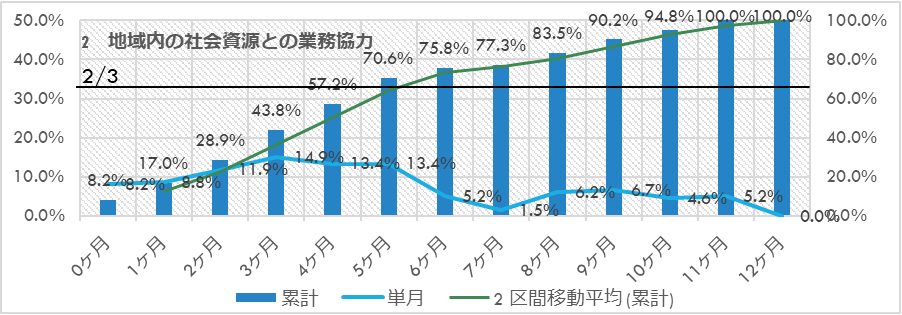
評価項目			OJT期間												
大項目	中項目	小項目	0ケ月	1ケ月	2ケ月	3ケ月	4ケ月	5ケ月	6ケ月	7ケ月	8ケ月	9ケ月	10ケ月	11ケ月	12ケ月
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リーダーシップ	1.地域包括ケアシステム	1　地域内の社会資源との情報共有	7.0%	9.5%	12.0%	15.8%	10.1%	12.7%	5.1%	3.2%	5.7%	7.6%	5.7%	5.7%	0.0%
		2　地域内の社会資源との業務協力	8.2%	8.8%	11.9%	14.9%	13.4%	13.4%	5.2%	1.5%	6.2%	6.7%	4.6%	5.2%	0.0%
		3　地域内の関係職種との交流	6.1%	12.7%	11.6%	14.4%	8.8%	18.8%	3.9%	5.0%	2.8%	3.9%	6.6%	5.5%	0.0%
		4　地域包括ケアの管理業務	7.2%	9.0%	12.6%	12.3%	11.9%	18.1%	5.4%	2.5%	4.0%	4.7%	5.4%	6.5%	0.4%
	2.リーダーシップ	1　現場で適切な技術指導ができる	4.5%	11.9%	11.9%	14.9%	13.4%	16.4%	4.5%	4.5%	3.0%	4.5%	7.5%	3.0%	0.0%
		2　部下の業務支援を適切に行っている	3.9%	9.2%	15.8%	14.5%	10.5%	10.5%	6.6%	1.3%	9.2%	7.9%	3.9%	5.3%	1.3%
		3　評価者として適切に評価できる	7.6%	7.6%	16.2%	13.3%	12.4%	17.1%	3.8%	2.9%	2.9%	5.7%	5.7%	3.8%	1.0%

＜地域包括ケアシステム＞

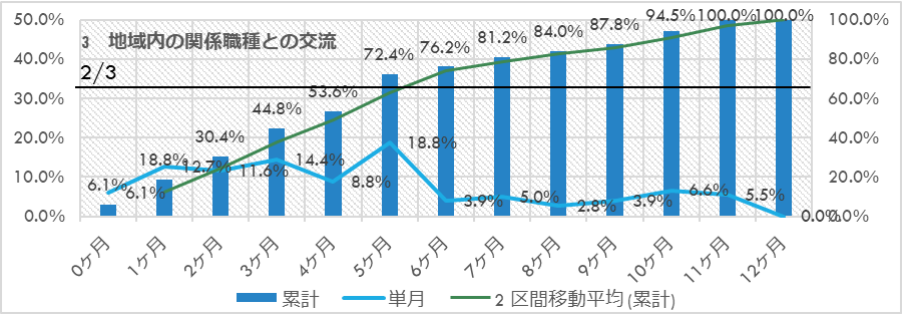
1　地域内の社会資源との情報共有



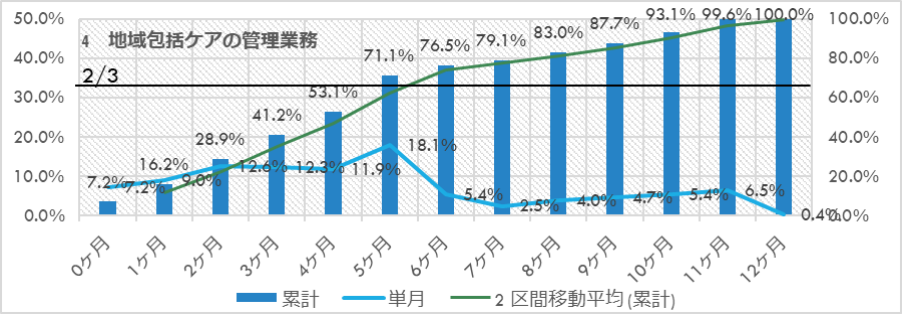
2　地域内の社会資源との業務協力



3　地域内の関係職種との交流

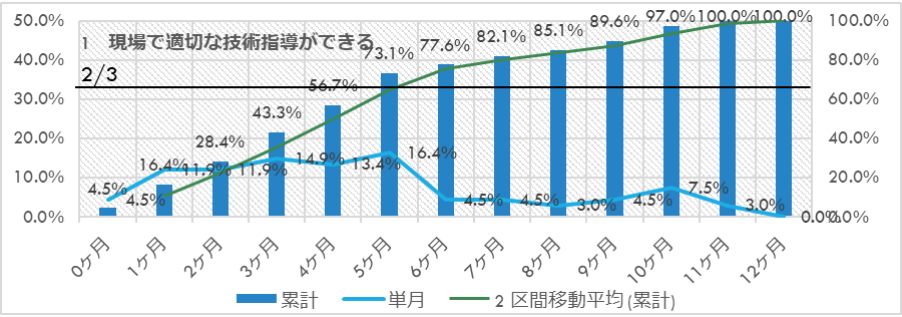


4　地域包括ケアの管理業務

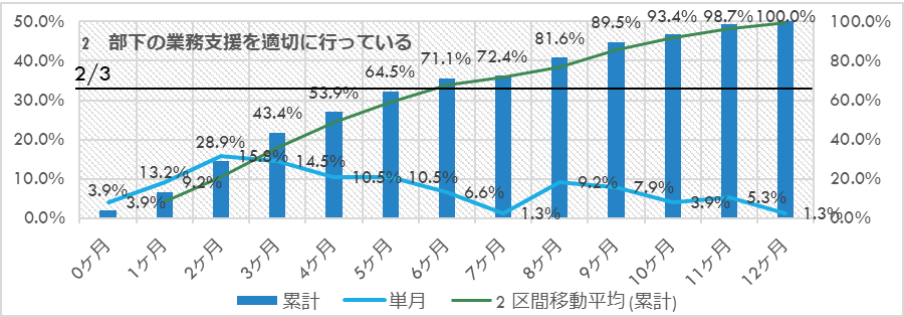


<リーダーシップ>

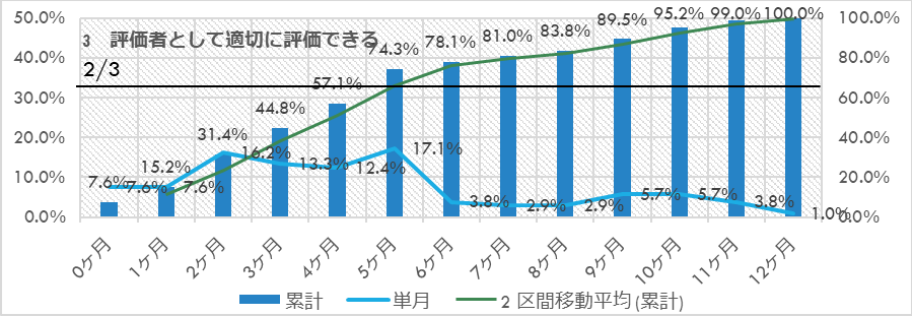
1　現場で適切な技術指導ができる



2　部下の業務支援を適切に行っている

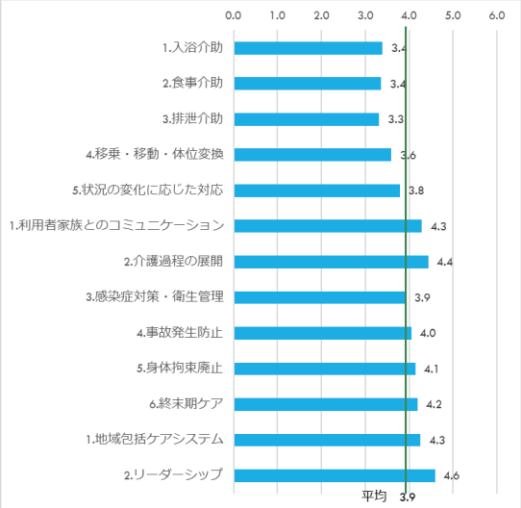


3 評価者として適切に評価できる



なお、比較対象として介護技術評価項目の中項目単位での期首評価「○（できる）」、期末評価「○（できる）」、いわゆる OJT 実施をあまり必要としなかった OJT 実施に関する延べ人数、並びに平均 OJT 実施期間（単位：カ月）については以下の通りとなった。

評価項目		×⇒○	平均
大項目	中項目	人数	月数
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	13,984	3.4
	2.食事介助	10,823	3.4
	3.排泄介助	11,048	3.3
	4.移乗・移動・体位変換	17,236	3.6
	5.状況の変化に応じた対応	8,734	3.8
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	4,289	4.3
	2.介護過程の展開	4,773	4.4
	3.感染症対策・衛生管理	4,076	3.9
	4.事故発生防止	5,904	4.0
	5.身体拘束廃止	1,444	4.1
	6.終末期ケア	1,831	4.2
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	1,333	4.3
	2.リーダーシップ	1,370	4.6



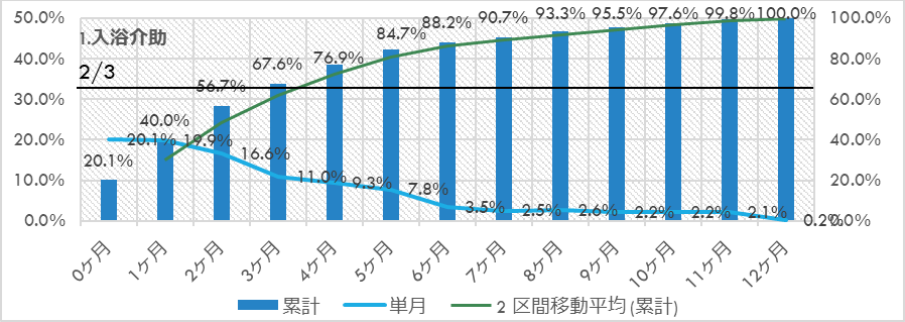
OJT 実施期間の全体平均については 3.9 カ月と、半月程度短くなっており、基本介護技術については 3.5 カ月、利用者視点での評価（介護）については 4.2 カ月、地域包括ケアシステム＆リーダーシップについては 4.4 カ月となっている。

また、中項目単位での OJT 実施期間別の割合は以下の通りとなり、できる割合を累計したものについてグラフ化したものを合わせて掲載する。

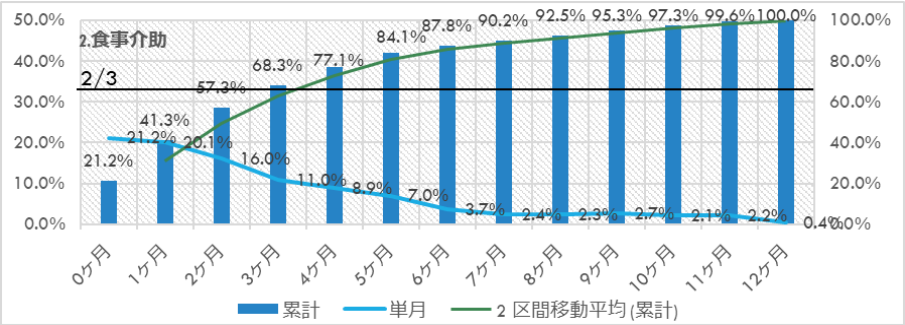
評価項目		OJT期間												
大項目	中項目	0ケ月	1ケ月	2ケ月	3ケ月	4ケ月	5ケ月	6ケ月	7ケ月	8ケ月	9ケ月	10ケ月	11ケ月	12ケ月
Ⅰ.基本介護技術の評価	1.入浴介助	20.1%	19.9%	16.6%	11.0%	9.3%	7.8%	3.5%	2.5%	2.6%	2.2%	2.2%	2.1%	0.2%
	2.食事介助	21.2%	20.1%	16.0%	11.0%	8.9%	7.0%	3.7%	2.4%	2.3%	2.7%	2.1%	2.2%	0.4%
	3.排泄介助	20.5%	20.7%	16.5%	10.8%	9.3%	7.0%	3.7%	2.5%	2.6%	2.4%	1.9%	2.0%	0.2%
	4.移乗・移動・体位変換	16.7%	19.6%	16.9%	11.6%	10.2%	8.1%	3.8%	2.5%	3.0%	2.6%	2.4%	2.4%	0.2%
	5.状況の変化に応じた対応	17.3%	16.7%	15.4%	11.8%	10.0%	9.3%	4.3%	3.4%	3.4%	3.2%	2.7%	2.3%	0.2%
Ⅱ.利用者視点での評価	1.利用者家族とのコミュニケーション	12.4%	14.2%	14.7%	12.5%	10.7%	11.2%	5.0%	3.7%	4.5%	3.9%	3.4%	3.3%	0.4%
	2.介護過程の展開	10.5%	13.8%	14.6%	11.6%	12.1%	12.4%	5.6%	4.1%	4.2%	3.7%	3.6%	3.5%	0.3%
	3.感染症対策・衛生管理	16.7%	17.3%	15.3%	11.2%	8.4%	9.3%	4.6%	3.3%	3.7%	3.1%	3.3%	3.4%	0.3%
	4.事故発生防止	14.0%	15.6%	15.1%	12.4%	10.7%	10.3%	5.3%	4.2%	3.3%	3.7%	3.1%	2.0%	0.3%
	5.身体拘束廃止	13.0%	12.7%	15.0%	13.9%	10.5%	11.5%	5.1%	3.1%	4.2%	3.6%	3.9%	3.6%	0.0%
	6.終末期ケア	15.4%	14.7%	11.6%	12.9%	11.0%	10.2%	5.8%	3.7%	3.7%	3.9%	4.3%	2.7%	0.2%
Ⅲ.地域包括ケアシステム＆リー	1.地域包括ケアシステム	12.5%	16.1%	14.3%	10.2%	11.3%	11.8%	5.8%	3.8%	3.4%	4.1%	4.5%	2.1%	0.2%
	2.リーダーシップ	9.6%	13.6%	13.3%	11.8%	10.3%	15.1%	5.8%	3.4%	4.4%	4.7%	4.2%	3.6%	0.1%

■ 基本介護技術

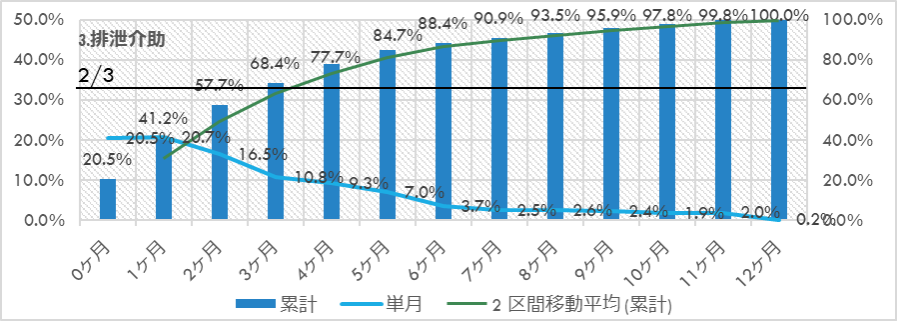
＜入浴介助＞



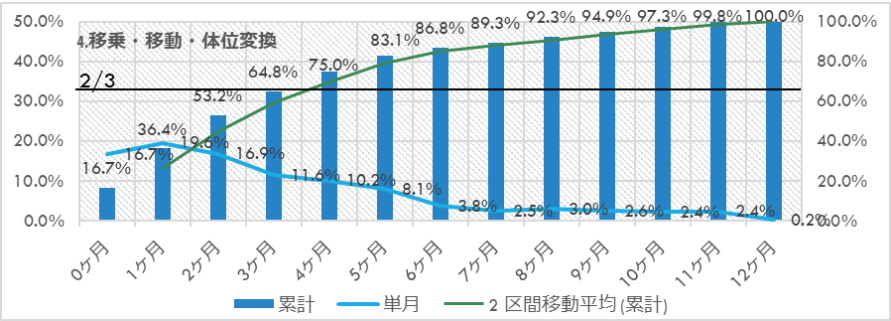
＜食事介助＞



＜排泄介助＞

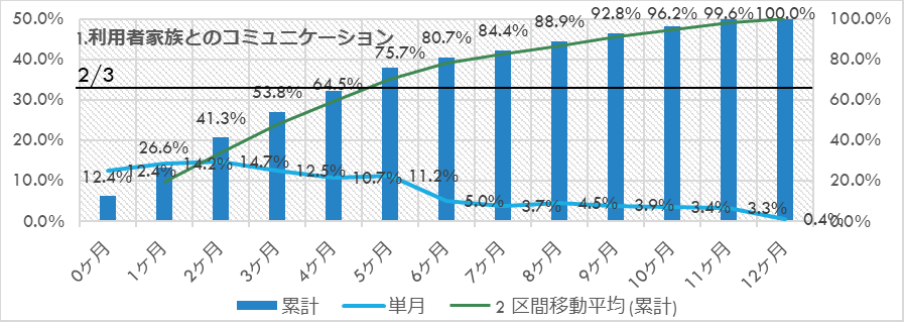


＜移乗･移動･体位変換＞

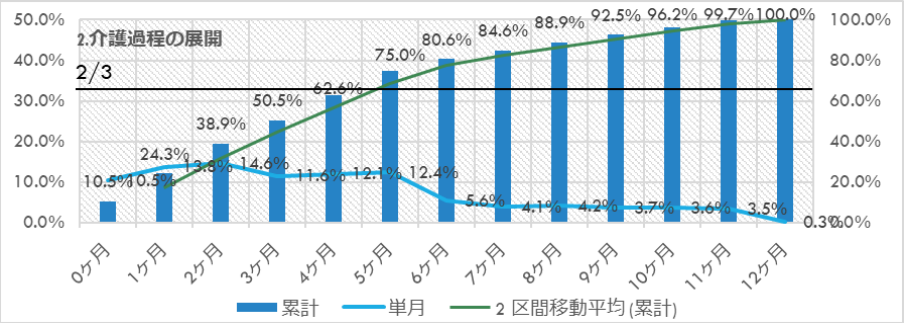


■ 利用者視点での評価

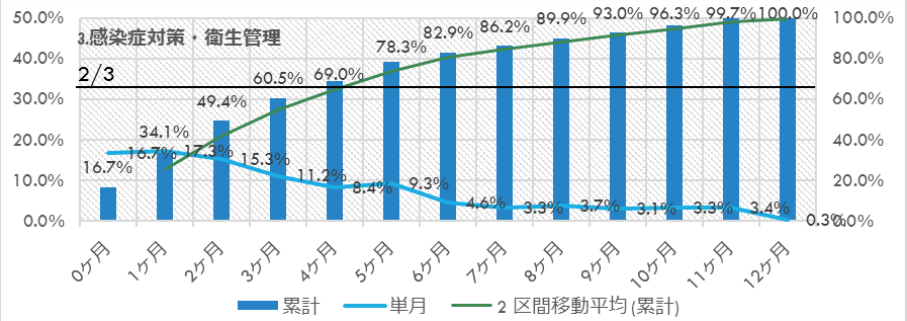
＜利用者家族とのコミュニケーション＞



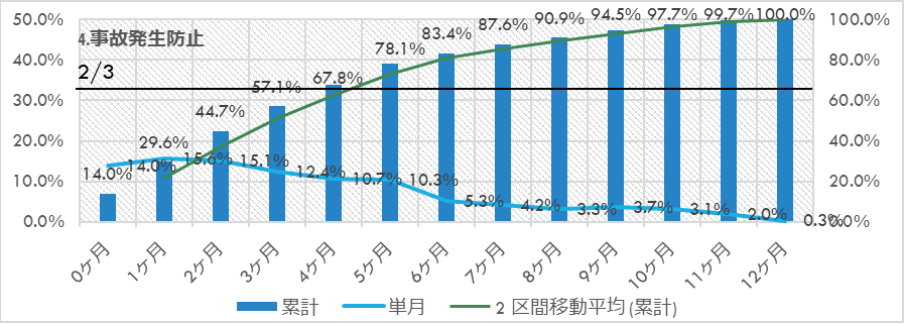
＜介護過程の展開＞



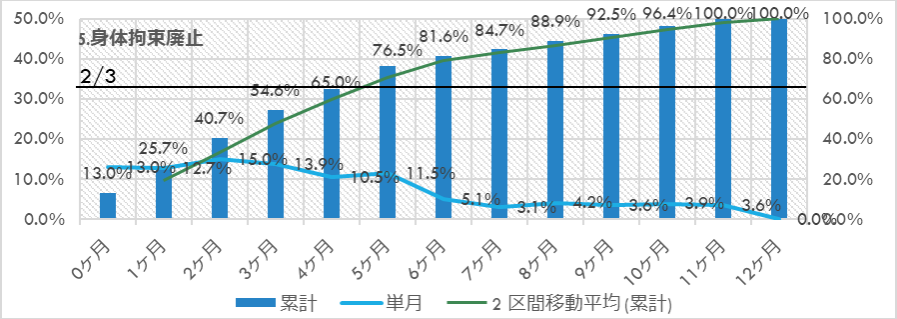
＜感染症対策・衛生管理＞



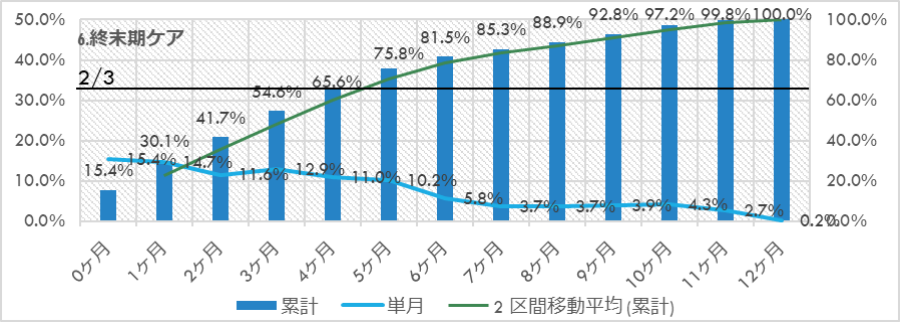
＜事故発生防止＞



＜身体拘束廃止＞

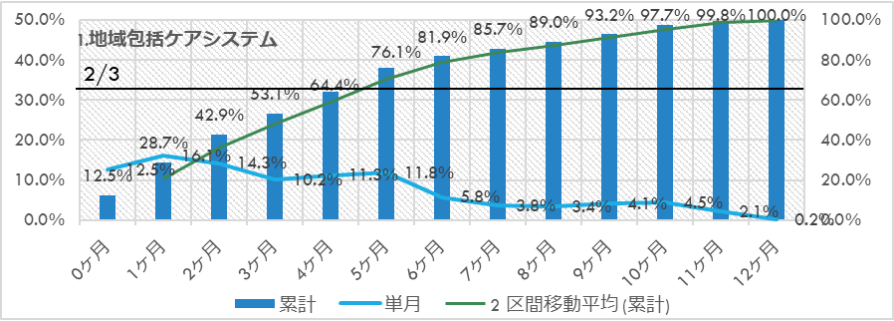


＜終末期ケア＞

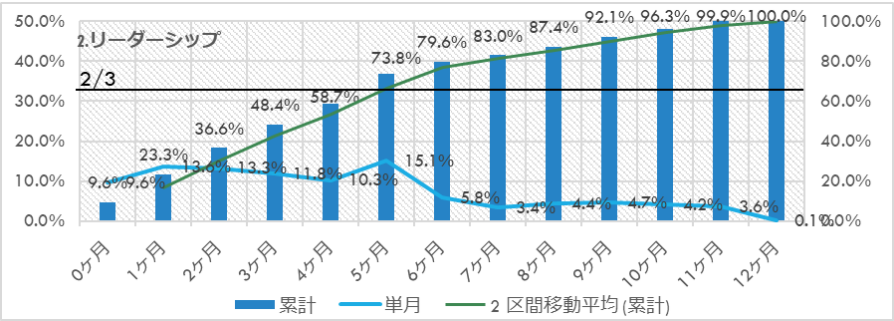


■　地域包括ケアシステム＆リーダーシップ

＜地域包括ケアシステム＞



＜リーダーシップ＞



５．期末評価票データ分析結果を踏まえて

介護事業所・施設においては、介護職員に対してどういった介護技術を身につけさせたいか、というところまでは見出せていると考えられるが、その介護技術をいつまでに定着化させるか、というところまでは、介護職員が不足しているという現状の中においては、日頃の介護業務をどうしても優先しなければならなく、具体的に示すということが困難な状況にあると推察される。介護職員が不足する中においては、個々の介護職員の介護技術向上をはかり、効果的・効率的に介護業務を実施することを推進していかなければならないが、職場における介護技術向上の術である OJT が曖昧なままであると、介護職員の介護技術向上がはかられず、結局個々の介護職員への負担として跳ね返っていく、そうした負のスパイラルに陥りやすい現状にある、特に介護についてはそうした傾向が強くあらわれる業種であると考えられる。

そうした中、負のスパイラルから抜け出すためには、介護技術の OJT 実施項目を明らかにするとともに、いつまでに向上を達成するか、そうした時間軸での KPI の設定が重要となってくる。如何にして効果的・効率的に介護技術の OJT を実施していくかの考察、必ず時間軸を設定し、その時間軸を同じ職場の介護職員と共有、相互に高め合うための環境づくりを行うことが特に必要となる業種であるといえる。つまり、2 カ月なら 2 カ月間、3 カ月なら 3 か月間と OJT 実施期間を設定し、対象となる介護職員に対して、期首評価で見出された「できていない」介護技術項目を職場内・チーム内において共有し、その期間に集中して OJT を実施する、ということである。

今回、期末評価データ分析により、介護キャリア段位制度における介護技術評価項目ごとの平均的 OJT 実施期間が明らかとなったが、言い換えると、介護キャリア段位制度に取り組み、レベル認定を取得する職員が属する事業所においては、OJT 実施期間を設定し、それに基づき OJT を集中的に実施し、介護技術定着の確認が確実に行われていることが、明確となった。

本分析の結果として、この介護項目については OJT 実施期間として何カ月であるべき、とまとめることはせず、効果的・効率的な介護技術の OJT を実施している事業の平均的 OJT 実施期間の提示に留めることとしている。これは介護事業所・施設のサービス種別であり、人員数など、様々な環境の違いがあるためであり、あくまでも平均的 OJT 実施期間として考察の基準としていただくことを目的としているからである。介護事業所・施設がこの数値を参考にし、自事業所ではこの介護項目についてはもっと手厚く OJT を実施すべきであるから期間を長く取る、あるいは OJT 実施期間をもっと短く効果的・効率的 OJT を実施するため、OJT のツールを見直し、新しいものを取り入れる、そうした考察のきっかけとなる数値となることを期待する。

結びにかえて

今回の実態調査からは、介護キャリア段位制度への取組、レベル認定者を一定以上輩出した実績を有する事業所では、職場における「学習」をシステム化していること、すなわち OJT がシステムとして取り込まれており、OJT の実行状況は定期確認・評価され、提供ケアとして「根拠に基づくケアの実践」を軸とした記録化の取組・情報共有・チーム連携・他の職種との連携・個別ケア実践・地域連携が展開されていることが示された。

そして、これらのスキルアップにむけて業務中のサポートが得られている事業所では、介護職員の役割・責任・参画の機会・専門性実感・成長実感といった組織コミットメントにプラスに働きかける事項が高い傾向が示された。

また、データ分析結果（期首評価）からは、認定実績者においては、1 年目～5 年目での専門性確立にむけた育成がなされている傾向、すなわち、成長プロセスに応じた人材育成のシステム設計と実行ができている事業所では、介護キャリア段位制度のレベル認定を実績として積み上げることが示された。

さらに、データ分析結果（期末評価）からは、人材育成の「システム化」がなされている事業所では、レベル認定までに要する時間は短い結果が示された。これは認定までの期間を決め、具体的な目標を掲げ、所定の期間に集中して取り組んでいることや、平素からの学習土壌の上に、「できている」ことを再確認する仕組みとして取り組むなど、一定期間内での多岐にわたる介護スキルの保持状況の把握と確認を実行する、事業所としての基盤づくりが存在する、と読み取れる。

そもそも、学習の手法は多様である中で、座学研修（Off-JT）については、テーマ設定や、頻度・対象・時間など外形的に示しやすく、実績は「みえる化」しやすい。一方で、日常業務の「学習」の実績は、実態として示すことが難しい。今回の調査客体である、A 群、B 群の事業所はともに、Off-JT（研修）の実績に大差はみられず両群とも Off-JT に熱心といった姿勢が読み取れる。

しかしながら、両群では育成をシステムとして捉えられているか、曖昧なものとして捉えているかの大きな違いとして今回示された。そして、育成を「仕組み」として取り込めているか否かの違いは、OJT の取組の到達点・目指すケア・育成目的・提供している構成員の仕事に対する姿勢といった、組織全体の質やケアの質に係る事項に至る差異として表出された。

OJT に特段のツールを用いず、曖昧にとらえているところでは、たとえ勢いで取り組んだとしても「仕組み」としての体系化や構築は難しく、結果としての成果も曖昧なものになる。

明確な目標設定・評価軸を用いずに、職員の成長のプロセスを視野に入れずに「育成」「学習」を実行しようとした場合、また「指導者」としての立ち位置や役割を曖昧にし、かつ、「指導者」への支援の仕組みがないままに OJT を推奨しても、育成計画策定までは辿りつけても、その先の実行が伴わずに、結果としてレベル認定の実績輩出にはつながっていない。

このことは、OJT はスローガンとして組織で共有するものではなく、「仕組み」として取り込むことが重要であることを示している。

今回の調査からは、レベル認定輩出実績を有する事業所では、OJT のシステムとしてキャリアパス及び介護技術評価基準のツールを用い、指導者を配置して実行していること、そして指導者に対するサポート・支援体制を組み、臨んでいることがわかった。

また、実施手順には期間と目標を設定し、指導実施から結果の確認・評価のプロセスを展開しており、人事評価制度へと反映されていること、OJT 指導では、職員の「気づき」「振り返り」といった、対応を吟味するプロセスが重視されていることが示された。

育成の軸には、評価基準を活用した、「根拠に基づくケアの実践」に価値が置かれており、「介護記録の作成」「記録を通じた情報共有」「記録を通じた分析視点」といった、あるべきケアの根拠を辿る訓練が行われている。

このシステム化の背景にある、「根拠に基づく介護を行うこと」への意識向け、行為や行動の習得だけではなく、個別性・可変性の介護の複雑さに対応する分析・思考のスキルへの意識向けは、OJT の実行経験が影響しており、「実際にやってみて認識」された価値感が、仕組みの構築と運用につながっているものといえる。「OJT の価値」認識差は、経験によって得られ、強化されるものであるならば、OJT の取組格差は、今後も広がる一方であることが予測できる。

実践の場での「学習」の成果は、最終的には、提供される「ケアの質」として表出される。

今回の調査では、「学習」の仕組みづくり・体制・取組、それらがもたらしているケア内容、そして「学習」が職員へもたらす事項が数値として示された。

OJT のシステム化とそれに基づくケアの提供は、介護キャリア段位制度に代表される OJT・評価ツール（明確なキャリアパス、介護技術に関する評価基準）とルール（評価手法、評価手順）、ロール（アセッサー）の活用があって、全国の事業所において形成されたものであり、これらは今後も「学習し続ける」職場の形成にむけて、活かされる手法といえる。

OJT の取組がもたらす差異は、事業所の経営の質、提供サービスの質に直結するものであり、実践的スキル向上につながる取組を行っている介護事業所の取組自体を評価すること、評価指標として活用することが、「実践スキル」の習得の促進と「学習する文化」の醸成、組織コミットメントを高める組織づくり、職員定着につながるものである。

参考資料

介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

・事業所調査票

・指導者調査票

・介護職員調査票

参考資料

事業所調査票

介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

― 事業所調査票 ―

問1　あなたご自身について伺います。

（1）現在の職位についてお答えください。（あてはまるものすべての番号に○）

1．管理者	3．主任・リーダー
2．人材育成担当	4．その他（　　）

（2）介護キャリア段位制度について、知っているものをお答えください。（あてはまるものすべての番号に○）

1．レベル認定制度の仕組み	4．根拠に基づく介護の実践を推進していること
2．介護技術評価項目があること	5．キャリア・パスに応じたレベル認定
3．アセッサーの役割	

（3）介護キャリア段位制度におけるアセッサーあるいはレベル認定者であるかお答えください。（あてはまるものすべての番号に○）

1．アセッサーである	4．レベル認定取得者である
2．アセッサーになる予定である	5．レベル認定取得予定である
3．アセッサーではない	6．レベル認定者ではない

問2　貴事業所の状況について伺います。

（1）貴事業所における処遇改善加算取得状況をお答えください。（あてはまるものすべての番号に○）

1．介護職員処遇改善加算Ⅰ	4．介護職員特定処遇改善加算（2019年10月～）
2．介護職員処遇改善加算Ⅱ	5．1～4のいずれも取得していない
3．介護職員処遇改善加算Ⅲ	6．わからない

（2）貴事業所の介護職員数及び介護福祉士数について、お答えください。（数字を記入）

① 介護職員数（昨年度実績）	② うち、介護福祉士数（昨年度実績）
□　名	□　名 うち勤続10年以上介護福祉士数 □　名

（3）貴事業所の介護職員の採用者数、離職者数について、お答えください。（数字を記入）

① 介護職員の採用者数（昨年度実績）	② 介護職員の離職者数（昨年度実績）
□　名	□　名

（4）貴事業所における研修費、および福利厚生費について、介護職員一人あたりのおおよその年間平均支出実績について、お答えください。（数字を記入）

① 研修費（昨年度実績）	② 福利厚生費（昨年度実績）
1人あたり年間　約　　円	1人あたり年間　約　　円

（5）貴事業所における昨年度の介護に関するおおよその書籍購入総額、およびおおよその購入冊数について、お答えください。（数字を記入）

① 介護に関する書籍購入総額（昨年度実績）	② 介護に関する書籍購入冊数（昨年度実績）
約　　円	約　　冊程度

（6）貴事業所（貴法人を含む）では、教育・人材育成に関する専門の委員会を設置していますか。（1つの番号に○）

1．設置している	2．設置していない	3．わからない

◎下記①は、（6）で「1．　設置している」と回答した方のみ、お答えください。

① 教育・人材育成に関する専門の委員会の開催実績をお答えください。（数字を記入）

教育・人材育成に関する専門委員会の開催数（昨年度実績）
回

（7）貴事業所では、介護職員の介護技術向上にむけた研修を実施していますか。（1つの番号に○）

1．積極的に実施している	3．あまり実施していない
2．ある程度実施している	4．ほとんど実施していない

◎下記①は、（7）で「1．　実施している」と回答した方のみ、お答えください。

① 昨年度の開催実績をお答えください。

① 介護技術向上にむけた研修開催数（昨年度実績）	主なテーマ（自由記載）
回	

（8）貴事業所では、介護記録や報告書類の作成指導･研修を実施していますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に実施している	3．あまり実施していない
2．ある程度実施している	4．ほとんど実施していない

◎下記①は、（8）で「1．　実施している」と回答した方のみ、お答えください。

①　昨年度の開催実績をお答えください。

①　介護記録や報告書類の作成指導研修開催数（昨年度実績）	主なテーマ（自由記載）
□	

（9）貴事業所では、介護職員が使用する、学習室（勉強スペース）がありますか。（1 つの番号に○）

1．学習室がある	3．わからない
2．学習室はない	4．その他（　　）

（10）貴事業所では、パソコン等を利用するための研修を実施していますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に実施している	3．あまり実施していない
2．ある程度実施している	4．ほとんど実施していない

（11）貴事業所では、介護職員の対する外部研修について、積極的に情報を収集していますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に収集している	3．あまり収集していない
2．ある程度収集している	4．ほとんど収集していない

（12）貴事業所では、介護記録や報告書の作成について ICT の活用を推進していますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に推進している	3．あまり推進していない
2．ある程度推進している	4．ほとんど推進していない

（13）貴事業所では、介護職員の働き方について、働き方改革などを意識して改革に取り組んでいますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に取り組んでいる	3．あまり取り組んでいない
2．ある程度取り組んでいる	4．ほとんど取り組んでいない

（14）貴事業所では、介護職員の働くことに対する満足度調査を行っていますか。（1 つの番号に○）

1．積極的に実施している	3．あまり実施していない
2．ある程度実施している	4．ほとんど実施していない

問３　貴事業所の介護キャリア段位制度の取組について伺います。

（１）貴事業所では、介護キャリア段位制度を用いた OJT･評価を就業時間中に行う業務、として位置づけていますか。（１つの番号に○）

１．十分位置付けている	４．全く位置付けられていない
２．どちらかといえば位置付けている	５．どちらともいえない
３．どちらかといえば位置付けられていない	６．その他　（　　）

（２）貴事業所では、人材育成･教育において、介護キャリア段位制度の取組やツールをどのように活用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 介護職員のキャリア・パス構築として活用している
2. 介護職員の介護技術の標準化の学習教材として活用している
3. 介護職員の定期的な技術評価手法として活用している
4. 新人介護職員の OJT 手法として活用している
5. 新人以外の介護職員の OJT 手法として活用している
6. 介護職員の人事評価として活用している
7. 指導力養成ツールとして活用している
8. 介護職員とのコミュニケーション、面談手法として、活用している
9. その他（　　）
10. 特に活用していない

（３）介護キャリア段位制度の取組や活用を通じて、根拠に基づく介護を行うことの意識が高まりましたか。（１つの番号に○）

１．高まった	３．どちらともいえない	５．全く高まっていない
２．少し高まった	４．あまり高まっていない	６．わからない／活用していない

（４）介護キャリア段位制度の取組や活用を通じて、介護記録を第３者にもわかるよう残していくことの意識が高まりましたか。（１つの番号に○）

１．高まった	３．どちらともいえない	５．全く高まっていない
２．少し高まった	４．あまり高まっていない	６．わからない／活用していない

（５）貴事業所では、今後、介護キャリア段位制度を活用していく予定ですか。（１つの番号に○）

１．積極的に活用していく方針である	４．全く活用しない方針である
２．活用していく方針である	５．どちらともいえない
３．あまり活用しない方針である	６．その他　（　　）

問４　貴事業所の人材育成の取組について伺います。

（１）貴事業所の以下の事項に関する実施状況をお伺いします。（①～⑯それぞれ１つの番号に○）

	1 よく実施している	2 どちらかといえば実施している	3 どちらかといえば実施していない	4 全く実施していない	5 わからない
① 事業所の経営理念、人材育成方針の伝達	1	2	3	4	5
② 年間の介護職員育成計画の作成・提示	1	2	3	4	5
③ 介護職員のスキルアップ（専門性向上）に向けたプランやパスの提示	1	2	3	4	5
④ 介護職員のスキルアップにむけた目標設定や目標管理	1	2	3	4	5
⑤ 介護技術に関する指標・基準等の明文化されたものの明示	1	2	3	4	5
⑥ 指導者の育成、配置	1	2	3	4	5
⑦ 介護職員との面談の機会	1	2	3	4	5
⑧ 介護技術指導の機会	1	2	3	4	5
⑨ 介護現場での現認（立ち合い）、指導の機会の確保	1	2	3	4	5
⑩ 介護記録や報告書類の作成指導の機会	1	2	3	4	5
⑪ ケアの根拠の説明、指導　（根拠に基づくケアの確認）の機会	1	2	3	4	5
⑫ 介護職員の目標達成状況の進捗確認	1	2	3	4	5
⑬ 介護職員の介護技術レベルの定期確認、定期評価	1	2	3	4	5
⑭ 介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促しの機会	1	2	3	4	5
⑮ 介護職員の他職種カンファレンス参加機会の促し	1	2	3	4	5
⑯ 指導者に対する支援、相談・サポート体制	1	2	3	4	5

（２）貴事業所のキャリアアップ支援に係る以下の事項に関する実施状況をお伺いします。（①～⑰それぞれ１つの番号に○）

	1 よく実施している	2 どちらかといえば実施している	3 どちらかといえば実施していない	4 全く実施していない	5 わからない
① 働きながら介護福祉士取得を目指す介護職員に対する支援	1	2	3	4	5
② より専門性の高い介護技術を習得にむけた介護職員に対する研修受講支援	1	2	3	4	5
③ 介護職員に対する指導・評価結果の人事制度への反映	1	2	3	4	5
④ 介護スキルレベルに応じた職位・給与制度の仕組み	1	2	3	4	5
⑤ 介護職員の人事ローテーションの実施	1	2	3	4	5
⑥ 新人介護職員に対するＯＪＴ指導	1	2	3	4	5
⑦ 入職２年目介護職員に対する OJT 指導	1	2	3	4	5
⑧ 入職３年目以降の介護職員に対する OJT 指導	1	2	3	4	5
⑨ 介護職員の雇用管理改善対策の実施	1	2	3	4	5
⑩ ＩＣＴ活用による介護職員の事務負担軽減	1	2	3	4	5
⑪ ＩＴＣ活用による利用者情報蓄積と個別ケアの提供の実施	1	2	3	4	5
⑫ 介護ロボットやリフト等の介護機器の導入	1	2	3	4	5
⑬ 介護職員への気づき支援、ケア内容の改善の促し	1	2	3	4	5
⑭ ヒヤリハット報告書、事故報告書の作成指導	1	2	3	4	5
⑮ 職場内コミュニケーション円滑化にむけた取組の実施	1	2	3	4	5
⑯ 介護職員の地域交流活動への参加の促し・支援	1	2	3	4	5
⑰ 非正規職員から正規職員への転換	1	2	3	4	5

問５　貴事業所の介護業務の取組について伺います。

（１）貴事業所における介護業務、及び介護業務に係る地域との関わりについて、あてはまるものをお選びください。（①～⑩それぞれ１つの番号に○）

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 全くあてはまらない	5 わからない
介護業務について					
① 利用者の自立支援・重度化防止を重視し、業務を組み立てている	1	2	3	4	5
② 日々の介護の結果を個別介護計画に反映することを意識し、業務を組み立てている	1	2	3	4	5
地域連携の取組					
③ 地域における事業所の役割を、介護職員に明示している	1	2	3	4	5
④ 医療連携の取組に、介護職員が参画している	1	2	3	4	5
⑤ 在宅医療連携の取組に、介護職員が参画している	1	2	3	4	5
⑥ 地域の介護事業所・施設と積極的に情報交換している	1	2	3	4	5
⑦ 地域の障害者事業所・施設と積極的に情報交換している	1	2	3	4	5
⑧ 地域のボランティア（団体含む）を積極的に受け入れている	1	2	3	4	5
⑨ 地域で家族介護支援のための認知症に関する講座を開催している	1	2	3	4	5
⑩ 災害時において、地域の高齢者を支援する役割を担っている	1	2	3	4	5

指導者調査票

介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

― 指導者調査票 ―

問１　あなたご自身について伺います。

（１）介護キャリア段位制度のアセッサーIDをご記入ください。（11桁のもの）

アセッサーID												

（２）令和２年１月１日現在のあなたの年齢を記入してください。（数字を記入）

満 [　　] 歳

（３）性別をお答えください。（どちらかの番号に○）

１．男性	２．女性

（４）介護職員としての勤務形態は、次のうちどれですか。（１つの番号に○）

１．専従（常勤）　⇒（５）へ	４．兼務（非常勤）　⇒ ①へ
２．専従（非常勤）　⇒（５）へ	５．その他（　　）　⇒（５）へ
３．兼務（常勤）　⇒ ①へ	６．介護職員としては従事していない

◎下記①は、（４）で「３」「４」（兼務）と回答した方のみ、お答えください。

①兼務している職種は何ですか（あてはまる番号すべてに○）

１．介護支援専門員	４．事務員	７．その他（　　）
２．看護職員	５．施設長	
３．生活相談員	６．サービス提供責任者	

（５）現在の職位についてお答えください。（１つの番号に○）

１．管理職	３．一般職
２．主任・リーダー	４．その他（　　）

（６）今の勤務先（法人内）の勤務年数と、以前の勤務先を含めた介護職員としての通算経験年数についてお答えください。（数字を記入）

①　今の勤務先（法人内）の勤務年数	②　介護職員としての通算経験年数
年　　か月	年　　か月

（７）保有資格について、お伺いします。（あてはまるものすべての番号に○）

１．介護福祉士	６．看護師	11．管理栄養士
２．介護支援専門員	７．保健師	12．医師
３．主任介護支援専門員	８．理学療法士	13．歯科医師
４．社会福祉士	９．作業療法士	14．その他（　　）
５．精神保健福祉士	10．言語聴覚士	

（８）あなた自身の介護キャリア段位制度におけるレベル認定取得状況お答えください。（１つの番号に○）

1．レベル４認定を取得済みである　⇒ ①へ
2．レベル３認定を取得済みである　⇒ ①へ
3．レベル２②認定を取得済みである　⇒ ①へ
4．レベル２①認定を取得済みである　⇒ ①へ
5．レベル認定は取得していない　⇒ （９）へ

◎下記①は、（８）で「１」～「４」（認定取得済み）と回答した方のみ、お答えください。

①レベル認定取得を通じて得られた効果としてあてはまるのをお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1．自分が行う介護に自信が持てるようになった
2．自分が行う介護の再確認（再認識）ができた
3．根拠に基づく介護ができるようになった
4．介護技術について向上の実感が得られた
5．介護についてもっと向上していきたいと思った
6．職員間のコミュニケーションの機会が増えた
7．他職種と連携する機会が増えた
8．認知症の方への対応・介護について対応の幅が広がった
9．介護記録について適切な記録を行うことができるようになった
10．利用者・家族に喜ばれるようになった
11．チームの中での自分の役割が明確になった
12．他の介護職員に対して介護に関するアドバイスができるようになった
13．その他（　　）
14．効果は得られていない

（９）あなた自身の介護キャリア段位制度におけるレベル認定取り組み状況お答えください。（１つの番号に○）

1．レベル４認定を目指している（目指したい）
2．レベル３認定を目指している（目指したい）
3．レベル２②を目指している（目指したい）
4．レベル２①を目指している（目指したい）
5．レベル認定取得は目指していない

（10）現在の職場における通常１か月あたりの平均勤務日数と、１か月あたりの平均勤務時間（残業含む）についてお答えください。（数字を記入）

①　平均勤務日数	②　平均勤務時間
１か月あたり　□　日	１月あたり　□　時間 うち　残業時間　□　時間

（11）通常１か月の深夜勤務日数についてお答えください。（数字を記入）

１か月あたり　□　日

（12）通常１か月の深夜勤務あけ翌日に、日勤が入った回数についてお答えください。（数字を記入）

１か月あたり　□　回

（13）2019 年 10 月の介護報酬改定により設定された「介護職員等特定処遇改善加算」によりあなた自身の処遇は改善（給与が増えるなど）されましたか。

1．改善された	2．改善される予定	3．改善されていない	4．わからない

問２、問３、および問５は、サービス種により、以下のようにご回答ください。

【介護老人福祉施設】【介護老人保健施設】の場合 ⇒ １ユニットを選定の上で、ご回答ください
【訪問介護事業所】の場合 ⇒ 貴事業所全体につき、ご回答ください

問２　貴事業所の介護職員数についてお伺いします

現在の介護職員数についてお答えください（数字を記入）。（該当するサービス種について、ご回答ください。）

【介護老人福祉施設】【介護老人保健施設】 ↓ 選定したユニットに従事している職員についてご回答ください	【訪問介護事業所】 ↓ 貴事業所全体の職員について、ご回答ください

①介護職員数		名
②うち、介護福祉士数		名
③介護キャリア段位制度のレベル認定者数		名

問３　貴事業所の利用者の状況についてお伺いします

（１）直近１か月の利用者数についてお答えください（数字を記入）。（該当するサービス種について、ご回答ください。）

【介護老人福祉施設】【介護老人保健施設】 ↓ 選定したユニットの利用者について、ご回答ください	【訪問介護事業所】 ↓ 貴事業所全体の利用者について、ご回答ください

①利用者数		名

（２）上記の利用者に関する状態について、お伺いいたします。
介護キャリア段位制度の利用者調査票の記載要領に準じて、①～⑩の項目別に、あてはまるものに○をつけてください。なお、利用者に関する状態情報は、匿名とし、最大 10 名までのご記入をお願いいたします。

【介護老人福祉施設】【介護老人保健施設】 ↓ 選定したユニットの全利用者の状態について、ご回答ください	【訪問介護事業所】 ↓ 貴事業所の中から、利用者の方 10 名分を選定の上、ご回答ください

1 シート目　※　5 名分の利用者状態に関する情報をご記入ください。

利用者識別番号	1	2	3	4	5
利用者の属性					
①性別	男性　女性	男性　女性	男性　女性	男性　女性	男性　女性
②年齢	歳	歳	歳	歳	歳
③要介護度	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５
④認知症高齢者の日常生活自立度（ランク）	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M
⑤障害高齢者の日常生活自立度（ランク）	J A B C	J A B C	J A B C	J A B C	J A B C
利用者の状態					
⑥移乗	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない
⑦食事摂取	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助
⑧他者への意思伝達	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない
⑨介護に関わる指示が通じる	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ
⑩BPSD 等に関する特別の介護提供	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい

2シート目　※５名分の利用者状態に関する情報を、ご記入ください。

利用者識別番号	6	7	8	9	10
利用者の属性					
①性別	男性　女性	男性　女性	男性　女性	男性　女性	男性　女性
②年齢	歳	歳	歳	歳	歳
③要介護度	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５	要支援１ 要支援２ 要介護１ 要介護２ 要介護３ 要介護４ 要介護５
④認知症高齢者の日常生活自立度（ランク）	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ M
⑤障害高齢者の日常生活自立度（ランク）	J A B C	J A B C	J A B C	J A B C	J A B C
利用者の状態					
⑥移乗	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない	できる 見守り・一部介助が必要 できない
⑦食事摂取	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助	介助なし 一部介助 全介助
⑧他者への意思伝達	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない	できる できる時とできない時がある できない
⑨介護に関わる指示が通じる	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ
⑩BPSD 等に関する特別の介護提供	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい	いいえ はい

問４　あなたのアセッサーとしての業務について、伺います。

（１）現在、あなたは、介護キャリア段位制度のアセッサーとしての業務を行っていますか。（１つの番号に○）

１．十分行っている	３．どちらともいえない	５．全く行っていない
２．どちらかといえば行っている	４．あまり行っていない	

（２）これまでの経験において、アセッサーとしての業務時間（１か月あたり）をお答えください。なお、現在業務を実施中の方は、直近の１か月あたりの時間を、かつて実施された経験のある方は、その際の時間をご記入ください。

アセッサーとしての業務時間		
１か月あたりおおよそ		時間

（３）介護キャリア段位制度を用いた、介護技術向上に向けた OJT 実績について、伺います。（１つの番号に○）

１．現在 OJT を実施中である	⇒ （４）へ
２．過去に OJT を実施したことがあるが、現在は実施していない	⇒ ①へ
３．これまで実施したことはない	⇒ ①へ

◎下記①は、（３）で「２」～「３」（実施していない）と回答した方のみ、お答えください。

実施していない理由について、お教えください。（自由記載）

（４）アセッサー業務を通じて、根拠に基づく介護を行うことの意識が高まりましたか。（１つの番号に○）

１．高まった	３．どちらともいえない	５．全く高まっていない
２．少し高まった	４．あまり高まっていない	

（５）アセッサー業務を通じて、介護記録を第３者にもわかるよう残していくことの意識が高まりましたか。（１つの番号に○）

１．高まった	３．どちらともいえない	５．全く高まっていない
２．少し高まった	４．あまり高まっていない	

（６）以下の方のうち、人材育成においてアセッサー業務（介護技術の評価）を活用している対象の方についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

１．外国人技能実習生	３．派遣職員	５．補助的な介護を行う介護助手
２．介護実習生	４．ボランティア職員	

問５　あなたの指導者としての業務について、伺います。

【介護老人福祉施設】【介護老人保健施設】 ↓ 選定したユニットでの状況について、ご回答ください	【訪問介護事業所】 ↓ 貴事業所における状況について、ご回答ください

（１）以下の事項に関して、日頃の業務の中での実施状況について、お答えください。なお、日常の指導的業務と、介護キャリア段位制度のアセッサー業務とは、切り分けせずにご回答ください。（①～⑯それぞれ１つの番号に○）

	1 実施している	2 どちらかといえば実施している	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば実施していない	5 全く実施していない
① 事業所の経営理念、人材育成方針の伝達	1	2	3	4	5
② 年間の介護職員育成計画の作成または把握	1	2	3	4	5
③ 介護職員のスキルアップ（専門性向上）に向けたプランやパスの提示	1	2	3	4	5
④ 介護職員のスキルアップにむけた目標設定や目標管理	1	2	3	4	5
⑤ 介護技術に関する指標・基準等の明文化されたものの明示	1	2	3	4	5
⑥ 介護職員との面談	1	2	3	4	5
⑦ 介護職員の介護技術指導	1	2	3	4	5
⑧ 介護現場での現認（立ち合い）指導	1	2	3	4	5
⑨ 介護記録や報告書類の作成指導	1	2	3	4	5
⑩ ケアの根拠の説明、指導（根拠に基づくケアの確認）	1	2	3	4	5
⑪ 介護職員の目標達成状況の進捗確認	1	2	3	4	5
⑫ 介護職員への気づき支援、ケア内容改善の促し	1	2	3	4	5
⑬ OJT 指導報告、評価記録の作成	1	2	3	4	5
⑭ 指導・評価結果の人事評価への反映	1	2	3	4	5
⑮ 介護職員の他職種カンファレンス参加機会の促し	1	2	3	4	5
⑯ 指導方法についての、上司や同僚等との（相互）支援、サポート体制	1	2	3	4	5

（２）あなたは、介護職員への面談の時間として、通常、１ か月あたりのどのくらいの時間を確保できていますか。（数字を記入）

① 面談時間	② 一人当たりの面談時間
１か月あたり ［　　］ 時間	１人あたり ［　　］ 時間

（３）介護職員の作成した記録物（介護記録等）を読み取り、検証する時間として、通常１か月あたりどのくらいの時間をかけていますか。（数字を記入）

１か月あたり ［　　］ 時間

（４）あなたは、介護職員に対し、自身が提案した取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを、提案する権限がありますか。（１つの番号に○）

１．はい	２．いいえ	３．わからない

（５）あなたは、介護職員に対し、自身が提案した取り決めや取組、業務ルールや学習手法などを、実行した経験がありますか。（１つの番号に○）

１．はい　⇒ ①へ	２．いいえ　⇒ （６）へ	３．わからない　⇒ （６）へ

◎下記①は、（５）で「１」（経験がある）と回答した方のみ、お答えください。

① どのような事項を発案し、実行しましたか。代表的なものをご記入ください。（自由記載）

［　　］

（６）個々の職員が行っている介護について、介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されるよう指導していますか。（１つの番号に○）

１．常に指導している	３．どちらともいえない	５．全く指導できていない
２．ある程度指導している	４．あまり指導できていない	

（７）より適切な介護を行うための学習として、介護記録の分析を行うことを指導していますか。（１つの番号に○）

１．常に指導している	３．どちらともいえない	５．全く指導できていない
２．ある程度指導している	４．あまり指導できていない	

（８）介護職員の行為や対応について、適切であったか、より適切な介護があるかなど、振り返りの支援を行っていますか。（１つの番号に○）

１．十分行っている	３．どちらともいえない	５．全く行っていない
２．どちらかといえば行っている	４．あまり行っていない	

（9）利用者等から介護職員の行為や対応についてクレームを受けて、担当する介護職員の変更を行った経験がありますか。（1つの番号に○）

1．よくあった ⇒ ①へ	3．たまにあった ⇒ ①へ	5．わからない ⇒ （10）へ
2．時々あった ⇒ ①へ	4．全くない ⇒ （10）へ	

◎下記①は、（9）で「1．よくあった」「2．時々あった」「3．たまにあった」と回答した方のみ、お答えください。

① その後の教育・育成策として、具体的な対応をされましたか。

1．十分実施した ⇒ ②へ	4．あまり実施していない ⇒ （10）へ
2．どちらかといえば実施した ⇒ ②へ	5．全く実施していない ⇒ （10）へ
3．どちらともいえない ⇒ （10）へ	

◎下記②は、①で「1．十分実施した」「2．どちらかといえば実施した」と回答した方のみ、お答えください。

② 具体的には、どのような対応をされましたか。（自由記載）

（10）指導を行う上で、分からないことや困ったときに誰に相談しますか。（あてはまるすべての番号に○）

1．職場の上司	7．事業所内の保健師や看護師
2．職場の同僚	8．事業所外の保健師や看護師
3．事業所内のケアマネジャー	9．事業所内のOT・PT
4．事業所外のケアマネジャー	10．事業所外のOT・PT
5．事業所内の医師	11．その他（　　）
6．事業所外の医師	12．そのような人はいない

（11）職場において介護職員だけでなく、医療職やリハ職、管理栄養士等、他の専門職との連携が図られることを目的に、連携する機会を多く設定していますか。（1つの番号に○）

1．連携の機会が多くある	3．どちらともいえない	5．全く連携の機会がない
2．連携の機会は少しある	4．あまり連携の機会がない	

問6　日頃仕事をする中で、職場や仕事についてあなたが感じていることについて伺います。

（1）全体として、今の職場は働きやすいと思いますか。（1つの番号に○）

1．とてもそう思う	3．どちらともいえない	5．そう思わない
2．ややそう思う	4．あまりそう思わない	

（2）今の職場でこの先どのくらい働こうと思いますか。（1つの番号に○）

1．今の職場でできるだけ続けたい	4．早く別の職場に変わりたい
2．今の職場でしばらく続けたい	5．わからない
3．機会があれば別の職場に変わりたい	

（３）以下の①～⑱の項目のうち、職場や仕事についてあなた自身はどう感じていますか。（①～⑱それぞれ１つの番号に○）

	1 いつも感じる	2 よく感じる	3 時々感じる	4 あまり感じない	5 全く感じない
① 仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	1	2	3	4	5
② 納得のいく勤務体制（シフト）で勤務できている	1	2	3	4	5
③ 深夜勤務が多い	1	2	3	4	5
④ 残業が多い	1	2	3	4	5
⑤ 福祉機器の不足や構造により介護しにくい	1	2	3	4	5
⑥ 上司や先輩、指導者等によっていうことが異なり、何が適切なケアなのかが、わからなくなる	1	2	3	4	5
⑦ 事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	1	2	3	4	5
⑧ 任されている仕事量が多い	1	2	3	4	5
⑨ 責任のある仕事を任されている	1	2	3	4	5
⑩ ケア方針を相談する機会に、参画している	1	2	3	4	5
⑪ 自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	1	2	3	4	5
⑫ 仕事を通じて、自分が成長していると感じる	1	2	3	4	5
⑬ 職場で、上司や同僚からのサポートが得られている	1	2	3	4	5
⑭ 仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	1	2	3	4	5
⑮ 職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	1	2	3	4	5
⑯ 自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	1	2	3	4	5
⑰ 自分はスキルアップにむけて学習・努力している	1	2	3	4	5
⑱ 職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	1	2	3	4	5

（４）最近 6 か月に以下の①～⑧のようなことを感じることがどの程度ありましたか。（①～⑧それぞれ１つの番号に○）

	1 いつもあった	2 よくあった	3 時々あった	4 あまりなかった	5 全くなかった
① こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	1	2	3	4	5
② この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	1	2	3	4	5
③ 自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	1	2	3	4	5
④ 仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	1	2	3	4	5
⑤ 今の仕事に、心から喜びを感じることがある	1	2	3	4	5
⑥ 仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	1	2	3	4	5
⑦ 体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	1	2	3	4	5
⑧ 我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	1	2	3	4	5

問７　あなた自身の介護業務の取組について伺います。

（１）介護業務、および介護業務に関する地域との関わりについて、あなた自身の実施状況をお答えください。
（①～㉒それぞれ１つの番号に○）

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかというと	3 あてはまらないどちらかというと	4 あてはまらない
介護業務について				
① 利用者の衣服着替えの際、ボタンの取り外し等自力でできることは自分で行うよう促している	1	2	3	4
② 利用者の食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促し、必要時に介助を行うようにしている	1	2	3	4
③ 利用者の排泄介助の際、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらう等自力でできることは自分で行うよう促している	1	2	3	4
④ 自立支援を目的とした介護の実施について、利用者・家族に説明し納得してもらい、利用者の元気なころの生活環境の維持をめざすようにしている	1	2	3	4
⑤ 医療職やリハ職など、他の専門職と連携することを意識して介護を行っている	1	2	3	4
⑥ 利用者の状態など常にアセスメントを行うことを心掛けて介護を行っている	1	2	3	4
⑦ 自身が行った介護について第３者にわかるよう介護記録を残している	1	2	3	4
⑧ 日々の介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	1	2	3	4
⑨ ヒヤッとしたことやハットしたことについて、報告書を作成してチーム内で共有している	1	2	3	4
⑩ 介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	1	2	3	4
地域連携の取組				
⑪ 地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	1	2	3	4
⑫ 地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	1	2	3	4
⑬ 地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	1	2	3	4
⑭ サービス提供に必要な知識や情報を地域の他機関・他職種（住民組織を含む）から集めている	1	2	3	4
⑮ 地域における事例検討会などの説明会や地域ケア会議への参加を、同僚に呼びかけている	1	2	3	4
⑯ 自分の業務内容について、関連する他の機関（住民組織を含む）に資料、情報を伝達している	1	2	3	4
⑰ 住民・利用者に対して援助活動をしたとき、進行状況や結果を、関連する他の機関に報告している	1	2	3	4
⑱ 相談内容や問題状況を基に、関連する他の機関に対して、必要とされるサービスの内容を文章化し、提案している	1	2	3	4
⑲ 関連する他の機関（住民組織を含む）に協力を要請している	1	2	3	4
⑳ 関連する他の機関（住民組織を含む）から協力を要請される	1	2	3	4
㉑ 複数の関連する他の機関（住民組織を含む）が参加する会議などにおいて、自分で一定の費用を決定している	1	2	3	4
㉒ 複数の関連する他の機関（住民組織を含む）・専門職で集めた利用者の情報を管理している	1	2	3	4

介護職員調査票

介護職員の介護技術向上にむけた取組実態に関するアンケート

― 介護職員調査票 ―

問１　あなたご自身について伺います。

（１）令和２年１月１日現在のあなたの年齢を記入してください。（数字を記入）

満 [　　] 歳

（２）性別をお答えください。（どちらかの番号に○）

１．男性	２．女性

（３）介護職員としての勤務形態は、次のうちどれですか。（１つの番号に○）

１．専従（常勤）　⇒ （４）へ	３．兼務（常勤）　⇒ ①へ	５．その他（　　）
２．専従（非常勤）⇒ （４）へ	４．兼務（非常勤）　⇒ ①へ	⇒ （４）へ

◎下記①は、（３）で「３」「４」（兼務）と回答した方のみ、お答えください。

①兼務している職種は何ですか（あてはまる番号すべてに○）

１．介護支援専門員	４．事務員	７．その他（　　）
２．看護職員	５．施設長	
３．生活相談員	６．サービス提供責任者	

（４）現在の職位についてお答えください。（１つの番号に○）

１．管理職	３．一般職
２．主任・リーダー	４．その他（　　）

（５）今の勤務先（法人内）の勤務年数と、以前の勤務先を含めた介護職員としての通算経験年数についてお答えください。（数字を記入）

① 今の勤務先（法人内）の勤務年数	② 介護職員としての通算経験年数
年　　か月	年　　か月

（６）介護福祉士資格の保有状況についてお答えください。（どちらかの番号に○）

１．介護福祉士である	２．介護福祉士ではない

（７）介護支援専門員資格の保有状況についてお答えください。（１つの番号に○）

１．介護支援専門員である	２．主任介護支援専門員である	３．介護支援専門員ではない

（８）介護キャリア段位制度におけるアセッサーであるかお答えください。（１つの番号に○）

１．アセッサーである	２．アセッサーになる予定である	３．アセッサーではない

（９）介護キャリア段位制度におけるレベル認定取得状況お答えください。（１つの番号に○）

１．レベル４認定を取得済みである　⇒ ①へ	４．レベル２①認定を取得済みである　⇒ ①へ
２．レベル３認定を取得済みである　⇒ ①へ	５．レベル認定は取得していない　⇒ （10）へ
３．レベル２②認定を取得済みである　⇒ ①へ	

◎下記①は、（９）で「１」～「４」（認定取得済み）と回答した方のみ、お答えください。

①レベル認定取得を通じて得られた効果としてあてはまるのをお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1．自分が行う介護に自信が持てるようになった
2．自分が行う介護の再確認（再認識）ができた
3．根拠に基づく介護ができるようになった
4．介護技術について向上の実感が得られた
5．介護についてもっと向上していきたいと思った
6．職員間のコミュニケーションの機会が増えた
7．他職種と連携する機会が増えた
8．認知症の方への対応・介護について対応の幅が広がった
9．介護記録について適切な記録を行うことができるようになった
10．利用者・家族に喜ばれるようになった
11．チームの中での自分の役割が明確になった
12．他の介護職員に対して介護に関するアドバイスができるようになった
13．その他（　　）
14．効果は得られていない

（10）介護キャリア段位制度におけるレベル認定取り組み状況お答えください。（１つの番号に○）

1．レベル４認定を目指している（目指したい）
2．レベル３認定を目指している（目指したい）
3．レベル２②を目指している（目指したい）
4．レベル２①を目指している（目指したい）
5．レベル認定取得は目指していない

（11）現在の職場における通常１か月あたりの平均勤務日数と、１か月あたりの平均勤務時間（残業含む）、うち平均残業時間についてお答えください。（数字を記入）

① 平均勤務日数	② 平均勤務時間
１か月あたり　　日	１月あたり　　時間 うち　残業時間　　時間

（12）通常１か月の深夜勤務日数についてお答えください。（数字を記入）

１か月あたり　　日

（13）通常１か月の深夜勤務あけ翌日に、日勤が入った回数についてお答えください。（数字を記入）

１か月あたり　　回

（14）2019 年 10 月の介護報酬改定により設定された「介護職員等特定処遇改善加算」によりあなた自身の処遇は改善（給与が増えるなど）されましたか。

1．改善された　2．改善される予定　3．改善されていない　4．わからない

問２　日頃仕事をする中で、職場や仕事についてあなたが感じていることについて伺います。

（１）今の職場において次のような取組は行われていると感じていますか。１～５のうち最も近いと思う番号に○をつけてください。（①～⑳それぞれ１つの番号に○）

	1 十分行われている	2 ある程度行われている	3 どちらともいえない	4 あまり行われていない	5 全く行われていない
機会の設定					
① 介護する上での不安な点について上司と相談する機会や相談窓口の設定	1	2	3	4	5
② 上司や先輩から指導を受ける機会の設定	1	2	3	4	5
③ 上司や先輩に仕事上の疑問を聞く機会の設定	1	2	3	4	5
④ 今後どのような介護技術を身につけていきたいか等、向上に向けた相談をする機会の設定	1	2	3	4	5
⑤ 職場全体の課題を共有する機会の設定	1	2	3	4	5
⑥ 介護に関する事例検討会やカンファレンス等情報共有の場の設定	1	2	3	4	5
⑦ 介護に関して定期的にチェックを受ける機会の設定	1	2	3	4	5
⑧ 介護内容の適切性について、介護記録を通じて検討する機会の設定	1	2	3	4	5
⑨ 地域ケア会議などで挙げられている地域課題を検討する機会の設定	1	2	3	4	5
⑩ 医療職やリハ職等、他の専門職の集まりに参加する機会の設定	1	2	3	4	5
研修・勉強会					
⑪ 介護技術向上に向けた研修	1	2	3	4	5
⑫ 利用者の自立支援・重度化防止に向けた取り組みに関する研修	1	2	3	4	5
⑬ 認知症の方に対する対応に関する研修	1	2	3	4	5
⑭ 事故やトラブル発生時における対応の研修	1	2	3	4	5
⑮ 介護記録に関する研修	1	2	3	4	5
⑯ 個別介護計画の立案に関する研修	1	2	3	4	5
⑰ 医療・介護連携に関する研修	1	2	3	4	5
⑱ 地域社会資源の把握と活用に関する研修	1	2	3	4	5
⑲ 地域共生社会の実現に向けた取り組みに関する研修	1	2	3	4	5
⑳ 介護に関する研修や勉強会の時間の確保	1	2	3	4	5

（２）介護技術向上に向けた研修や勉強会の時間として、通常 1 か月あたりのどのくらいの時間を確保できていますか。（数字を記入）

1 か月あたり [　　] 時間

（３）職場で行われている介護記録について、職場全体的に見たとき適切に記録されていると思いますか。（１つの番号に○）

1．適切にされている	3．どちらともいえない	5．まったく適切にされていない
2．ある程度適切にされている	4．あまり適切にされていない	

（4）個々の職員が行っている介護について、介護記録を通じてチーム内の職員に十分に情報共有されていると思いますか。（1つの番号に○）

1．とてもそう思う	3．どちらともいえない	5．そう思わない
2．ややそう思う	4．あまりそう思わない	

（5）より適切な介護を行うための学習として、介護記録の分析を行うことを十分に行っていると思いますか。（1つの番号に○）

1．とてもそう思う	3．どちらともいえない	5．そう思わない
2．ややそう思う	4．あまりそう思わない	

（6）あなた自身が行った介護について、適切であったか、あるいはより適切な介護があるかなど、自分自身で振り返りを行っていますか。（1つの番号に○）

1．十分行っている	3．どちらともいえない	5．全く行っていない
2．どちらかといえば行っている	4．あまり行っていない	

（7）あなた自身が行った介護について、「こうしたほうがよいのでは」等、上司や同僚から指摘・アドバイスを受け、自身の介護技術の向上がはかられる機会が多くあると思いますか。（1つの番号に○）

1．向上の機会が多くある	3．どちらともいえない	5．全く向上の機会がない
2．向上の機会が少しある	4．あまり向上の機会がない	

（8）介護を行う上で、わからないことや困ったときに誰に相談しますか。（あてはまるすべての番号に○）

1．職場の上司	7．事業所内の保健師や看護師
2．職場の同僚	8．事業所外の保健師や看護師
3．事業所内のケアマネジャー	9．事業所内のOT・PT
4．事業所外のケアマネジャー	10．事業所外のOT・PT
5．事業所内の医師	11．その他（　　）
6．事業所外の医師	12．そのような人はいない

（9）職場において介護職員だけでなく、医療職やリハ職、管理栄養士等、他の専門職との連携が図られていると思いますか。（1つの番号に○）

1．連携の機会が多くある	3．どちらともいえない	5．全く連携の機会がない
2．連携の機会は少しある	4．あまり連携の機会がない	

（10）全体として、今の職場は働きやすいと思いますか。（1つの番号に○）

1．とてもそう思う	3．どちらともいえない	5．そう思わない
2．ややそう思う	4．あまりそう思わない	

（11）今の職場でこの先どのくらい働こうと思いますか。（1つの番号に○）

1．今の職場でできるだけ続けたい	4．早く別の職場に変わりたい
2．今の職場でしばらく続けたい	5．わからない
3．機会があれば別の職場に変わりたい	

（12）今の職場にかかわらず、今後も介護の仕事を続けたいと思いますか。（1つの番号に○）

1．できるだけ介護の仕事を続けたい	4．早く介護以外の仕事に変わりたい
2．しばらくは介護の仕事を続けたい	5．わからない
3．機会があれば介護以外の仕事に変わりたい	

（13）以下の①～⑱の項目について、今の職場や仕事であなた自身はどう感じていますか。（①～⑱それぞれ１つの番号に○）

	1 いつも感じる	2 よく感じる	3 時々感じる	4 あまり感じない	5 全く感じない
① 仕事内容に対して、正当な賃金を得られている	1	2	3	4	5
② 納得のいく勤務体制（シフト）で勤務できている	1	2	3	4	5
③ 深夜勤務が多い	1	2	3	4	5
④ 残業が多い	1	2	3	4	5
⑤ 福祉機器の不足や構造により介護しにくい	1	2	3	4	5
⑥ 上司や先輩、指導者等によっていうことが異なり、何が適切なケアなのかが、わからなくなる	1	2	3	4	5
⑦ 事業所の理念やケアの方針について、共感・同意している	1	2	3	4	5
⑧ 任されている仕事量が多い	1	2	3	4	5
⑨ 責任のある仕事を任されている	1	2	3	4	5
⑩ ケア方針を相談する機会に、参画している	1	2	3	4	5
⑪ 自分の仕事は専門性が発揮されていると感じる	1	2	3	4	5
⑫ 仕事を通じて、自分が成長していると感じる	1	2	3	4	5
⑬ 職場で、上司や同僚からのサポートが得られている	1	2	3	4	5
⑭ 仕事内容に対して、上司や同僚から正当な評価が得られている	1	2	3	4	5
⑮ 職場で他の介護職員や他職種と連携がとれている	1	2	3	4	5
⑯ 自分にとって目標やモデルになる人が職場にいる	1	2	3	4	5
⑰ 自分はスキルアップにむけて学習・努力している	1	2	3	4	5
⑱ 職場では、スキルアップにむけてのサポートがある	1	2	3	4	5

（14）最近６か月に以下の①～⑧のようなことを感じることがどの程度ありましたか。（①～⑧それぞれ１つの番号に○）

	1 いつもあった	2 よくあった	3 時々あった	4 あまりなかった	5 全くなかった
① こんな仕事、もう辞めたいと思うことがある	1	2	3	4	5
② この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	1	2	3	4	5
③ 自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある	1	2	3	4	5
④ 仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	1	2	3	4	5
⑤ 今の仕事に、心から喜びを感じることがある	1	2	3	4	5
⑥ 仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	1	2	3	4	5
⑦ 体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	1	2	3	4	5
⑧ 我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	1	2	3	4	5

問３　あなた自身の介護業務の取組について伺います。

（１）介護業務におけるあなた自身の実施状況や見解について、１～４のうち最も近いと思う番号に○をつけてください。（①～⑯　それぞれ１つの番号に○）

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 全くあてはまらない
介護業務について				
① 利用者の衣服着替えの際、ボタンの取り外し等自力でできることは自分で行うよう促している	1	2	3	4
② 利用者の食事介助の際、自力でできることは自分で行うよう促し、必要時に介助を行うようにしている	1	2	3	4
③ 利用者の排泄介助の際、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらう等自力でできることは自分で行うよう促している	1	2	3	4
④ 自立支援を目的とした介護の実施について、利用者・家族に説明し納得してもらい、利用者の元気なころの生活環境の維持をめざすようにしている	1	2	3	4
⑤ 医療職やリハ職など、他の専門職と連携することを意識して介護を行っている	1	2	3	4
⑥ 利用者の状態など常にアセスメントを行うことを心掛けて介護を行っている	1	2	3	4
⑦ 自身が行った介護について第３者にわかるよう介護記録を残している	1	2	3	4
⑧ 日々の介護の結果を個別介護計画に反映・更新している	1	2	3	4
⑨ ヒヤッとしたことやハットしたことについて、報告書を作成してチーム内で共有している	1	2	3	4
⑩ 介護業務の魅力を、同僚や後輩に伝えている	1	2	3	4
地域連携の取組				
⑪ 地域の医療職・リハ職等他の専門職種の集まりに参加している	1	2	3	4
⑫ 地域の他機関（施設）にどういう専門職がいるか把握している	1	2	3	4
⑬ 地域にどういう活用可能な社会資源があるか把握している	1	2	3	4
⑭ サービス提供に必要な知識や情報を地域の他機関・他職種（住民組織を含む）から集めている	1	2	3	4
⑮ 地域ケア会議に参加している	1	2	3	4
⑯ 介護業務に際して、地域他の機関（住民組織を含む）と関係性構築の必要性を感じる	1	2	3	4

（２） 認知症の方に対する日頃の対応について、あなた自身の実施状況をお答えください。１～４のうち最も近いと思う番号に○をつけてください。（①～⑥それぞれ１つの番号に○）

	1 実施している	2 どちらかといえば実施している	3 どちらかといえば実施していない	4 全く実施していない
食事介助時				
① 個別介護マニュアル等にもとづいて、個々の特性に応じた食事に向けての準備や環境調整を行い、利用者に食事をすることへの意識化を支援している	1	2	3	4
② 利用者が食事の途中で動作が止まったり、拒否したり、失敗したり、他に興味が移ったりした場合、食事の再開にむけ、再度わかりやすく伝えたり、気持ちの切り替えができるよう支援している	1	2	3	4
③ 利用者により、食事介助が中止になった場合、利用者の尊厳や体調に配慮した対応を行い、中止に至った理由（または原因）を整理し、今後に向けた留意点などを記録し、チームメンバーと共有している	1	2	3	4
排泄介助時				
④ 個別介護マニュアル等にもとづいて、個々の特性に応じた排泄に向けての準備や環境調整を行い、利用者に排泄することへの意識化を支援している	1	2	3	4
⑤ 利用者が排泄の途中で動作が止まったり、拒否したり、失敗したり、他に興味が移ったりした場合、排泄の再開にむけ、再度わかりやすく伝えたり、気持ちの切り替えができるよう支援している	1	2	3	4
⑥ 排泄が失敗に終わった場合、利用者の尊厳や体調に配慮した対応を行い、中止に至った理由（または原因）を整理し、今後に向けた留意点などを記録し、チームメンバーと共有している	1	2	3	4

この事業は令和元年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業の一環として行われたものです。

介護職員の介護技術向上に資する取組の実態に関する調査研究
事業報告書

令和2年3月発行

内容照会先　一般社団法人シルバーサービス振興会
〒105-0003
東京都港区西新橋3－25－33
TEL 03-5402-4881　FAX 03-5402-4884